



Title	韓国人日本語使用者の言語間・場面間談話スタイル切り換え
Author(s)	金, 道瑛
Citation	大阪大学, 2024, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/96170
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

博士学位申請論文

韓国人日本語使用者の言語間・場面間
談話スタイル切り換え

大阪大学文学研究科
文化表現論専攻日本語学

金道瑛

要旨

本稿は、二言語話者である日本滞在中の韓国語母語話者（以下、韓国人日本語使用者）を対象に、談話レベルにおける言語間・場面間スタイル切り換えについて、対人関係の視点から考察するものである。具体的には、使用言語（日本語・韓国語）と談話相手との関係（年齢上・年齢下）をクロスさせた4つの場面におけるスタイル切り換えについて論じる。

スタイル切り換え研究ではこれまで、語、発話、談話の各レベルに渡り、その成果が蓄積されてきたが、談話レベルにおけるスタイル切り換え研究は他のレベルに比べて遅れており、特に特定発話行為に注目する既存の研究では、談話自体を成立させるための談話構成要素は取り上げられることがほとんどなかったように思われる。しかし、朴成泰（2018）のような先行研究では、相づちなど、談話成立のための談話構成要素も言語間・場面間で切り換えられることが指摘されている。

また、学習者を対象にした談話レベルのスタイル切り換え研究においては、切り換えの要因として、①学習言語の学習・習得、②母語からの転移の2つを挙げている。一方、Maeshiba, Yoshinaga, Kasper & Ross (1996) や李善雅（2001）のような研究から、学習者は言語レベルが上がるにつれ母語からの転移が少なくなることが予想される。その上に、談話自体を成立させるための談話構成要素は、学習言語の規範に従わないと誤用と受け取られる文法レベルの言語項目とは違い、比較的個人の選択の自由が利くものであると言えよう。したがって、上級学習者は母語と学習言語の規範をどちらも理解し、対人関係に応じて談話レベルのスタイルを方略的に切り換える可能性がある。これまでの研究では、学習者がこのように主体性を持って談話レベルにおけるスタイルを切り換える事象が注目されていないように思われる。

本稿ではこのような背景から、韓国人日本語使用者の日本語を単に韓国語からの転移が起こったか、それとも日本語の使用規範に従ったかを見るのではなく、各インフォーマントが言語間・場面間でどのように能動的に対人関係を構築するか、すなわち、「スタイルを切り換える」かに焦点を当てて分析していく。そのため、以下の研究の目的を設定した。

- (A)これまでスタイル切り換え研究の対象とされなかった談話レベルのスタイル切り換えについて、言語間・場面間でどのようなものが、どのように切り換えられるか、その実態を整理する。（第2部）
- (B)(A)の結果に沿って、これまで明らかになった日本語・韓国語のスタイルを個人がどのように活用しているか考察する。その上で、韓国人日本語使用者が行う日韓の対人関係との関係を説明する。（第3部）
- (C)談話レベルで行われるスタイル切り換えと他のレベルで行われるスタイル切り換えの異同について述べる。（第3部）

本稿は第1部の序論、第2部の本論、第3部の結論の構成をとる。序論の第1部（第1

章、第 2 章) では、先行研究と研究の目的、調査の概要と分析の方法について述べる。まず、第 1 章では先行研究を踏まえ、本稿における談話レベルのスタイル切り換えを定義し、本稿の目的について述べる。次の第 2 章では調査の概要について述べる。インフォーマントや場面設定など、本稿で使用するデータについて説明し、文字化の方法と 6 つの分析項目、分析の枠組みを説明する。特に、分析の枠組みでは対人関係の観点から、2 つのスタイルを枠組みとして設定した。すなわち、①相手に言語的な配慮をしたり、談話参加の機会を与える「相手焦点的スタイル」、②相手に向かう言語的配慮が薄れたり、相手に談話参加の機会を与える「自己焦点的スタイル」の 2 つである。

続く第 2 部 (第 3 章から第 8 章) は各論として、各章では韓国人日本語使用者のスタイル切り換えを、第 2 章で設定した分析項目ごとに論じる。具体的には、第 3 章では話題選択、第 4 章では発話量、第 5 章では談話参加、第 6 章では情報提供・情報要求、第 7 章では発話内容確認、第 8 章では相づちという項目を分析し、各項目で韓国人日本語使用者が行う、言語間・場面間のスタイル切り換えを、対人関係の観点から考察する。

第 3 章では話題選択の切り換えについて分析し、話題内容の選択や新しい話題を開始する仕方が言語間・場面間でどのように切り換えられるか考察した。その結果、3 人の韓国人日本語使用者は、日本語談話では相手焦点的スタイル、韓国語談話では自己焦点的スタイルと、言語間スタイル切り換えを行っていた。また、各言語内の場面間においてはそれぞれ異なるスタイル切り換えを行っており、個人差が見られた。

第 4 章では発話量について、主に談話参加者同士の発話量の割合から、韓国人日本語使用者が言語間・場面間で相対的な発話量をどのように調整し、切り換えるのかを分析した。その結果、2 人の韓国人日本語使用者は、各言語で場面間スタイル切り換えを行っており (日本語 : 自己 (年齢上) ⇌ 相手 (年齢下) / 韓国語 : 相手 (年齢上) ⇌ 自己 (年齢下))、またその傾向が言語ごとに異なることから、言語間でもスタイル切り換えを行っていることが明らかになった。一方、残り 1 人の韓国人日本語使用者の結果からは言語間スタイル切り換え (日本語 : 自己 / 韓国語 : 相手) のみが見られた。

第 5 章の談話参加の切り換えでは、談話の中で一人だけ長く話すモノローグ区画と、参加者同士で交代に話すダイアローグ区画の割合について分析した。その結果、2 人の韓国人日本語使用者は、言語間・場面間スタイル切り換えを行っていた (日本語 : 自己 (年齢上) ⇌ 相手 (年齢下) / 韓国語 : 相手 (年齢上) ⇌ 自己 (年齢下))。一方、もう 1 人は言語間でのみスタイル切り換えが見られた (日本語 : 自己 / 韓国語 : 相手)。

第 6 章では情報提供・情報要求の切り換えを分析した。情報提供は質問されなくても自ら持っている情報を相手に話すこと、情報要求は主に質問によって相手が持つ情報を話させることである。分析の結果、2 人の韓国人日本語使用者は言語間・場面間切り換えをしていた (日本語 : 自己 (年齢上) ⇌ 相手 (年齢下) / 韓国語 : 相手 (年齢上) ⇌ 自己 (年齢下))。もう 1 人は言語間切り換えが目立ち (日本語 : 自己 / 韓国語 : 相手)、場面間切り換えは母語の韓国語談話のみで見られる (相手 (年齢上) ⇌ 自己 (年齢下))。

第 7 章では発話内容確認 (他者開始) の切り換えについて、その形式とストラテジーを

分析し、韓国人日本語使用者がそれらをどのように切り換えているか考察した。その結果、3人の韓国人日本語使用者はそれぞれ異なる言語間・場面間スタイル切り換えを行っていた。

第8章では相づちの出現率（頻度）、位置（タイミング）に注目し、韓国人日本語使用者が言語間・場面間で相づちの使用をどのように切り換えるか分析する。その結果、2人は言語間ではスタイル切り換えを行わず、両言語で同様の場面間でのみスタイル切り換えを行い（相手（年齢上）↔自己（年齢下））、残りの1人は言語間・場面間でスタイル切り換えを行っていた（日本語：自己（年齢上）↔相手（年齢下）／韓国語：相手（年齢上）↔自己（年齢下））。

最後に、結論の第3部（第9章）では第2部で項目別に分析した結果をインフォーマントごとに総合し、各インフォーマント、ひいては韓国人日本語使用者がどのようなスタイル切り換えを行っているかを対人関係の側面から考察する。さらに、その考察をもとに、既存のスタイル切り換えの研究に談話レベルのスタイル切り換えを位置づけることを試みる。その結果、以下のことを明らかにした。

韓国語談話

- (A)既存の先行研究で指摘された韓国的な談話スタイルは目下の相手に使用され、目上の相手には適切な距離をとり丁寧さを保つ談話スタイルに切り換える。
- (B)韓国語談話では多くの項目で類似する切り換えの様相が観察されるが、その一方で個人によって相違点も見られる。

日本語談話

- (C)「年齢の上下」という大きな基準はミスコミュニケーションの危険度が少ないため、その基準を日本語談話にも同様に適用する、つまり、転移する。
- (D)既存の先行研究で指摘された日本的な談話スタイルは目下の相手に使用され、目上の相手には距離を縮める談話スタイルに切り換える。
- (E)日本語談話においてもインフォーマント間の相違点が見られ、韓国語談話に比べて相違点が見られる項目がより多い。

また、談話レベルにおけるスタイル切り換えについては、以下のようなことを主張する。

- (F)談話レベルにおけるスタイル切り換えでは、語・発話レベルのスタイル切り換えのように明確な切り換えは起こらない。

- (G)韓国人日本語使用者の日本語における談話レベルのスタイルには、学習・習得と転移という両方の要因が見られる、また、これまでの研究で指摘された負の転移よりは、転移しても問題を起こさない部分において正の転移が目立つ。

以上で、本稿では、スタイル切り換え的一面である談話レベルのスタイル切り換えについて、一部ながら明らかにすることことができた。特に、既存の先行研究からあまり扱われることがなかった談話自体を成立させる談話構成要素もスタイル切り換えの対象になり得ることを指摘し、二言語話者が言語間と場面間で対人関係の調整のために、どのようにスタイルを切り換えるかを明らかにした。

目次

はじめに	1
第 1 部 序論	3
第 1 章 先行研究と研究の目的	4
1. はじめに	4
2. スタイルとスタイル切り換え	4
2.1. 語レベルの切り換え	6
2.2. 発話レベルの切り換え	7
2.2.1. 丁寧体・普通体の切り換え：スピーチレベルシフト	7
2.2.2. 表現の切り換え	8
2.3. 談話レベルの切り換え	9
2.4. 本稿の分析対象	10
3. 談話レベルのスタイル切り換えの要因	11
4. 日本語と韓国語の対人関係	13
5. 問題のありかと研究の目的	15
第 2 章 調査の概要と分析の方法	17
1. はじめに	17
2. 調査の概要	17
3. データの概要	19
4. 文字化の原則	21
5. 分析項目の選定	25
6. 分析の枠組み	28
第 2 部 本論	30

第3章 話題選択の切り換え	31
1. はじめに	31
2. 話題の区分方法	33
3. 話題の内容の切り換え	38
4. 話題の開始の切り換え	46
4.1. 話題開始回数の切り換え	46
4.2. 緩衝表現使用の切り換え	51
5. 話題選択と対人関係	58
第4章 発話量の切り換え	63
1. はじめに	63
2. 分析の枠組み	63
2.1. 実質発話	63
2.2. 発話量の集計方法	64
3. 発話量の切り換え	65
4. 発話量と対人関係	68
第5章 談話参加の切り換え	71
1. はじめに	71
2. 先行研究	73
3. 分析の枠組み：モノローグとダイアローグ	74
4. 談話参加の切り換え	77
4.1. モノローグ	78
4.2. ダイアローグ	85
5. 談話参加と対人関係	93
第6章 情報提供・情報要求の切り換え	97
1. はじめに	97

2. 情報提供・情報要求の認定.....	98
3. 情報提供・情報要求の切り換え.....	100
4. 情報提供・情報要求と対人関係.....	103
第7章 発話内容確認の切り換え	106
1. はじめに	106
2. 発話内容確認に関する先行研究.....	107
3. 発話内容確認の認定と分析の枠組み.....	107
3.1. 発話内容確認の認定.....	107
3.2. 分析の枠組み.....	109
3.2.1. 発話内容確認の形式.....	110
3.2.2. 発話内容確認に施されるストラテジー.....	113
4. 発話内容確認の切り換え.....	117
4.1. K01.....	118
4.1.1. 形式	118
4.1.2. ストラテジー.....	123
4.1.3. K01まとめ.....	124
4.2. K02.....	125
4.2.1. 形式	125
4.2.2. ストラテジー.....	128
4.2.3. K02まとめ.....	130
4.3. K03.....	131
4.3.1. 形式	131
4.3.2. ストラテジー.....	132
4.3.3. K03まとめ.....	134
5. 発話内容確認と対人関係.....	134

第8章 相づちの切り換え	138
1. はじめに	138
2. 相づちに関する先行研究	139
2.1. 相づちの日韓対照研究	139
2.2. 相手の年齢による相づち使用	139
3. 相づちの認定と分析の枠組み	140
3.1. 相づちの認定	140
3.2. 相づちの出現位置	141
4. 相づちの切り換え	144
4.1. (A)ポーズ中の相づち	145
4.1.1. ポーズ中の相づちの位置	145
4.1.2. ポーズ中の相づちの出現率	148
4.2. (C)出現しにくい位置の相づち	149
5. 相づちと対人関係	153
第3部 結論	160
第9章 日韓の対人関係とスタイル切り換え	161
1. はじめに	161
2. 各インフォーマントのまとめ：各個人の対人関係	161
2.1. K01 の結果のまとめ	162
2.2. K02 の結果のまとめ	164
2.3. K03 の結果のまとめ	167
3. インフォーマント間比較：韓国人日本語使用者の対人関係	170
3.1. 韓国語談話における対人関係	171
3.2. 日本語談話における対人関係	172

4. 談話レベルにおけるスタイル切り換え.....	175
おわりに	179
参考文献	181
付録 1	188
付録 2	190

はじめに

本稿は、二言語話者である日本滞在中の韓国語母語話者（以下、韓国人日本語使用者）を対象に、談話レベルにおける言語間・場面間スタイル切り換えについて、対人関係の視点から考察するものである。具体的には、使用言語（日本語・韓国語）と談話相手との関係（年齢上・年齢下）をクロスさせた4つの場面におけるスタイル切り換えについて論じる。

スタイル切り換え研究ではこれまで、語、発話、談話の各レベルに渡り、その成果が蓄積されてきたが、談話レベルにおけるスタイル切り換え研究は他のレベルに比べて遅れており、特に特定発話行為に注目する既存の研究では、談話自体を成立させるための談話構成要素は取り上げられることがほとんどなかったように思われる。

また、学習者を対象にした談話レベルのスタイル切り換え研究においては、切り換えの要因として、①学習言語の学習・習得、②母語からの転移の2つを挙げている。しかし、Maeshiba, Yoshinaga, Kasper & Ross (1996) や李善雅 (2001) のような研究から、学習者は言語レベルが上がるにつれ母語からの転移が少なくなることが予想される上に、談話自体を成立させるための談話構成要素は、学習言語の規範に従わないと誤用と受け取られる文法レベルの言語項目とは違い、比較的個人の選択の自由が利くものであると言えよう。したがって、上級学習者は母語と学習言語の規範をどちらも理解し、対人関係に応じて談話レベルのスタイルを方略的に切り換える可能性が高い。これまでの研究では学習者がこのように主体性を持って談話レベルのスタイルを切り換える事象が注目されていないように思われる。

本稿ではこのような背景から、韓国人日本語使用者の日本語を単に韓国語からの転移が起こったか、それとも日本語の使用規範に従ったかを見るのではなく、各インフォーマントが言語間・場面間でどのように能動的に対人関係を構築するか、すなわち、「スタイルを切り換える」かに焦点を当てて分析していく。

本稿は第1部の序論、第2部の本論、第3部の結論の構成をとる。序論の第1部（第1章、第2章）では、先行研究と研究の目的、調査の概要と分析の方法について述べる。まず、第1章では先行研究と研究の目的について述べる。本稿はスタイル切り換えの中でも特に談話レベルにおける切り換えを分析の対象とするものであるため、談話レベルにおけるスタイル切り換えを明らかにする。また、これまで行われてきたスタイル切り換え研究を概観したのち、本稿の目的について述べる。次の第2章では調査の概要について述べる。インフォーマントや場面設定など、本稿で使用するデータについて説明し、文字化や分析項目、分析の枠組みを説明する。

続く第2部（第3章から第8章）は各論として、各章では韓国人日本語使用者のスタイル切り換えを、第2章で設定した分析項目ごとに論じる。具体的には、第3章では話題選択、第4章では発話量、第5章では談話参加、第6章では情報提供・情報要求、第7章では発話内容確認、第8章では相づちという項目を分析し、各項目で韓国人日本語使用者が

行う、言語間・場面間のスタイル切り換えを、対人関係の観点から考察する。

最後に、結論の第3部（第9章）では第2部で項目別に分析した結果をインフォーマントごとに総合し、各インフォーマント、ひいては韓国人日本語使用者がどのようなスタイル切り換えを行っているかを対人関係の側面から考察する。さらに、その考察をもとに、既存のスタイル切り換えの研究に談話レベルのスタイル切り換えを位置づけることを試みる。

第1部 序論

第1部では、先行研究と研究の目的、調査の概要と分析の方法について述べる。

まず、第1章では先行研究と研究の目的について述べる。本稿はスタイル切り換えの中でも特に談話レベルにおける切り換えを分析の対象とするものであるため、談話レベルにおけるスタイル切り換えとは何か、本稿の研究対象を明らかにする。また、これまで行わってきたスタイル切り換え研究を概観したのち、本稿の目的について述べる。具体的には、以下の3つを本稿の目的として設定する。

(A)これまでスタイル切り換え研究の対象とされなかつた談話レベルのスタイル切り換えについて、言語間・場面間でどのようなものが、どのように切り換えられるか、その実態を整理する。(第2部)

(B)(A)の結果に沿って、これまで明らかになった日本語・韓国語のスタイルを個人がどのように活用しているか考察する。その上で、韓国人日本語使用者が行う日韓の対人関係との関係を説明する。(第3部)

(C)談話レベルで行われるスタイル切り換えと他のレベルで行われるスタイル切り換えの異同について述べる。(第3部)

次の第2章では調査の概要について述べる。インフォーマントや場面設定など、本稿で使用するデータについて説明し、文字化や分析項目、分析の枠組みを説明する。結論を先に述べるが、本稿ではデータ分析を通して、以下のような枠組みを設定している。

表1 分析の枠組み

相手焦点的スタイル	自己焦点的スタイル
・相手に言語的な配慮をする（ポライトネス・ストラテジーを使用する）	・相手に対する言語的配慮が薄れ、自由に発話する（ポライトネス・ストラテジーをあまり使用しない）
・相手が予測しやすいように談話の統一性・一貫性を目指す	・相手の予測しやすさに配慮せず、談話の統一性・一貫性を目指さない
・相手にわかりやすく伝える、談話マーカーなどによる合図を送る	・相手のわかりやすさに考慮しない、合図を送らない
・相手に談話に参加する機会を与える	・相手に談話に参加する機会を与えない
・相手との関係維持志向	・自己の情報展開志向

第1章 先行研究と研究の目的

1. はじめに

本章では、まず 2 節でこれまでのスタイル切り換え研究を概観し、本稿の分析対象を明らかにする。次に、3 節で特に談話レベルのスタイル切り換え研究について述べ、先行研究で指摘したスタイル切り換えの要因を整理する。4 節では日本語と韓国語の談話スタイルを取り扱う研究を概観し、日韓の談話における差について検討する。最後に、5 節で先行研究を踏まえた上で、本稿の研究の目的を提示する。

2. スタイルとスタイル切り換え

本稿はスタイル切り換えを研究の対象とするが、「スタイル」という用語については研究者ごとに使い方が異なり、統一されていない。したがって本節では、スタイル切り換え研究を概観しながら、最終的に本稿で何をスタイルと認めるか、その包括的な定義を提示する。

スタイル切り換えは、基本的に 1 人の話者が同じ意味を持つ 2 つ以上の言語項目をことばの中で入れ替えることである。たとえば、(1)と(2)はその意味が同一であるにも関わらず、発話の中に用いられた語（下線部）はそれぞれ異なる。しかし、(1)と(2)が「同じ意味である」と言えるのは、それぞれの語が同じ意味を持つためである。

- (1) 僕は今日ラーメンを吃了。
- (2) 私は本日ラーメンを吃了。

(1)と(2)では同じ意味を表す語がそれぞれの文に使用されている。たとえば、「僕」と「私」は同じ意味を表す語のセットである。「今日」と「本日」、「食べる」「吃了」も同じく、同一意味を表す語のセットであり、(1)と(2)における切り換えの対象である。つまり、これらの語のセットはスタイル関係にある。

また、このような語のみではなく、発話がスタイル切り換えの対象になる場合もある。(3)と(4)はどちらも「私が今日ラーメンを食べた」という命題内容を表すものであるが、(3)は普通体、(4)は丁寧体の発話になる。

- (3) 私は今日ラーメンを食べた。
- (4) 私は今日ラーメンを食べました。

(4)には丁寧形式の「ます」が付き、普通体と同じ意味であるとは言えない。しかし、それでも(3)と(4)が「同じ内容である」と判断できるのは、その命題内容が同じであるためである。このように、同じ命題内容を持つ発話のセットもスタイル関係にある。

一方、発話の内容自体が異なる場合もある。語用論で頻繁に取り上げられる例として、

(5)と(6)がある。これらは文タイプも、命題内容も異なるが、語用論ではこれらを「同じ発語内行為」を持つ発話であると説明する。

(5) I want you to close the door.

(ドアを君に占めてほしいのです。)

(6) Did you forget the door?

(ドアのことは忘れたの。)

(レヴィンソン 1990、筆者による一部抜粋)

(1)と(2)が「同じ意味」を異なる語で、(3)と(4)が「同じ命題内容」を異なる発話で産出しているとすると、(5)と(6)は「同じ発語内行為」を異なる発話で産出している。したがって、(5)と(6)では「同じ発語内行為」を表す発話のセットがスタイル関係にあると認めることができる。

ただし、実際の研究では一つの発話のみを取り扱うわけではなく、「同じ目的」を遂行するための複数の発話の集合体、つまり、談話をその対象とする。たとえば、依頼行為の場合、相手に依頼するという「同じ目的」を持つが、それを遂行するためには直接的に依頼をする発話以外にも、依頼をする前に行う前置き発話や、依頼が受け入れられた際の感謝の発話、断られた際の発話など、複数の発話が必要となる。その例として李吉鎔 (2003) が挙げられる。反対意見表明行動を場面別に分析した李吉鎔 (2003) は、反対意見表明行動を「談話支持ストラテジー表現」「理由節」「提案節」の 3 つの部分に分類し、反対意見を表明する発話のみでなく、反対意見の理由や新しい提案を示す発話までを分析対象にしている。また、その結果、「談話支持ストラテジー表現」や「提案節」の個別の発話だけではなく、両方とも場の改まり度・上下関係による切り換えが見られたと述べている。このように、「同じ目的」を持つ談話構成要素のセットも、広い意味ではスタイル関係にあると認定できる。

さらに、談話は必ずしも依頼や断りなどの目的を遂行するためのものではない。談話の中には相手と良好な関係を結ぶための雑談のようなものもあり、「ともに話す」こと自体が目的になる場合もある。この場合、言語表現を含めた談話全般に関わる言語項目が関係していく。たとえば、どのような話題を選択するか、どれくらい発話するかといった話し手としての行動や、相づちをどのように行うかのような聞き手としての行動などが「ともに話す」という「同じ目的」を持った談話構成要素のセットになるわけである。2.4 で後述するが、本稿ではこのようなともに話すこと・談話を成立させることを目的とする談話構成要素のセットもスタイル関係にあると認める。

Bell (1984) も言っているように、人はことばを使用するにあたって、様々なレベルでことばを切り換えている。つまり、同じ意味を持つ複数の語、同じ命題内容を持つ複数の発話、同じ目的を持つ複数の談話構成要素など、小さいレベルから大きいレベルのものまでスタイル切り換えの対象となる。一方、既存のスタイル切り換え研究では語・発話の切

り換えのみを扱っており、その他のものはその多くが語用論研究に任せられているように思われる。しかし、渋谷（1998）でスタイル切り換えの要因の1つに聞き手や第三者への配慮といった対人関係があると指摘している通り、ことばを切り換える根本的な目的が対人関係の構築・維持することであるとするとき、その分析対象はむしろ談話成立のための様々な項目における切り換えにまで広げる必要がある。

以上から、本稿では「スタイル」を「様々なレベルにおいて、ある個人が持つ、共通するものを表す複数の話し方のセット」と定義する。ここで「共通するもの」とは、上述の「同じ意味」「同じ命題内容」「同じ発語内行為」「同じ目的」であり、「複数の話し方のセット」とは(1)と(2)の例で述べた「僕」と「私」のセットのようなものである。

以下では、以上で述べたことばの切り換え研究を言語項目のレベルごとに概観し、スタイル切り換え研究の新しい対象について考えたい。具体的には、2.1節で語レベルの切り換え、2.2節で発話レベルの切り換え、2.3節で談話レベルの切り換え研究について述べる。2.4節では本稿におけるスタイル切り換えの定義を提示し、スタイル切り換え研究における談話レベルのスタイル切り換えの位置づけを説明する。

2.1. 語レベルの切り換え

日本におけるスタイル切り換え研究はスピーチレベルや丁寧表現、つまり、丁寧体と普通体、尊敬語や謙譲語および丁寧さを表す形式の使用をめぐってのものが多かったが（詳細は2.2.1を参考）、一方では語彙や文法形式など、語レベルの切り換えの研究も散発的に行われている。

丁寧表現を含め、最も幅広い言語項目からスタイル切り換えを扱ったものには、『阪大社会言語学研究ノート』第4号から第6号（2002-2004）の「スタイル切換え特集」が挙げられる。この特集には日本語方言話者（全国10地点）並びに日本語中間言語話者（4母語）を対象に、スタイル切り換えについての一連の報告・研究が掲載されている。一例として、李吉鎔（2002）では韓国語母語話者を対象に、自称詞、対称詞、親族名称、原因・理由の接続詞・接続助詞、逆接の接続詞、丁寧形式、終助詞・間投助詞、応答的表現、言い淀み形式、助詞の脱落、縮約・融合形と、語彙面や文法形式面の項目が多数取り上げられ、同じ話者が異なる相手にこれらをどのように切り換えているか分析した。その一部の結果を以下に示す。

表1 自称詞の切り換え（李吉鎔 2002）¹

	対 NNS 親	対 NS 親	対 NNS 疎	対 NS 疎	対 NS 教師
ワタシ	67	82	82	92	110
ボク	3	1	-	-	-
オレ	2	2	-	-	-

表2 原因・理由の接続詞の切り換え（李吉鎔 2002）

	対 NNS 親	対 NS 親	対 NNS 疎	対 NS 疎	対 NS 教師
ナノデ ^{*1*2}	-	2	4	-	18
ダカラ ^{*2}	24	12	15	14	21

また、李吉鎔（2005）でも自称詞、丁寧形式・普通形式、確認要求表現、終助詞・間投助詞、応答詞・あいづち、逆接表現、原因・理由表現、アスペクト形式、対称詞、親族名称、接続詞、大阪方言形式、形態素融合形式の15項目を挙げ、韓国人日本語学習者のスタイル切り換え能力の発達について語レベルで分析している。

そのほか、否定形式、確認要求表現を取り上げた松丸（2010）や、原因理由の接続助詞、否定形式、断定形式を取り上げた船木（2011）などがある。どちらも方言形式の切り換えを対象にしており、松丸（2010）は上述の「スタイル切換え特集」で構築したSSコープスを材料に、方言話者の方言形式の切り換えを各地点で対照分析している。また、船木（2011）は山口県から京都府への移住者を対象に、スタイル切り換えが言語内部要因（品詞、引用、共起制限など）および言語外部要因（聞き手の存在、他方言の忌避）に起因することを明らかにした。

2.2. 発話レベルの切り換え

発話レベルの切り換えは大きく丁寧体・普通体（スピーチレベル）の切り換えと、同じ発話内行為に対する複数の表現の切り換えに分けられる。特に、スピーチレベルの切り換えは日本語のスタイル切り換えの代表的なものであり、スピーチレベルシフトという独自の研究領域を構築している。本節では、2.2.1でスピーチレベルシフトについて、2.2.2で表現の切り換えについて述べる。

2.2.1. 丁寧体・普通体の切り換え：スピーチレベルシフト

丁寧体と普通体は、日本語のスタイル切り換えにおいて最も重要な項目とされてきた。これは井出（2006:105）が日本語の丁寧体と普通体について、「日本人は相手をウチに属するかソトに属するか、そしてそれに応じて「です・ます」を使うか使わないか、その境界

¹ NS は Native Speaker、NNS は Non-Native Speaker、「親」は親しい関係、「疎」は親しくない関係（初対面）の略である。「対 NS 親」は「親しい関係の Native Speaker に対して話す場面」という意味である。表2も同様。

線をはっきり分けるということだけをはっきりと認識して言葉の使い分けをしている」と述べていることからもわかる。そのため、2.1節で述べた「スタイル切換え特集」や李吉鎔（2005）でも丁寧体・普通体を扱っているほか、幅広い研究がなされている。

日本語におけるスピーチレベルシフト研究は、生田・井出（1983）から始まっている。生田・井出（1983）は敬語レベルシフトが起きる談話を整理し、敬語レベルシフトの要因として社会的コンテクスト、話者の心的態度、談話の展開の3つを挙げた。三牧（1993）はそのうち談話の展開に注目し、談話の展開に使用される待遇レベルシフトの機能を整理している。

一方、大浜・鈴木・多田（1998）では大学生3名の談話を対象に、自由談話におけるスピーチレベルシフトは談話機能（前の発話の説明、重要部分の明示と説明など）ではなく、対話者間の心理距離により影響を受けていることを明らかにした。近年には、冗談を目的として行われるスピーチレベルシフトを分析した大津（2007）や、談話の展開・話題などの切り換えの要因を考察した酒井（2016）などのような研究が見られる。

また、日本語非母語話者のスピーチレベルシフトや、母語話者と非母語話者の対照研究も活発に行われている。前田（1999）は在日コリアン一世の談話資料を用い、スピーチレベルの選択が談話の展開を示す機能および丁寧対策の機能を担っていると述べた。金珍娥（2002）では日本語と韓国語それぞれの自由会話を対象に、両言語におけるスピーチレベルシフトを対照し、日本語では初対面という社会的条件が、韓国語では年齢差がそれぞれスピーチレベルシフトに影響を及ぼすことを明らかにした。さらに、日本語では述部のない発話が、韓国語ではアップシフト²がそれぞれポジティブ・ポライトネス・ストラテジーになっており、談話において待遇を支えるのは待遇法語尾³だけではないことを指摘している。そのほか、日本語教育の観点から日本語学習者の（文末）スタイル切り換えの問題点と要因を分析した今村（2013）や、日本語母語話者と日本語学習者のダウンシフトを比較した岡崎（2015）のような近年の研究がある。

丁寧体・普通体の切り換えは依然としてスタイル切り換え研究の大きなテーマであるが、李吉鎔（2003）で「文体が丁寧体になるだけでなく、行為指示表現の選択も異なる」と、文末形式以外の表現の切り換えについて指摘しているように、スタイル切り換えの対象は文末形式のみではない。続く2.2.2節では、同じ発語内行為を持つ異なる表現の切り換えについて述べる。

2.2.2. 表現の切り換え

西尾（2001）は「語用論的変異」という概念について、「話し手が同じ目的を含意し、聞き手にはその目的の推論が関与する複数の表現」としている。つまり、ある発話を発話する意図は一つであっても、それを実現する表現は複数あり、話し手はこの複数の表現の

² アップシフトは普通体から丁寧体に切り換えること、ダウンシフトは丁寧体から普通体に切り換えることを指す。

³ 待遇法語尾とは、文末の述部に現れる待遇のための形式であり、デス・ダのようなものを指す。

中で一つを選択し、場面などによって切り換えることがある。このような「同じ発語内行為」を持つ発話のセットを切り換える研究には、主にアンケートや談話完成テスト (DCT; Discourse-completion test) (Blum-kulka 1982) という調査方法が用いられる。

まず、アンケートの場合、発語内行為 A を言いたいときどのように言うか、1 つの発話を書いてもらうような調査が多い。たとえば、許明子 (2010) では「英語が上手な留学生と友達になりたいと考えています。先輩の親しい友達の中にイギリスからの留学生がいます。その人を紹介してくれるよう依頼してください。」という質問項目を用い、日本語母語話者の日本語・韓国語母語話者の韓国語と日本語の記述式の答えを得ている。その結果、日本語に比べて韓国語では前置き表現（「もしよかったら～」など）、親近感を表す表現を用いていることなどが明らかになった。つまり、韓国語母語話者は友達を紹介してもらうという「同じ発語内行為」において、日本語と韓国語で表現を切り換えている。

一方、DCT は Blum-Kulka (1982) で言語間の言語行動を比較するために用いられて方法であり、空白がある談話に発話を 1 つ入れて談話を完成させる調査である。Blum-Kulka (1982) は一人の話者が使用する複数の表現を調べたものではないため、スタイル切り換え研究とは言えないが、話者一人が「同じ発語内行為」を持つ複数の表現をどのように切り換えているかを調査する際にも DCT が用いられる。

たとえば、Maeshiba, Yoshinaga, Kasper & Ross (1996) では DCT を利用して日本人英語学習者の日本語と英語における謝罪表現を調査した。その結果、上級学習者は中級学習者に比べ母語からの転移が少なく、アメリカの謝罪行動を使用していると述べている。

また、アンケートや DCT という調査方法ではないが、一人の話者が持つスタイル切り換えが示唆される研究に、データ収集方法による調査への影響を考察した羽成 (2016) がある。羽成 (2016) は方法論についてのものではあるが、同一人の謝罪の表現が複数あるという事象を扱っており、話し手が表現の切り換えを行う可能性を示唆している。

ただし、ここで取り上げたような、一つの発語内行為のみを対象とする研究は少なく、一つの発話行為がどのような表現によって行われるかを取り扱う研究の大半は談話レベルで行われている。次節では談話レベルにおける切り換えについてまとめる。

2.3. 談話レベルの切り換え

これまで 2.1 節では語レベル、2.2 節では発話レベルの切り換えについて述べた。一方、実際の談話ではこれらの中の一つを単独で切り換えるわけではない。たとえば、「依頼」「謝罪」「断り」などを行うためには当該行為を行う発話以外にも挨拶、前置き、当該行為を行った後の関係修復のための発話など、発話行為を構成する複数の発話が必要となる。その複数の発話の集まり、つまり、「同じ目的」を持つ「談話」もまたスタイル切り換えの対象となる。また、談話レベルになると、語や発話の選択だけではなく、それらを用いるか否かや、談話の構造、談話の中に組み込まれる各発話の順序、使用するストラテジー、相づち・フィラーなど、談話を成立させるための数々の要素も切り換えの対象となり得る。このような談話レベルで切り換えられる項目を扱った研究のうち、韓国語母語話者を対象

にした研究には李善雅（2001）や朴成泰（2018）などがある。

李善雅（2001）はディベート形式のロールプレイを通して、相手と異なる意見を言う場面における日本語母語話者の日本語での言語行動と、韓国語母語話者の韓国語・日本語の言語行動について考察した。その際、韓国語母語話者の使用言語による言語行動の変化も考察しているが、具体的な結果は得られなかった。ただし、日本居住歴が3年以上のインフォーマント5人のうち3人は日本語における「相手の意見への同意」「自分の意見に対するマイナス面」についての発話内容が、韓国語におけるそれに比べて具体的になっている傾向が見られた。また、この結果に対して、「韓国人と韓国語で話すときと、日本人と日本語で話すときとを区別して、頭の中の言語回路を切り替えているのではないかと思われる」と述べている。

朴成泰（2018）は韓国人日本語学習者の日本語と韓国語における相づちを分析したものである。相づちは「依頼」「断り」のような特定の目的を持つものではないが、特に日本語においては談話の成立に必要なものであり、「談話を成立させる」という「同じ目的」を持つ談話構成要素である。そのような相づちを分析した結果、韓国人日本語学習者の場合、母語に比べ、日本語で話すときの方が相づちの頻度が増えることが明らかになった。つまり、韓国人日本語学習者は言語によって相づちという談話構成要素を切り換えていると言える。

以上のように、談話レベルにおいてもスタイル切り換えは観察される。しかし、そもそも李善雅（2001）や朴成泰（2018）のように同一学習者の母語と学習言語を両方調査した研究は数が少なく、李善雅（2001）のように特定発話行為（依頼、断り、異なる意見表明など）のみを扱う場合が多いため、自然談話をデータにした研究はあまり見られなかった。このような談話レベルのスタイル切り換えについては3節でさらに詳細に述べる。

2.4. 本稿の分析対象

以上で述べた各レベルにおけるスタイル切り換えのバリエーション関係をまとめると、表3の通りである。

表3 スタイル切り換えのレベルと対象

レベル	共通するもの	スタイル関係にあるもの
語	同じ意味	語・文法形式
発話	同じ命題内容	丁寧形式
	同じ発語内行為	表現
談話	同じ目的	発話行為構成発話

表3の通り、語レベルでは「同じ意味」を持つ複数の「語・文法形式」のセットがスタイル関係にあり、発話レベルでは「同じ命題内容」を持つ発話の「丁寧形式」の有無や、「同じ発語内行為」を持つ発話の複数の「表現」のセットがそれぞれスタイル関係にある。

さらに、談話レベルでは「同じ目的」を持つ談話の複数の「発話行為構成発話」がスタイル関係である。

以上で述べた通り、従来のスタイル切り換え研究では語、発話、談話の各レベルに渡り、その成果が蓄積されてきた。しかし、これまでの研究には以下のようないくつかの問題が存在する。

(a) スタイル切り換え研究の中でも、談話レベルの切り換え研究は遅れている。

(a-1) 従来のスタイル切り換え研究は語レベルのものやスピーチレベルを中心として行われてきた。表現の切り換えおよび談話レベルの切り換えについては、実態は報告されているが、スタイル切り換えという視点からなされた研究は数が少なく、語用論研究に任せられている。

(a-2) 特に、談話レベルのスタイル切り換え研究では特定発話行為（依頼、断りなど）を達成するための発話行為構成発話の切り換えが主な対象となっており、談話そのものを成立させるための談話構成要素を取り上げたものは少ない。

(b) そのため、談話レベルの切り換え研究はロールプレイなどの方法が多く、自然談話における談話レベルのスタイル切り換えの実態はまだ明らかになっていない。

個人が行うスタイル切り換えの全容を把握するためには、従来の研究で取り上げられることが少なかった、特定発話行為の達成ではなく談話自体を成立させるための談話構成要素の切り換えを明らかにする必要がある。表3に本稿の分析対象である談話構成要素の切り換えを追加したものが、表4である。網掛けで示した部分が本稿の研究対象である。

表4 本稿の分析対象

レベル	共通するもの		スタイル関係にあるもの
語	同じ意味		語・文法形式
発話	同じ命題内容		文末丁寧形式
	同じ発語内行為		表現
談話	同じ目的	特定発話行為	発話行為構成発話
		談話の成立	談話構成要素

次節では、これまでの先行研究で取り上げられたスタイル切り換え、特に、談話レベルのスタイル切り換えの要因について概観する。

3. 談話レベルのスタイル切り換えの要因

2節では、これまで行われてきたスタイル切り換え研究をまとめ、本稿の分析対象を設定した。また、その中で、談話レベルの項目においてはスタイル切り換えという観点から分析したものが少ないことも述べた。しかし、李善雅（2001）や朴成泰（2018）で示唆されたように、実態としての談話レベルのスタイル切り換えは話者によって明らかに行われている。本節ではまず表5に、言語間における談話レベルのスタイル切り換えを扱っている研究をできる限り取り上げ、その切り換えの要因をまとめる。網掛けになっている文献

は本稿の研究対象である、談話成立のための項目を個人が切り換える事象についての研究である。

表 5 学習者の談話レベル切り換え研究

文献	分析項目	調査方法	母語／学習言語	学習者レベル	結果	言語行動の要因
Han 1992	ほめに対する応答	・フィールドノート ・インタビュー	韓国語／英語	意思疎通に問題がないレベル	英語：ほめを受け入れる 韓国語：否定・回避する	英語母語話者の規範習得 母語の転移は見られない
李善雅 2001	異なる意見	ロールプレイ	韓国語／日本語	滞在歴 1 年以下 滞在歴 3 年以上	ターンのパターンの割合・内容が母語と同じ ただし、滞在歴 3 年以上の中には相手の意見に同意を示す・自分の意見のマイナス面を表す内容が具体化する場合がある	日本らしい話し方の習得
レンティーラ 2004	断り	・DCT ⁴ ・フォローアップ ・インタビュー	タイ語／日本語 日本語／タイ語	学習歴 3~4 年	学習言語でも母語と近いパターン使用	母語の転移
半沢 2011	相づち うなづき	picture-ordering タスク	英語／日本語	中上級	日本語で物語を聞く際に相づち・うなづきが増え、出現位置が変わる 母語で相づち・うなづきが多いと日本語でも多くなる	目標言語の行動習得 母語の転移
ワラシー 2014	断り	・メール調査 ・フォローアップ ・アンケート	タイ語／日本語	JLPT 3~1 級	日本人と同じように断り方を調整する	母語の転移は見られない アコモデーション
朴成泰 2018	相づち	グループ・ディスカッション	韓国語／日本語 日本語／韓国語	韓国語母語話者 学習歴：平均 5 年 6 ヶ月 日本語母語話者 学習歴：平均 4 年 6 ヶ月	韓国語母語話者：母語に比べ、日本語で相づちの頻度が増える 日本語母語話者：母語に比べ、韓国語で相づちの頻度が高くならない	学習言語の談話スタイルが影響を及ぼす
稗田 2022	勧誘の断り	・SNS によるテキストチャットのロールプレイ ・事後インタビュー	マレー語／日本語	N1 50% N2 45% 未受験 5%	マレー語の母語場面で多かった{譲歩案}{理由詳細要求}{情報要求}が接触場面では減る。	学習言語の規範に合わせる

表 5 でわかる通り、学習者の学習言語における言語行動の要因には大きく①学習言語の学習・習得、②母語の転移が挙げられる。前者の場合、学習言語の規範を学習して受け入

⁴ レンティーラ (2004) は DCT での調査であるが、回答に 1 発話ではなく複数の発話の集まりが多く、その集まりのパターンを分析しているため、発話レベルではなく談話レベルのスタイル切り換えの研究に分類した。

れた結果であり、後者の場合、学習言語の規範を受け入れずに母語の規範を維持した結果であると言えよう。

また、2.2.2 で述べた Maeshiba, Yoshinaga, Kasper & Ross (1996) や 2.3 と表 5 で述べた李善雅 (2001) の結果でわかる通り、②母語の転移は学習者のレベルが上がるにつれ少なくなることが予想される。これはレベルが上がるにつれ、①学習言語の規範も習得・学習することと関係がある。つまり、学習言語の規範がわからないがために母語の規範を借りて対人関係を営む初級学習者に比べ、上級学習者は母語と学習言語の規範をどちらも理解しているため、対人関係の構築・維持にそれらを方略的に使用することができると考えられる。

学習者は「そもそも TL⁵母語話者の基準を目標としていない（清水 2009:183、注は筆者によるもの）」場合もある。特に、学習言語の規範に従わないと誤用と受け取られる文法レベルの言語項目とは違い、談話レベルの項目は比較的に個人が使用できる方略の幅が広い。

しかし、今までの解釈には学習者のこのような主体性が注目されていないように思われる。本稿ではこういった視点から、インフォーマントの韓国人日本語使用者の日本語を単に韓国語からの転移が起こったか、それとも日本語の使用規範に従ったかを見るのではなく、各インフォーマントが言語間・場面間でどのように能動的に対人関係を構築するか、すなわち、「スタイルを切り換える」かに焦点を当てて分析する。

4. 日本語と韓国語の対人関係

3 節では先行研究の結果を踏まえ、学習者がどのような要因で談話レベルにおいてスタイル切り換えをしているかを概観した。一方、3 節では取り上げなかつたが、スタイル切り換えには対人関係という要因も関わっている。渋谷 (1998) ではスタイル切り換えの要因の 1 つに聞き手や第三者への配慮といった対人関係を挙げ、大浜・鈴木・多田 (1998) でもスピーチレベルシフトについて「人間関係を構築していく過程を映し出したもの」としている通りである。それでは、そもそも日本語と韓国語ではどのようなスタイルで対人関係を構築・維持しているだろうか。本節では、日本語と韓国語の対人関係に言及する日韓対照研究を取り上げ、本稿のインフォーマントである韓国人日本語使用者が母語および日本語で談話を行う際にどのようなスタイルを参照しているかについて述べる。表 6 に日韓の対人関係に関する研究をまとめた。

⁵ Target Language

表6 日本語と韓国語の対人関係とスタイル

文献	分析項目	調査方法	場面	対人関係に関わるスタイル	
				日本	韓国
朴承圓 2001	不満表明	DCT	隣人の騒音に対して不満を言う	対人関係の維持	目的達成
李善雅 2001	異なる意見表明	ロールプレイ	初対面	相手配慮型を好む	自己主張が強い
洪珉杓 2007	・断り行動 ・不満表現 ・敬語意識 ⁶	アンケート	-	・率直型／嘘型で単純 ・間接型・忍耐型ストラテジー ・その場の立場・役割による左右敬語意識	・相手・場面によつて多様なストラテジー使用 ・直接型ストラテジー ただし、相手の年齢によって変わる ・年齢による上下敬語意識
斎藤 2008	空間・用具の共有	アンケート	家族・友達・最近知り合った人 × ①旅行先で部屋を共有するか ②コップを共有するか	対人距離感が遠い	対人距離感が近い
尾崎 2008	依頼・感謝	アンケート	家族・友達・最近知り合った人 × ①軽い依頼：手紙を出させる ②重い依頼：本を買わせる	家族・友達との距離がやや遠い	家族・友達との距離がやや近い
許明子 2010	私の領域への踏み込み	アンケート	・聞き手の健康状態をうかがう ・先輩に友人の紹介を依頼する	・婉曲的・非断定的 ・配慮標示・ぼかし表現	・直接的・断定的 ・親近感表示
生越 2012	・無言行動 ・断りの後の修復行動	先行研究整理	・自分のものを何も言わず使われる ・推薦状を書いてもらった指導教授に依頼される	・言語的「配慮」するが配慮	・言語的「配慮」をしないことで配慮 ・積極的な配慮
張允娥 2018	・話題構成・話題管理 ・関心の表示 ・直接話法 ・対立・冗談	自由会話	日本・韓国の男性同士・女性同士	相手に押し付けない形で配慮	相手との距離を縮める親愛的な形で配慮

⁶ 洪珉杓 (2007) にはほかにも感謝・謝罪、あいさつなど、多数の調査項目があるが、ここでは日韓の談話スタイルの差がわかりやすいものに限って引用した。

表 6 の先行研究を総合すると、日本語で対人関係を構築・維持する際には全体的に距離を維持し、間接的であり、相手に配慮をするようなスタイルが用いられる。江川（2003）が日本人の言語行動について、「察し」の文化、質問しないこと、ウチとソトなどのような特徴を挙げていることへの裏付けになっていると言える。一方、韓国語で対人関係を構築・維持する際には距離を縮め、直接的なスタイルが使用される。

このように、日韓では対人関係を構築・維持する方法が実際に異なることが明らかであるが、その対人関係の方法を実践するのは、多くの場合、談話レベルにおける項目である。しかし、これまでの研究では個人が日本語と韓国語を使用する際に、上で整理したような日本語と韓国語の談話レベルにおけるスタイルをどのように切り換えていているかはあまり検討されていない。

5. 問題のありかと研究の目的

2 節ではこれまでのスタイル切り換え研究を概観し、本稿での分析対象を、談話を成立させるという目的を達成するための談話構成要素の切り換えと限定した。2 節を踏まえ、以下のように研究の目的(A)を設定する。

(A) これまでスタイル切り換え研究の対象とされなかつた談話レベルのスタイル切り換えについて、言語間・場面間でどのようなものが、どのように切り換えられるか、その実態を整理する。(第 2 部)

また、3 節では先行研究の中で特に学習者の談話レベルのスタイル切り換えという事象が指摘された研究を取り上げ、その要因について述べた。しかし、個人が能動的にスタイルを切り換えるという視点より、学習言語の規範を学習・習得したか、それとも母語からの転移が見られるかに焦点を当てている。さらに、4 節では日韓の談話レベルにおけるスタイルに言及している研究をまとめ、日韓の談話スタイルに差があることを確認した。なお、そのような研究では、当のスタイルを駆使する個人には焦点が当てられておらず、スタイルを切り換えるという観点は備えていないことを指摘した。3 節および4 節を踏まえ、本稿ではさらに研究の目的(B)を設定する。

(B) (A)の結果に沿って、これまで明らかになった日本語・韓国語のスタイルを個人がどのように活用しているか考察する。その上で、韓国人日本語使用者が行う日韓の対人関係との関係を説明する。(第 3 部)

(B-1) 第 2 部各章で項目ごとに明らかになったスタイルを全体として見たとき、それぞれのインフォーマントが言語間・場面間でどのようにスタイルを切り換えていくか、対人関係との関係で説明する。

(B-2) さらに、3 人のインフォーマントを通じて観察される、韓国人日本語使用者のスタイル切り換えがどのようなものか述べる。

最後に、これまであまり取り上げられることができなかつた談話レベルのスタイル切り換えの特徴について述べるため、研究の目的(C)を設ける。

(C) 談話レベルで行われるスタイル切り換えと他のレベルで行われるスタイル切り換え

の異同について述べる。(第3部)

第2章 調査の概要と分析の方法

1. はじめに

第1章で、自然談話を用いて談話レベルのスタイル切り換えを分析する必要があることを主張した。本稿はそのためのデータとして、日本に在住する韓国語母語話者の親しい友人同士のオンライン上の談話を録音し、言語間・場面間における談話レベルのスタイル切り換えを分析する。本章では、なぜそのようなデータを用いるのか、なぜそのような場面を設定したのか、また、具体的にどのような言語項目を分析するのかについて述べる。具体的には、2節で調査の概要、3節で収集したデータの概要について示したあと、4節で文書化の原則について述べる。最後に、5節では分析項目の選定について説明する。

2. 調査の概要

まず、場面設定について述べる。前章までの先行研究が示すように、談話レベルのスタイル切り換えは言語間・場面間の両方で行われると思われる。そのため、本稿では二言語話者である日本滞在中の韓国語母語話者（以下、韓国人日本語使用者）をインフォーマントと設定し、各インフォーマントに対して使用言語（日本語・韓国語）と談話相手との関係（年齢上・年齢下）をクロスさせた4つの場面を設けた。従来の研究で、韓国語母語話者の敬語使用には年齢が重要な基準であることが報告されている（荻野 1989、李吉鎔 2019など）。韓国語母語話者は相手の年齢の上下によって相手への待遇意識も大きく異なり、談話レベルのスタイル切り換えがなされることと予想されるため、本稿では使用言語以外に年齢の上下という場面設定を行った。

各場面の名称は表1の通りであり、各々に後述するインフォーマントIDの連番をつけて場面IDとする。たとえば、【対日上1】はインフォーマントK01が目上の日本語母語話者と日本語で話す場面であり、【対韓下3】はインフォーマントK03が目下の韓国語母語話者と韓国語で話す場面である。また、言語に関係なく相手の年齢による場面を指す場合、相手が年上の場面を【対上】、相手が年下の場面を【対下】と表記することがある。

表1 場面設定と場面ID

		使用言語	
		日本語	韓国語
相手の年齢	上	【対日上】	【対韓上】
	下	【対日下】	【対韓下】

次に、インフォーマントの選定方法について説明する。本稿は日本語非母語話者を対象にするが、インフォーマントの母語のみではなく日本語談話も分析対象としており、言語

間・場面間で談話レベルのスタイル切り換えを行う日本語能力があるインフォーマントを選定することが重要になってくる。従来の研究結果からは、談話レベルの言語間スタイル切り換えにも言語習得レベルの高さや滞在経験の長さが影響を及ぼすということが指摘されている。たとえば、岡本（2018）では言語の習熟度や、海外在住経験の有無が言語によるコミュニケーションスタイルの差を認識することに影響することが明らかになった。また、前章で述べた李善雅（2001）では日韓の言語行動を対照し、日本での滞在経験が3年以上の韓国人学習者は言語行動を切り換える傾向を見せる指摘している。先行研究を踏まえ、本稿では日本語での日常生活に不自由がなく、2年半⁷以上日本に滞在している韓国語母語話者3名を対象とする。インフォーマントの条件を統一したのは、本稿がインフォーマントの切り換え能力の習得プロセスではなく、一定の習得レベル以上にある学習者の使用実態を見ることを目的とするものであるためである。なお、性別による差は本稿の主眼ではないため、インフォーマントは全員女性に統一した。表2にインフォーマント情報をまとめて示す。

表2 インフォーマント情報

	K01	K02	K03
性別	女性	女性	女性
年齢	28	28	24
職業	会社員	会社員	専門学校学生
日本滞在期間	6年	4年	2年9か月
渡日前 日本語学習期間	16年	6年	5年

また、すべての談話は親しい友人同士の雑談である。親しい間柄では使用できることばの幅が広く、その結果、談話構成要素のバラエティーがより確保しやすいことと予想される。たとえば、親しい間柄であるため初対面の相手には持ち出しにくい話題を持ち出すことも可能であり、当該話題を選択するか否かについての自由がより保証されると考えられる。そのため、談話の相手については各インフォーマントに親しい友人を直接選定してもらい、調査の協力を得た。その際、10段階尺度のうち8段階以上の親しさを感じる友人を選定するようにインフォーマントに依頼している⁸。

調査では、以上の場面設定に基づいて、各場面の談話相手とオンライン媒体（ZOOM）⁹

⁷ K03の場合、日本滞在期間が2年9か月で、先行研究で出ている具体的な数字の3年よりは若干少ない。しかし、3年という具体的な数字は李善雅（2001）にしか見られず、2年9か月も短い期間ではないと判断したため、本稿では2年半以上の日本滞在を基準にしている。

⁸ 親しさの詳細についてはプライバシーにかかるため記載しない。

⁹ データ収集は新型コロナウイルスで対面の談話を録音することが難しかったこと、その影響でZOOMなどオンライン媒体を利用したコミュニケーション形態が多くなり、本稿のインフォーマントも日常的に使用していたことを踏まえ、当時の最も自然な談話を収集するためオンライン媒体を利用した。

を利用して35分間テーマを設けない自然談話をするように指示し、それを録画した。録画の冒頭、談話を開始する前に、談話収録同意書の内容を筆者が読み上げ、音声によって録画の許諾を受けた。読み上げは日本語談話の場合には日本語で、韓国語談話の場合には韓国語で行った。談話収録同意書の内容は付録1（p.188~）を参照されたい。録画データのうち、冒頭の5分はオンラインでの談話に慣れ、調査を意識しなくなる時間として切り取り、残り30分のみを文字化した。文字化の原則は4節で詳述する。なお、本稿では分析対象である韓国語母語話者をインフォーマント、その談話の相手を談話協力者とする。

3. データの概要

表3はインフォーマントごとの談話協力者・談話の情報である。談話参加者の欄には「インフォーマントID - 談話協力者番号ID」を記した。談話協力者のIDはJ (Japanese) / K (Korean) とO (Old) / Y (Young) の組み合わせに加え、談話に参加するインフォーマントの番号を付した。たとえば、インフォーマントK01との談話相手である「年齢が上の(O)日本語母語話者(J)」はJO01となる。また、性別・年齢の欄は談話協力者の情報である。

表 3 談話協力者と談話情報

		日本語談話		韓国語談話	
		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	談話参加者	K01-JO01	K01-JY01	K01-KO01	K01-KY01
	性別	女性	女性	女性	女性
	年齢	34	25	36	26
	関係	知り合い	友達	知り合い	友達
	録音日	20/04/24	20/04/23	20/04/25	20/04/27
K02	談話参加者	K02-JO02	K02-JY02	K02-KO02	K02-KY02
	性別	女性	女性	女性	女性
	年齢	30	19	32	26
	関係	教会のお姉さん	会社の後輩	教会のお姉さん	教会の妹
	録音日	20/05/22	20/05/03	20/05/03	20/05/03
K03	談話参加者	K03-JO03	K03-JY03	K03-KO03	K03-KY03
	性別	女性	女性	女性	女性
	年齢	33	22	25	22
	関係	教会のお姉さん	大学の同期	教会のお姉さん	教会の妹
	録音日	21/01/08	21/01/14	21/01/09	21/01/10

表 3 の談話協力者との関係に関しては基本的にインフォーマントの表現をそのまま採用したものである。K01 は【対日上】【対韓上】における相手との関係を「知り合い」としているが、「親しくない」という意味ではなく、韓国人にとって年上の人を友達と呼ぶのは違和感があり、ほかの適当な日本語表現が見つからなかつたため知り合いと言わざるを得ない」と自己報告した。K01 の【対日下】【対韓下】における「友達」、K03 の【対日下】における「大学の同期」についても「友達・同期だけど、年下であることは認識している」としている。また、K02 と K03 は【対日上】【対韓上】【対韓下】で「お姉さん」「妹」という表現を使っているが、韓国語では親族名称を親族ではない親しい間柄の人にも使用するため、「教会のお姉さん」は「教会の親しい、年上の女性」、「教会の妹」は「教会の親しい、年下の女性」という意味である。K01 と同じく、「日本語では使わない表現であることは知っているが、ほかの表現が見つからない」と自己報告している。

4. 文字化の原則

前節で述べた調査によって得られた談話データは、宇佐美（2005）の基本的な文字化の原則（以下、BTSJ¹⁰）に従って文字化し、分析のためのデータとした。BTSJ では発話文の定義から改行の原則、文字化における記号までが述べられている。

BTSJ では「発話文」ごとに改行を行っており、本稿で文を数える場合にも基本的に BTSJ の「発話文」を基準とする。したがって、BTSJ の「発話文」の定義を確認しておく必要がある。以下に BTSJ での「発話文」認定方法を引用しておく。

「発話文」の定義は、会話という相互作用の中における「文」とする。そして、以下のように認定する。基本的に、ひとりの話者による「文」を成していると捉えられるものを「1 発話文」とする。しかし、自然会話では、いわゆる「1 語文」や、述部が省略されているもの、あるいは、最後まで言い切られない「中途終了型発話」など、構造的に「文」が完結していない発話もある。そのような場合は、話者交替や間などを考慮した上で「1 発話文」であるか否かを判断する。つまり、「発話文」の認定には、「話者交替」、「間」という 2 つの要素が重要になる。

（宇佐美 2005）

本稿では BTSJ に従って基本的に構造的な「文」を 1 発話文とし、話者交替や間で区切られた発話も 1 発話文とみなす。本稿のデータの例を以下に挙げる。

(1)【対日上 1】構造的な文の形をしている発話

0013 K01 あー、使ってないんです=。

(1)は文末表現デスで終了しており、構造的に文の形をしている。BTSJ では基本的にこのような文の形をしている発話を 1 発話文とする。

(2)【対日下 1】話者交替によって区切られた発話

0055 K01 なんかゴールデンウィーク終わるまでー、ショッピングモールとか【【。
0056 JY01 】】もういややなー。

記号については後述するが、(2)では K01 の発話 0055 に JY01 が 0056 で割り込んでいる部分である。その結果、0055 は構造的な文を完成することができなかった。BTSJ ではこのように話者交替によって構造的な文にならなかった発話も 1 発話文として認める。

(3)【対日上 2】間によって区切られた発話

¹⁰ Basic Transcription System for Japanese

0616 K02 もうそうゆうのないから一、ちょっと。

0617 K02 /沈黙 /##、なんかこうゆうところで、"あー私、もう、来年はもういいんかな
"みたいな、<笑い>。

(3)はK02が連續で発話を続けている。その際、0616の後ろに一回沈黙を挟み、その後、また発話をしている。このように、間で発話が区切られた場合、区切られた前後の部分を別々の発話文として認定し、2発話とする。

一方、BTSJでは、構造的な文を成していてもフィラー、直接引用、同じ話者による繰り返し、倒置文になっている発話に関してはそれ自体を単独の1発話文として認めておらず、先行部・後続部とまとめて1発話文としている。本稿もこの方法を採用する。以下に宇佐美(2005)の事例を引用する。通し番号は筆者がつけたものである。

(4)構造的には文になっているが、独立した1発話文とはみなさず、その先行部・後続部とまとめて1発話文とするもの：フィラーの場合(以下の波線部)

1A 不景気で（はい）なんか会社もなくって....。

2B あはーそうですか。

→3A /沈黙 4秒/あの、あれです上ね、なんか社会人が、1年目っていうのはかなり厳しいもんが
ありませんでした?。

4B 社会人...、そうですね。

5A うん何年目も厳しかったけど... <笑いながら>。

(5)構造的には文になっているが、独立した1発話文とはみなさず、その先行部・後続部とまとめて1発話文とするもの：直接引用を含む発話文の場合(以下の波線部)

→1A あと一字見ると"「姓_1」さんですか"って、さい、大体最初(はい)聞かれて、で、"
「姓_1」さんですか"、(はい)"「姓_2」さんですか"、(はい)で、中には"「姓_3」さんですか
"、/少し間/[息を吸い込んで]"どれも違うんだけど"(うんうんうんうん)とかって思い。

(6)1発話文になりうる発話が間を入れずに繰り返されているために、それらをまとめて1発話文とみなすもの

1A かといつて英語でしゃべろうとしても相手が英語できなかつたり(えー)すると。

2A だからちょっとー、ねー、せっかくなのにね(えー)コミュニケーションが(えー)図れない
など、いうこともあってね。

3B まーあれですよね、一番上達するのってそういう場っていう話もね。

→4A そうなんです、そうなんです、そうなんです。

(7)発話が一息に続いているため、1発話文と認められ、結果的に倒置の形になっているもの

→1A わたしは、あの、給与関係してるのでー、計算ばっかりなんですよ、事務が。

2B あーあー。

3A だから、あまりこう文章書いたり作成したりするってことが（うーん）めったにないんで

…。

→4A 時たまるんですね、そういうもの作ってくださいって。

次に、改行の原則について述べる。BTSJ では基本的に「話者が交替するたびに改行」し、「同一話者が複数の「発話文」を続けて発するときは、「発話文」ごとに改行する」としている。本稿もこの原則に従って改行を行った。

一方、BTSJ では「相手の発話に重なる短い小声のあいづち（ふーん等）や笑いは、（ ）に入れて、相手の発話の中の最も近いと思われる場所に挿入する」としているが、本稿では相づちも分析対象としているため、分析のしやすさを考慮し、相づちも他の発話と同じく改行を行った。

なお、話者交替の改行原則に従って改行する際に、発話の最中に他の発話が差し込まれた場合、1 発話文が数行に渡ってしまう場合がある。BTSJ ではこのような場合を想定し、発話文が終わっていることを示す記号として「。」を、発話文が終わっていないことを示す記号として「,,」を用いている。また、疑問や確認の文は「?。」で、発話文末を言い淀んだ場合は「…。」と表記している。つまり、「1 ラインの終わりには、必ず、句点（「。」、「?。」、「…。」の 3 パターン）か、英語式コンマ 2 つ「,,」のどちらかの記号がつくことになる」（宇佐美 2005）。本稿もこの方法に従っている。

また、このように改行したすべてのラインには 4 枠の通し番号を付けた。上述の(1)から(3)までの例における左側の数字のようなものである。また、本稿で複数の通し番号に言及する際には、「N₁=N₂」「N₁・N₂」「N₁-N₂」という記号を使用することがある。それぞれ、表 4 のような意味として用いる。例の網掛け部分が当該記号が指す発話文である。

表 4 ライン番号の意味

記号	意味	例
$N_1=N_2$	同じ発話者による 複数ラインに渡る 1 発話文	0001=0003 : 0001 K01 でやっと作って一、ん<結構>{<},, 0002 JO01 <うん>{>}。 0003 K01 それで忙しくて,先週まで。 0004 K01 で一、それ 【。】。
$N_1 \cdot N_2$	N_1 と N_2	0002・0004 : 0001 K01 でやっと作って一、ん<結構>{<},, 0002 JO01 <うん>{>}。 0003 K01 それで忙しくて,先週まで。 0004 K01 で一、それ 【。】。
N_1-N_2	N_1 から N_2 までの すべての発話文	0001-0004 : 0001 K01 でやっと作って一、ん<結構>{<},, 0002 JO01 <うん>{>}。 0003 K01 それで忙しくて,先週まで。 0004 K01 で一、それ 【。】。

次の表 5 には、BTSJ の文字化の凡例の中で、本稿で使用したものをまとめて示す。斜体は筆者が本稿で修正を加えたものである。

表5 BTSJの文字化記号

。[全角]	1発話文の終わり
”	発話文の途中に相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマーク
、[全角]	①日本語表記の慣例通りの読点 ②発話と発話のあいだに短い間がある場合
,	倒置文 文が終わる際に「,」を入れ、その直後に倒置された部分を書く。倒置疑問には「?,」を付ける。
“	①複数読み方があるものを漢字で表す場合、最も一般的な読み方ではなく、特別な読み方で発せられたことを示すために、その読み方を平仮名で‘’に入れて示す。 ②通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、「’’の中に正式な表記をする。
『』	視覚上、区別した方が分かりやすいと思われるもの
“”	発話・思考・判断・知覚などの内容の引用
?	疑問文
??	半疑問
↑→↓	特記する必要のあるイントネーション
/沈黙 / ¹¹	1秒以上の沈黙 沈黙後に誰が発話したのかを同定できるように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。
(発話)=	改行される発話と発話の間が、当該の会話の平均的な間の長さより相対的に短いか、まったくない場合
= (発話)	最初のラインの発話の終わりに「=」を、続くラインの冒頭に「=」をつける。
...	音声的に言いよどんだように聞こえるもの
<>{<}	同時発話されたもの 重なった部分双方を<>でくくり、重ねられた発話には<>の後に{<}>を、重ねた方の発話には{>}をつける。
【	第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合
】 [全角]	結果的に終了した発話文の終わりには【【を、終了させた発話文の冒頭には】】をつける。
[]	文脈的情報 ¹²
<>	笑いの情報
#	聞き取り不能であった部分 その部分の推測される拍数に応じてつける。
「」	固有名詞等、インフォーマントのプライバシーの保護のために明記できない単語

5. 分析項目の選定

本稿で談話レベルにおけるスタイル切り換えを見るため取り上げる言語項目は、(A)(B)(C)に適合した項目とする。

- (A) 談話レベルにおける項目であること。
- (B) 談話のある1か所のみではなく、談話全般に渡って出現する項目であること。

¹¹ BTSJでは「/沈黙 秒数/」であったが、本稿は秒数は分析しないため、「/沈黙 /」にした。

¹² BTSJでは「[]」を、特記の必要がある音声上の特徴を表すために用いているが、本研究ではその他の情報([ノートに線を引く音]など)にも用いている。

(C) 当該項目なしでは談話が成り立たないこと。

第1章で述べた通り、本稿で分析の対象とするものは談話全体に関わるスタイル切り換えであり、最も基本的な条件として(A)(B)(C)の条件を満たす必要がある。しかし、このような談話レベルの項目は数多く存在し、そのすべてを取り上げることは不可能である。したがった本稿では、第1章4節との関連で、さらに基準を(D)設ける。

(D) 日本語と韓国語で行動様式の差があること、または差があると予想されること。

以上を踏まえ、本稿では談話の話し手としての項目として**話題選択**、**発話量**、**談話参加**、**情報提供・情報要求**、談話の聞き手としての項目として**発話内容確認**、**相づち**の6つの項目を取り上げて分析する。以下では各項目について、先行研究で指摘されている日韓言語行動の差を確認しながら説明する。

(a) 話題選択

話題は談話を構成する必須的な要素である。話題に関して、金秀芝（2006）は「日本語よりも韓国語の方が話題の転換に積極的な姿勢を示す傾向がある」という仮説を立てており、実際に鄭榮美（2009）で話題導入時のストラテジーの多少に日韓の差が見られた。また、張允娥（2017:72）でも「韓国語の会話に比べ、日本語の会話では、共通知識を規範とした話題が多く観察されるのに対し、韓国語の会話では個人に関わる内容が話題として取り上げられる傾向が多」と述べ、日韓の差を明らかにしている。第3章ではこの話題選択を取り上げ、日韓で異なる話題スタイル規範に、韓国人日本語使用者が言語間・場面間でどのように対処するか分析する。

(b) 発話量

発話量は相手との談話を構築する上で各話者がどのくらい発話するかである。小川（2000）では日本語会話を対象に発話量と会話者に対する印象との相関関係を分析し、話し手として会話をリードする役割を取ることが相手にいい印象を与えることにつながると述べた。一方、韓国語に関しては「目上に対しては韓国人は口数を控え、視線や姿勢によって誠意や関心を示すようになる（任栄哲・井出2004:67）」というふうに記述される。発話量において、日韓で規範が異なることがわかる。第4章で発話量における異なる規範に、韓国人日本語使用者がどのように対処するか分析する。

(c) 談話参加

談話参加は談話にどのような形で参加するか、つまり、自分だけ延々と話すか、相手にだけ話させるか、それとも相手と発話を交わすことを好むかに関する項目である。談話参加については日韓の差に言及した先行研究は見つからないが、日英の話題展開スタイルを対照分析した大谷（2015a）は日英間にスタイルの差があることを確認した。(b)で述べた任栄哲・井出（2004）の記述からしても、発話量と同じく、日韓の行動規範に差があることが見込まれる項目であり、第5章で分析する。

(d) 情報提供・情報要求

談話はお互いが持っている情報を伝達することで成り立つため、情報のやり取り

は談話において欠かせない。また、情報のやり取りの方法としては、聞かれなくても情報を提示する情報提供と、相手に質問し、情報を提示してもらう情報要求に二分される。このように情報のやり取りを提供と要求に二分して日韓の差を分析した奥山（2002）では、日本人は最初の5分間で質問より自己開示¹³が多い一方、韓国人は自己開示より質問が多いことを明らかにしている。アンケートで自己開示に対する意識調査を行った吳覗榮（2020）でも、日本人は相手への配慮を重視し質問をせず話を聞くが、韓国人は相手に興味を表すことと積極性を重視するという結果を得ている。第6章では、このように日韓に差が見られる情報提供・情報要求スタイルを韓国人日本語使用者がどのように切り換えるかについて分析する。

(e) 発話内容確認

発話内容確認は Schegloff, Jefferson & Sacks (1977) の「他者開始¹⁴」を指すものであるが、本稿では談話参加者全員ではなくインフォーマントのみに焦点を当てるため、インフォーマントの立場から「発話内容確認」という述語を使用する。発話内容確認の言語間・場面間スタイル切り換えは金道瑛（2021）で本稿と同じデータによって確認している。第7章で詳細に分析する。

(f) 相づち

水谷（1993）では日本語談話の重要な特徴として相づちを取り上げ、韓国語でも「日韓のあいづち意識には似通ったものがある（任栄哲・井出 2004:51）」とされている。このように、相づちは日韓両言語において聞き手言語行動として必須的な項目であるが、一方で、数多くの先行研究が日韓の相づち使用における頻度・位置の差を指摘しており（金秀芝 1993、任栄哲・李先敏 1995、崔ハナ 2011、朴成泰 2011・2018 など）、話者が異なる言語・場面で使用する場合、操作しなければならない項目でもある。第8章ではこのような相づちスタイルを韓国人日本語使用者がどのように切り換えるか分析する。

日本語と韓国語ではないが、津田・村田・大谷・岩田・重光・大塚（2015）では日英の談話スタイルの対照研究において自己開示、あいづち、応答要求表現、他者修復、話題展開スタイル、ターンと発話量の分布の6つを挙げ、その一章である大谷（2015b）ではこれらの項目について「英語と日本語の相互行為の特徴をあぶりだすために有効な、いわば指標となりうるもの」であり、「これらの点を分析することで、両言語の相互行為のあり方、ひいてはコミュニケーションのあり方を明確にできるのではないかと考える」と述べてい

¹³ 自己開示は「自分自身をあらわにする行為であり、他人たちが知覚しうるよう自身を示す行為（Jourard 1971、訳はジュラード 1974:24）」であり、本稿で言う情報提供とは定義が違うが、自分が持っている情報を、相手に提供するという点で共通する。吳覗榮（2020）の自己開示もこのようない意味で、韓国人は情報提供よりは情報要求を好むをいう解釈ができると考えられる。

¹⁴ Schegloff, Jefferson & Sacks (1977) は修復を、会話における発話産出・聞き取り・理解にかかわる問題に対処するものであると定義している。また、誰が開始するか、誰が修復を完遂するかによって自己開始自己修復 (SISR;Self initiated Self repair)、自己開始他者修復 (SIOR;Self initiated Other repair)、他者開始自己修復 (OISR;Other initiated Self repair)、他者開始他者修復 (OIOR;Other initiated Other repair) の4つに分類した。本稿ではそのうち、他者開始修復 (OISR, OIOR) のみを「発話内容確認」としている。

る。本稿でも、これらの項目が談話スタイルを探る際に有効であると判断し、以上の(a)から(f)までの項目を分析する。

6. 分析の枠組み

本稿は、談話レベルのスタイル切り換えを対人関係という観点から分析するものである。本稿の結論を先に述べると、データからそれぞれの分析項目において、対人関係という観点から「相手により焦点を置いているスタイル」と、「自分自身により焦点を置いているスタイル」の2つのスタイルがあることが確認できた。たとえば、話題選択という項目において、新しい話題が始まることが談話協力者にわかりやすいように接続詞やフィラーで何らかの区分をつけるようなスタイルが見られ、相手のわかりやすさに焦点を置いている。このように相手に焦点を置き、相手を配慮したり、相手に談話に参加する機会を与えるようなスタイルを、ここでは**相手焦点的スタイル**とする。反対に、自分自身に焦点を当てるスタイルでは相手に焦点が置かれていないため配慮の意識が薄れたり、相手に談話参加の機会を与えなかつたりする。話題選択の例においては、新しい話題が始まる際に何の合図も送らないことで、結果的に談話の流れについての相手の予測を難しくするスタイルがそれに当たる。このようなスタイルを**自己焦点的スタイル**とする。

本稿の結果は以上のような二つの談話スタイルで整理することができる。表6に、本稿で設定する相手焦点的スタイル・自己焦点的スタイルの詳細を示す。各スタイルの詳細な内容は、インフォーマントが意図的に操作していると考えられるものである。

表6 分析の枠組み

相手焦点的スタイル	自己焦点的スタイル
・相手に言語的な配慮をする（ポライトネス・ストラテジーを使用する）	・相手に対する言語的配慮が薄れ、自由に発話する（ポライトネス・ストラテジーをあまり使用しない）
・相手が予測しやすいように談話の統一性・一貫性を目指す	・相手の予測しやすさに配慮せず、談話の統一性・一貫性を目指さない
・相手にわかりやすく伝える、談話マーカーなどによる合図を送る	・相手のわかりやすさに考慮しない、合図を送らない
・相手に談話に参加する機会を与える	・相手に談話に参加する機会を与えない
・相手との関係維持志向	・自己の情報展開志向

ただし、この二つの談話スタイルはあくまで相対的なものである。たとえば、日本語と韓国語は英語に比べると相づちを頻繁に打つ。相づちを打つということは相手の話に興味を示し、相手のポジティブ・フェイスに配慮する言語行動であると考えられる。したがつ

て、相づちを頻繁に打つ日本語・韓国語は英語と比べると相手焦点的スタイルである。しかし、それは英語と比べた場合であり、日本語と韓国語を直接比べた先行研究によると、日本語が韓国語より頻繁に相づちを打つ（第8章2節参照）。この場合、韓国語は自己焦点的、日本語は相手焦点的な相づちスタイルであると言える。

同じことは場面間でも言える。もし日本語談話の相づちの打ち方が全体的に相手焦点的スタイルであるとしても、場面間で見て【対日上】が【対日下】より相づちを打っている場合には、【対日上】が【対日下】に比べてより相手焦点的スタイルであると判断できる。

以下ではこの二つの談話スタイルを分析の枠組みとして、各項目・各インフォーマントの談話レベルにおけるスタイル切り換えを分析していく。

第2部 本論

第2部では、第1部の内容を踏まえ、本論として具体的な分析に入る。第2部は第3章から第8章までの構成となっており、各章では分析項目を一つずつ取り上げて分析する。その結果は以下のようにまとめられる。各欄の「↔」の左側は【対上】、右側は【対下】の結果である。「↔」がない欄は場面間では切り換えが見られなかったものであり、「相手」は相手焦点的スタイル、「自己」は自己焦点的スタイルをそれぞれ示す。

表1 第2部のまとめ

	K01		K02		K03	
	日本語	韓国語	日本語	韓国語	日本語	韓国語
話題選択	相手 相手↔自己	自己 相手↔自己	相手 自己↔相手	自己 自己↔相手	相手/自己 自己↔相手	自己/相手 自己↔相手
発話量	自己↔相手 自己↔相手	相手↔自己 相手↔自己	自己	相手	自己↔相手 自己↔相手	相手↔自己 相手↔自己
談話参加	自己↔相手 自己↔相手	相手↔自己 相手↔自己	自己	相手	自己↔相手 自己↔相手	相手↔自己 相手↔自己
情報提供・要求	自己↔相手 自己↔相手	相手↔自己 相手↔自己	自己 -	相手 相手↔自己	自己↔相手 自己↔相手	相手↔自己 相手↔自己
発話内容確認	相手↔自己 相手↔自己	-	-	相手↔自己 相手↔自己	相手↔自己 相手↔自己	相手↔自己 相手↔自己
相づち	相手↔自己 相手↔自己	相手↔自己 相手↔自己	相手↔自己 相手↔自己	相手↔自己 相手↔自己	自己↔相手 自己↔相手	相手↔自己 相手↔自己

第3章 話題選択の切り換え

1. はじめに

話題は談話を構成する必須の要素である。また、友人同士の雑談において話題は選択の幅が広く、話題の選択、話題開始の仕方などが談話の相手によって切り換えられることがある。たとえば、(1)では新しい話題を開始する際に「そう」「だから」のようなフィラーや接続詞を入れ、談話協力者にこれから新しい話題に転換することを合図しているが、(2)ではそのような合図なしに新しい話題を開始し、新しい話題の開始方法が切り換えられている。例において、「→」は注目するべき発話、**囲み**は当該発話で特に注目するべき箇所、点線による区切りは新しい話題が始まる箇所をそれぞれ示すものである。また、各例の見出しの「➡」は話題の変化を表す。

(1)【対日上 1】(再開)K01 の業務→(再開)K01 の業務

- 0119 K01 】】<英語、英語>{>}できる人間みたいな<笑いながら>。

0120 JO01 99 パーそれで###ね。

0121 K01 <<笑い>>{<}>。

0122 JO01 <1 パーは一、K01 さんが暇だったからかもしれないけど一、99 それだと思います>{<}>=。

0123 JO01 =私が上司で一、なんかこう一社内の様子見たときに。

0124 K01 うん<笑いながら>。

0125 JO01 うん。

0126 JO01 なんもう、なんか、ベースとしてね↑。

0127 K01 うん<笑いながら>。

0128 JO01 そう。

0129 JO01 すも一、それしか考えられない。

0130 JO01 え一。

→ 0131 K01 そうだから海外の、調査会社とか一、今す、結構サーベイも取らなきやいけなくて一。

0132 JO01 あーサーベイは絶対現地のを使った方がいいですよ。

0133 K01 <んで一>{<}>【【。

0134 JO01 】】<本当に>{>}、に。

0135 JO01 <そうですよ>{<}>。

詳細は 4.2 節で述べるが、(1)では新しい話題に移る発話の 0131 で、「そう」というフィラーや「だから」という接続詞を使用し、ここから新しい話題が始まるということを合図している。

一方、(2)では新しい話題が始まる0246で食図は見られず、直接新しい話題を開始する。

(2)【対韓上 1】(再開)お風呂→GW の予定と旅行

- 0233 KO01 =지금 뭐 <짐두— 스톱>{<}.,
=如今に<ジムも一ストップ>{<}.,
- 0234 K01 <그니까—>{>}。
<そうね—>{>}。
- 0235 KO01 해서—、 짐도 <못 가고 사우나도 못 가잖아>{<}。
して—、ジムも<行けないしサウナも行けないでしょ>{<}。
- 0236 K01 <목욕、 목욕탕도>{>} 못 가구—、 온천도 못 가는데。
<お風呂、お風呂も>{>}行けなくて—、温泉も行けないのに。
- 0237 KO01 그 돈이지 뭐。
そのお金でしようまあ。
- 0238 K01 응。
うん。
- 0239 KO01 그 느、 거기에 쓰는 돈이지=。
そのう、そこに使うお金でしよう=。
- 0240 KO01 =그래 봤자 뭐—、 10000 엔、 정도 더 나오나。
=そうしたところでなんか—、10000円、ぐらい出るのかな。
- 0241 KO01 그 돈 그대로 뭐、 헬스장에、 쓰는 거랑 같지 뭐。
そのお金そのままなんか、ジムに、使うのと同じだよね。
- 0242 K01 그쵸。
そうですね。
- 0243 KO01 [ため息]、 시기가 시기다##。
[ため息]、 時期が時期だ##。
- 0244 K01 <笑い>。
- 0245 KO01 참아야지。
我慢しないと。
-
- 0246 K01 골든 위크 뭐 하실 거예요?
ゴールデンウィーク何するつもりですか?。
- 0247 KO01 포폴 만들고—。
ポートフォリオ作って—。
- 0248 K01 응—。
うん—。
- 0249 KO01 이력서 써 놨으니까 포폴、 만들어서 좀 정리를 해서—,,
履歴書書いておいたからポートフォリオ、作ってちょっと整理をして—,,
- 0250 K01 응。
うん。
- 0251 KO01 呷—、 그래서 呷—、 그—、 선배님들한테 좀 체크 받고—,,

ちょっと一、それでちょっと一、その一、先輩たちにちょっとチェックして
もらって一。,

0252 K01 으응。

ううん。

0253 KO01 그걸만 할려고一=。

それだけしようと一=。

本章ではこのような話題に注目し、インフォーマントが言語間・場面間で行う、話題選択の切り換えや、新しい話題の開始の仕方の切り換えについて述べる。以下ではまず、2節で本稿での話題区分の方法を提示する。3節ではインフォーマントが選択する話題の内容について述べ、4節では話題の開始について述べる。5節では考察として、話題におけるスタイル切り換えを分析する。

2. 話題の区分方法

本章では話題選択スタイルの言語間・場面間切り換えを見るため、まず談話全体を話題で区分する必要がある。その際、日本語と韓国語という異なる言語において同時に適用できる基準で区分しなければならない。本節ではまず、先行研究で話題の区分をどのように行ってきたかを概観し、それを参考に、本章における話題の区分の仕方を提示する。

話題の区分はこれまで複数の先行研究によって試されてきているが、客観的に話題を区分することは難しい。それは、話題は連続的なものであり、どの時点で話題と話題を区切るかはデータを見る研究者の主観が大きく関与するためである。この問題に対処するべく、鈴木（1995）は話題を区切る際に内容区分調査を行った。内容区分調査は会話に参加していない複数の被調査者にデータを見せ、内容の区分をさせるという調査である。しかし、このような方法は被調査者間で「話題」の概念が異なるがゆえに区切り方にばらつきが生じることが予想され、「研究の整合性を危うくする恐れ（筒井 2012:31）」がある上に、「区切れの位置をどこまで細かく認めるかが人によって異なり、限界なくまとまりがわけられていく可能性がある（花村 2014）」。

筒井（2012）は内容区分調査の代わりに、内容面での単位である「話題」と形式面の単位である「連鎖組織」を利用し、2段階で区切る方法を用いている。まず、一定基準によって内容をなるべく客観的に区分し、発話一つ一つの連鎖組織を分析する方法である。筒井（2012）は話題区分に基準を設けた点で鈴木（1995）より客観的であると言えるが、この方法でも研究者の主観を完全に排除することはできない。

一方、花村（2014）では客観的に話題を区切るため、永野（1959）の「文章論における接続の類型」を援用し、実質的発話間の「直接のつながり」を見る方法を提案している。

永野（1959）は文と文の連接関係を9つの類型¹⁵に分類しているが、花村（2014）はこのうち「転換型」「飛石型」¹⁶を話題の転換箇所として認定した。花村（2014）の例を以下に引用する（下線は花村（2014）で実質的発話を示すために付されているもので、例文番号と矢印は筆者が付したものである）。

(3) 50代女性Jと40代女性Kによる雑談会話（2011年7月16日）

1K : あたし一回な、宝くじ落としたことがあってー (んー)。

▼補足型

2K : なんか初日に買いにいってー (んー)。

▼累加型

3K : ほんだら初日ってテレビカメラがおるねやんかー (うんうん)。

▼展開型

4K : ほんだらすごい緊張、いやつ、映されとったら恥ずかしいなと思って緊張するやん
かー。

▼展開型

5K : ほんで買ーてー‘こーてー’ (うん)。

▼展開型

6K : だからそのテレビカメラが気になって、あたし、落としたん気一つへんかって
(んー)。

▼展開型

7K : で、警備員さんに“落ちてますよ”って 〈言われて〉 (〈笑い〉)。

▼補足型

8K : 今買ーた‘こーた’宝くじ手ーから全部落としてー (あー)。

▼補足型

9K : なんですか知らんけど (あー)。

▼同格型

10K : なぜか落ちてて (んー)。

▼展開型

11K : 〈ほんで“いやーすいません”言うて〉 拾って (んー)、なんか、めっちゃ、これテレビ
に映されとったらどうしようって。

▼補足型

12K : まー映されてないとは思うけど。

▼補足型

¹⁵ 展開型、反対型、累加型、同格型、補足型、対比型、転換型、文をへだてて続く関係、二つ以上の文の集まりが一つの文と直接つながる関係である。また、花村（2014）は「文をへだてて続く関係」を「飛石型」としている。

¹⁶ 「転換型」は「話題を転ずる関係」（永野 1959）で、「飛石型」は直前の発話とは転換型の関係にあるが、より先行する発話とは対比型、展開型などのつながりが見出されるものである（花村 2014）。

13 J : うーん、大阪って、けっこうなーあ、そういうのって多いしなーあ (うーん)。

▼転換型

→ 14 J : ぜんぜん話変わるけど、あたしちっちゃいときに、お風呂屋さん行って、お風呂屋さ
んに着いたとたんに (んー), ぱっと見たら洗面器しかなくて (んー)。

▼補足型

15 J : ずっと見たら、下着から (えー), 下着、下、服 《少し間》着替える服をぼんぼんぼ
んって置い, あの,,

▼補足型 (補足要求)

16K : それ何歳、何歳のとき。

▼補足型 (応答)

17 J : 小学校やと思う。

▼同格型

18 J : 小学校。

▼補足型 (補足要求)

19K : え、あんた一人で行ったことあんの？。

▼同格型

20K : 小学校のとき、お風呂一人で行ったこと。

▼補足型 (応答)

21 J : うん、行ったことあるで。

▼飛石型 (15 J ▼対比型)

→ 22K : えーでも、でも自分なー、あんたなー、折りたたみの傘のなー、柄一だけなー、持つ
てなー、下落してきたことあるやろ？。

▼補足型 (応答)

23 J : あー、〈それもあるよ〉。

(後略)

花村 (2014) はこのように前後の発話の関係をラベリングし、14 J のような「転換型」と 22K のような「飛石型」を談話の転換箇所としている。この方法は、話題転換の基準だけでなく話題が転換されない基準も同様に示すことで、より客観的な話題区分ができると思われる。また、この方法では直前の発話と直接的なつながりがない発話を話題の転換と認めているため、話題を開始することは直前の発話と関係のない発話をすることになる。したがって、相手への配慮に関わる部分となり、対人関係の観点から話題の開始を扱うことができる。

本稿では、①話題の区分に当たっての問題を考慮し、②話題を対人関係の側面から分析するという 2 つの理由から、花村 (2014) の方法を援用することにする。(4)に本稿のデータにおける話題区分の例を挙げる。

(4)【対日下 1】話題の区切り 《ヴァーチャル背景とコロナ状況の生活→研究》

- 0598 JY01 もういやや=。
 0599 JY01 =病むわ。
 0600 JY01 もうなにも一<####ない>{<}<.>。
 0601 K01 <お疲れはん>{>}。
 0602 JY01 アンハッピー、アンハッピー、ナウって<感じ>{<}<.>。
 0603 K01 <<笑い>>{>}、<アンハッピーナウ>{<}<笑いながら>。
 0604 JY01 <<笑い>>{>}。
 0605 JY01 そつか=。
 0606 JY01 =でもえこんなんでいいんかなー。
 0607 JY01 こんな感じでいいん?。
 0608 JY01 しゃべってんのって。
 0609 K01 うん、たぶん。
 0610 K01 普通に<しゃべって>{<}【【。
 0611 JY01 】】<これで一>{>}、これで研究一とかできるんかな。

(4)の 0605 までは JY01 がコロナ状況に対して愚痴を言う部分であり、0606 からは JY01 が「このような会話を研究のデータとして使えるのか」と話す部分である。その際、前半の実質的発話 0602 と後半の実質的発話 0606 は転換型の関係にある。この場合、0606 から新しい話題が始まると認定した。このような区分の仕方は細かい話題は区分できないが、談話の内容が以前の内容から一変するため、相手にとって話の流れが掴みづらくなる可能性がある。本章ではこのような箇所で、話題の選択や、新しい話題の開始の頻度・方法をどのように切り換えているかを分析する。

また、花村（2014）では区分した話題を「新出」「挿入」「再開」の 3 つに分けている。「新出」は当該話題が出る前に同じ話題が存在しないもの、「挿入」は同じ話題の間に挟まるもの、「再開」は前の話題が再び出るものである。図で表すと、図 1 の通りになる。



図 1 「挿入」話題と「再開」話題

また、本稿では話題の転換が明らかな場合にのみ区切りをつけているため、一つの話題として結ばれても、その中で流れによって話題が徐々に変わる場合がある。そのような例では、次に「新出」話題が来ることもあれば、元の話題に戻ることもある。後者の場合、「新出」話題の次に「挿入」話題を挟まず「再開」話題が連続して現れることになる。図 2 のように表せる。(5)に例を挙げて説明する。



図2 「挿入」話題なしに「再開」話題が続く場合

(5)【対日上1】(再開)K01の業務➡(再開)K01の業務

- 0131 K01 そうだから海外の、調査会社とか一、今す、結構サーベイも取らなきやいけなくてー。
- 0132 JO01 あーサーベイは絶対現地のを使った方がいいですよ。
- 0133 K01 <んでー>{<}【【。
- 0134 JO01 】】<本当に>{>}、に。
- 0135 JO01 <そうですよ>{<}。
- 0136 K01 <結構>{>}い、海外の有名なサーベイ会社さんあるんじゃないですか,やっぱり。
- 0137 JO01 うん。
- 0138 K01 でー全部調べてー、<んでー>{<}【【。
- 0139 JO01 】】<たっかいけど>{>}。
- 0140 K01 そうそうめーーちゃ思った。
-
- 0141 K01 =<でー>{<}。
- 0142 JO01 <<笑い>>{>}。
- 0143 K01 ちゃ、<チャット>{<}。
- 0144 JO01 <そう>{>}。
- 0145 K01 チャットとー、メールと、あとマズームとかでー、<ま>{<}。
- 0146 JO01 <うーん>{>}。
- 0147 K01 英語で普通にやり取りしながら聞いたんですよ。
- 0148 K01 "<見積>{<}。
- 0149 JO01 <はい>{>}。
- 0150 K01 出してー"って。

(5)は話題 A (K01 の業務) から「挿入」話題を挟まず話題 A が再開される例である。

0131 で始まる話題は「海外でサーベイを取る」ことについて話しているが、JO01 が 0139 で K01 の発話に対して「海外のサーベイ会社は高い」と発話することにより話題がやや逸れてしまっている。しかし、0139 の発話は直前の K01 の発話 (0136) に対して転換型ではないため、ここで話題の区分はしない。0140 も直前の 0139 に対する転換型ではない。しかし、続く 0141=0143=0145=0147 は直前の 0140 と直接のつながりがなく、転換型にあるため 0141 で話題が開始されたと判断して区切る。その際、新しく開始される話題は「海外でサーベイを取る」業務の話の続きである。つまり、0141=0143=0145=0147 は 0136 に対して

飛石型になっている。したがって、0141 は「新出」話題ではなく「再開」話題と判断するが、話題と話題の間にもともと挟まれる「挿入」話題は区切られないため「新出話題 A」から「再出話題 A」という形になる。

以下では、この方法で区分した話題のスタイルが言語間・場面間においてどう切り換えられているかについて分析する。

3. 話題の内容の切り換え

話題の内容では、K02 と K03 が同じような切り換えをしているため、まずは K01 について述べたのち、K02 と K03 をまとめて述べる。

まず、表 1 に K01 の談話に見られた話題をすべて挙げる。濃い網掛けで示した最初の話題は分析対象に含まれない最初の 5 分から続いてきた話題であり、ここでも分析対象からは外す。薄い網掛けはインフォーマントが開始した話題であり、赤字は談話参加者同士の合同活動や共通に所属するグループに関する共通基盤話題である。

表 1 話題リスト (K01)

	【対日上 1】	【対日下 1】	【対韓上 1】	【対韓下 1】
	K01 の業務	コロナにかかった人	OTT サービス	携帯
	(挿入 1)K01 の会社のツール	大阪のコロナ状況と在宅勤務の環境	孫の手	GW
	(挿入 2)JO01 の会社のツール	(再開)在宅勤務の環境	本日の出会い	KY01 の居住地
	(再開)K01 の業務	マスク	(再開)本日の出会い	「地域 A」のコロナ状況
	(再開)K01 の業務	ZOOM の画面	K01 と KO01 の家の距離	韓国行きとチキン
	(再開)K01 の業務	コロナ禍の辛い点	研究	(再開)チキン
	(挿入)マーケティング会社のレベル	髪の毛	ZOOM の画面	ZOOM の画面
	(再開)K01 の業務	ZOOM の画面	お風呂	コロナの状況
	コロナの影響	ヴァーチャル背景とコロナ禍の辛い点	(再開)お風呂	日韓の行き来
	(再開)コロナの影響	(再開)コロナ禍の辛い点	GW の予定と旅行	旅行
	JO01 の友達	研究	(挿入)東南アジアの衛生	KY01 の大阪旅行
	ネット通販	K01 の近況	(再開)旅行	飛行機を逃したこと
話題	日々の食べ物	(挿入)ZOOM の画面	外食	(再開)飛行機を逃したこと
	(再開)日々の食べ物	(再開)K01 の近況	(再開)外食	(再開)旅行
	韓国映画	コロナと観光	コロナ禍と体重	在宅勤務
	映画評価サービスと最近の生活	(再開)コロナと観光	コロナ状況の生活	在宅勤務にかかる費用
	(再開)最近の生活	韓国での旅行	KO01 の会社	食事と自炊
	(再開)最近の生活と OTT サービス	(再開)韓国での旅行とコロナ禍の辛い点	外貨レートと金正恩	(再開)自炊
	(再開)OTT サービス	(再開)コロナ禍の辛い点	(再開)金正恩	退勤
		(挿入)コロナの死者	(再開)外貨レート	研究
		(再開)コロナ禍の辛い点	(挿入)キーボードの音	研究者
		(再開)コロナ禍の辛い点	(再開)金正恩	熊本
	会社で会話ができないこと		(挿入)北朝鮮の既得権	言語維持と学習
			(再開)金正恩	英語の勉強
延べ数	19	23	24	24

表 1 で赤字に表示された共通基盤話題を見ると、K01 は両言語ともにお互いに共通する話題はあまり持ち出していない。K01 は JO01・KO01 と業務で知り合ったため「仕事・業務」という共通基盤、JY01 とは K01 が関西地域に交換留学に来た際に知り合った日本人学生であったため「関西」という共通基盤がある。また、KY01 は地元（「地名 A」）の友達であり、「「地名 A」」が共通基盤となるが、いずれの場面においても共通基盤に関する話題は少なかった。(6)に K01 が【対日下】で共通基盤とは関係のない「韓国での旅行」の話題を持ち出す事例を挙げる。

(6)【対日下 1】(再開)コロナと観光→韓国での旅行

- 0829 JY01 そうやないつ、行っても隔離されるし帰<ってきても隔離>{<},,
0830 K01 <そ うそ うそ う>{>}<笑いながら>。
0831 JY01 されるし最悪やな。
0832 JY01 <####>{<}<笑いながら>。
0833 K01 <"1か月一>{>}、1か月一、失踪<ですよ">{<},,
0834 JY01 <うん>{>}。
0835 K01 ってゆって<笑いながら>。
0836 JY01 確かに。
0837 JY01 意味ないな,行っても。
0838 K01 そう。
0839 K01 でーなんかー、今年<も>{<},,
0840 JY01 <うん>{>}。
0841 K01 友達2人とー、<うち>{<},,
0842 JY01 <うん>{>}。
0843 K01 去年プサン行ってきたやん。
0844 JY01 うんうんうん<行ってたな>{<}。
0845 K01 <夏に>{>}。
0846 JY01 <おお>{<}。
0847 K01 <でめっちや>{>}楽しくてさ。
0848 JY01 うんうん。
0849 K01 でー、今年ジェジュドとかー,,
0850 JY01 いい<なー>{<}。
0851 K01 <まー>{>}、"ジョンジュ行って<みる?">{<},,
0852 JY01 <うん>{>}。
0853 K01 ってなってん,去年。

以上のように、K01 はいずれの場面においても共通基盤とは関係のない話題を持ち出し、話題内容における言語間・場面間切り換えは見られない。

一方、K02 と K03 は日本語談話では共通基盤話題を数多く持ち出し、反対に韓国語談話では共通基盤とは関係のない話題を選んでいた。表 2 と表 3 にそれぞれ K02、K03 の談話に見られた話題をまとめた。

表2 話題リスト (K02)

	【対日上2】	【対日下2】	【対韓上2】	【対韓下2】
家具	新しい眼鏡が早く欲しいこと		飛行機代	外に出られないこと
ソファーをもらったときのこと		(挿入1)眼鏡を付けるとき	K02の韓国語	新しい建物と運動
K02の仕事		(挿入2)眼鏡を買ったとき	K02の職場のコロナの影響と休み	(再開)運動
(再開)K02の仕事	(再開)眼鏡を買ったとき		(再開)休み	KY02の弟
(再開)K02の仕事	(再開)新しい眼鏡が早く欲しいこと		外に出られないこと	綿棒
普段話す言語と教会の言語		(挿入)眼鏡が届いた後	コロナへの心配	ヘアスタイル
(挿入)教会の先生の言語	(再開)新しい眼鏡が早く欲しいこと		携帯のケース	(再開)ヘアスタイル
(再開)教会の言語	ブルーライトカット眼鏡の流行り、お客様の減少、「人名A」の話、後輩にため口で話されたこと		新しい家電	(再開)ヘアスタイル
(再開)教会の言語		(挿入)ため口の基準	(再開)新しい家電	(再開)ヘアスタイル
教会のライブ礼拝	(再開)後輩にため口で話されたこと		(挿入)携帯の比較	食事と運転免許
グループチャットから抜けたこと	「人名B」の行動と後輩にため口で話されたこと		(再開)新しい家電	(再開)運転免許
教会の運営		(挿入)画面越しの第3者	(再開)新しい家電	リップスティックの形
(挿入)青年部の会長	(再開)後輩にため口で話されたこと		(再開)新しい家電	リップスティックのブランド
(再開)教会の運営	(再開)「人名A」の話		(再開)新しい家電	旅行
教会の会議と参加率の低さ	(再開)「人名A」の話		ボーナス	飛行機代
(挿入)「筆写」	(再開)お客様の減少		お金の使用	パスポートの写真
(再開)参加率の低さ	(再開)「人名A」の話		給付金	K02の写真
(再開)教会の運営	(再開)「人名A」の話		アニメ	雨
(再開)教会の運営	コロナと職場の状況		パスポートの更新	昨日の出来事
安否確認	お客様のありがたさ		(再開)パスポートの更新と新しいパスポート	
(挿入)「人名B」			(再開)新しいパスポート	
(再開)安否確認			(再開)パスポートの更新	
引越し祝い			(再開)パスポートの更新	
(挿入)JO02の家のテーブル			パスポートの色の意味	
(再開)引越し祝い			(再開)パスポートの色の意味	
ZOOMの制限時間			友達の多さ	
			結婚式参加	
			(再開)結婚式参加	
			日韓の飛行機代	
			(挿入)片道と往復	
			(再開)日韓の飛行機代	
			お互いの年と体重	
			チキンと食事のメンバー	
			(再開)食事のメンバー	
			(再開)チキン	
			ウーバーイーツ	
			焼肉	
			肉丼	
延べ数	26	20	38	19

K02 が開始した話題を見ると、日本語談話で共通基盤に基づいた話題を選ぶ傾向があることが明らかである。【対日上】の JO01 は同じ教会の友人、【対日下】の JY01 は同じ会社の後輩であり、【対日上】では教会に関する話題が、【対日下】では会社の話題が選ばれていることがわかる。(7)と(8)にそれぞれ【対日上】と【対日下】事例を挙げる。

(7)【対日上 2】(再開)教会の言語→教会のライブ礼拝

0348 K02 やっぱ、みんな韓国一語が??、楽やからー,,
0349 JO02 楽やもんね↑。
0350 K02 うん、いつの間にか韓国語で、<やって>{<},,
0351 JO02 <そう>{>}。
0352 K02 たりとかー、うーん、なんかうん、ませ、なんか混せて、使ったりとか。
0353 JO02 そうそうそうそうそう。
0354 K02 うん、うんうんうん。
0355 K02 で、その。
0356 K02 オンニって、青年部の一、<ライブ礼拝>{<},,
0357 JO02 <はいはい>{>}。
0358 K02 って、見たことがあります?。
0359 JO02 ない。
0360 K02 ない。
0361 K02 わかりました、<<笑い>>{<},
0362 JO02 <<笑い>>{>}、あれー、ライブやろー?
0363 K02 ライブライブ。
0364 K02 よー、4 時半??。

(7)の前半と後半は両方とも K02 が開始した、教会に関する話題である。前半は教会で使われる言語、後半は教会のライブ礼拝に関する話題である。

(8)【対日下 2】(再開)「人名 A」の話→(再開)「人名 A」の話

0733 K02 ま、もちろんー、やっぱ、ヘルプヤけどー、そうゆう<教えて>{<},,
0734 JY02 <うん>{>}。
0735 K02 くれるのはー??、<まー>{<},,
0736 JY02 <うん>{>}。
0737 K02 絶対必要??、やし<こっちもー>{<},,
0738 JY02 <うん、 うん>{>}。
0739 K02 まー、まー、ヘルプやねんけどなんか邪魔<なるな>{<},,
0740 JY02 <うん>{>}。
0741 K02 なら、なるといけないからー,,

- 0742 JY02 うん。
- 0743 K02 まー、ま、えと教えてもらうけどー,,
- 0744 JY02 うーん。
- 0745 K02 "ちょっと態度違いますよー"って。
- 0746 JY02 うーん、うん、うん、<本当や>{<}>。
- 0747 K02 <##>{>}。
-
- 0748 K02 そそそう、で、<なんか>{<},,
- 0749 JY02 <うん>{>}。
- 0750 K02 その「人名 A」ちゃんたちがー,,
- 0751 JY02 うん。
- 0752 K02 なんかこう、移る前に??,,
- 0753 JY02 うんうん。
- 0754 K02 なんか、えと、たぶーん、統括に??,,
- 0755 JY02 うん、<あー、はいはいはい>{<}>。
- 0756 K02 <####たぶん>{>}ゆってん。

(8)の「人名 A」は K02 および JY02 と同じ会社で働く第 3 者であり、K02 は【対日下】においても JY02 と共に通するグループ（会社）についての話題を持ち出す。

一方、KO02 と KY02 も教会というグループに共通に属しているが、韓国語談話では共通基盤に関する話題はあまり見られなかった。このように、K02 は日本語談話では共通基盤に関する話題を選択するが、韓国語談話では共通基盤に関係のない話題を選び、話題の内容において言語間スタイル切り換えを行っていると言える。

次に、K03 の話題を表 3 に挙げる。

表3 話題リスト (K03)

	【対日上3】	【対日下3】	【対韓上3】	【対韓下3】
	ZOOMの画面	ゲームの内容と実況	論文	日本の家
	ドラマ	(再開)実況	卒業作品	KY03の犬の名前
	お化け屋敷	(再開)実況	教会の状況	犬の元の飼い主
	(再開)お化け屋敷	(再開)ゲームの内容	KO03の新しい教会	動物アレルギー
	(再開)お化け屋敷	ゲームの考察と特典映像	家の片付け	動物とのふれあい
	脱出ゲーム	(再開)特典映像	席を外す	友達の犬
	脱出ゲームの日韓の違い	(再開)特典映像	(再開)家の片付け	動物を飼うこと
	脱出ゲームの情報検索	ゲームを途中であきらめ そうなこと	洋服	KY03の犬
	(再開)脱出ゲームの情報 検索	KO3が見た実況	荷物の多さ	旅行の予定と最近の天気
	(再開)脱出ゲームの情報 検索	(再開)KO3が見た実況	古着屋	凍ったカップ麺
	(再開)脱出ゲームの情報 検索	話題探し	食べ物	(再開)最近の天気
	脱出ゲームに誘う人数	これからの予定と課題	スン長 ¹⁷ の経験	夏の韓国行き
	(再開)脱出ゲームの情報 検索	(再開)課題	新しいスン員	渓谷
	(再開)脱出ゲームの情報 検索	話題探し	(再開)KO03の新しい教会	(再開)渓谷
話題	(挿入1)脱出ゲーム に誘う人	「人名 A」	対面とオンラインの会話	「人名 A」
	(挿入2)送別会	プロジェクト	(再開)KO03の新しい教会	日本での就職と運転免許
	(挿入3)スケジュール	動画の人員	(再開)KO03の新しい教会	日本の運転免許にかかる費用
	(再開)脱出ゲームの情報 検索	(再開)プロジェクト	グループへの誘い	日本での運転文化
	(挿入)韓国の脱出 ゲーム	(挿入)「人名 H」	(再開)グループへの誘い と就活	お菓子
	(再開)脱出ゲームの情報 検索	(再開)プロジェクト	(挿入)マイナビ	飲み物
	(挿入)「人名 F」	スランプ	(再開)就活	むせること
	(再開)脱出ゲームの情報 検索		受かった会社	運動
	(再開)脱出ゲームの情報 検索		以前の会社	KY03の犬
	(挿入)韓国のホ ラー脱出ゲーム		ヘッドハンター	教会に行く時間
	(再開)脱出ゲームの情報 検索		韓国内の日本企業	賛美チーム
	(再開)送別会			(再開)賛美チーム
	「人名 D」			(挿入)第3者
	(再開)スケジュール調整			(再開)賛美チーム
				(再開)賛美チーム
				髪の毛
				引越し祝いのメニュー
				引越し祝いのプレゼント
				休みたい気分
				家の片付け
延べ数	28	21	25	34

¹⁷ 教会内の小グループを「スン」と言い、その小グループのリーダーのことを「スン長」と言う。

K03 も K02 と同様、日本語談話において共通基盤に関する話題をより多く持ち出しており、韓国語談話ではあまり見られない。【対日上】では脱出ゲームに行くための計画が主な話題であり、その脱出ゲームは K03 と JO03 を含め、同じ教会のメンバーが参加する予定のものである。つまり、教会という共通基盤に関する話題が多数取り上げられる。また、【対日下】では同じ学部の同級生である JY03 と大学の課題や、大学のプロジェクトなどについての話題が多数見られた。(9)と(10)にそれぞれの事例を挙げる。

(9)【対日上 3】(再開)脱出ゲームの情報検索➡(挿入 1)脱出ゲームに誘う人

0439	K03	え一面白そうやな。
0440	K03	『マジックショーからの脱出』。
0441	JO03	お、たぶん 15 日からこれに変わる、ね,1 月は。
0442	K03	あー、あ、そっか。
0443	K03	1 個ずつ変わるんや。
0444	K03	/沈黙 /あー、楽しそ。
0445	JO03	/沈黙 /へー。
0446	K03	やりたいですね。
0447	K03	え、6 人やつ<たらー>{<},,
0448	JO03	<うん>{>}。
0449	K03	だ、<だれ>{<},,
0450	JO03	<うん>{>}。
0451	K03	だれがいいですかね=。
0452	JO03	=<誰が来るん<笑いながら><笑い>>{<}。
0453	K03	<私と「###」—>{>}.,
0454	JO03	うん。
0455	K03	「人名 B」さん誘ってみて,,
0456	JO03	「人名 C」ちゃん?。
0457	JO03	うんうん。
0458	K03	うん、「人名 C」ちゃん、「人名 B」さん。
0459	JO03	あ「人名 B」ちゃん?、「人名 B」ちゃん?。

(9)は前半も後半も K03 が開始した共通基盤話題である。

(10)【対日下 3】話題探し➡「人名 A」

0638	JY03	/沈黙 /なんか話題、話題、なんかないかなー。
0639	K03	あるんかなー。
0640	K03	そいや「人名 A の間違い」、「人名 A」君??、連絡着いたん?。
0641	JY03	ついてなーい。

- 0642 K03 <笑い>。
- 0643 JY03 やあのー、たぶんやけどー、あれ<も>{<},,
- 0644 K03 <はい>{>}。
- 0645 JY03 来てない=。
- 0646 JY03 =あのー、既読すらついてない気ーする。
- 0647 K03 [息を吸う音]、そうなん。

特に(10)を見ると、話題がなくて困っている際に選んだものが同じ学部の A についての話題であるという点で、先行するコンテクストがない状況でお互いに共通する話題をまず選択することがわかる。【対日下 3】で「話題探し」は 2 回出現するが、どちらも K03 が新しい話題を切り出しており、共通基盤に基づくものであった。

4. 話題の開始の切り換え

本節では話題の開始の切り換えについて述べる。上述の通り、本稿において話題を開始するということは、直前の発話内容から離れるということである。話題開始時の唐突な発話は直前の相手の発話やこれまでのやり取りを無視する行為であるとも捉えられるため、相手への配慮に関わる部分である。したがって、談話の参加者は話題開始の回数や開始時のストラテジー使用を言語間・場面間で切り換え、談話相手ごとに対処すると思われる。本節では韓国人日本語使用者が各場面でその配慮の仕方をどのように切り換えているかを分析する。具体的には、4.1 で話題開始回数の切り換えについて、4.2 で緩衝表現使用の切り換えについて述べる。

4.1. 話題開始回数の切り換え

表 4 はインフォーマントが開始した話題についてまとめたものである。1 段目はインフォーマントが開始した話題数、2 段目は全体話題のうちインフォーマントが開始した話題の割合、3 段目はインフォーマントが開始した話題のうちの新出話題、つまり、再開話題を除いた話題が占める割合である。また、場面間で切り換えが見られると判断されるもので、より数値が高い場面を網掛け、言語間で切り換えが見られると判断されたもので、より数値が高い方を**太字**で示している。

表4 インフォーマント話題開始

		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	開始数	9	2	6	10
	開始割合(%) [*]	50	9.1	26.1	43.5
	新出話題割合(%) ^{**}	0	100	50	70
K02	開始数	21	13	26	10
	開始割合(%) [*]	84	68.4	70.3	55.6
	新出話題割合(%) ^{**}	47.6	46.2	65.4	80
K03	開始数	20	9	9	18
	開始割合(%) [*]	74.1	45	37.5	54.5
	新出話題割合(%) ^{**}	45	66.7	100	88.9

*インフォーマント開始話題数／(全体話題数 - 1) × 100

**インフォーマントによる新出話題数／インフォーマント開始話題数 × 100

開始数がそもそも少ない K01 を除き、表 4 から K02・K03 の新出話題割合を見ると、韓国語談話における新出話題の割合が日本語談話より大きい。日本語談話では相手の発話と関係のない発話をする際にも（つまり、新しい話題を切り出す際にも）、これまで出た話題を再び持ってくる傾向がある。一方で、韓国語談話では場面を問わず新出話題を持ち出すことが多い。

詳細を見ると、各インフォーマントごとに切り換えの様相が異なる。以下にインフォーマント別に切り換えの結果をまとめる。

(a) K01

(a-1) 日本語談話

表 4 の開始数や開始割合を見ると、【対日上】では話題の開始がより多いが、新出話題割合は 0 であり、開始話題はすべて再開話題である。この再開話題は最初に JO01 の質問に起因したものである場合が多かった。つまり、K01 は談話協力者が振った話題に沿って話し、当の話題がいったん途切れても自ら再開することで、一つの話題を長々と話しているわけである。(11)はその例である。

(11)【対日上 1】最近の生活→(再開)最近の生活

- 0556 JO01 /沈黙 /逆になに見てるんですか?。
- 0557 JO01 なにしています?今。
- 0558 K01 え、平日は仕事してー,,
- 0559 JO01 うん。
- 0560 K01 朝起きてすぐ、仕事、す一始まるんです=。
- 0561 K01 =9 時半に起きて,,
- 0562 JO01 うん。

- 0563 K01 まー、顔洗って 9 時 50 分ぐらいに<"始めまーす"って話して>{<}。
(中略)
- 0602 K01 でーそこら辺 1 時間ーぐらい歩いて、で家帰ってあつ森ちょっとやって、であ
とまー音楽聞いたりー、YouTube で最近はまってるものあって。
- 0603 JO01 なんですか?。
- 0604 K01 あの 4、4K でー、<ひたす>{<}【【。
- 0605 JO01 】】<4K>{>}?。
- 0606 K01 ひたすらー、ソウルの一、街を歩くビデオがあるんですよ。
- 0607 JO01 /沈黙 /やばい=。
- 0608 JO01 =もう末期じゃないですか。
- 0609 JO01 /沈黙 /K01 さん。
- 0610 K01 え?、<笑い>。
- 0611 JO01 あのー、日常に飢えてる感がやばい<笑いながら>。
- 0612 K01 <笑い>、違います<笑いながら>。
(中略)
-
- 0630 K01 でー、最近だとソウルの一、街をひたすら歩く 4K の、動画シリーズがあつ
て,,
- 0631 JO01 /沈黙 /うん。
- 0632 K01 で昨日もカンナム駅とか撮ってる人がいてー,,
- 0633 JO01 /沈黙 /ほー。
- 0634 K01 でそれ見ながら"あー、なんか実家、帰った気がする"みたいなこう、"最近の
ソウルこんな感じかー"みたいな。

JO01 は 0556・0557 で K01 に質問を投げかけ、K01 は 0558 から JO01 が振った
話題に沿って話している。その過程で話題が若干逸れることもあるが (0607-
0612)、K01 は 0630 で再び 0556・0557 の JO01 の質問に答える形で話題を再開す
る。(12)も同じような例である。

(12)【対日上 1】コロナの影響➡(再開)コロナの影響

- 0297 JO01 <私>{>}6 月アメリカ行けないのかなー。
- 0298 K01 やそれは無理でしょう、<笑い>。
- 0299 JO01 /沈黙 /本当にー?。
- 0300 JO01 「人名 A」君見に行きたかったのにー。
- 0301 K01 やそれは無理だと思います,<さすがに>{<}<笑いながら>。
- 0302 JO01 <<笑い>>{>}。
- 0303 K01 6 月は無理だわ<笑いながら>。
(中略)

- 0337 JO01 そう漫画読むにしても買いに行かないからウェブ漫画とかじゃないですか,##とか。
- 0338 K01 うーん、まーそうですね。
- 0339 JO01 だしー、ま、"暇だなー"と思ってちょっと友達ー、"スカイプとか<#####>{<},,
- 0340 K01 <うーん>{>}。
- 0341 JO01 してないかなー"と思ってー、<なんか>{<},,
- 0342 K01 <うん>{>}。
- 0343 JO01 突撃してみたりとかー。
- 0344 K01 うん。
- 0345 JO01 てしてると、もう本当に、半径 2 メートルぐらいの世界ですよ,私は。
- 0346 JO01 <日常が>{<}。
- 0347 K01 <<笑い>>{>}、まー、18、18 歩歩いてますしね、<<笑い>>{<}。
- 0348 JO01 <そう>{>}。
- 0349 JO01 そうなんですよ。
-
- 0350 K01 やー、たーぶんこーとしは無理じゃないかなー。
- 0351 JO01 <ねー>{<}。
- 0352 K01 <私だって>{>}年末年始韓国帰れないかもって思ってます,もう今。

0297 は K01 に対する直接的な質問ではないが、K01 は 0298 を受け、0298 で JO01 の疑問に答える形で JO01 が振った話題に乗っている。その後、話題は徐々に変わっていき、最初の「6 月にアメリカに行けないのか」という疑問からは離れているが、K01 は 0350 で再び最初の疑問に答えるような発話で話題をもとに戻している。このような例はほかにも多数見られ、K01 は【対日上】で JO01 の質問や疑問をきっかけに、その質問・疑問に長く答えている。つまり、K01 は開始割合は多いが、自ら全く新しく話題を振ることはせず、JO01 が選択した話題に従っていると言える。表4で新出話題割合が 0 であることからも、K01 が JO01 の開始した話題に沿って話していることがわかる。

一方の【対日下】では開始話題はすべて新しい話題であるが、そもそも話題開始を 2 回しかしていない。K01 が話題の開始や継続を控えていることは(13)のような例からも読み取れる。

(13)【対日下 1】髪の毛→ZOOM の画面

- 0410 K01 でー、<横が>{<},,
- 0411 JY01 <うん>{>}。
- 0412 K01 これぐらいでー、<うし>{<}【【。
- 0413 JY01 】】<あでも>{>}ショートやな。
- 0414 JY01 <え>{<}?。

- 0415 K01 <後ろ>{>}が、これ、これぐらい??。
- 0416 JY01 おーお、いいやん。
- 0417 JY01 いいやんいいやん。
- 0418 JY01 いいな。
- 0419 K01 そう<でー>{<}【【。
- 0420 JY01 】】<やー>{>}、めっちゃ、めっちゃめっちゃやすっぴんや<から>{<},,
- 0421 K01 <<笑い>>{>}。
- 0422 JY01 ちょっと顔ドアップにしたらちょっとえぐいことなる。
- 0423 K01 や<うちも>{<},,
- 0424 JY01 <映像が>{>}。
- 0425 K01 すっぴんやから<笑いながら>。

(13)の前半はK01の髪の毛の形について話している部分である。K01は0419で発話を続けようとしたが、JY01の発話(0420)とオーバーラップしてしまう。K01はここですぐ話題を継続することも、のちに髪の毛の話題を再開することもしておらず、【対日下】で話題の開始を控えている様子がうかがえる。

(a-2) 韓国語談話

【対韓上】では話題の開始割合、新出話題割合がどちらも低かった。K01は【対韓上】で自ら話題を開始することはあまりせず、K01に話題の選択を委ねることが多い。また、開始する話題も全く新しいものではなく、既存の話題を再開する。

一方、【対韓下】では開始割合、新出話題割合がどちらも高く、K01は新しい話題を開始することが多い。

(b) K02

(b-1) 日本語談話

表4のK02を見ると、【対日上】では開始割合が高く、【対日下】ではそれよりも比較的に低かった。また、新出話題の割合においては場面間で大きな差はなく、切り換えは見られない。両場面とも韓国語談話に比べると新出話題よりは再開話題を選んでいると言える。その際、K01のような談話協力者の質問・疑問に応答するような形での再開話題は多くなかった。日本語談話では再開話題が多いことから、両場面とも話題を維持しようとする傾向は強いと思われるが、開始割合の差から、特に【対日上】では談話全般でK02が話題における主導権を握って話題を多く開始する一方、【対日下】では談話協力者にも談話の流れに関わる機会(話題開始機会)を与えていると言える。

(b-2) 韓国語談話

日本語談話と同様、【対韓上】では開始割合が高く、【対韓下】では開始割合が比較的に低い。また、場面に関わらず日本語談話より新出話題の割合が高

かった。K02 は韓国語談話において、再開話題を何回も出しながら一つの話題に戻るより、一つの話題が終わると全く新しい話題に移っていく傾向があることがわかる。また、その新しい話題を開始するのは【対韓上】では比較的に K02 である場合が多く、【対韓下】では談話協力者の選択に従う傾向が見られる。

(c) K03

(c-1) 日本語談話

場面に関わらず韓国語談話に比べて新出話題割合が低かった。全般的に再開話題を用い、一つの話題を保とうとする傾向が見られる。また、その傾向は【対日上】でより強い。【対日上】では開始割合も高く、主導的に談話の流れに貢献していると言える。

一方、【対日下】では新出話題割合がやや高く、一つの話題を保つ傾向がやや薄れている。また、開始割合が比較的に低いことから、話題の開始を談話協力者に委ねていることがわかる。

(c-2) 韓国語談話

両場面とも新出話題の割合が日本語談話に比べて高いことから、一つの話題が終了すると次の話題に移っていく傾向が強いと言える。【対韓上】では新出話題を持ち出しながらも、話題の開始割合は低いため、談話の流れに積極的には関わっていない。

一方、【対韓下】では相対的に開始割合が高く、K03 は【対韓下】でより談話の流れに積極的に関与しようとしている。

4.2. 緩衝表現使用の切り換え

4.1 では話題の開始数について述べたが、開始の際に緩衝表現が用いられるか否かも切り換えの対象となっている。緩衝表現はたとえば、「え」「なんか」「その」などや接続詞のようなものである。鄭榮美 (2009) は日韓の談話導入ストラテジーを分析し、両言語とも談話標識¹⁸が頻繁に用いられるとしており、本稿のデータからも両言語において話題開始の際にフィラーや接続詞が見られた。(14)にフィラー、(15)に接続詞の例を挙げる。

(14)【対日下 1】話題開始の際のフィラー

- 0001 JY01 そう"やばくない?"って話になってー、<で>{<},,
0002 K01 <うーん>{>}笑いながら。
0003 JY01 そつからうちの会社も、なんかそのテレワークになったってゆう…。
0004 K01 おおおー、あー。
0005 JY01 そつから。
0006 K01 なるほどな。

¹⁸ 鄭榮美 (2009) は談話標識を「会話の構成や展開、内容などを示す手がかりとなるもの」、「接続表現を含む」と定義している。

- 0007 JY01 もうそっからなんかこう一、全社に回って,,
 0008 K01 <笑い>。
 0009 JY01 "やばい、大阪支店の、あのおじいちゃんが、かかった"みたいになってー,,
 0010 K01 <笑い>、<やべー>{<}<笑いながら>。
 0011 JY01 <なんか>{>}、ちょっと、"全国的にやばくなつた"ってゆう話。
 0012 K01 やべー、それ<笑いながら>。
 0013 JY01 やばない?<笑いながら>。
 0014 JY01 でなんか,,
 0015 K01 やー,,
 0016 JY01 もう。
 0017 K01 怖いなー。
 0018 JY01 怖いよ=。
 0019 JY01 =どこで現れるかわからんからな,コロナ。
 → 0020 K01 え、大阪ってさー,,
 0021 JY01 うん。
 0022 K01 今どんな感じなん?。
 0023 JY01 大阪?。
 0024 K01 <うん>{<}。
 0025 JY01 <え>{>}コロナ?。

K01 は直前と異なる話題を開始する際に、「え」と発話している。林始恩（2020）では初対面の同性同士の雑談をデータとして「え」を分類し、その機能を①内容確認・情報要求、②話題導入、③情報に対する反応、④質問に対する応答の4つに分類した。(14)の「え」は①③④ではなく、②話題導入の機能を担っているものであると判断できる。また、山根（2002:220）では「テクスト構成に関わる機能」を持つフィラーは「談話構造の変わり目や、発話と発話、あるいは発話節の境界に現れ」、「フィラーは境界を示す標識になっている」と述べている。フィラーが話題の境界のみに使用されるわけではないが、話題の冒頭に現れるフィラーは、そこに何らかの境界があることを談話相手に示し、展開をある程度予測できるようにすることで話題開始の唐突さを緩衝するものであると考えられる。

次の(15)は接続詞が話題の開始に用いられる例である。

(15)【対日上 1】話題開始の際の接続詞

- 0623 K01 そそ、YouTube で普通に夜景とか一、ライブカメラとかあるんじゃないですか。
 0624 JO01 はいはいはい。
 0625 K01 ああゆうの見てたんですよ,普通にコロナの前も<笑いながら>。
 0626 JO01 そなん=。

- 0627 JO01 =なんか日常が恋しすぎてー、<<笑い>、バーチャルの>{<},,,
- 0628 K01 <違う違う違う違う>{>}<笑いながら>。
- 0629 JO01 世界に行っちゃったんじゃないですね<笑いながら>。
- 0630 K01 でー、最近だとソウルの一、街をひたすら歩く 4K の、動画シリーズがあつて,,
- 0631 JO01 /沈黙 /うん。
- 0632 K01 で昨日もカンナム駅とか撮ってる人がいてー,,
- 0633 JO01 /沈黙 /ほー。
- 0634 K01 でそれ見ながら"あー、なんか実家、帰った気がする"みたいなこう、"最近のソウルこんな感じかー"みたいな。

(15)ではフィラーではなく「(それ) で」という接続詞が話題開始発話の冒頭に使用された例である。接続詞も話題転換のマーカーとして用いられることがあり（金秀芝 2006 など）、(14)のフィラーと類似の機能を果たしていると思われる。つまり、接続詞もここから何か新しい展開が始まるなどを予測させ、話題開始が唐突すぎないように緩衝する機能を果たしている。本稿では話題開始時のフィラーと接続詞の機能に大きな差がないと判断し、どちらも区別せず「緩衝表現」とする。また、フィラー・接続詞の種類も問題としない。実際にデータではフィラー・接続詞間の切り換えは見られなかった。

表 5 に各談話で話題開始時に使用された緩衝表現の使用割合をまとめた。

表 5 緩衝表現使用

		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	開始数	9	2	6	10
	緩衝表現使用(%)*	100	100	16.7	40
K02	開始数	21	13	26	10
	緩衝表現使用(%)*	76.2	92.3	57.7	40
K03	開始数	20	9	9	18
	緩衝表現使用(%)*	55	44.4	66.7	61.1

*緩衝表現数／開始数×100

開始の際の緩衝表現は K01・K02 と K03 で結果が異なる。まず K01 と K02 の場合、日韓の差が目立つ。日本語談話では話題開始の際に緩衝表現の使用が多く見られるが、韓国語談話では比較的少なかった。最初に日本語談話の各場面の例を(16)と(17)にそれぞれ挙げる。

(16)【対日上 1】(挿入 1)K01 の会社のツール→(挿入 2)JO01 の会社のツール→(再開)K01 の業務

- 0006 JO01 /沈黙 /そうだ、ちょっと聞こうと思ったんだ。
- 0007 K01 うーん=。

- 0008 JO01 =なんか、"プロダクトによって管理の仕方違うのかな"、と思うんですけど,,
- 0009 K01 お。
- 0010 JO01 なんか、あれですか?、プロジェクトの進行に、なんか、トレルとかー、そう<コン>{>},,
- 0011 K01 <うん>{>}。
- 0012 JO01 フルとかー、そうゆうのって、ツール使ってます?。
- 0013 K01 あー、使ってないんです=。
- 0014 K01 =結構事業分野って違うんですけど,それも。
- 0015 JO01 <へー>{<}。
- 0016 K01 <でー>{>}、以前のところだとトレールは使ってたんですね,ギットハブと。
(中略)
-
- 0028 JO01 ま、もしかしたら今違う、ツール使ってるかもしれないんですけど、基本的にこうバー要件らしいーの<###>{<},,
- 0029 K01 <うーん>{>}。
- 0030 JO01 ドキュメント??、<は>{<},,
- 0031 K01 <うん>{>}。
- 0032 JO01 一応なんか、1か所においとくっ、て<ゆう>{<}。
- 0033 K01 <あー>{>}。
- 0034 K01 そう<ですねー>{<}。
- 0035 JO01 <###>{>}、やってますね。
-
- 0036 K01 <でー>コンフル、最初なんかエサとかもつくう、使おうかなと思ったんですけど有料だー,,
- 0037 JO01 うんうんうん、<そう>{<}。
- 0038 K01 <やっぱり>{>}なんか、いちいち全部まとめようてなつたらバタバタしてるか大変すぎてー,,
- 0039 JO01 うん。
- 0040 K01 <で>結局 PPT にその都度作って作って作ってみたいな感じだったんですね↑。

(16)の前半では JO01 が「会社で何かツールを使っているのか」と聞き、K01 が答える部分である。その話の途中で、JO01 の会社についての話題 (0028-0035) が挿入される。K01 は JO01 の挿入が終わったあと、0036 で 0013 を補足するような形で、再び元の話題に戻っている。その際、自分が物語を展開しているときに使用した接続詞「で」(0016・0040 など) を用いて話題の再開を合図する。このように K01 と K02 は日本語談話で話題を開始する際に「で」「だから」などを多用している。また、接続詞のみではなく、「え」「あ」「なんか」などのフィラーの使用も見られる。

(17)【対日下 1】コロナにかかった人➡大阪のコロナ状況

- 0001 JY01 そう"やばくない?"って話になってー、<で>{<},,,
0002 K01 <うーん>{>}<笑いながら>。
0003 JY01 そっからうちの会社も、なんかそのテレワークになったってゆう…。
0004 K01 おおおー、あー。
0005 JY01 そっから。
0006 K01 なるほどな。
0007 JY01 もうそっからなんかこうー、全社に回って,,
0008 K01 <笑い>。
0009 JY01 "やばい、大阪支店の、あのおじいちゃんが、かかった"みたいになってー,,
0010 K01 <笑い>、<やべー>{<}<笑いながら>。
0011 JY01 <なんか>{>}、ちょっと、"全国的にやばくなつた"ってゆう話。
0012 K01 やべー、それ<笑いながら>。
0013 JY01 やばない?<笑いながら>。
0014 JY01 でなんか,,
0015 K01 やー,,
0016 JY01 もう。
0017 K01 怖いなー。
0018 JY01 怖いよ=。
0019 JY01 =どこで現れるかわからんからな,コロナ。
→ 0020 K01 え、大阪ってさー,,
0021 JY01 うん。
0022 K01 今どんな感じなん?。
0023 JY01 大阪?。
0024 K01 <うん>{<}。
0025 JY01 <え>{>}コロナ?。

K01 は日本語談話で話題開始の際に、場面に関係なく 0020 のようなフィラーも用いていた。(17)の前半は「JY01 の会社の人がコロナにかかった」ことについての話題であり、K01 は 0020 で新しい話題を開始しながら「え」とフィラーを入れ、開始を合図する。

一方、K01 と K02 の韓国語談話における話題開始部では緩衝表現の使用が日本語談話に比べて少なく、直に話題が開始される場合が多い。(18)に韓国語談話の例を挙げる。

(18)【対韓上 2】友達の多さ➡結婚式参加

- 0534 K02 포켓몬 키우느라 <바쁘잖아>{<}。
ポケモン育てるのに<忙しいでしょ>{<}。
0535 KO02 <어ー 어ー 포켓몬>{>}、 많이 키웠다。

- <うんーうんーポケモン>{>}、かなり育てた。
- 0536 KO02 <전설의 포켓몬>{<}。
<伝説のポケモン>{<}。
- 0537 K02 <아직도 하고 있나>{>}, 그거?。
<まだやってるの>{>}, それ?。
- 0538 KO02 어 방금까지도 하고 있었는데。
うんさっきまでもしてたけど。
- 0539 K02 [ため息]、 <공부를 해->{<}。
[ため息]、 <勉強をして->{<}。
- 0540 KO02 <이거 끝나고>{>} 더 해야지。
<これ終わってから>{>}もっとやろうっと。
- 0541 K02 공부하라고-。
勉強しろって-。
- 0542 KO02 ##。
- 0543 KO02 공부하면서 할 수 있어。
勉強しながらできるよ。
- 0544 KO02 포켓몬은 그거를 실시、 막 가지고 다니는 게 아니라 그냥、 키우는 거니까。
ポケモンはそれをリアルタイム、なんか持ち歩くのじゃなくてただ、育てる
ものだから。
- 0545 K02 /沈黙 /그래-。
/沈黙 /そう-。
- 0546 KO02 응-、 그래-。
うん-、 そう-。
-
- 0547 K02 나는 내 친척동생들이 결혼하더라고요。
私は私のいとこたちが結婚するんですよ。
- 0548 KO02 별씨?。
もう?。
- 0549 K02 나 1 월<달에 한국 갔을 때->{<},,
私 1<月に韓国行ったとき->{<},,
- 0550 KO02 <## 빨리 하지>{>}?。
<##早くするんだろう>{>}?。
- 0551 K02 친척동생-、 거긴 그러니까、 세-、 자맨데、 1 월달에 첫째가 결혼을 했거든요↑。
いとこ-、そこはだから、3人-、姉妹ですけど、1月に長女が結婚したんで
すね↑。

(18)の前半は「友達の多さ」から自然に転換された話題で、KO02 が普段しているゲーム

について話しているが、K02 は 0547 で新しく話題を開始する。その際、緩衝表現は用いず、唐突な話題開始になっている。

次に、K03 は他の 2 人とは逆に、日本語談話より韓国語談話で緩衝表現の使用が多かつた。(19)は日本語談話、(20)は韓国語談話の例である。

(19)【対日下 3】話題探し➡これからの予定と課題

- 0523 JY03 /沈黙 /さて、何<話し>{<>},,
0524 K03 <はい>{>}。
0525 JY03 ます?。
0526 K03 #####?
0527 K03 /沈黙 /ふーん。
→ 0528 K03 /沈黙 /今日何するん?,これから。
0529 JY03 バイトっすね。
0530 JY03 アルバイトです。
0531 K03 /沈黙 /あら、大変や。

(19)の前半では直前の話題が終わり、次の話題を探す部分である。K03 は 0528 で緩衝表現を使用せず新しい話題を開始している。話題開始時の沈黙は「沈黙による間・視線・身振りなどの非言語標示によって、話題が転換した唐突感をやわらげる機能がある（金秀芝 2006）」と解釈できるが、(19)のような場合、話題の終わりに自然に発生する沈黙であり、インフォーマントが意図的に沈黙を置いて話題開始を緩衝しているとは考えにくい。つまり、沈黙を意図的に用いてスタイル切り換えを行っているわけではない。そのため、本稿では沈黙は緩衝表現として認めず、(19)のような例を緩衝表現のない話題開始とする。

一方、韓国語談話では(20)のように緩衝表現が多数見られた。

(20)【対韓下 3】凍ったカップ麺➡(再開)最近の天気

- 0312 K03 야 러시아보다 춥대。
ねえロシアより寒いって。
0313 KY03 에에ー、 장난 아니예요。
はいはいー、冗談じやないです。
0314 K03 미친 거 같애。
いかれたみたい。
→ 0315 K03 **맞아** 눈 올 때 그, 그 내 지인이ー、퇴근이 이제 버스 타고 퇴근을 하시는데ー,
そう、雪が降ったときにその、私の知り合いがー、退勤もーうバスに乗って
退勤されるんだけどー,
0316 KY03 응。

- うん。
- 0317 K03 <笑い>、 그 언니가 이제, 한 열 시쯤??,,
<笑い>、そのお姉さんがもう、約 10 時頃??,,
- 0318 KY03 응、 응、 응。
うん、うん、うん。
- 0319 K03 아홉 시쯤인가 암튼 아홉 시쯤에一、 이제 버스를 타서、 집에 가는데、 보통
이제 한 시간 정도 걸려서 열 시 열 시 반쯤 도착을 하신대一。
9 時頃かとにかく 9 時頃に一、もうバスに乗って、家に帰るけど、普通もう 1
時間ぐらいかかるって 10 時 10 時半ぐらいに到着されるって一。

(20)で K03 は前半で「韓国がロシアより寒い」ことについて話しているが、途中で自分の知り合いについての話題に変える。その際に「맞아 (そう)」とフィラーを挟んでいる。このように、K03 は韓国語談話では緩衝表現を入れ、談話協力者に新しい話題が始まることを合図する。

5. 話題選択と対人関係

以上まで 3 人のインフォーマントの話題選択に見られる切り換えについて述べてきたことを表 6 にまとめる。

表 6 話題選択まとめ

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01				
話題内容		切り換えなし		
開始割合	高	低	低	高
話題種類	再開話題	新出話題	再開話題	新出話題
緩衝表現	使用		不使用	
K02				
話題内容		共通基盤話題	共通基盤に関係のない話題	
開始割合	高	低	高	低
話題種類		再開話題		新出話題
緩衝表現	使用		不使用	
K03				
話題内容		共通基盤話題	共通基盤に関係のない話題	
開始割合	高	低	低	高
話題種類		再開話題		新出話題
緩衝表現	不使用		使用	

以下では、表 6 の結果をもとに各インフォーマントが話題選択の各項目をそれぞれどのように切り換えているかを対人関係の観点から考察する。まず、場面間切り換えが見られない項目、つまり、言語間でのみ切り換えられる項目について(A)でインフォーマントごとに考察し、次に(B)で言語内の場面間スタイル切り換えを、同じくインフォーマントごとに見る。

(A) 言語間の切り換え：各言語における基本的なスタイルの切り換え

(A-1) K01

表 6 の K01 の結果を見ると、言語間でのみ切り換えられるものは緩衝表現の使用である。

日本語談話では唐突さを和らげるための緩衝表現を用いる。友人同士の日韓会話を分析した鄭榮美（2009）は、韓国語では話題を導入する際に話題導入ストラテジー¹⁹を使用する割合が少ないが、日本語では話題導入ストラテジーを用いて話題を導入する割合が高かったと述べている。本稿の K01 も日本語談話において、話題開始の際に緩衝表現を多く用い、日本語母語話者の談話協力者に言語的な配慮をする相手焦点的スタイルを使用していると思われる。

一方、韓国語談話では反対に緩衝表現があまり用いられない。金秀芝（2006）では「日本語よりも韓国語の方が話題の転換に積極的な姿勢を示す傾向がある」という仮説を立てているが、K01 も韓国語において新しく話題を開始することに大きな負担を持っておらず、相対的に相手への配慮は少なくなっていると思われる。韓国語談話では談話協力者への協力よりは、自由に話題を出すことに重点を置いていると言える。したがって、必ずしも緩衝表現を用いて唐突さを和らげることのない自己焦点的スタイルとなっている。

以上のように、K01 は日本語と韓国語で話題選択のスタイルを相手焦点的スタイルから自己焦点的スタイルに切り換えている。

(A-2) K02

表 6 の K02 の結果から、K02 は K01 と同じく緩衝表現の使用の多少に加え、話題内容や話題種類も日韓で切り換えられる。

K02 は日本語談話では共通基盤話題・再開話題を選択し、韓国語談話では共通基盤に関係のない話題・新出話題を選ぶ傾向が強かった。基本的な話題選択のスタイルとして、日本語談話では共通基盤話題を通じて談話協力者との共通点を、再開話題を通じて談話における統一性を重視したり、緩衝表現によって唐突さを和らげるための合図を送ったりすることで、談話協力者の予測を手助けする相手焦点的スタイルであると言える。張允娥（2017:72）が友人同士の日韓会話を分析し、「韓国語の会話に比べ、日本語の会話では、共通知識を規範とした話題が多く観察されるのに対し、韓国語の会話では個人に関わる内容が話題として取り上げられる傾向が多」いと述べている通りである。K02 が日本語談話

¹⁹ 本稿で言う「緩衝表現」が含まれている。

において相手焦点的スタイルを使用することは、K01 と同じく、談話協力者の言語における慣習に近づいて行こうとする姿勢があるためであると考えられる。

一方、K02 は韓国語談話では共通基盤に関係のない話題・新出話題を選んでおり、緩衝表現を用いない。K02 にとって、韓国語談話は話者間の共通性や統一性、協力性は重要ではなく、各自の自由を發揮することが求められる談話である。

つまり、日本語談話とは異なり、自己焦点的スタイルである。

K02 は K01 と同じく、日本語談話と韓国語談話の間で相手焦点的スタイルと自己焦点的スタイルを切り替えている。

(A-3) K03

表 6 の K03 の結果を見ると、日本語談話では共通基盤話題・再開話題を選択し、緩衝表現の使用は相対的に少なかった。K03 は日本語談話で話題の内容からは談話協力者への共通性を強調し、談話への統一性を求めるが、話題開始時の合図がなく、言語的な配慮はしていないことがわかる。つまり、日本語談話では共通性・統一性の表示によって談話協力者への親近感や配慮を表したり、同じ話題を維持したりすることで内容面で相手焦点的スタイルとなっている一方、形式上の配慮はややおろそかにする自己焦点的スタイルであるように思われる。

韓国語談話では共通基盤に関係のない話題・新出話題を選び、参加者間の共通性はさほど重要ではない、自己焦点的スタイルであると思われる。ただし、その中でも相手に対する配慮が話題開始時の緩衝表現に現れている。K03 の韓国語談話では全体的に自由な談話志向でありながら、談話協力者に失礼になり得る行為には緩衝表現にて配慮をし、形式の側面からは相手焦点的スタイルも見られる。

K03 は日本語談話と韓国語談話の間で、内容面においては相手焦点的スタイルと自己焦点的スタイル、形式面においては自己焦点的スタイルと相手焦点的スタイルを切り替える。

(B) 場面間切り替え：対人関係に応じるスタイル切り替え

(B-1) K01

表 6 を見ると、K01 が場面間で切り替えを行うのは開始割合・話題種類であった。

まず日本語談話において、【対日上】では開始割合が高く、再開話題が選ばれる。K01 は【対日上】で談話への統一性のため何回も元の話題に戻るため、高い開始割合と再開話題が見られることを 4.1 で述べた。日本語談話自体も韓国語談話に比べて相手焦点的であるが、日本語談話の中では【対日上】の方が【対日下】に比べ、さらに相手焦点的スタイルとなっている。一方で【対日下】では開始割合が低くなることから話題選択にあまり関わらず、新出話題が多いことから談話における統一性を目指さない自己焦点的スタイルに切り替える。その理由として、同じ日本語談話でも、より日本的なスタイルを目上の日本語母語

話者に適用することで、丁寧さを保とうとする可能性が挙げられる。一方、目下の相手に対しては丁寧さを保つという意識はかなり薄れ、より自由な振る舞いができる。

韓国語談話では【対韓上】で開始割合が低く、話題選択に消極的な態度が見て取れる。また、再開話題を持ち出すことで談話への統一性を狙うと同時に、勝手に話題を変えず、談話協力者が話題を変えることを待つ。こうすることによって、談話の流れに背くことなく、談話協力者に主導権を委ねていると考えられる。このように、【対韓上】では相手焦点的スタイルが見られる一方、【対韓下】では相対的に開始割合も高く、新出話題が次々と登場する様子が見られることから、自ら新しい話題を自由に振ることを躊躇しない、自己焦点的スタイルに切り換える。

(B-2) K02

表 6 の K02 の結果を見ると、場面間切り換えは開始割合のみで起きており、K02 は言語に関係なく【対上】では話題開始割合が高く、自ら積極的に話題を開始する自己焦点的スタイルである一方、【対下】では比較的に消極的に話題を開始し、相手に話題の選択権を委ねる相手焦点的スタイルに切り換えている。

(B-3) K03

K03 も K02 と同じく開始割合のみが場面間で差を見せるが、日韓でその方向が異なる。

日本語談話では【対日上】で開始割合が増し、自己焦点的スタイル、【対日下】では開始割合が減り、相手焦点的スタイルと、場面間でスタイル切り換えを行っている。

一方、韓国語談話では反対に【対韓上】で開始割合が低い相手焦点的スタイル、【対韓下】で開始割合が高い自己焦点的スタイルに切り換える。

以上を表 7 にまとめた。各インフォーマントのまとめの上段は言語間切り換え、下段は各言語内の場面間切り換えである。

表7 話題選択におけるスタイル切り換え

	日本語談話		韓国語談話	
	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	相手焦点		自己焦点	
	相手焦点	自己焦点	相手焦点	自己焦点
K02	相手焦点		自己焦点	
	自己焦点	相手焦点	自己焦点	相手焦点
K03	内容：相手焦点		内容：自己焦点	
	形式：自己焦点		形式：相手焦点	
	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点

表7の各インフォーマントの結果の上段で見られる通り、3人のインフォーマントはK03の形式面を除き、日本語談話で相手焦点的スタイル、韓国語談話で自己焦点的スタイルを使用し、話題選択において言語間スタイル切り換えを行っている。また、各インフォーマントの結果の下段から、各言語内の場面間においてもそれぞれスタイル切り換えを行っていることもわかる。しかし、その傾向は3人で異なっている。

言語間では「日本語」「韓国語」の話題選択スタイルがインフォーマント間で共有されていると思われ、その知識を規範に日本語母語話者には日本風の、韓国語母語話者には韓国風のスタイルを用いていると考えることができる。一方、場面間では明確な規範となるスタイルがインフォーマント間に共通していないため、各自の方法で対人関係を維持する、つまり、スタイル切り換えをしていると考えられる。

第4章 発話量の切り換え

1. はじめに

発話するという行為は、談話が成立するためには必須不可欠である。しかし、一人が当該談話の中でどのくらい話すかは、場合によっては印象に関わることもある。たとえば、参加者の一人が口数を減らした場合、相手はその人に対して「あまり話してくれなくて気まずい」と思うことも、「私の話をきちんと聞いてくれて配慮深い」と思うこともある。逆に相手より多く発話した場合にも異なる評価があり得る。その中で、韓国人日本語使用者は話題という大きな単位のみではなく、発話自体をどれだけ発するかという点でも言語・場面によって切り換えていると思われる。本章では簡単ではあるが、韓国人日本語使用者が対人関係に応じて発話量をどのように調整しているかを述べる。その際、談話協力者との量的な差に注目する。

以下、2節で本章の分析の枠組みについて説明する。3節では結果を述べ、4節では韓国人日本語使用者の発話量調節を対人関係の観点から考察する。

2. 分析の枠組み

本節では、発話量を分析するにあたって本章で用いる枠組みについて述べる。まず、2.1では実質発話について、2.2では発話量の集計方法について説明する。

2.1. 実質発話

発話の種類には様々なものがあるが、そのすべてが意味を持つ発話ではない。本章では発話量の分析対象としてすべての発話ではなく、**実質発話**のみを扱う。本章で言う実質発話とは、相づち、フィラーのみの発話を除いた発話である。以下の(1)に実質発話と相づちの例を、(2)に実質発話とフィラーのみの発話の例を挙げる。「→」は注目する発話である。

(1)【対日下3】実質発話と相づち

- 0001 JY03 なんていう、ほんまに一、プレイヤーの選択自体で,,
- 0002 K03 うんうんうん。
- 0003 JY03 お互い影響しあうしー、<そのー>{<>},,
- 0004 K03 <うんうんうん>{>}。
- 0005 JY03 なんていうん。

(1)では K03 が JY03 の発話 (0001=0003=0005) に合わせて相づちを打っている (0002・0004)。JY03 の発話は、「プレイヤーの選択自体でお互い影響し合う」という実質的な内容が含まれている一方、K03 の相づちの場合、実質的な発話内容があるわけではなく、聞き手としての役割を遂行しているものである。このような相づちが増えたことを「発話量が

増えた」と捉えることは難しい。したがって、このような相づちの発話は分析対象に含めないこととする。(1)における実質発話は1発話(0001=0003=0005)のみである。

次に、実質発話とフィラーのみの発話の例である。

(2)【対日上2】実質発話とフィラーのみの発話

- 0055 K02 そうやったからー、見たんですけど、あなんかやっぱ、"買いたくなるー"つ
てゆう,,
0056 JO02 そうやろ。
→ 0057 K02 そうゆうものばつか、なんか、載せてたから??。
0058 JO02 そうそうそうそう。
0059 K02 うん。

(2)ではK02が0055=0057で1発話を終えている。しかし、その後JO01は相づちを打つのみで(0058)、両者とも実質的な発話をしていない状態になる。K02は沈黙にもなり得る状態に対処するべく、0059でフィラーとして「うん」と発話している。しかし、このようなフィラーのみの発話も発話量を増やしたとは言い難く、実質発話からは外す。したがって、(2)の実質発話はJO02の相づち(0056・0058)とK02のフィラーのみの発話(0059)を除いて、1発話(0055=0057)のみとなる。

2.2. 発話量の集計方法

本章では上述の通り実質発話を取り出し、分析を行うが、その際、各発話の長さや、含まれている内容の多さがそれぞれ異なるという問題に対処しなければならない。以下に例を挙げて説明する。

(3)【対日上1】長い発話

- 0602 K01 でそこら辺1時間一ぐらい歩いて、で家帰ってあつ森ちょっとやって、であ
とまー音楽聞いたりー、YouTubeで最近はまってるものあって。

0602は1発話であるが、その中には「1時間ぐらい歩いたこと」「家に帰ったこと」「あつ森をやったこと」「音楽を聞いたこと」「YouTubeで最近はまってるものがあること」と、複数の内容が入っている。当然発話の時間やモーラ数も長くなり、単文の発話とはその量が異なる。発話量の集計を発話単位で行う場合、このような長い発話の情報が見えなくなる恐れがある。したがって、本章では(3)のような発話を考慮し、発話量を捉える際に「。」で終了する発話ではなく、述語数を基準にする。述語になるのは動詞・形容詞・形容動詞・名詞であるが、名詞修飾節は含まない。また、引用節の中の述語も対象としない。(4)は(3)を述語で分けたものである。下線部で示しているものが述語であり、囲みで表示したのは1つの述語で締めくくられる節である。

(4)【対日上 1】発話数の集計基準

0602 K01 でーそこら辺 1 時間ーぐらい歩いて、で家帰って あつ森ちょっとやって、
あとまー音楽聞いたりー、YouTube で最近はまってるものあって。

このように、(4)の発話数は 1 つであるが、述語数、つまり発話量は 5 つとなる。

3. 発話量の切り換え

本節では、談話全体で各インフォーマントがどのくらい発話しているかを分析する。表 1 にインフォーマント 3 人とその談話協力者の発話量（述語数）をまとめる。

表 1 発話量（述語数）

		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	インフォーマント	272	222	169	340
	談話協力者	219	438	445	272
	計	491	660	614	612
K02	インフォーマント	301	279	351	316
	談話協力者	113	134	340	312
	計	414	413	691	628
K03	インフォーマント	293	213	181	430
	談話協力者	119	205	479	167
	計	412	418	660	597

まず、日本語談話において、インフォーマントの述語数は場面間で差がほとんど見られない。一方、韓国語談話においては、K01・K03 の発話量が【対韓下】で増えている。

このような結果は相手に影響を受けている可能性もある。談話協力者の発話量が多い場合、インフォーマントも同じく発話量を増やす場合もあるためである。したがって、以下では談話に参加している両者の発話量が談話全体でどのくらいの割合を占めているかを見る。図 1 は K01、図 2 は K02、図 3 は K03 の発話量の割合である。

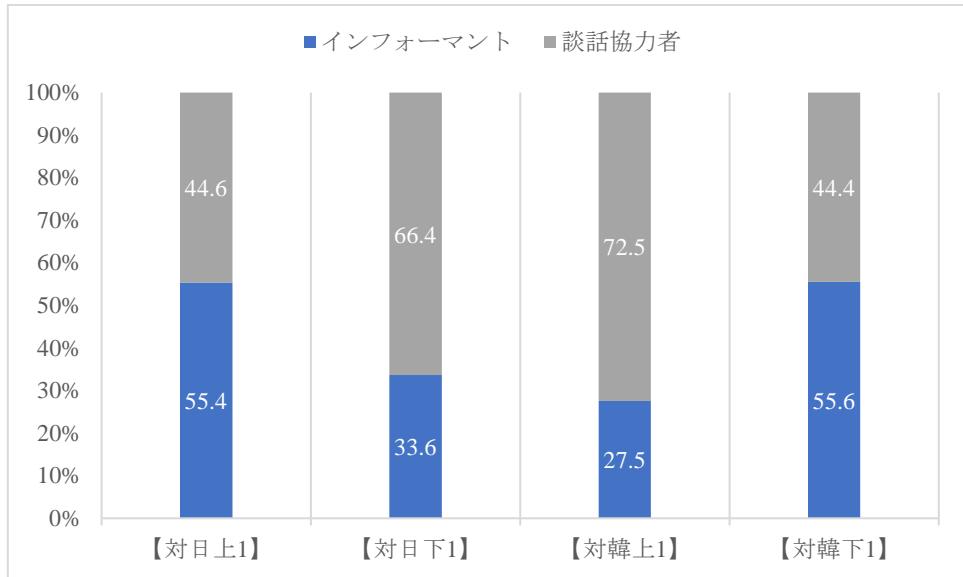


図1 相対的発話量 (K01)

まず、K01の結果から見る。上の表1では日本語談話の絶対的な述語数に大きな差が見られなかった。しかし、図1で談話協力者との割合を見ると、【対日上】では談話協力者と同程度、【対日下】では談話協力者よりかなり少なく発話している。つまり、K01は場面に関係なく同量の発話をしているのではなく、【対日上】では話し手・聞き手の役割を半分ずつ遂行し、【対日下】では聞き手の役割により重点を置いていると言える。このような発話量の結果は話題選択に連動している。第3章で、K01は【対日上】で話題開始の割合が高く、【対日下】では低いことを述べたが、【対日上】では話題を開始することで自分自身の発話する場を自ら広げた結果、発話量も多くなっていると考えられる。一方の【対日下】では話題選択にあまり寄与せず、談話協力者に談話の流れを委ねているため、発話量も自然に談話協力者が多くなるわけであろう。

一方、韓国語談話では表1の結果が図1にも反映されており、【対韓上】で談話協力者より少なく、【対韓下】で談話協力者と同程度発話している。日本語談話とは反対に、【対韓上】でより聞き手としての役割を重視していることがわかる。また、この結果も第3章で分析した話題開始割合と連動しており、話題開始割合が低い【対韓上】では発話量も少なく、話題開始割合が高い【対韓下】では発話量も高い。

次に、K02の発話量を図2に示す。

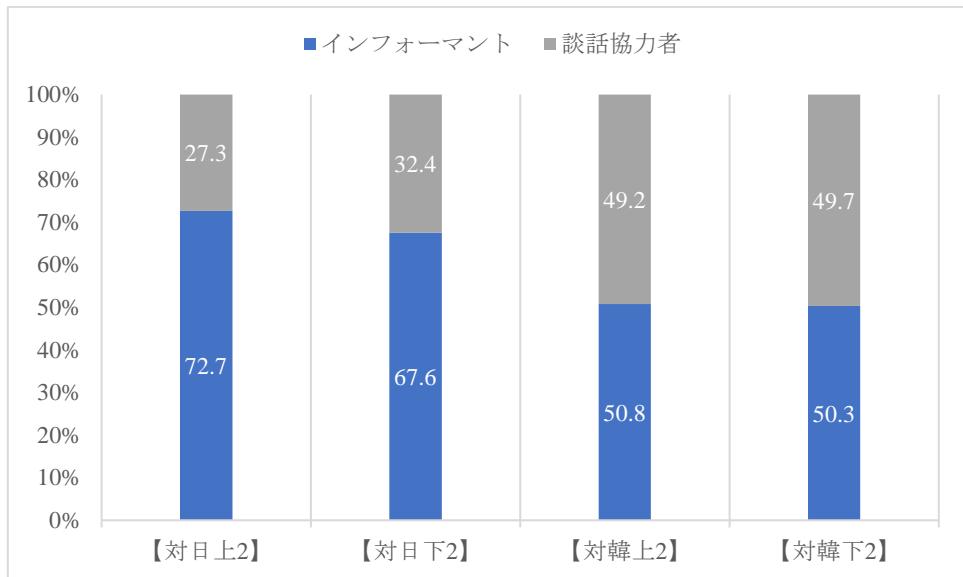


図2 相対的発話量 (K02)

K02 の場合、図2 でも表1 と同じく場面間の差はさほど明らかではない。K02 は同一言語内の場面間では発話量を切り換えていないと思われる。K02 は発話量を年齢による切り換えの対象と思っていない可能性がある。ただし、言語間を見ると、日本語談話では両場面とも発話量が多い一方、韓国語談話では談話協力者と同じぐらい発話している。なお、K02 の発話量は第3章の話題選択とは連動していなかった。K02 の話題開始割合では言語を問わず【対上】では多く、【対下】では少ないという場面間スタイル切り換えが見られたが、発話量においては場面間スタイル切り換えは見られない。これは、K02 が【対下】で、一つの話題で【対上】より多めに発話するためであると考えられる。【対日上】では1話題当たりの最大発話量が26、【対韓上】では39であったのに比べ、【対日下】では63、【対韓下】では115にまで上っていた。【対下】では話題開始自体は少ないが、一つの話題で多く話すため、話題開始割合と発話量が連動しない結果となる。

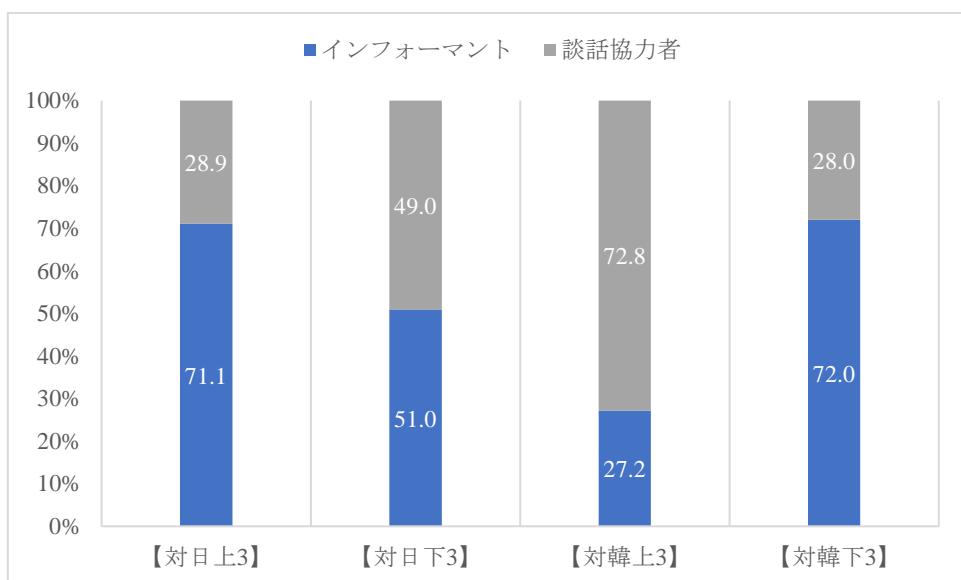


図3 相対的発話量 (K03)

最後に図3からK03の結果を見ると、K01と類似する傾向を示している。日本語談話では【対日上】で発話量が増え、談話の中で主に話し手の役割を担っていることがわかる。一方で【対日下】では談話協力者と同じぐらいの発話量を見せてている。韓国語談話ではこのような場面間の差がより大きくなり、日本語談話とは逆に、【対韓上】では自分の話はほとんどせず、談話協力者の話を聞く傾向が強い一方、【対韓下】では発話量が急激に増えている。なお、K03も第3章の話題開始割合と発話量が連動している。話題開始割合が高かった場面ではその分話す機会が多いため発話量が多く、話題開始割合が低かった場面では発話量が少なかった。

4. 発話量と対人関係

簡単ながら以上の結果をもとにして、本節では韓国人日本語使用者が発話量を切り換えることで対人関係にどのように対応するかを考察する。まず、3節の結果をまとめると表2の通りになる。

表2 発話量まとめ

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	多	少	少	多
K02		多		少
K03	多	少	少	多

表2から、K01とK03が同じ結果を出しており、K02がやや異なることがわかる。以下では、K01・K03をまとめて論じ、次にK02を単独で考察する。

(A) K01・K03

K01・K03 は日本語談話において【対日上】では発話量が多く、【対日下】では少なかった。発話量の多い【対日上】のような場合、その分談話協力者は話す機会を失うことになり、相手ではなく自己に焦点が置かれているスタイルであると言える。実際に、両者は単に発話量が多いだけでなく、話題を多く開始することで談話をリードする様子がうかがえた（第3章参照）。一方、発話量が少ない【対日下】では、口数を控えることによって談話協力者により話せる機会を与え、自分は聞き手に回るという配慮をしていると考えられる。つまり、相手に配慮し、話す機会を与える相手焦点的スタイルに切り換えている。第3章で述べたように、K01・K03 は日本語談話の目下に対して話題開始割合が比較的に低く、談話をリードする様子はあまり見られなかった。その結果が、発話量にも反映されているということである。

次の韓国語談話ではこの傾向が逆転し、【対韓上】で発話量が少なく、【対韓下】で多い結果となっている。つまり、【対韓上】では相手焦点的スタイル、【対韓下】では自己焦点的スタイルに切り換える。任栄哲・井出（2004）では韓国人のコミュニケーション・スタイルについて述べる際に、「目上に対しては韓国人は口数を控え、視線や姿勢によって誠意や関心を示すようになる（任栄哲・井出 2004:67）」と述べている。K01・K03 はこのように、【対韓上】で目上である談話協力者に対しては発話量を減らし、聞き手に回っていると考えられる。一方、目下場面である【対韓下】においては発話量を減らす必要はなくなり、むしろインフォーマントの方が目上になるため談話協力者と同等、あるいは談話協力者を凌駕する発話量になっている。また、韓国語談話における場面間の差は日本語談話のそれより大きく、日本語談話より韓国語談話の方が、場面間スタイル切り換えにおける行動規則が強く働いているように思われる。

(B) K02

K02 の場合、言語内の場面間切り換えは見られず、言語間でのみ発話量を切り換えていた。日本語談話では発話量が多いため相手に話す機会をあまり与えない自己焦点的スタイル、韓国語談話では発話量が比較的に少ないため相手に話す機会を与える相手焦点的スタイルであると思われる。小川（2000）では日本語会話を対象に、発話量と会話者に対する印象との相関関係を分析し、「相手に好ましい印象を与えるためには、話し手として会話をリードする役割を取ることが効果的である」と結論付けた。小川（2000）は初対面場面を対象にしているものではあるが、本稿の K02 も日本語談話では発話量の多い自己焦点的スタイルを用い、談話協力者との対人関係を良好なものに維持している可能性がうかがえる。なお、上述の K01・K03 も日本語談話の目上に対してはこのような対人関係の方法を共通的に使用していると思われる。

以上を表3にまとめる。

表3 発話量におけるスタイル切り換え

	日本語談話		韓国語談話	
	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点
K02	自己焦点		相手焦点	
K03	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点

表3からわかる通り、K01・K03は発話量において、場面間スタイル切り換えを行っており、またその傾向が言語ごとに異なることから、言語間でもスタイル切り換えを行っていると言える。一方、K02は言語間スタイル切り換えのみが見られた。K02は談話協力者の母語のみがスタイル切り換えに影響するが、K01・K03は談話協力者の母語および年齢の上下も影響し、特に年齢の上下の影響は韓国語談話の場合により強くなると言える。

第5章 談話参加の切り換え

1. はじめに

第3章と第4章では談話全体における話題選択、発話量を見てきた。しかし、これだけでは各話者の談話への参加、つまり、一人で長い時間話し手や聞き手になっているか、それとも交互で話し合う時間が多いかなど、具体的な状況を把握するには不十分である。本章では、このような談話への参加の仕方を言語間・場面間で切り換える事象を対象に、分析を進める。たとえば、K01の場合、【対韓上】では交互に話し合う部分が多いが、【対韓下】では一人で長く発話する部分が多い。(1)と(2)にその例を挙げる。下線は第4章で提示した、発話量の基準となる述語であり、「○」と「●」はそれぞれ異なる参加者の実質発話を指している。

(1)【対韓上 1】 交互に発話する部分

- 0146 K001 <## 펭귄->{>}、 쯤 징그、 그 펭귄 쯤 징그럽다。
<##ベンギン->{>}、 ちょっとときも、そのベンギンちょっと気持ち悪い。
- 0147 K01 아 그래요?<笑いながら>、 <<笑い>>{<}。
あそうですか?<笑いながら>、 <<笑い>>{<}。
- 0148 K001 <언->{>}。
<うん->{>}。
- 0149 K001 <펭귄>{<}。
<ベンギン>{<}。
- 0150 K01 <아니->{>}、 <<笑い>>{<}。
<いや->{>}、 <<笑い>>{<}。
- 0151 K001 <펭수처럼 귀엽지도>{>} 않고、 <笑い>。
<ペンス (韓国のベンギンキャラクター) みたいにかわいくも>{>}なく、 <笑い>。
- 0152 K01 회사에선- 귀엽다고 막 그랬는데<笑いながら>。
会社では一かわいいとなんか言ってたのに<笑いながら>。
- 0153 K001 아 진짜?。
あ本当に?。
- 0154 K001 완전 <저 펭귄>{<}、
すごく<あのベンギン>{<}、
- 0155 K01 <네->{>}。
<はい->{>}。
- 0156 K001 징그럽지、 너무、 너무、 돌고래 같은데?。
気持ち悪く、あまりにも、あまりにも、イルカみたいだけ?。
- 0157 K01 /沈黙 /그래요?=。

- /沈黙 /そうですか??=。
- 0158 K01 =전 팽귄一、 좋아해서。
=私はペンギン一、 好きだから。
- 0159 KO01 펭수 같지가 않잖아。
ペンスみたいじゃないでしょう。

(1)では K01 の発話である「○」と KO01 の発話である「●」がほぼ交代で出てくることがわかる。この部分は KO01 の発話 (0146) に K01 が反応する (0147) ことで始まり、インフォーマントの意志によって始まる部分である。結果から先に述べると、【対韓上】ではどちらか一方が話し手や聞き手の役割となっているわけではなく、ともに談話を作り上げている部分がより多く、K01 は場面間で談話への参加の形を切り換えていた。一方、【対韓下】ではどちらかが主な話し手・聞き手となっている部分が多い。(2)は K01 が主な話し手となる部分である。

- (2)【対韓下 1】一人が長い時間話し手や聞き手になる部分
- 0384 K01 일본어一、 이제 나、 나도 조끔만 할 줄 알고一、 고 독학했으니까。
日本語一は一、もう私、私もちょっとだけできて一、て独学したから。
- 0385 KY01 <응>{<}>。
<うん>{<}>。
- 0386 K01 <막>{>} 잘 하는 건 아니고 그냥 살짝、 더듬더듬 말하고一、 더듬더듬 알아 듣고一、 <이런>{<}>,,
<すごく>{>} できるわけではなくて普通にちょっと、たどたどしく話して一、
たどたどしく聞き取って一、 <こんな>{<}>,,
- 0387 KY01 <헐>{>}。
<やばい>{>}。
- 0388 K01 상태고一、 친구 한 명은 아예 못 하고一、 한 명은 이제 약간 그냥 듣는 것
만 조끔 하던??、 그런 애였는데一、 셋이 이제 자유 여행을 간 거지, 겁도 없
이]。
状態で一、友達一人は全然できなくて一、一人はもう若干聞き取りだけ
ちょっとできていた??、そういう子だったけど一、三人でもう自由旅行に
行ったのね, 大胆にも。
- 0389 K01 도쿄를。
東京に。
- 0390 K01 첫 일본이었는데。
初日本だったのに。
- 0391 K01 내리는 <내려 갖고>{<}>,,
降りる<降りてから>{<}>,,

- 0392 KY01 <아이고ー>{>}。
 <あらー>{>}。
- 0393 K01 내리、나리타에서 이제— 신주쿠에 거기、도쿄 도청 앞에 숙소 잡았으니
까—,,
 降り、成田でもう一新宿にそこ、東京都庁の前に宿泊を予約していたから—,,
- 0394 KY01 응。
 うん。
- 0395 K01 나리타 익스프레스를 타고—、<가 갖고—>{<},
 成田エキスプレスに乗って—、<行って—>{<},,,
- 0396 KY01 <<笑い>>{>}。
- 0397 K01 체크인하고、다— 이제 내가—、사실상 가이드 한 건데—。
チェックインして、全部—もう私が—、事実上ガイドをしたんだけど—。
- 0398 K01 일본어를 못 하니까,애들이。
 日本語ができないから,この子たちが。
- 0399 K01 근데 애네들이 <이제 신이 나>{<},
 でもこの子たちが<もう浮かれ>{<},,,
- 0400 KY01 <힘들었겠다>{>}。
 <大変そう>{>}。
- 0401 K01 갖고 말을 안 듣는 거야。
 て言うことを聞かないのよ。
- 0402 KY01 <笑い>、비슷한 경험이 있으시군요。
 <笑い>、似たような経験がおあります。
- 0403 K01 쇼핑몰에서 저쪽으로 가야—、뭐가 나오는데、"야、이쪽이야" 하는데 애들
 이 없어、<笑い>。
 ショッピングモールであちらに行かないと—、何かが出ないのに、"おい、
 こっちだ"って言うのに皆がいない、<笑い>。
- 0404 KY01 <笑い>。
- 0405 K01 애들이 없어<笑いながら>=。
 皆がいない<笑いながら>=。

(2)では矢印が「○」しか見られず、K01 が話し手、KY01 が聞き手となっていることがわかる。このように、談話への参加の仕方を切り換えるという事象がデータから観察できる。本章では(1)と(2)のような談話への参加の形を、韓国人日本語使用者がどのように切り換えるのか分析する。

2. 先行研究

張允娥 (2017) では会話への参加形式を一人の話者が話すソロパートと、話し手と聞き

手の役割区分が明確でないデュオパートに分けている。また、その区分に当たっては話し手の連続した発話、ターン交替を基準にしている。

大谷（2015a）は三者間の会話を対象に、話題展開のスタイルを質的に分析し、interactive style、duet style、monologue style、混合（interactive style+duet style）の4つのスタイルを提示している。interactive styleは「会話の参加者が進行中の話題について、相手に情報を要求しながら話題を展開していくスタイル」、duet styleは「自ら進んで情報や意見を提供していくことで話題を展開させるスタイル」で、相手に働きかけはしないが、各自で自分の情報を提供することで会話が成立するものである。monologue styleは「1人が「話し手」となって話し続けるスタイル」である。大谷（2015a）はさらにイギリス英語・オーストラリア英語・アメリカ英語・日本語の話題展開スタイルを比較し、いずれの英語でも混合スタイルが最もよく用いられ、monologue styleはほとんど用いられない一方、日本語では偏りなくどのスタイルの割合にも大きな差が見られなかつたことを明らかにした。

しかし、日韓の談話参加スタイルを直接比較・対照した研究は管見の限り見当たらなかつた。本章ではこれまでの章を踏まえながら、韓国人日本語使用者の談話参加スタイル切り換えについて述べる。

3. 分析の枠組み：モノローグとダイアローグ

本稿では、張允娥（2017）を参考にし、以下のような基準で話題をモノローグとダイアローグに分けて分析する。

(a) モノローグ

まず、モノローグについて説明する。参加者の中の一方のみの述語数が3以上続く場合を、モノローグ区画とする。(3)にその例を挙げる。談話例の間の点線は談話区画の分け目を示すものである。また、**囲み**で表示したのは1つの述語で締めくくられる節である。一人の話者によって連続する節には丸番号を付け、節がいくつ続いているかわかるようにした。

(3)【対日上1】モノローグの区分

- 0583 JO01 /沈黙 /天気よかったですし暖かかったしねー。
- 0584 K01 なんかレストランめっちゃ混んでて"やばー、<まじか"と思って>{<}。
- 0585 JO01 <え、えー>{>}<笑いながら>?。
- 0586 K01 <笑い>、"めっちゃ食べてるやん、みんな"と思って<笑いながら>。
- 0587 JO01 あそんぬ感じー?。
-
- 0588 K01 ①**【でー、外はそんなんにいないですね】**
- 0589 K01 ②**【ま、普通に歩いて】**
- 0590 JO01 ああー。
- 0591 K01 ③**【でー、まー、また戻ってー】**、④**【すす作業始めてー】**、⑤**【で7時にあがってー】**、
- 0592 JO01 うん。

0593 K01 ⑥んで一、7時にあがって⑦外出て⑧散歩するんですよ。

(3)は K01 が散歩したことについて話している部分である。前半はお互いが発話を交わしていたが、後半は 0588 の①・0589 の②・0591 の③④⑤・0593 の⑥⑦⑧と、K01 が連續で述語 3 つ以上の発話をする。しかも、JO01 は相づちを打つだけで(0590・0592)、実質発話はしていない。この場合、0588 から K01 のモノローグが開始されたと判断し、0587 と 0588 の間を区切る。

一方、モノローグには自発的なものとそうではないものがあった。自発的なモノローグとは、相手に聞かれなくとも自ら展開するモノローグである。反対に、談話相手の質問に答える形で始まるモノローグは、自らモノローグを開始する意図を持って始めたとは言い難く、そのようなモノローグが一つの場面で多いからといってインフォーマントが談話への参加の形を「切り換えた」とは言えない。したがって、質問に対する答えが述語 3 つ以上続く場合は質問を含めて区切り、それが自発的ではないモノローグであることがわかるようにした。(4)にその例を挙げる。黒い番号は談話協力者の発話における述語である。

(4)【対日下 1】質問から始まるモノローグ

0174 JY01 <そう>{>} そうなんか、"びっくりした、俺"みたいな。

0175 K01 <笑い>。

0176 JY01 <笑い>。

0177 JY01 だってゆってたもん。

0178 JY01 そうゆうふうに。

0179 K01 やばいよなー。

0180 JY01 ①え、マスク持ってる?。

0181 JY01 <②ある>{<?},,

0182 K01 <①うん>{>}。

0183 JY01 マスク。

0184 K01 ②そう、なんか、ひどくなる前にさ、2<月ぐら>{<?},,

0185 JY01 <うんうん>{>}。

0186 K01 い??,,

0187 JY01 うん<うん>{<}。

0188 K01 <にー>{>}、たぶん、こ、これからマスクやばいんちゃう?"と思って。

0189 JY01 うん。

0190 K01 ③ほんで一、会社が<ちょうど>{<?},,

0191 JY01 <うん>{>}。

0192 K01 ほかの会社に比べて早めに自社出勤になってん、うちの会社。

0193 JY01 あそうなんや。

0194 K01 ④そそ、やから一、<会社>{<},,
 0195 JY01 <うん>{>}。
 0196 K01 に出社しといて一、<で一>{<},,
 0197 JY01 <うん>{>}。
 0198 K01 ⑤「地名 B」やし一,
 0199 JY01 うんうん。
 0200 K01 ⑥すぐ一、会社の前にドラッグストア結構多い、やんか。

(4)の前半は JY01 のモノローグ部分であった。JY01 は自分のモノローグを終え、0180 の①、0181=0183 の②で「マスクを持っているか」という質問をする。K01 はそれに対し、0184=0186=0188 の②、0190=0192 の③、0194=0196=0198=0200 の④⑤⑥と長く回答する。この場合、実際にモノローグが始まったのは 0184 からであるが、そのモノローグが JY01 の質問によるものであるため、質問が始まった 0180 から K01 のモノローグとして区切る。

(b) ダイアローグ

次に、ダイアローグの場合、両方の実質発話（述語）の交替が 3 回以上（各話者が述語を 1~2 つずつ）続くとそこからダイアローグ区画とする。(5)に例示しながら説明する。

(5)【対日上 1】ダイアローグの区分 (=(3)の続き)

0591 K01 で一、ま一、また戻って一、すす作業初めて一、で 7 時にあがって一,,
 0592 JO01 うん。
 0593 K01 んで一、7 時にあがって外出て散歩するんですよ。
 0594 JO01 /沈黙 /①1 日 2 回?。
 0595 K01 ①うん、「駅名 B」とか一、<あと逆に「駅名 C の一部」>{<},,
 0596 JO01 <はいはいはい>{>}。
 0597 K01 「駅名 C」とか一、高速道路沿い歩くと誰もいなくて。
 0598 JO01 あ一なるほど↑。
 0599 JO01 ②繁華街じゃなくてってことですね。
 0600 K01 ②んそうですそうです。
 0601 JO01 うーん。

(3)で見たように、(5)の前半は K01 のモノローグである。K01 のモノローグに対して、JO01 は 0594 で「1 日 2 回（も散歩をするのか）？」と質問している。K01 はその質問を受け 0595=0597 で答えと補足をしており、1 回目の交替が成立する (①→①)。その後、JO01 はさらに 0599 で「繁華街じゃなくてってことですね」と確認要求の発話をし (①→②)、K01 は 0600 でそれに答える (②→②)。このように 3 回目の交替

が行われた時点で、1回目の交替が行われた 0594 からダイアローグが始まったと判断し、0593 と 0594 の間を区切る。

以上の方で切り取った各部分は以下のように分類できる。

(A) インフォーマントによるモノローグ

インフォーマントが主話者になっている談話区画である。この区画ではインフォーマントがモノローグを展開し、談話協力者は聞き手役に回り、相づちを打ったり 2 回以下の述語を挟んだりする。以下では表などで「イン・モノ」と略す場合がある。

(B) 談話協力者によるモノローグ

インフォーマントが聞き手になっている談話区画である。この区画では談話協力者がモノローグを展開する。インフォーマントは聞き手役に回り、相づちを打ったり 2 回以下の述語を挟んだりする。以下では表などで「協力・モノ」と略す場合がある。

(C) ダイアローグ

インフォーマントと談話協力者が、それぞれ連続 2 回以下の実質発話を交互に交わし、その交替が 3 回以上繰り返される区画である。この区画ではインフォーマント・談話協力者ともに話し手であり、相づちはあまり見られない。以下では表などで「ダイ」と略す場合がある。

なお、以上の方で区分した談話の区画、各区画の開始者、各区画の発話量（述語数）と、第 3 章で区分した話題をまとめたものを、付録 2 (p.190~) に収録する。

4. 談話参加の切り換え

第 4 章ではインフォーマントが談話全体において、発話量を言語間・場面間でどのように切り換えるか分析した。本節では談話を 3 節の基準でより細かく区分し、インフォーマントの各発話がモノローグとダイアローグのどちらに属しているか見る。また、その結果を踏まえ、インフォーマントは談話参加の形（モノローグ・ダイアローグ）を言語間・場面間でどのように切り換えるか考察する。表 4 は各談話のモノローグ数とダイアローグ数をまとめたものである。なお、モノローグについてはインフォーマントのもの（イン・モノ）と談話協力者のもの（協力・モノ）に分けて示す。

表 4 談話区画

		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	イン・モノ	21	13	6	22
	協力・モノ	11	25	22	17
	ダイアローグ	16	21	25	20
K02	イン・モノ	25	16	17	20
	協力・モノ	6	6	14	21
	ダイアローグ	15	14	37	23
K03	イン・モノ	27	18	13	31
	協力・モノ	5	14	20	3
	ダイアローグ	19	12	7	26

表 4 と以下の各節に提示する図から、各インフォーマントが談話の中にどのような形で参加しているか、そしてその参加の形をどのように切り換えるかについて順に分析する。その際、モノローグの切り換え、ダイアローグの切り換えに分けて分析する。これは、ダイアローグはモノローグと異なり、誰でも開始しやすいためである。データからは、モノローグはその開始者とモノローグの話し手が一致する場合がほとんどであったが、ダイアローグの場合、インフォーマントと談話協力者の両方が開始者になっている。本稿はインフォーマントの言語行動に焦点を当てるものであり、モノローグとダイアローグを同時に扱うことは難しいと判断した。したがって、本章ではまず、インフォーマントと談話協力者のモノローグを比較することでダイアローグが行われていない際の、インフォーマントのモノローグにおける言語間・場面間切り換えについて述べる。その次に、ダイアローグの開始者を参考にしながらダイアローグの切り換えについて述べる。4.1 ではモノローグについて、4.2 ではダイアローグについて述べる。

4.1. モノローグ

まず、本節でインフォーマントごとにモノローグの場面間切り換えの結果を述べる。図 4 は K01 の談話区画割合、表 5 は K01 によるすべてのモノローグの述語数合計である。

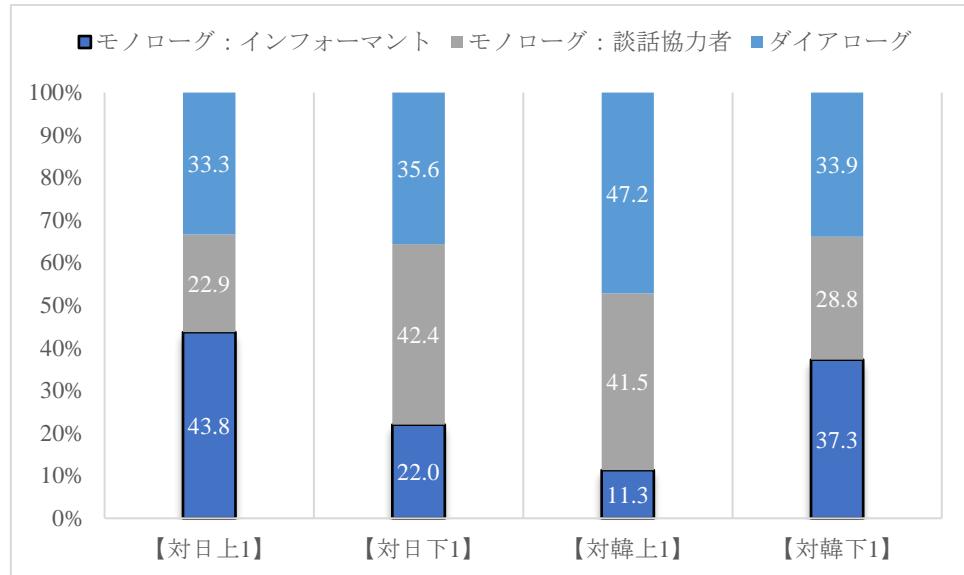


図4 談話区画の割合 (K01)

表5 K01の全体モノローグの述語数合計

【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
198	107	38	229

(a) K01のモノローグ

(a-1) 日本語談話

図4と表5から、【対日上】は【対日下】に比べてモノローグの割合が高く、モノローグにおける述語数も多い。また、談話協力者のモノローグと比較すると、インフォーマントのモノローグがほぼ2倍に上り、K01は【対日上】で談話協力者のモノローグを聞くよりは自分のモノローグを展開することに重点を置いていると言える。話題選択を分析した第3章の(a-1) (p.47) で、K01がJO01の質問に対して長く答えていることを述べたが、モノローグにおいてもそのような傾向が見出せる。つまり、モノローグの途中でJO01が参加し、一度ダイアローグや談話協力者によるモノローグになっていても、再びモノローグを展開し、会話の流れを戻していると言える。(6)に例を挙げる。「→」は例の中で注目する発話を示す。囲みと丸番号は省略し、各区画の冒頭にモノローグかダイアローグかを表示する。

(6)【対日上1】談話協力者の質問に対する長いモノローグ

《インフォーマントによるモノローグ》

- 0557 JO01 なにしてます?今。
 0558 K01 え、平日は仕事して一,
 0559 JO01 うん。

- 0560 K01 朝起きてすぐ、仕事、す一始まるんです=。
0561 K01 =9時半に起きて、
0562 JO01 うん。
0563 K01 まー、顔洗って9時50分ぐらいに"始めまーす"って話して>{<}。
-
- 《ダイアローグ》
- 0564 JO01 <<笑い>{>}、ぎりぎりまで寝てんじやん<笑いながら><<笑い>>{<}。
0565 K01 <<笑い>>{>}。
0566 K01 そう睡眠大事で<笑いながら>。
0567 K01 <んでー>{<}【【。
0568 JO01 】】<ま出勤>{>}時間0秒ですかね。
0569 JO01 確かにな。
-
- 《インフォーマントによるモノローグ》
- 0570 K01 でー、まー、昼はー、外出で、散歩するんですね↑。
0571 K01 こうー、<「駅名A」>{<}、
0572 JO01 <へ、へー>{>}。
0573 K01 の、<周辺>{<}、
0574 JO01 <はいはい>{>}。
0575 K01 うろうろして、
0576 JO01 うん。
0577 K01 でー、<##>{<}【【。
-
- 《ダイアローグ》
- 0578 JO01 】】<人>{>}います?
0579 K01 あ、結構多いですよ↑。
0580 JO01 まじか=。
0581 JO01 =で、みんないるんだ。
0582 K01 #、#####今日やばかったです。
0583 JO01 /沈黙 /天気よかったです 暖かかったしねー。
-
- 《インフォーマントによるモノローグ》
- 0584 K01 なんかレストランめっちゃ混んで"やばー、<まじか"と思って>{<}。
0585 JO01 <え、えー>{>}<笑いながら>?
0586 K01 <笑い>、"めっちゃ食べるやん、みんな"と思って<笑いながら>。
0587 JO01 あそな感じー?
0588 K01 でー、外はそんなにいないですね。
0589 K01 ま、普通に歩いて。
0590 JO01 ああー。
0591 K01 でー、まー、また戻ってー、すす作業始めて、で7時にあがつて、
0592 JO01 うん。

0593	K01	んで一、7時にあがって外出て <u>散歩する</u> んですよ。
《ダイアローグ》		
→ 0594	JO01	/沈黙 / <u>1日2回</u> ?。
0595	K01	うん、「駅名 B」とか一、<あと逆に「駅名 C の一部」>{<}.,
0596	JO01	<はいはいはい>{>}。
0597	K01	「駅名 C」とか一、高速道路沿い <u>歩く</u> と誰も <u>いなくて</u> 。
0598	JO01	あ一なるほど↑。
0599	JO01	繁華街じゃなくてって <u>こと</u> ですね。
0600	K01	<u>ん</u> そ <u>う</u> す <u>そ</u> うす。
0601	JO01	うーん。
《インフォーマントによるモノローグ》		
0602	K01	でそこら辺1時間一ぐらい <u>歩いて</u> 、 <u>で家帰つ</u> てあつ森ちょっと <u>やつて</u> 、 <u>であ</u> とま一 <u>音楽聞いたり</u> 一、 <u>YouTube</u> で最近はまってる <u>もの</u> <u>あって</u> 。

(6)は JO01 の質問 0557 から始まった K01 のモノローグである。JO01 はところどころ質問や反応をしながらダイアローグを始めることがあるが (0564・0578・0594)、K01 はその都度ダイアローグに参加しながらも、ダイアローグが終わると質問されなくとも自分の意志で再びモノローグを開始する。

一方、図 4 と表 5 から、【対日下】ではモノローグの割合や述語数が減っており、相対的に自分の話よりは談話協力者のモノローグの聞き手役に回っていることがわかる。(7)に談話協力者が長いモノローグをしている間に K01 が聞き手になっている例を挙げる。

(7)【対日下 1】談話協力者のモノローグ

		《談話協力者によるモノローグ》
0164	JY01	そううなんか、お兄ちゃんとかもさ、 <u>在宅</u> やねんか、今。
0165	K01	うんんん。
0166	JY01	<u>在宅</u> やけど、なんかその一、そのさ、オンニの会社が、そのコロナ出る前まではちょっとちょこちょこは会社行ってたって <u>言ってた</u> 。
0167	K01	あああー、<うううううう>{<}。
0168	JY01	<"あのー>{>}、あの事件から、いかり、行かれ<へんなった">{>}.,
0169	K01	<<笑い>>{>}。
0170	JY01	<u>みたい</u> な<笑いながら>。
0171	JY01	< <u>言ってた</u> >{<}<笑いながら>。
0172	K01	<うちの>{>}、うちの会社 <u>原因</u> やん<笑いながら>。
0173	K01	<###>{<}<笑いながら>。
→ 0174	JY01	<うう>{>}ううなんか、"びっくりした、俺"みたいな。

0175 K01 <笑い>。
0176 JY01 <笑い>。
→ 0177 JY01 だってゆってたもん。
0178 JY01 そうゆうふうに。
→ 0179 K01 やばいよなー。

《インフォーマントによるモノローグ》

0180 JY01 え、マスク持ってる？。

(7)では談話協力者がモノローグをしている間（0164-0179）、K01 は 0172 以外の実質発話はせず、聞き手となっている。K01 が自発的に聞き手と回っていることは、JY01 が 0174 で「みたいな」と引用マーカを用いたのち、もう一度 0177 で「ゆってた」と引用マーカを使用して発話を締めくくることを合図しているにも関わらず、相づち（0179）しか打っておらず、実質発話はしていないことからも読み取れる。JY01 のモノローグはここで終わってしまい、0180 における話題の変化とともに新しい談話区画に移動する。(8)も類似する例である。

(8)【対日下 1】談話協力者のモノローグ

《談話協力者によるモノローグ》

0368 JY01 でも、ちょっとー、なんーか、最近ほんまちょっとさー、いや人とは接して
るよ。
0369 JY01 ビデオで。
0370 K01 おー。
0371 JY01 ビデオ通話で<笑いながら>。
0372 K01 <<笑い>>{<}。
0373 JY01 <やーってるけどー、なんかー>{>}、お、面白くないよね。
0374 JY01 家でーさ、料理作ってさ、1人で<酒飲んで>{<}。、
0375 K01 <あー>{>}。
0376 JY01 さ、"あーあー"アマゾンプライム見て、"あーあー、最悪"、みたいな。
0377 K01 <やばい>{<}<笑いながら>。
0378 JY01 <"あー土日>{>}終わっちゃったー" みたいな。
0379 K01 やばい<笑いながら>。
0380 JY01 やばいやろー、もう。
0381 JY01 病みそうやわー、ほんま。

(8)でも JY01 がモノローグをしており、その際に K01 は相づちを打つのみで、聞き手役になっている。

(a-2) 韓国語談話

【対韓上】ではモノローグの割合が極端に低く、後述するダイアローグを除くと談話のほとんどが談話協力者のモノローグであった。【対韓上】でK01は聞き手役となっていることがわかる。

【対韓下】では反対にモノローグの割合が大きく増加しており、表5からも実際にモノローグでより多く発話していることが見て取れる。K01は【対韓下】で談話協力者のモノローグを聞くだけでなく、自らもモノローグを展開する傾向がある。

次に、K02について述べる。図5はK02の談話区画割合、表6はK02の全体モノローグの述語数合計である。

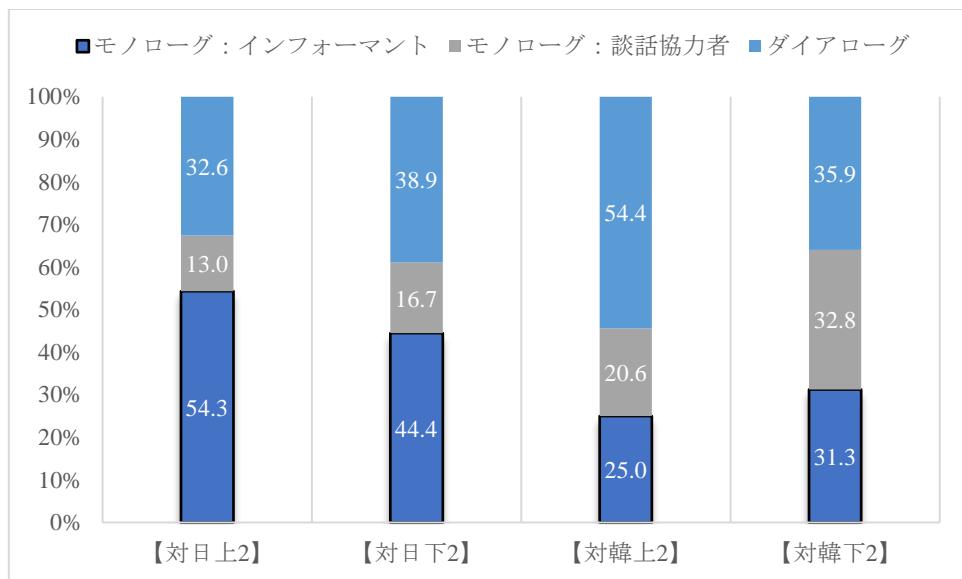


図5 談話区画の割合 (K02)

表6 K02の全体モノローグの述語数合計

【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
246	222	138	189

(b) K02のモノローグ

(b-1) 日本語談話

いずれの場面においても韓国語談話よりモノローグの比重が大きかった。場面間では【対日上】ではモノローグの割合が高く、【対日下】ではやや低い。ただし、その差は大きくなく、モノローグにおける述語数にも大きな差は見られず、場面間で切り換えていると判断することは難しい。

(b-2) 韓国語談話

【対韓上】ではモノローグの割合が低く、【対韓下】では高かったが、韓国語談話においても場面間の差が大きいとは言えない。ただし、表6では、少なくと

も日本語談話に比べると場面間の差が大きく、傾向として【対韓下】でよりモノローグを言っていると考えられる。また、いずれの場面においても日本語談話に比べてモノローグが少なかった。

最後に、K03 のデータを図 6 と表 7 に挙げる。

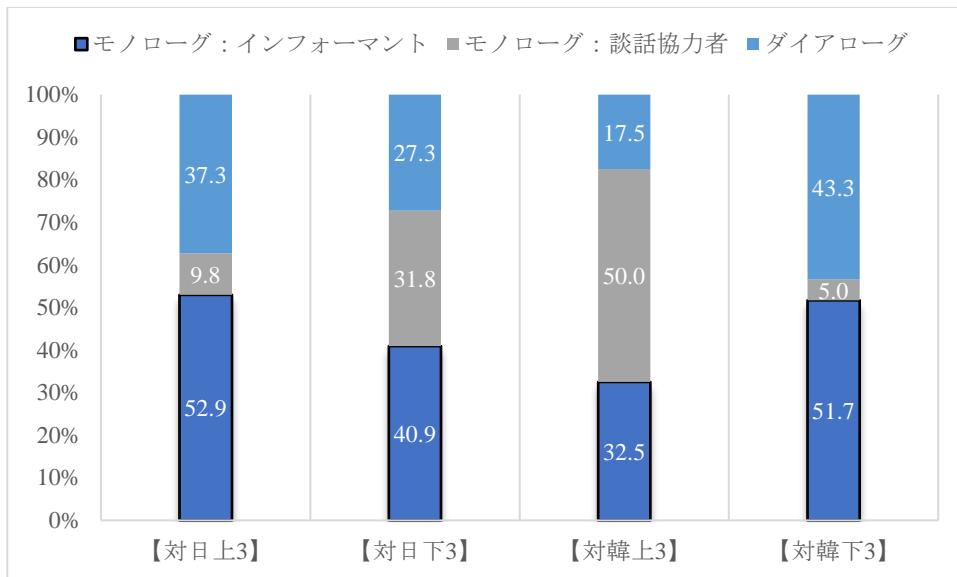


図 6 談話区画の割合 (K03)

表 7 K03 の全体モノローグの述語数合計

【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
212	159	127	328

(c) K03 のモノローグ

(c-1) 日本語談話

【対日上】ではインフォーマントによるモノローグの割合が高く、また、相対的に談話協力者によるモノローグは少なかった。表 7 から、述語の絶対数も【対日上】でやや多いことがわかる。K03 は【対日上】で談話協力者の話を聞くよりは、自らのモノローグを多く話しているように思われる。

【対日下】ではモノローグが比較的少なかった。他のインフォーマントと同じく、K03 は【対日下】で談話協力者の話を聞き、自分のモノローグはやや控える傾向を示している。

(c-2) 韓国語談話

【対韓上】ではインフォーマントによるモノローグが減る一方で、談話協力者によるモノローグは最も多い。K03 は【対韓上】で、目上である K003 に語らせながら、自分のモノローグは控えるという態度が見られる。

一方、【対韓下】では反対にモノローグの割合が大幅に増加し、述語数も増え

た。また、談話協力者のモノローグが極端に少ないとことから、【対韓上】と反対の談話参加、つまり、目上である自分自身がより話すことで談話に参加していると思われる。

モノローグの割合において、程度の差はあるが、インフォーマント全員が日本語談話では【対上】>【対下】、韓国語談話では【対上】<【対下】という傾向性を示しており、さらにどのインフォーマントも日本語談話より韓国語談話で場面間の述語数差が大きかった。

4.2. ダイアローグ

本節では各インフォーマントのダイアローグの切り換えについて述べる。図7はK01の談話区画割合である。また、モノローグはそのほとんどがモノローグ区画を開始した人とのモノローグの話者が同じであった一方、ダイアローグは誰でも開始することができる。本稿ではインフォーマントの言語行動に焦点を当てて分析するため、談話に現れたダイアローグの中身をさらに開始者別に分けて示す。表8はダイアローグの場面間開始者の内訳である。

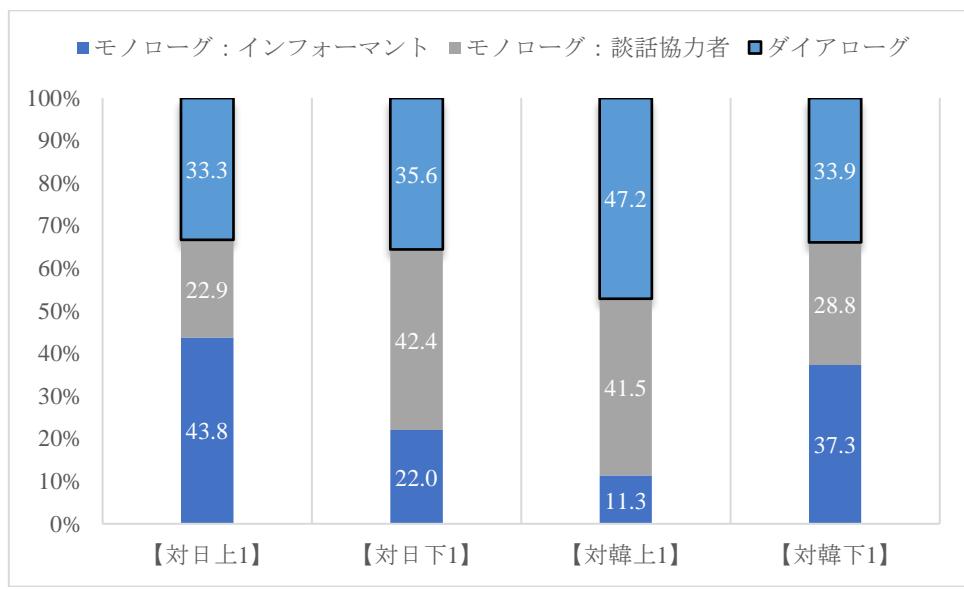


図7 談話区画の割合 (K01) (=図4)

表8 ダイアローグの開始者 (K01)

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
インフォーマント	3	7	13	6
談話協力者	13	14	12	14
計	16	21	25	20

(d) K01 のダイアローグ

(d-1) 日本語談話

図 7 を見ると、日本語談話では両場面とも 3 割程度になっており、談話中のダイアローグ数に場面間切り換えは見られない。つまり、K01 は日本語談話で上述のモノローグの割合のみを切り換える。

(d-2) 韓国語談話

図 7 から、韓国語談話では【対韓上】でダイアローグの割合が増え、ともに話すことを重視していることがわかる。表 8 でわかる通り、K01 は他の場面ではダイアローグを開始数が少ないが、【対韓上】ではその開始数が多かった。また、K01 が開始するダイアローグは、場面に関わらず、そのほとんどが談話協力者の発話に対して質問することで興味を示すものであり、談話協力者の発話をさらに引き出す、つまり、意図的なダイアローグの開始になっている。したがって、【対韓上】では他の場面に比べ、より興味を示すスタイルに切り換えていると考えられる。(9)に【対韓上】の例を挙げる。

(9)【対韓上 1】ダイアローグ

《談話協力者によるモノローグ》

0382 K001 내장— 쪽은 우리나라—, 우리나라라는 내장 쪽 먹을 때 엄청 깔끔하게 냄새도 없애고 그러는데—、 중국 쪽、 집은—、 냄새 좀 나드라고—。
内臓一側は韓国一、韓国は内臓側食べるときにすごくきれいに臭いも消すしやるけど一、中国の方の、店は一、臭いがちょっとするんだよね一。

《ダイアローグ》

- 0383 K01 아 그래요?
あそうですか?。
- 0384 K001 응。
うん。
- 0385 K001 그, 그 시부야 마라탕 집 되게 맛있어。
その、その渋谷の麻辣湯の店すごくおいしいよ。
- 0386 K01 /沈黙 /가 봐야겠네, 가라앉으면。
/沈黙 /行ってみないと、(コロナが) 鎮まつたら。
- 0387 K001 어— 까라앉으면 같이 가자。
うん—鎮まつたら一緒に行こう。
- 0388 K001 거, 나도 거기 되게 좋아하거든↑。
そこ、私もそこすごく好きだから↑。

0382 までは K001 のモノローグであり、K01 は 0383 で K001 の話に興味を示すため、「아 그래요? (あそうですか?)」と質問している。この質問に対し、

K001 が「うん」と答えることによってダイアローグが始まっている。K01 は【対韓上】でこのようなダイアローグの開始をより多く行っていた。

一方、【対韓下】ではダイアローグの割合が低く、表 8 で談話協力者に比べても、ダイアローグの開始数が大きくなかった。

次に、図 8 と表 9 に K02 のダイアローグをまとめて示す。

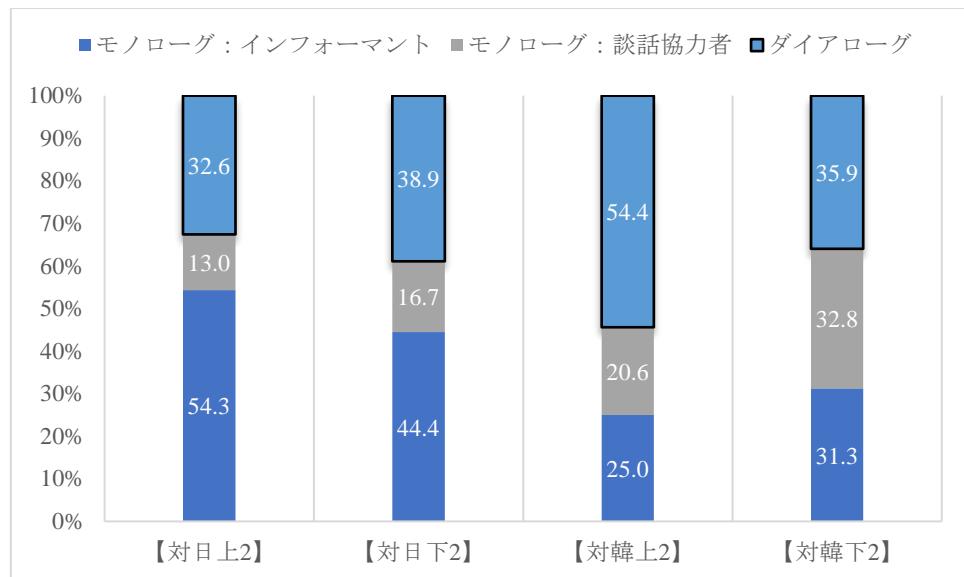


図 8 談話区画の割合 (K02) (=図 5)

表 9 ダイアローグの開始者 (K02)

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
インフォーマント	8	7	23	5
談話協力者	6	7	13	17
計	14	14	36	22

(e) K02 のダイアローグ

(e-1) 日本語談話

図 8 を見ると、K01 と同様、ダイアローグに大きな場面間切り換えは見られない。K02 の場合、日本語談話のモノローグにおいても場面間切り換えは目立たず、日本語談話では談話参加のスタイルを切り換える必要性を感じていないように思われる。

(e-2) 韓国語談話

図 8 を見ると、K01 と同様、【対韓上】でダイアローグが増える。表 9 でわかる通り、K02 の開始によるダイアローグが多かったが、そのほとんどの場合、K02 の質問による意図的なダイアローグ開始ではなく、(10)のように談話協力者の割り込みによる非自発的なものである。

(10)【対韓上 2】ダイアローグ

《ダイアローグ》

- 0404 K02 아니, 아, 그— 입—, 나 나 이번에 이제, 그거 갱신해야 되거든요,
여권↑。
いや、あ、その一こん一、私今回もう、それ更新しないといけないんですよ
よ,パスポート↑。
- 0405 KO02 /沈黙 /별씨?
/沈黙 /もう?。
- 0406 K02 어=。
うん=。
- 0407 KO02 =10 년 됐어?。
=10 年経った?。
- 0408 K02 <笑い>、여<笑いながら>。
<笑い>、うん<笑いながら>。
- 0409 K02 근데 우리 나 10 년<笑いながら>、<笑い>,,
でも私たち私 10 年<笑いながら>、<笑い>,,
- 0410 KO02 이제 나이가 많네—?
もう年齢が高いね—?。
- 0411 K02 시—、<10 년 전에—>{<>} 【【。
じゅ—、<10 年前に—>{<>} 【【。
- 0412 KO02 】】<너 그럼 삼십>{>}。
】】<あなたじや 30>{>}。
- 0413 KO02 너 이제 30 대야?
あなたもう 30 代なの?。
- 0414 K02 네네네네네。
はいはいはいはいはい。

(10)では 0404 で K02 が話を始めているが、KO02 は続きを待たず、K02 の発話に反応する (0405)。0405 から 0408 まで KO02 の質問に K02 が答えるというダイアローグが続き、その後、K02 は 0409 で発話を続けることを試みる。しかし、その直後に KO02 が再度 K02 をからかうような発話をしたり (0410)、もう一度質問をしたりしながら (0412・0413) K02 の発話の続きを邪魔している。その際、K02 がその都度それを無視せず答えることでダイアローグが成立する。【対韓上】では(10)のように談話協力者の割り込みを許容する形のダイアローグが多く見られるが、K02 の意図したものではないため、K02 がスタイルを切り換えたとは言い難い。K02 の質問から始まった意図的なダイアローグの開始は、23 件のうち 1 件しか見られなかった。

一方【対韓下】ではダイアローグの割合が減り、また、表9を見るとK02の発話から始まるダイアローグも減ってしまう。K02は韓国語談話のダイアローグにおいても切り換えは見られない。

最後に、図9と表10にK03の結果をまとめます。

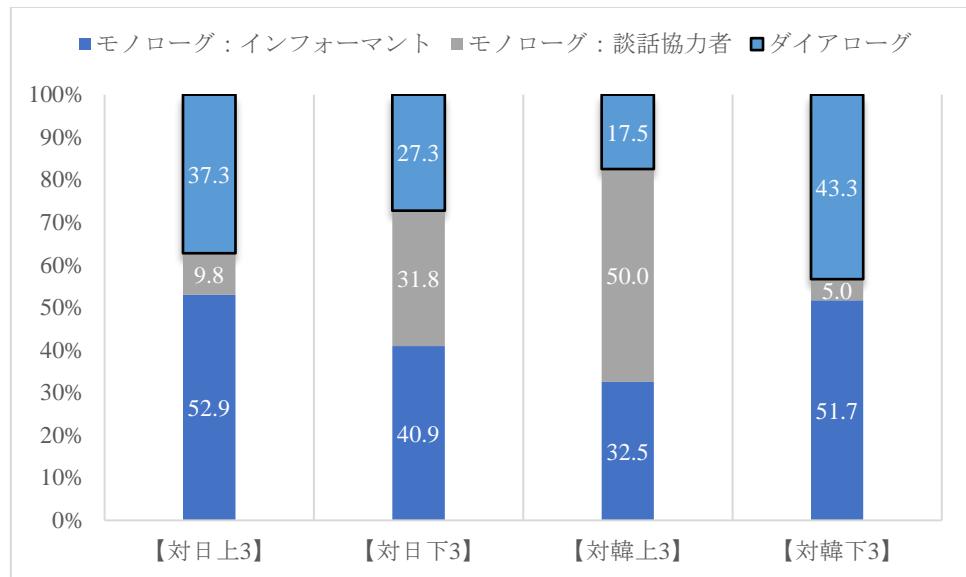


図9 談話区画の割合 (K03) (=図6)

表10 ダイアローグの開始者 (K03)

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
インフォーマント	6	6	3	11
談話協力者	12	6	4	15
計	18	12	7	26

(f) K03のダイアローグ

(f-1) 日本語談話

【対日上】ではダイアローグがやや大きい割合を占める。しかし、表10を見ると、【対日上】においてダイアローグが増えたのはJO03によるものであり、K03が場面間でダイアローグを切り換えていたとは考えにくい。JO03の開始したダイアローグはそのほとんどがK03の話に興味を示す(11)のようなものであった。

(11)【対日上 3】談話協力者によるダイアローグ

《インフォーマントによるモノローグ》

- 0180 K03 なんか、あめ、アメ村だったかな。
 0181 K03 この近くのアメ村ーあるんですけど、
 0182 JO03 うん、<うん>{<}。

0183 K03 <そこのー>{>}、ところでなんか、アニメとかゲームとかとコラボしてー、や
るー,,

0184 JO03 うん。

0185 K03 イスケーブー、脱出ゲーム??,,

0186 JO03 うーん。

0187 K03 を見て↑、があつ,,

0188 JO03 うん。

0189 K03 あるってゆうポスターを、見ました<笑い>。

《ダイアローグ》

→ 0190 JO03 それってさ、脱出ゲームって、その、制限時間内に出れんかったら、ななに
も、特に怖いことはない?

0191 K03 はい。

0192 JO03 罰ゲーム<みたいなある>{<}?。

0193 K03 <もう>{>}、失敗だけ、みたいな??。

0194 JO03 あー<ははーそれやつたら>{<},,

0195 K03 <失敗するだけ>{>}。

0196 JO03 いいよ<笑いながら>。

(11)の前半は K03 のモノローグであり、JO03 は K03 が言う脱出ゲームについて興味を感じ、0190 で詳細について聞くことで自発的なダイアローグ開始を行っている。JO03 から開始されたダイアローグは、(e-2)の(10)のように割り込みによるものではなく、K03 は【対韓上】におけるダイアローグの増加にあまり関与していない。

(f-2) 韓国語談話

【対韓上】ではダイアローグが少なく、【対韓下】では多かった。また、表 10 から、K03 によるダイアローグ開始も【対韓下】で多いことがわかる。割合や開始数だけでなく、両場面ではダイアローグが談話協力者の発話への反応か、あるいは、関係のない話題に移るか、といった開始の性格の差も見られる。(12)は【対韓上】、(13)は【対韓下】の代表的な例である。

(12)【対韓上 3】ダイアローグ

《談話協力者によるモノローグ》

0232 K003 =언제 끝날지도 모르겠고 이게 전 세계가 끝날라면 일단 오래 걸릴 거 같애
=。
=いつ終わるかもわからないしこれが全世界が終わろうとするととりあえず長
くかかりそう=。

0233 K003 =우리나라만 끝나도 되는 일이 아니고—,,

- =韓国だけ終わっていい問題じゃなくて一,,
- 0234 K03 으으。
ううん。
- 0235 KO03 이제一、 전 세계가 끝나야一 완전히 끝나는 건데一<笑いながら>、<
<##>{<},,,
これが一、全世界が終わらないと一完全に終わらないのに一<笑いながら>、<
<##>{<},,,
- 0236 K03 <그니까요>{>}。
<そうですね>{>}。
- 0237 KO03 언제 끝날지 모르겠고一、 <그치>一{<}。
いつ終わるかわからないし一、 <でしょう>{<}。
-
- 《ダイアローグ》
- 0238 K03 <아 근데>{>} 막、 변종一、 변종 이런 것도 <또 나올>{<},,
<あでも>{>}なんか、変種一、変種こういうのも<また出>{<},,
- 0239 KO03 <맞아>{>}。
<そう>{>}。
- 0240 K03 거 같다는 얘기도 많이 듣고 해서一、 <##>{<}。
そうだという話もたくさん聞いたりして一、 <##>{<}。
- 0241 KO03 <그>{>}、 다행히一 그 백신이 변종도 커버할 수 있다는 말이 많드라고。
<その>{>}、幸い一そのワクチンが変種もカバーできるという意見が多かった
よ。
- 0242 K03 아一 진짜요?
あ一本当ですか?。
- 0243 KO03 언一。
うん一。

(12)の前半では KO03 のモノローグが展開されており、 K03 は 0238 で関連する話を持ち出し、 KO03 の話に興味があることを示している。 K03 の【対韓上】におけるダイアローグは(12)のように談話協力者の発話に対して新しい情報の提示や提案をするようなものであった。一方で、【対韓下】では K03 によるダイアローグは主に話題の転換時に見られる。(13)にその例を挙げる。

(13)【対韓下 3】ダイアローグ 《日本での運転文化→お菓子》

《インフォーマントによるモノローグ》

- 0513 K03 =<근데>{<},,
=<でも>{<},,
0514 KY03 <으>{>}。

- <うん>{>}。
- 0515 K03 확실^히—,,
確かに—,,
- 0516 KY03 응。
うん。
- 0517 K03 한국보다는 안전운전인 거 같더라고。
韓国よりは安全運転のようだった。
- 0518 KY03 어— 맞아요。
うん—そうです。
- 0519 K03 /沈黙 /한국은 에바야。
/沈黙 /韓国は（運転の仕方が）ありえない。
- 0520 KY03 <맞아 한국은 좀 에바야>{<}。
<そう韓国はちょっとありえない>{<}。
- 0521 K03 <한국은 진짜>{>}、 진짜 운전 잘하지 않으면은 너무 <힘하고 무서운>{<}.,
<韓国は本当一>{>}、本当に運転がうまくなかったら<険しすぎて怖い>{<}.,
- 0522 KY03 <응、 응>{>}。
<うん、 うん>{>}。
- 0523 K03 거 같애。
と思う。
- 0524 KY03 으으응—、 맞아요。
うううん—、 そうです。
- 0525 K03 /沈黙 /한국은 너무 많아。
/沈黙 /韓国は多すぎる。
- 0526 KY03 응—。
うん—。

《ダイアローグ》

- 0527 K03 /沈黙 /말하니까 되게 배고프다。
/沈黙 /話したらすごくお腹すく。
- 0528 K03 <열심히 먹고 있지만>{<}。
<一生懸命食べているけど>{<}。
- 0529 KY03 <나도 배고파<笑いながら>>{>}。
<私もお腹すいた<笑いながら>>{>}。
- 0530 K03 <웃이>。
- 0531 KY03 뭐 먹어요?。
何食べるんですか?。
- 0532 K03 /沈黙 /과자。
/沈黙 /お菓子。

(13)の前半は日本と韓国の運転文化について話す部分である。0526 で当該話題が終わってから、K03 は 0527 で全く関連のない話題で発話をはじめ、KY03 がそれに反応する (0529・0531) という形でダイアローグが始まっている。しかし、K03 の最初の発話 (0527) を見ると、韓国語の 2 種類の普通体のうち、「-다 (-ta)」を使用している。これは 0529 で KY03 がもう一つの普通体の「-어 (-er)」を使用していることと対照的である。박재남 (2013) は「-다 (-ta)」の口語における意味的特性を考察し、感嘆・独り言・聞き手への一方的な宣言などの機能を持つと述べている。K03 は 0527 で談話協力者に直接話すというより、独り言のように発話を投げ出しているように思われる。【対韓下】で見られる K03 からのダイアローグは、そのほとんどが独り言のような発話を談話協力者に投げかける、しかも直前の発話とは直接的な関係を持たない（話題を変える）ものであった。

5. 談話参加と対人関係

表 11 に 4 節の結果をまとめた。「-」はデータがないという意味ではなく、言語間でも場面間でも同じ割合を占め、切り換えが見られなかったことを示すものである。

表 11 談話参加まとめ

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01				
モノローグ	多	少	少	多
ダイアローグ	—		多	少
K02				
モノローグ	多		少	—
ダイアローグ	—			—
K03				
モノローグ	多	少	少	多
ダイアローグ	—		少	多

全員に共通する点として、日本語談話ではダイアローグの割合に場面間で切り換えが見られないことである。K01 と K03 は韓国語談話ではダイアローグを切り換えていていることから、2 人は談話参加形態において、韓国語談話で対人関係により敏感に反応していると思われる。この結果は、第 4 章で分析した発話量の切り換えの結果とも共通している。以下では、各インフォーマントが対人関係に応じて談話参加形態をどのように切り換えているかを述べる。

(A) 言語間の切り換え：各言語における基本的なスタイルの切り換え

言語間の切り換えが目立つののは K02 のみであり、ここでは K02 のみについて述べ

る。K02 の場合、モノローグの割合が言語間で切り換えられている。つまり、日本語談話ではモノローグがより多く見られる一方、韓国語談話では比較的に少ない。第 4 章では K02 の発話量が日本語談話で多く、韓国語談話で少ないことを述べた。つまり、K02 の発話量はモノローグと連動しており、日本語談話で発話量が多いのはモノローグの多さに起因する。反対に、韓国語談話で発話量が少ないのはモノローグの少なさが原因であると考えられる。モノローグは自らの意志で開始・維持が比較的に容易であるため、ダイアローグに比べると談話中に自ら制御しやすい部分であると思われる。以上の結果から、K02 は発話量および談話への参加の仕方をモノローグによって調整していることがわかる。K02 は日本語談話では、モノローグを展開することによって、談話への参加の仕方において、談話協力者の発話機会が少なくなる自己焦点的スタイルを使用する一方、韓国語談話では、モノローグを控え、談話において聞き手となる相手焦点的スタイルに切り換えていいると言える。

(B) 場面間切り換え

(B-1) K01

K01 の日本語談話の場面間スタイル切り換えを見ると、ダイアローグには場面間切り換えが見られず、モノローグの割合のみが切り換えられている。そのモノローグは【対日上】で多く、【対日下】で少ない。(A)で述べた K02 の結果と同様、第 4 章の結果と連動している。つまり、発話量が多かった【対日上】はモノローグが増えた結果であり、発話量が少なかった【対日下】はモノローグが減った結果である。K02 と同じく、発話量および談話への参加の仕方を、制御しやすいモノローグで調整し、【対日上】では自己焦点的スタイル、【対日下】では相手焦点的スタイルに切り換える。

一方、韓国語談話ではモノローグのみではなくダイアローグの割合も切り換えられる。4.2 で見たように、これは偶然そうなったわけではなく、K01 がダイアローグを多めに開始した結果である。上述の通り、ダイアローグは相手の協調が必要なため制御が難しい。そのため、K01 にとってより予想しやすいと思われる韓国語母語話者に対してはダイアローグの制御が容易になり、韓国語談話でのみ切り換えたと解釈することができる。

スタイル切り換えの内容を見ると、【対韓上】ではモノローグを控え、ダイアローグを多めにしており、ダイアローグのほとんどは談話協力者の発話内容に対する質問や反応であった。K01 は【対韓上】で自分の話することより談話協力者とともに談話を作り上げることにより重点を置いており、相手焦点的スタイルを使用していると言える。一方で【対韓下】ではモノローグが多くなり、ダイアローグは減るという自己焦点的スタイルに切り換える。自分が目上となつたことで、【対韓下】の談話協力者に、自分が目下として行った役割を期待している可能性もうかがえる。

(B-2) K02

K02 の場合、そもそも両言語において目立つ場面間スタイル切り換えは見られなかった。

(B-3) K03

K03 は日本語談話では K01 と類似したスタイル切り換えを行っている。つまり、【対日上】ではモノローグが多い自己焦点的スタイル、【対日下】ではモノローグが少ない相手焦点的スタイルに切り換える。

一方、韓国語談話ではモノローグとダイアローグの割合が比例している。つまり、モノローグが少ない場面ではダイアローグも少なく、モノローグが多い場面ではダイアローグも多い。具体的な結果を見ると、【対韓上】ではモノローグとダイアローグが両方とも少なく、談話協力者のモノローグの割合が圧倒的に高かった。K03 は【対韓上】で、談話参加形態に関係なく、話すこと自体を控えているように思われる。つまり、自分が話すよりは談話協力者に語らせ、自分は聞き手に回ることを選んでいる。このようなスタイルは談話協力者により多くの発話機会を与えるものであり、相手焦点的スタイルであると言えよう。反対に、【対韓下】ではモノローグもダイアローグも多く、談話協力者によるモノローグは極端に少なくなる。相手の話す機会にはあまり気を配っていない、自己焦点的スタイルに切り換えるということである。

以上をまとめると、表 12 の通りになる。

表 12 談話参加におけるスタイル切り換え

	日本語談話		韓国語談話	
	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点
K02		自己焦点		相手焦点
K03	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点

表 12 から、K01・K03 は談話参加において、場面間スタイル切り換えを行っていることがわかる。また、その場面間スタイル切り換えは言語間で正反対になっており、言語間でのスタイル切り換えも見られる。特定言語・場面に使用するスタイルが共通しており、当該言語・場面で用いるべきスタイルに対する認識を共有している可能性がある。

一方、K02 は言語間スタイル切り換えのみが見られた。その際、K02 が各言語で使用するスタイルは、K01・K03 が【対上】に用いるスタイルと同種類のものである。たとえば、K02 は日本語談話で自己焦点的スタイルを使用しており、そのスタイルは K01・K03 の【対日上】に使用されるものと同じである。K02 の場合、場面間スタイル切り換えは行わないものの、各言語において目上に使用してもよさそうなスタイルを、当該言語全体に使用

しているように思われる。

第4章と同じく、K02は談話協力者の母語のみが談話参加のスタイル切り換えに影響するが、K01・K03は談話協力者の母語および年齢の上下も影響すると言える。

第6章 情報提供・情報要求の切り換え

1. はじめに

談話では情報のやり取りも頻繁に行われる。情報のやり取りの仕方には、情報を持つて いる側が自発的に情報を提示する方法と、情報を持っていない側が相手に質問する方法があり、本稿では前者は**情報提供**、後者は**情報要求**と呼ぶことにする。言い換えると、情報提供は自分の持っている情報、情報要求は相手の持っている情報を談話で扱うものであると言える。また、談話の中にそれぞれをどの程度使用しながら談話を構築するかは言語間・場面間で切り換えが見られる。(1)は自ら自分の情報を公開する情報提供、(2)は相手に情報を聞き出す情報要求の例である。便宜上、インフォーマントの発話にのみ「→」をつける。

(1)【対韓下 1】情報提供

- 0237 KY01 나도 친구들이랑一、 30 살 되면 여행 가자 막 그랬었는데。
私も友達と一、30歳になつたら旅行行こうと言つてたけど。
- 0238 K01 좋네。
いいね。
- 0239 K01 30<살 여행>{<}.
30<歳旅行>{<}。
- 0240 KY01 <<웃기>>{>}。
- 0241 KY01 그냥 여행을 가고 싶은、 <빌미일>{<}.,
ただの旅行に行きたい、<言い訳な>{<}.,
- 0242 K01 <<웃기>>{>}。
- 0243 KY01 뿐이긴 한데。
だけだけど。
- 0244 K01 그런 거지 뭐=。
そんなものだよまあ=。
- 0245 K01 =나도一 뭐= 그냥、 "야、 우리 간 적 없으니까 가자" 이런 식으로。
=私も一なに一普通に、"おい、私たち行ったことないから行こう"こういうふうに。
- 0246 KY01 <웃기>。
- 0247 K01 친구들이랑 여행 가면 좋더라고。
友達と旅行行ってみたらよかったです。

(1)では KY01 が旅行の話を持ち出す部分であり、 KY01 が 0237-0243 まで情報提供を行つた後、 K01 は KY01 からの質問がない状況で自発的に「自分も適当な理由で旅行に行こうとすること (0245)」「友達と旅行に行つたらいいこと (0247)」を話す。結論を先に述べ

ることになるが、【対韓下 1】ではこのような情報提供が高い割合を占めていた。一方、【対韓上 1】では以下のような情報要求の例が多数見られる。

(2)【対韓上 1】情報要求

- 0027 K01 <笑い>、 웬 효자손?<笑いながら>。
<笑い>、 いきなりなんの孫の手?<笑いながら>。
- 0028 KO01 응、 <笑い>、 효자손。
うん、 <笑い>、 孫の手。
- 0029 K01 어디서 샀어요, 그거?。
どこで買ったんですか, それ?。
- 0030 KO01 예— 유키、 ひやくえん舍。
こ—そのその、 百円ショップ。
- 0031 KO01 팔잖아=。
売っているでしょう=。
- 0032 K01 =이 팔아요?。
=あ売っているんですか?。
- 0033 KO01 어—、 다 팔아。
うん—、 全部売っているよ。

(2)で K01 は 0027・0029・0032 の連続で KO03 の持っている情報を聞き出す情報要求をしている。このように、情報提供と情報要求の回数、割合は言語間・場面間で切り換えられることがある。

本章では、こういった情報提供と情報要求を対象に、韓国人日本語使用者が言語間・場面間で両者をどのように切り換えるかを簡単に分析する。まず、2 節では本稿で取り上げる情報提供と情報要求について説明する。3 節ではデータの分析結果を提示し、4 節では対人関係の観点から結果を考察する。

2. 情報提供・情報要求の認定

本章では情報を提供するか、要求するかを分析対象とするため、自発的な情報提供と、「質問—応答」の形式を持つ情報要求を対立的なものとして考える。つまり、情報のやり取りの仕方は情報提供・情報要求の 2 種類に分けられ、情報提供が行われている際には情報要求は行われず、その反対も同じである。本章の情報提供を以下の通りに定義する。

- (i) **情報提供**：相手の質問に対する応答ではなく、自発的に発話することで聞き手に何らかの情報を伝える発話

本章では以上を基準に、(3)のようなものを情報提供と認定した。

(3)【対日上 1】情報提供

- 0086 K01 でそれ終わつ、たらやつ、と新しいプロジェクトの方入つてー。
0087 JO01 うん。
→ 0088 K01 でー、今回つて海外懸案ですね↑。
0089 K01 完全に。
0090 JO01 /沈黙 /あ、そうなんだ。
0091 JO01 へー。
→ 0092 K01 日本、日本リリースしないんですよ。

(3)の0086・0088・0092のように、自身が持っている情報を、質問されずに自ら提示するものが情報提供である。集計の際には発話を単位にしており、(3)におけるK01の情報提供数は3である。

次に、情報要求を以下の通りに定義する。

(ii) **情報要求**：相手に質問することで、相手が持っている何らかの情報を質問の応答として要求する発話

情報要求のための質問としては以下の(4)のような疑問文と(5)のような確認要求文の2種類を認める。

(4)【対韓上 1】情報要求（疑問文）

- 0027 K01 <笑い>、 웬 효자손?<笑いながら>。
<笑い>、 いきなりなんの孫の手?<笑いながら>。
0028 KO01 응、 <笑い>、 효자손。
うん、 <笑い>、 孫の手。
→ 0029 K01 어디서 샀어요, 그거?。
どこで買ったんですか,それ?。
0030 KO01 여— 그거, ひやくえん倅。
こーそのその、百円ショップ。

0027・0029のような疑問文はKO01に質問し、何らかの応答（情報）を求める発話であり、情報要求に当たる。この場合、情報要求による直接的な応答（0028・0030）は分析の対象ではない。情報提供と同じく、情報要求も発話を単位で集計し、(4)におけるK01の情報要求数は2である。

(5)【対韓上 2】情報要求（確認要求文）

- 0427 K02 어 그래 가지고 이제 여권을— 새로 발급을 받을려고 하는데—、 이번에 그
한국 여권 새로워졌잖아요。

うんそれでもうパスポートを一新しく発行してもらおうとしてるけどー、今回その韓国のパスポート新しくなったじゃないですか。
 → 0428 K02 파란 색으로 바꾸잖아。
 青に変えるでしょう。

(5)のように相手に確認を要求する発話も情報要求とする。確認要求も聞き手に発話させるものであり、真偽疑問文と同じく命題の真偽という情報を引き出す役割をするためである。また、応答による情報は同じく分析の対象としない。(5)における K02 の情報要求数は 2 である。

3. 情報提供・情報要求の切り換え

以上のような情報提供・情報要求は、その内部でも様々な下位分類が可能であるが²⁰、こうした下位分類では言語間・場面間の切り換えが見られなかった。したがって、本節では情報提供と情報要求が情報のやり取りにおいて占める割合と、インフォーマントがそれをどのように切り換えるかについてだけ分析する。表 1 はインフォーマント 3 人の情報提供および情報要求の実数（上段）と割合（下段の括弧）である。2 節で述べた通り、発話単位で集計し、各欄の実数は発話数である。

表 1 情報提供と情報要求

		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	情報提供	82 (78.1)	62 (67.4)	37 (46.8)	132 (82.5)
	情報要求	23 (21.9)	30 (32.6)	42 (53.2)	28 (17.5)
	計	105 (100)	92 (100)	79 (100)	160 (100)
K02	情報提供	95 (78.5)	105 (79.5)	124 (65.1)	123 (72.8)
	情報要求	26 (21.5)	27 (20.5)	65 (34.9)	46 (27.2)
	計	121 (100)	132 (100)	189 (100)	169 (100)
K03	情報提供	116 (80.6)	92 (73.6)	42 (65.6)	178 (86.4)
	情報要求	28 (19.4)	33 (26.4)	22 (34.4)	28 (13.6)
	計	144 (100)	125 (100)	64 (100)	206 (100)

²⁰ たとえば、情報提供の場合、提供する情報の種類など、情報要求の場合、疑問文の種類や情報の領域などについて分析することができる。

以下に表 1 からわかるることを、インフォーマントごとにまとめる。

(a) K01

(a-1) 日本語談話

明確ではないが、傾向として、【対日上】では【対日下】に比べて情報提供の割合が比較的に高く、情報要求の割合が低い。第 3 章から第 5 章まで述べて来た通り、K01 は JO01 の質問に触発され、長い発話をしている。しかし、その発話全てが本章で取り扱わない「情報要求に対する応答」として分類されるわけではなく、一部は情報提供と分類されるため、このような結果となっている。(6) に例を挙げる。

(6)【対日上 1】情報要求一応答と情報提供

- 0353 JO01 /沈黙 /えー、帰れるんじゃないですか?。
0354 JO01 ん<かえーって>{<},,
→ 0355 K01 <やー>{>}。
0356 JO01 戻ってくるかは知らないんすけど。
0357 K01 <笑い>。
0358 K01 そこですよ。
0359 JO01 <うーん>{<}。
→ 0360 K01 <逆に>{>}こっちきてー、"まだ 2 週間隔離されますー"ってなつたらそれもう
いけないし<笑いながら>。
0361 JO01 そうですよねー=。

(6)は JO01 が 0353 で情報要求し、K01 が情報要求に答える部分である。0353 に対して直接的に答えとなっているのは、0355 のみである。しかし、K01 は情報要求に対して答えるだけでなく、要請されていない情報を自発的に開示する(0360)。【対日上】ではこのような「応答の続き」が多数見られた。一方、【対日下】ではそれに比べて情報提供は減り、情報要求が多くなっている。

ただし、日本語談話は場面間の差が少なく、どちらも明確な切り換えをしているとは言い難いと思われる。

(a-2) 韓国語談話

韓国語談話では場面間ではっきりした切り換えが見られる。まず【対韓上】では情報提供は少なく、情報要求が多い。(7)に【対韓上】の情報要求の例を挙げる。

(7)【対韓上 1】情報要求

- 0172 KO01 나 반신-욕 할 때 맨날-、 이렇게、 우유 넣어서 하거든。
私半身一浴するときにいつもー、こう、牛乳入れてするけどね。

- 0173 KO01 <500 미리짜리>{<}。
 <500 ミリのもの>{>}。
- 0174 K01 <우유>{>}?。
 <牛乳>{>}?。
- 0175 KO01 응。
 うん。
- 0176 K01 다 넣어요?, <500 미리>{<}?。
 全部入れるんですか?, <500 ミリ>{<}?。
- 0177 KO01 <#一>{<}。
- 0178 KO01 어。
 うん。
- 0179 KO01 아니 그러니까, 얼굴을, 피부에도 하고一,,
 いやだから、顔を、肌にもして一,,
- 0180 K01 응一。
 うん一。
- 0181 KO01 몸에도 바르고一、 이렇게 하면서一 이제 이게 이렇게 하다 보면 이게 떨어지
 잖아, 그一、 <반신욕조、 안으로>{<}。
 体にも塗って一、こうしながらもうこれがこうしているとこれが落ちるで
 しょう, その一、<半身浴槽、の中に>{<}。
- 0182 K01 <응어어어어>{>}。
 <うんおおおお>{>}。
- 0183 KO01 그래서 그 물로도 이렇게 하거든↑。
 それでそのお湯でもこうするんだよね↑。
- 0184 KO01 그래서一、 막、 등에 뭐 난 거부터 해서一、 것도 고치구一、 미백도 되고一
 、 피부 되게 좋아졌어。
 それで一、もう、背中に何かできたのからして一、それも治して一、美白に
 もなって一、肌がすごくよくなった。
- 0185 K01 그걸 어느 타이밍에 넣는 거예요?。
 それをどのタイミングに入れるんですか?。
- 0186 K01 처음부터?。
 最初から?。

【対韓上】では0174のように、談話協力者の発話の一部を繰り返し、談話の内容を確認するような情報要求が多く見られた（第7章参照）。また、0176・0185・0186のように談話協力者が提示した話題に対して、より具体的な内容を聞くための情報要求も頻繁に見られる。

一方で、【対韓下】では情報提供が急増し、情報要求はあまり見られない。第

5章で、インフォーマント全員が【対韓下】でモノローグの割合が高くなつたことを述べたが、モノローグの増加が情報提供の増加にも影響していると思われる。

(b) K02

(b-1) 日本語談話

日本語談話では場面間の切り換えは見られなかつた。

(b-2) 韓国語談話

他のインフォーマントに比べると切り換えていると断言はできないが、少なくとも、場面間での切り換えが見られない日本語談話に比べると、【対韓上】では情報提供が減り、情報要求が増える一方、【対韓下】では情報提供が増え、情報要求は減る。このような傾向性は、他の2人のインフォーマントと共通するものである。

(c) K03

(c-1) 日本語談話

韓国語談話に比べると明確ではないが、【対日上】では情報提供が多く、情報要求が少ない一方、【対日下】では情報提供が減り、情報要求が増える。K03の日本語談話はK01の日本語談話と同じ傾向を見せている。

(c-2) 韓国語談話

韓国語談話では他のインフォーマントと同じ場面間切り換えが見られた。つまり、【対韓上】では情報提供が少なく、情報要求が多い一方、【対韓下】では情報提供が増え、情報要求は減っている。

次節ではなぜこのような結果が見られたのか、情報提供と情報要求の割合について対人関係の観点から考察する。

4. 情報提供・情報要求と対人関係

3節では日本語談話と韓国語談話の場面間切り換えが正反対の傾向にあることを見た。本節ではなぜそのような結果になっているか考察する。情報提供・情報要求の切り換えにおいては、K01・K03が同じ結果であり、K02のみ日本語談話でやや異なる結果になつた。したがつて、以下ではK01とK03をまとめて考察し、次にK02について論じる。

(A) K01・K03

情報提供・情報要求において、日本語談話ではやや不明瞭な結果を示しているが、いずれも【対日上】で情報提供が多く、情報要求が少なかつた。つまり、相手の発話機会にあまり配慮しない、自己焦点的スタイルであると言える。K01・K03は【対日上】で発話量やモノローグが増えることを第4章と第5章で述べたが、情報提供もそれらと連動し、増えていると思われる。また、情報提供が増えるだけでなく、情報要求が比較的少なくなることから、相手に発話の機会をあまり与えないことも確認できる。一方、【対日下】では談話協力者が持つ情報について情報要求をより多め

にしていた。自分ではなく相手に焦点を当てた、相手焦点的スタイルであると言える。ただし、日本語談話における場面間スタイル切り換えは比較的曖昧なものであり、強く意識されているとは言い難い。K01・K03 は、日本語談話では情報のやり取りスタイルを切り換えなくとも対人関係に大きな影響は与えないと考えていると推測される。

それに対して、韓国語談話ではいずれも明確な切り換えが見られる。【対韓上】では情報のやり取りの手段として情報要求が比較的多く採用されている。3 節で述べた通り、情報要求は主に談話協力者の話に興味を示すための手段になっている。また、奥山（2002）では、韓国人は初対面の相手にも質問を多用すると述べており、情報要求が失礼な行為にはなっていないことがわかる。情報要求が多くなるということは相手が持つ情報に興味を示し、談話の展開において相手に焦点を当てることである。つまり、K01・K03 は【対韓上】で相手焦点スタイルを使用していると言えよう。一方の【対韓下】では逆に、目上の談話協力者のときほど興味を示すために情報要求を多用することではなく、自己焦点的スタイルに切り換えられる。前章までの結果と同じく、K01・K03 は【対韓下】では談話協力者ではなく自分の話したいことに焦点を当てて談話に参加することが許されると思っているようである。また、このようなスタイル切り換えは日本語談話に比べて強く意識されていることがわかった。

(B) K02

日本語談話では場面間スタイル切り換えが観察できなかった。ただし、細かい差ではあるが、両場面の情報提供割合が韓国語談話より若干高かったことから、K02 は日本語談話において自分の持っている情報により焦点を当てる自己焦点的スタイルを使用している可能性がある。このような結果は奥山（2002）とも一致するものであった。奥山（2002）は日韓の母語話者同士の初対面会話を分析し、日本人は最初の 5 分間で質問より自己開示が多い一方、韓国人は自己開示より質問をするということを明らかにしている。奥山（2002）は初対面における結果ではあるが、K02 でも同じような傾向が見られ、韓国語談話に比べて日本語談話で質問（情報要求）が若干減るという結果になる。

一方、韓国語談話ではわずかながら場面間切り換えが見られ、その結果は(A)で述べた K01・K03 と同じであった。つまり、【対韓上】では情報要求で相手の情報に焦点を当てる相手焦点的スタイル、【対韓下】では情報提供で自分の情報を述べる自己焦点的スタイルを使用し、切り換えている。

以上を、表 2 にまとめる。K02 の上段は言語間スタイル切り換え、下段は場面間スタイル切り換えを示すものである。

表2 情報のやり取りにおけるスタイル切り換え

	日本語談話		韓国語談話	
	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点
K02	自己焦点		相手焦点	
	切り換えなし		相手焦点	自己焦点
K03	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点

表2から、全員が韓国語談話では【対韓上】で相手焦点的スタイル、【対韓下】で自己焦点的スタイルを使用し、切り換えていることがわかる。インフォーマント全員が韓国語談話においては共通した情報のやり取りスタイルを持っていると言えよう。

日本語談話ではK01・K03のみが場面間でスタイル切り換えを行っている。また、その場面間スタイル切り換えは言語間で正反対となり、K01・K03は言語間・場面間でスタイル切り換えを行っている。

一方、K02の日本語談話に関しては、韓国語談話との言語間切り換えのみが見られ、場面間スタイル切り換えは行っていない。その際、K02が各言語で使用するスタイルは、K01・K03が【対上】に用いるスタイルと同種類のものであった。また、K02自身も【対韓上】に韓国語談話全般のスタイルを適用している。K02の場合、韓国語談話においては言語間・場面間スタイル切り換えを行い、日本語談話では、目上に使用してもよさそうなスタイルを、当該言語全体に使用していると思われる。

第7章 発話内容確認の切り換え

1. はじめに

コミュニケーション中には相手の発話内容を聞き取れなかったり、理解できなかったりする状況が発生することがある。このような場合、コミュニケーションの参加者はコミュニケーションを妨げるトラブルを解決するために何らかの対応策をとることが予想される。以下にトラブルと、トラブルへの対処の例を挙げる。囲みはトラブルが発生した箇所、「→」は注目する発話である。

(1)【対日上 1】

- 0507 JO01 /沈黙 /最近、みんながー、"エクストリームジョブ"見ろ"っていうんですけど
そんな面白いんですか?
→ 0508 K01 なにそれ?、<笑い>。
0509 JO01 おっとー↑。

(1)では JO01 の発話 0507 に出現した「エクストリームジョブ」という語を、K01 がわかつておらず、コミュニケーションに支障を来たしている。K01 は 0508 でわからなかつた部分について明確にするため、「なにそれ?」と聞いている。一般にこのような言語行動は Schegloff, Jefferson & Sacks (1977) の用語に従って、「他者開始」と呼ばれる。しかし、本稿ではインフォーマントの行為に焦点を当てるため、発話内容確認という術語を用いることにする。

また、(1)では発話内容確認を行う際に笑いが発生しているが、他の場面では発話内容確認を行う際に笑いが見られず、笑いというストラテジー（詳細は 3.2.2）を場面間で切り換えることもある。(2)に笑いが見られない発話内容確認の例を挙げる。

(2)【対日下 1】

- 0391 JY01 髪の毛切りに行った?
→ 0392 K01 うん?
0393 JY01 髪の毛とか切りに行ってる?
→ 0394 K01 髪の<毛>{<}>?
0395 JY01 <最近>{>}.
0396 JY01 うん。

本章ではこのように、コミュニケーションに支障を起こすトラブルに対処する発話内容確認を対象とし、その切り換えを分析する。以下では、2 節で先行研究について述べ、3 節で本章の対象である発話内容確認の認定方法と分析の枠組みについて説明する。続く 4 節では発話内容確認の切り換えがどのように行われるか分析し、最後に 5 節で対人関係の視

点から韓国人日本語使用者の発話内容確認のスタイル切り換えについて考察する。

2. 発話内容確認に関する先行研究

Schegloff, Jefferson & Sacks (1977) は修復を、会話における発話産出・聞き取り・理解にかかる問題に対処するものであると定義している。また、誰が開始するか、誰が修復を完遂するかによって自己開始自己修復 (SISR;Self initiated self repair)、自己開始他者修復 (SIOR;Self initiated other repair)、他者開始自己修復 (OISR;Other initiated self repair)、他者開始他者修復 (OIOR;Other initiated other repair) の 4 つに分類した。本章ではそのうち、他者開始修復 (OISR、OIOR) の他者開始の部分のみを対象としているため、以下では他者開始修復についての研究のみを挙げる。なお、本節では先行研究に言及するために「他者開始」「他者開始修復」という用語を用いるが、3 節以降では上述の通り「発話内容確認」という用語を使用する。

他者開始修復については、主に構造 (Schegloff 2000、鈴木 2008 など)、開始の形式・表現 (張玲玲 2012、Hayashi & Kim 2015 など) の研究がされてきた。一方、他者開始は自己開始に比べて非優先的であり (Schegloff, Jefferson & Sacks 1977)、FTA (Face Threatening Act) になる可能性が高いと考えられるが (Brown & Levinson 1978)、一方では Grice (1975) の関係の公理の観点から、理解のトラブルに比べ聞き取りのトラブルに対する他者開始はフェイス侵害度が低く、必ずしも FTA になる行為ではないという見解もある (Ozaki 1989:49)。

他者開始の FTA 性とフェイス侵害度を緩和する具体的なストラテジーに着目したものに義永 (2007) がある。義永 (2007) は、中国・台湾・タイの日本語学習者が日本語の接触場面で行った他者開始修復について、Brown & Levinson (1987) のポライトネス・ストラテジー理論の枠組みでストラテジーを分析した。その結果、不確実さを示す認識的スタンス、独話的発話、修復の承認を示すことでポライトネス・ストラテジーが果たされることがわかった。また、他者開始修復そのものがポライトネス・ストラテジーとして機能する場合があることも指摘している。

また、他者開始修復の言語間比較もなされており、津田 (2015) は日本語と英語の他者開始修復比較した。その結果、日本語が英語より他者開始修復の回数が多く、形式面では特に繰り返しが多いことを明らかにした。

しかし、FTA 性を持っている他者開始を、個人が言語と場面間でどのように取り扱い、どのように切り換えているかについては研究がなされておらず、本章では談話スタイルの一部として他者開始を取り上げて分析する。

3. 発話内容確認の認定と分析の枠組み

3.1. 発話内容確認の認定

Schegloff, Jefferson & Sacks (1977) は「修復」について会話における発話産出・聞き取

り・理解にかかわる問題に対処することであると定義した。しかし、張玲玲（2012）では「修復の概念についてこれまで様々な見方を提出されてきたのであるが、なかなか統一的な結論に至っていない」としており、本節では本章の対象とする発話内容確認（他者開始）およびトラブル源の認定について明確にしておく。

本章におけるトラブル源とは、スムーズな会話の進行を妨害するような問題が発生している場所である。具体的には、Schegloff, Jefferson & Sacks (1977) でいう「発話産出」「聞き取り」「理解」に関わる問題が生じている場所のことである。また、発話内容確認とは、相手の発話におけるトラブル源に対して、修復を要請することを指す。以下に例を挙げて説明する。

(A) 相手の発話産出に対する発話内容確認

相手の発話が何らかの理由で止まったり、正確な表現での産出ができなかつたりしてコミュニケーションにトラブルが発生した際に使うもので、(3)のようなものである。

(3)【対日上 1】発話産出トラブルに対する発話内容確認

0504 JO01 あーそうだ、あれ一聞きたかった。
→ 0505 K01 うん?。
0506 JO01 あのー、なんだっけ。
0507 JO01 /沈黙 /最近、みんながー、エクストリームジョブ見ろっていうんですけどそんな面白いんですか?。

(3)の 0504 では JO01 が聞きたいことを具体的に産出できず、コミュニケーション上のトラブルが発生している。そのトラブルに対して K01 は 0505 で「あれ」の具体的な発話内容を確認するべく、「うん?」と発話している。この「うん?」のようなものを発話内容確認とする。

(B) 聞き取りに対する発話内容確認

相手の発話が聞き取れなかつたか、聞き取った内容に確信が持てない際に使うもので、(4)のような例がある。オーバーラップによる聞き取り問題の対処もこのタイプの発話内容確認で行われている。

(4)【対日下 2】聞き取りトラブルに対する発話内容確認

1081 K02 その、なんてゆう、度が,,
1082 JY02 うーん。
1083 K02 やり<すぎ>{<}>?。
1084 JY02 <すぎる>{>}?。
1085 JY02 うん、<うん、度が>{<}>,,
→ 1086 K02 <すぎる>{>}?。

1087 JY02 過ぎる?。

(4)では K02 の 1081 の発話の続きを 1084 で JY02 が補おうとしたが、1083 とオーバーラップしてしまい、K02 は JY02 が補った内容に確信が持てない状態である。そこで K02 は 1086 で JY02 の発話を繰り返すことで、「自分が聞いたものが合っているか」と、発話内容確認を行う。

(C) 理解に対する発話内容確認

このタイプの発話内容確認は、情報が抜けたり表現が明確ではなかつたりするなどの問題により、当該発話の意味が全体または部分的に理解できず、適切な反応ができない場合に行うものである。(5)のような場合である。

(5)【対話下 1】理解トラブルに対する発話内容確認

0079 JY03 <いっちゃん>{<},,
0080 K03 <うーん>{>}。
0081 JY03 始めにやってエンドは、途中で、あのー<笑いながら>、飼ってる猫が,,
0082 K03 あ。
0083 JY03 ##尻尾で、<あの>{<},,
0084 K03 <うん>{>}。
0085 JY03 コードに絡まって<笑いながら>,,
0086 K03 おお<笑いながら>。
0087 JY03 あのキューティー失敗して<笑いながら>、<###>{<},,
0088 K03 <悲鳴>{>}。
0089 JY03 ##するってゆう<笑いながら>。
0090 K03 ほんとに?。
→ 0091 K03 猫って実況者の猫?
0092 JY03 そそそ実際飼ってるね、っこが。

(5)ではゲームについて話している途中、JY03 があるゲーム実況者の猫に言及しているが (0081)、「ゲームではなく実際に存在する猫である」「実況者が飼っている猫である」ことは明示していない。K03はそれを確認するべく、0091で「猫って」と、トラブル源を特定して発話内容確認を行っている。

本章では以上の(A)(B)(C)を発話内容確認と認定し、以下の 4 節で分析を行う。

3.2. 分析の枠組み

本節では本章の分析の枠組みを提示する。発話内容確認について述べる際にはその形式、位置、トラブルの種類、ストラテジーまで考慮すべきものが多いが、本章ではスタイル切り換えが見られた形式とストラテジーを中心に分析する。3.2.1 に発話内容確認の形式、

3.2.2 に発話内容確認のストラテジーの枠組みについて説明する。なお、3.1 で述べた発話内容確認のトラブル源の(A)相手の発話産出、(B)聞き取り、(C)理解の別は、スタイル切り換えには関わっておらず、分析の枠組みには含めていない。

3.2.1. 発話内容確認の形式

他者開始の形式については Schegloff, Jefferson & Sacks (1977) が最初に分類し、Schegloff, Jefferson & Sacks (1977) や Hayashi & Hanano (2013) は各形式がトラブル源をどのくらい特定しているかを分析した。たとえば、Hayashi & Hanano (2013) は、トラブル源を特定することがほぼ不可能な Open-class 形式から、トラブル源を最も厳密に特定する形式の Understanding check まで、5 つの形式を図 1 のように示した。

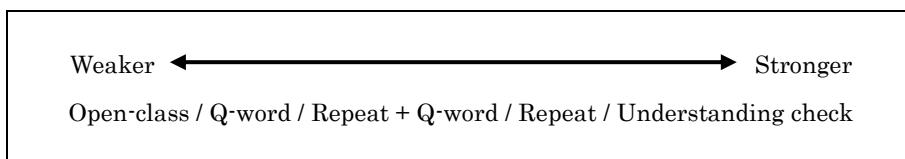


図 1 他者開始（発話内容確認）の形式 (Hayashi & Hanano 2013:296)

上述の通り、発話内容確認は談話に必須不可欠なものである一方、談話の流れを妨げるものである。したがって、なるべく早く修復を終わらせ、元の流れに戻す必要があるが、どれだけ早く戻れるかは、図 1 に提示された発話内容確認の形式と関係する。各形式の詳細な説明は後述するが、たとえば、Open-class のようにトラブル源を特定することが難しい形式の場合、トラブル発話を発し、聞き手から発話内容確認を受けた話者は、自らトラブル源がどこにあるかを推察する必要があり、そのため修復まで時間がかかる可能性がある。反対に Understanding check のようにトラブル源の特定に加えて修復の手がかりまで提供するような形式の場合、修復は早く終了し、談話は元の流れに戻る。したがって、図 1 で左にある形式ほど談話の進行への貢献度は低く、右に行くほど談話の進行への貢献度は高くなると言えよう。

Kim (1999) と Suzuki (2010) は以上の先行研究を参考に韓国語と日本語の他者開始形式を整理している。本稿では、Kim (1999) と Suzuki (2010) を参考に、次の表 1 のような分類を設けて分析する。表の最上段が最もトラブル源の特定に労力を要する形式であり、下の段に行くほどトラブル源が特定しやすい形式となっている。たとえば、1 段目の「非特定」は文字通りトラブル源を特定しない形式、「え?」「うん?」などを指す。このような形式はトラブル源を特定しないがためにトラブル発話の話者が自分の発話の中のどの部分がトラブルを起こしているかを自ら察する必要があり、談話の進行の妨げになる度合いが高い。一番下の「理解候補」はトラブル発話がうまく理解できなかった際に、発話内容確認を行う話者が自分で考えた理解の候補を提示する形式である。トラブル発話の話者にとってトラブル源の特定だけでなく、トラブルの修復まで手助けしてもらえる形式であり、談話の進行の妨げになる度合いが最も低い。なお、表における例は Kim (1999) と

Suzuki (2010) のものをそのまま引用した。

表 1 本稿の発話内容確認の形式

本稿での名称	日本語 (Suzuki 2010)	韓国語 (Kim 1999)
非特定	Open-class repair initiators: え? うん? なに? はい? あ? は? へ? ふん?	예(はい)? 네(はい)? 응(うん)? 어(うん)? 뭐(なに)? (上昇イントネーション)
疑問詞	Category-constrained interrogatives: だれ? いつ? どこ?	
繰り返し+疑問詞 ²¹	Positioned interrogatives: おばあちゃんがなに?	
繰り返し	Utterance-targeted interrogatives ²² : そちらって? Repeats: A: 食事要らない。 B: 要らないの?	Questioning repeat: A: 연습문제에서 좀 내셨어요? (練習問題から少し出しました?) B: 연습문제에요? (練習問題ですか?)
理解候補	Candidate understanding: A: うーんもうちょっとかな。 B: もうちょっとって一時間ぐらい?	Candidate understanding: A: 말을 이해를 못 하더라고요. (話が理解できないんですよ。) B: 사람들이요? (人々がですか?)

表 1 には先行研究の例を挙げたが、以下では本稿の例でより詳細に説明する。

(A) 非特定

文字通り、トラブル源を特定しない形式である。トラブル発話の話者にトラブル源に対するヒントが全く与えられず、修復まで長い時間がかかる可能性がある。つまり、最も談話の進行に貢献しない形式である。(6)に例を挙げる。

²¹ ただし、本稿のデータではこのタイプの発話内容確認は 1 回も見られなかったため、以下の結果からは省く。

²² Suzuki (2010) の Utterance-targeted interrogatives には例に挙げた「そちらって?」というふうにトラブル源を特定するものと、「どういうこと?」のようにトラブル源を特定しないものがある。本稿では前者のみを「繰り返し」に分類し、後者は「疑問詞」に分類している。

(6)【対日上1】非特定

- 0435 JO01 /沈黙 /あでも、たこ焼き焼き機と一。
→ 0436 K01 え?
0437 JO01 <<笑い>>{< }。
0438 K01 <<笑い>>{> }。

(6)の0435の「たこ焼き焼き機」は唐突に出てきたものであり、K01にとってすぐには理解できないトラブル源となっている。K01は0436で「え?」と、「たこ焼き焼き機」がトラブル源になっていることをマークすることなく発話内容確認を行っている。

(B) 疑問詞

疑問詞疑問文による発話内容確認であり、トラブル源の種類が特定できる。たとえば、「どこ」という疑問詞から、発話の中の「場所」がトラブル源になっていることが把握できる。そのため、「非特定」よりはトラブル源が察しやすく、談話進行に貢献する形式である。(7)がその例である。

(7) 【対韓上 1】 疑問詞

- | | | |
|--------|------|--|
| 0333 | KO1 | 어디예요?, 마一、매운 마파두부는?
どこですか?, ま一、辛い麻婆豆腐は?。 |
| 0334 | KO01 | 시부야에 있어↑。
渋谷にあるよ↑。 |
| 0335 | KO1 | 그래<요>{<}?。
そう<ですか>{<}?。 |
| 0336 | KO01 | <되게>{>} 맛있는 집 있는데↑。
<すごく>{>}おいしい店あるけど↑。 |
| → 0337 | KO1 | 어디?
どこ?。 |
| 0338 | KO01 | 그、 뭐지 돌솥에 이렇게 끓여주는 데 있어。
その、 なに石焼でこう作ってくれるところあるよ。 |
| 0339 | KO1 | 시부<야에>{<}?。
しぶ<やに>{<}?。 |
| 0340 | KO01 | <근데>{>} 시부야。
<でも>{>}渋谷。 |
| 0341 | KO01 | 어 시부야 안에서 쪼끔 들어가 이제。
うん渋谷の中で少し入るこう。 |

(7)では0334の「渋谷」という地名がトラブル源になっており、K01はそれに対し、

0337 で「どこ?」と質問することで、トラブルの種類が場所であるということをマークしている。

(C) 繰り返し

トラブル源となった語や句を繰り返す形式である。発話の中のどの部分がトラブル源となっているか正確に特定する形式であり、トラブル源の種類のみが特定できる「疑問詞」よりも談話進行の貢献度が高い。(8)に例を挙げる。

(8)【対日下 1】繰り返し

- 0393 JY01 髪の毛とか切りに行ってる?
→ 0394 K01 髪の<毛>{<}>?
0395 JY01 <最近>{>}。
0396 JY01 うん。

(8)では 0393 の「髪の毛」が唐突に話題として取り上げられ、すぐに理解することができず、K01 は 0394 でトラブル源となっている「髪の毛」を繰り返すことで発話内容確認をしている。

(D) 理解候補

理解の候補を提示することで、トラブル源の特定のみでなく、本来トラブル発話の話者が行うべき修復の候補を挙げるため、トラブル源の話者は Y/N で答えるだけで、最も早く修復が終わる。したがって、談話進行の貢献度が最も高い発話内容確認である。(9)に例を挙げる。

(9)【対韓上 1】候補

- 0532 KO01 /沈黙 /ユ一、 [K01 회사는 괜찮지?], 엔터테이먼트 쪽이니까。
/沈黙 /その一、 [K01 の会社は大丈夫だよね?], エンターテイメントの方だから。
→ 0533 K01 뭐一、 수익이요?
なに一、 収益ですか?
0534 KO01 응、 코로나에도。
うん、 コロナでも。

(9)では 0532 の「K01 회사는 괜찮지? (K01 の会社は大丈夫だよね?)」という発話において、「会社の何が大丈夫なのか」を正確に言っていないため、トラブル源となっている。K01 は 0533 で「수익이요? (収益ですか?)」と理解の候補を出し、「会社の収益が大丈夫か」という意味なのかを確認する。

3.2.2. 発話内容確認に施されるストラテジー

2 節で述べた通り、発話内容確認は FTA になる可能性があり (Schegloff, Jefferson & Sacks

1977、Ozaki 1989 など)、フェイス侵害度を緩和するためのストラテジーが施される場合がある。したがって、本節ではデータで見られた緩和ストラテジーを、Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論に基づいて整理する。また、フェイス侵害度を緩和させるだけでなく、強化させる行動も見られた。同じくフェイス侵害度に関わるため、本節でまとめておく。つまり、大きく FTA 緩和ストラテジーの(A)ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー (以下、PPS) (笑い併用) と(B)ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー (以下、NPS) (丁寧体使用・不確実表現使用・沈黙)、(C)FTA 強化行動 (割り込み) の 3 つにまとめる。なお、(A)から(C)のいずれも使用されなかった場合、少なくとも言語的なストラテジーはとっていないと判断し、「ストラテジーなし」にした。以下で例を挙げて説明する。

(A) PPS : 笑い併用

Ikeda (2003) では日本語のインタビューに現れる笑いを分析し、笑いが会話参加者同士の一体感を高める機能を果たしていると述べている。笑いは談話相手のポジティブ・フェイスに配慮することができ、本章でも発話内容確認に笑いを併用することを、談話協力者のポジティブ・フェイスに配慮するストラテジーとして認める。(10)に例を挙げ、ストラテジーを施している部分を下線で示す。

(10)【対日上 2】PPS : 笑いの併用

0067 JO02 うーん、オニニ行ったときー、ソファーとかなかったもん。
→ 0068 K02 <笑い>、これ?
0069 JO02 うん=。

(10)では ZOOM の画面に映る K02 のソファーが話題になっている。JO02 はどのソファーなのか特定しておらず、K02 は 0068 で「これ?」と発話内容確認を行っている。その際、笑いを併用することで PPS を行っている。

(B) NPS

(B-1) 丁寧体使用

丁寧体と普通体の対立は日韓両言語に共通するものである。データからは談話内容確認を行う際に、丁寧体を用いて談話相手のネガティブ・フェイスに配慮するストラテジーが見られた。なお、丁寧体の使用はストラテジーではなくわきまえと見る見解もあるが (井出 2006 など)、本稿のデータでは言語や場面に関わらず(7)や(10)などのように普通体を使用することが多かったため、発話内容確認においては丁寧体をストラテジーとして用いていると考えられる。(11)に丁寧体を用いる発話内容確認の例を挙げる。

(11)【対韓上 2】NPS : 丁寧体の使用

0021 K002 <전보다>{>} 더 못하는 거 같은데?。

[前より>{>}もっと下手なようだけど?。]

- 0022 K02 뭐라고요?
なんですって?
0023 KO02 전보다 더 못하는 거 같<##>{<}。
前よりもっと下手なよう<##>{<}。

(11)では0021の発話を聞き取れず、トラブル源になっている。K02は0022で発話内容確認を行う際、丁寧体を用いている。

(B-2) 不確実表現使用

FTAになり得る発話内容確認を行う際、自分の発話内容も不確実であるということを示す表現を用い、談話相手のネガティブ・フェイスに配慮するストラテジーも用いられる。また、このストラテジーは3.2.1で挙げた「理解候補」形式の発話内容確認のみに用いられる。

(12)【対韓上1】NPS:不確実表現の使用

- 0397 KO01 그니까 그 때 한창 밖、 매주마다 먹으려 다닐 때보다 지금 몸무게가 더 많이
나간다니까↑。
だからそのころちょうど外、毎週ごとに食べに行ってたときより今が体重
がもっとあるんだから↑。
- 0398 K01 /沈黙 /<笑い>。
- 0399 KO01 이해一、 이해가 돼?
理解一、理解できる?
- 0400 K01 /沈黙 /<<笑い>>{<}。
- 0401 KO01 <집에서>{>} 집 밥 먹고一、 먹어 봤자 집에서 집 밥 먹고一、 내가 또 뭐 과
자 이런 걸 먹지도 않는데。
<家で>{>}家庭食食べて一、食べるとしても家で家庭食食べて一、私がまたそ
んなお菓子とかを食べるわけでもないのに。
- 0402 KO01 집 밥 먹고一、 막 과일 먹고一 이리、 이렇게 운동、 저녁에 나가서 운동하
고 그래도、 몸무게가 그 때보다 더 많이 나가。
家庭食食べて一、果物食べて一こう、こう運動、夕方に出て運動したりして
も、体重がその時よりもっとあるよ。
- 0403 K01 집 밥을 많이 드시나?
ご飯をいっぱい召し上がるのかな?。
- 0404 KO01 안 나가니까。
出ないから。
- 0405 KO01 활동량이 그르、 그렇게 차이가 난다니까一=。
活動量にそん、そんなに差がでるんだから一=。

(12)ではコロナ時代になってから KO01 の体重が増えたことについて話している。0397 の発話が理解のトラブルを起こしていることは、「理解できる?」という KO01 の発話 (0399) に続く K01 の沈黙 (0400) からも確認できる。K01 はトラブルにすぐには対処しなかったが、0403 で理解の候補を示すことで発話内容確認を行っている。その際の「ナ (かな)」は自分の発話が確実ではないことを示す機能を担っている。このような不確実表現を使うことで、談話協力者の意図を断定せず、談話協力者の領域に深く踏み込むことを避ける。つまり、談話相手のネガティブ・フェイスに配慮していると言える。

(B-3) 沈默

発話内容確認を行う前に、沈黙を挟むことである。FTA になり得る発話内容確認を行う前に、トラブル源の話者が自己修復できる間を与えることで、当該話者のネガティブ・フェイスに配慮するストラテジーである。

(13)【対韓下3】NPS：沈默

- 0078 KY03 근데<笑いながら> 그一、연예인 집에서 살던 애예요, 애가。
→ 0079 K03 /沈黙 /살던 애라고?=。
→ 0080 KY03 =<ঠ>、##>{<}>。
→ 0081 K03 =<はい>、##>{<}>。

(13)では KY03 が飼っている犬がもともと芸能人の家からもらってきた犬であることが話題となっており、その内容が K03 に理解のトラブルを起こしている。K03 は 0079 で「暮らしていた子だって?」と発話内容確認を行う際に、しばらく話の続きを待ち、KY03 のネガティブ・フェイスに配慮していると思われる。その結果、トラブルが発生した発話と発話内容確認の間に若干の沈黙が生じている。

(C) FTA の強化行動：割り込み

(A)や(B)のように、FTAを緩和するためストラテジーを施す場合もあるが、逆にFTAをより強化させる行動が見られる場合もある。発話内容確認を行う際に談話相手の発話を遮り、割り込むような行動である。割り込みはそれ自体、相手に邪魔されたくないという欲求であるネガティブ・フェイスを侵害する行為であるにも関わらず、データからは(14)のように、談話相手の発話に割り込んで発話内容確認を行う場合が見られた。発話内容確認が持つFTA性に、割り込みが持つFTA性をさらに足すような行動であると言える。

(14)【対日下 1】FTA : 割り込み

- 0705 JY01 あー、ユニバも行きたいけど、ディズニーランド行かれへんかったのバリ
ショッキングやった、本気で。
- 0706 K01 えー。
- 0707 JY01 それ<もー>{<}【【,,
- 0708 K01 】】<T>{>}DL?。
- 0709 JY01 あの。
- 0710 JY01 そう。
- 0711 JY01 ちゃう、シ一、シ一に行ったことなくて、<シ一>{<},,
- 0712 K01 <うん>{>}。
- 0713 JY01 行こうって話になった<やんか>{<}。

(14)では K01 が 0708 で発話内容確認を行う際に 0707 の JY01 の発話に割り込んでいる。割り込みによる発話内容確認は、そうではない発話内容確認よりも、相手のネガティブ・フェイスを侵害するため、発話内容確認が本来持つフェイス侵害度よりもその程度が強化されると思われる。

4. 発話内容確認の切り換え

本節では発話内容確認の形式、およびストラテジーが言語間・場面間でどのように切り換えられているかを、各場面の具体例を挙げながら見ていく。まず、すべての談話における発話内容確認の回数を表 2 にまとめる。

表 2 発話内容確認

		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	インフォーマント	8	5	8	-
	談話協力者	5	9	-	6
K02	インフォーマント	8	7	16	7
	談話協力者	14	25	14	7
K03	インフォーマント	2	7	4	7
	談話協力者	17	3	1	10

表 2 でわかるように、発話内容確認は全体談話の中でもその数が少なく、量的な分析には適さない。したがって以下では、各インフォーマントごとに事例によって詳細を分析する。具体的には、まず 3.2.1 で分類した発話内容確認の形式の観点から、次に 3.2.2 で分類した発話内容確認におけるストラテジーの観点から述べる。

4.1. K01

4.1.1. 形式

まず、発話内容確認の形式の切り換えについて述べる。表3にK01の発話内容確認の形式をまとめ、日韓の順に場面間切り換えを分析する。

表3 発話内容確認の形式 (K01)

	【対日上1】	【対日下1】	【対韓上1】	【対韓下1】
非特定	3	1	-	-
疑問詞	2	-	1	-
繰り返し	3	1	3	-
理解候補	-	3	4	-
計	8	5	8	-

日本語談話では「非特定」、「繰り返し」が場面間で共通している一方、「疑問詞」は【対日上】のみ、「理解候補」は【対日下】のみに見られる。また、【対日上】では表の上の方の形式がよく使われ、基本的に談話進行の貢献度が低く、【対日下】では反対に表の下側の形式がよく使われ、談話進行の貢献度が高い。まず、【対日上】の「疑問詞」の例を(15)と(16)に挙げる。

(15)【対日上1】疑問詞

- 0507 JO01 /沈黙 /最近、みんながー、"エクストリームジョブ"っていうんですけど
そんな面白いんですか?。
- 0508 K01 なにそれ?、<笑い>。
- 0509 JO01 おっとー↑。
- 0510 K01 初耳ですよ↑<笑いながら>。
- 0511 K01 エックストリームジョブ?。
- 0512 JO01 エクストリームジョブってなんかー、<韓国の>{<}。
- 0513 K01 <え、なんだろ>{>}。
- 0514 K01 [携帯を見ながら]エクストリームジョブ↓?。
- 0515 K01 /沈黙 /え ドラマですか?。
- 0516 JO01 ううん、映画。
- 0517 K01 エックストリームジョブ↓?。
- 0518 K01 /沈黙 /[携帯を見ながら]えー、なにこれ。
- 0519 K01 /沈黙 /[携帯を見ながら]初めて見た。

(15)では「エクストリーム・ジョブ」という有名な韓国映画を、JO01が話題として取り

上げている。しかし、日本のタイトルが韓国語の原題と異なるため、映画のタイトルが理解のトラブルになっている。K01 はそこで「なにそれ?」と、「疑問詞」を用いて発話内容確認を行った。3.2.1 で取り上げた Hayashi & Hanano (2013) のスケールでは疑問詞 (Q-word) はトラブル源の特定を強くしないため、トラブル源が含まれた発話の話者は修復のために自らトラブルが何かを判断しなければならない。つまり、「疑問詞」による発話内容確認は談話の本流に戻ることを遅延させる可能性が高いものである。しかし、談話の続きを見ると、0511 で「エックストリームジョブ?」と、同じトラブル源に対して、「繰り返し」で発話内容確認をし直している。Hayashi & Hanano (2013) では繰り返し (Repeat) はトラブル源の特定をより強く行う形式であると述べている。K01 は【対日上】で一度「疑問詞」による発話内容確認を行ったものの、0509 で JO01 がすぐには修復せず、元の談話に戻るのが遅くなるため、より早く解決できる「繰り返し」に言い換え、談話協力者の負担を減らしたと思われる。また、談話協力者の手間を省くべく自分で検索をかけ、0518-0519 でインターネットの情報を参照して談話を続けていくことからも、談話協力者への配慮がうかがえる。(16)も同じような例である。

(16)【対日上 1】疑問詞

- 0536 JO01 え韓国に **フィルマークス** みたいなサービスってあるんですか?。
→ 0537 K01 逆にそれなんですか<笑いながら>。
0538 JO01 /沈黙 /え。
→ 0539 K01 /沈黙 /フィルマークス?
0540 JO01 フィルマークスってゆう一、日本の、ま日本のアプリなんんですけど。
0541 K01 フィルマークス。
0542 JO01 <うん>{<}.
0543 K01 [携帯を見ながら]<これ>{>}か。
0544 K01 [携帯を見ながら]あ一、映画レビュー。

(16)でも K01 はトラブル源の「フィルマークス」に対して一回「疑問詞」による発話内容確認を行ったのち、0539 で「繰り返し」による発話内容確認を行い、談話協力者への負担を減らすと同時に元の談話に早く戻るための貢献をしている。また、その後は自分でインターネットで検索をかけ、0544 で見つかった情報を参照する。

以上のように、【対日上】ではトラブル源の特定の度合いが低い「疑問詞」による発話内容確認が「繰り返し」に言い換えられ、談話協力者に負担をかけず、談話進行に貢献するような配慮がなされている。一方、【対日下】では「疑問詞」は見られず、「理解候補」が用いられる。(17)にその例を挙げる。

(17)【対日下 1】理解候補

- 0037 K01 お店とかさしまってる?

- 0038 JY01 あー、梅田とかはしまってたな。
- 0039 K01 あー。
- 0040 K01 阪急<とか>{<}>?。
- 0041 JY01 <心斎橋>{>}とか。
- 0042 JY01 あそしまってたけどー、

K01 は大阪にある店がコロナの影響で閉まっているか聞いてるが、JY01 は「梅田」という広い地域について話しており、理解のトラブルが発生している。K01 は 0040 で梅田にある店の理解候補として「阪急（百貨店）」を挙げ、発話内容確認を行っている。Hayashi & Hanano (2013) では理解候補（Understanding check）が最もトラブル源の特定をしている形式であると述べており、K01 は【対日下】で談話進行の貢献度が高い形式を使用して発話内容確認を行っている。

次に、K01 の韓国語談話について述べる。表 3 でわかるように、K01 は【対韓上】でのみ発話内容確認を行っている。その際、談話協力者への負担が最も大きい「非特定」以外の形式を使用する。「理解候補」の例を(18)に挙げる。

(18)【対韓上 1】理解候補

- 0091 KO01 = 「駅名 A の一部」、「駅名 A」에서부터는 그렇게 멀지 않은 거 같애。
= 「駅名 A の一部」、「駅名 A」からはそんなに遠くないみたい。
- 0092 K01 응一。
うん一。
- 0093 KO01 응。
うん。
- 0094 KO01 시부야 가는 거리 정도 되지 않겠어?
渋谷まで行く距離ぐらいになるんじゃない?。
- 0095 K01 /沈黙 /「駅名 A」에서?
/沈黙 /「駅名 A」から?
- 0096 KO01 아니 예, 그 여기서 시부야 가는 거리보다 더 <짧을 수도 있#>{<}>?
いやこ、そのここから渋谷まで行く距離よりもっと<短いかもしだれ#>{<}>。
- 0097 K01 <あー>{>}。
<あー>{>}。

(18)では 0091 で「駅名 A」が出現することにより KO01 の 0094 が理解のトラブルを起こしている。K01 は 0095 で「「駅名 A」から?」と理解の候補を提示し、素早く修復のプロセスを済ませることで談話の進行に貢献しようとしている。

一方、発話内容確認が 1 例も見られなかった【対韓下】では以下のように発話内容確認を行ってもいいようなやり取りが見られる。

(19)【対韓下 1】発話内容確認が現れない部分

- 0118 K01 「地名 A」 한동안 코로나 많이 나오던데 괜찮아?
「地名 A」しばらくコロナいっぱい出ていたけど大丈夫?
0119 KY01 맞아 「病院名 A」 병원이 난리가 났<었지>{<}.
そう 「病院名 A」 病院一が大騒ぎだ<ったね>{<}.
0120 K01 <그니>{>}까.
<そう>{>}だね。
0121 K01 「病院名 B」 병원이랑 「病院名 A」 병원 다 나왔었잖아。
「病院名 B」 病院と 「病院名 A」 病院どっちも出ていたでしょう。
→ 0122 KY01 「病院名 B」 병원은一、 처음에는 그거였는데一、 첫 시작은 「病院名 A」 병원이었는데 사람 많이 나온 거는,,
「病院名 B」 病院は一、最初はあれだったけど一、最初の始まりは「病院名 A」 病院だったけど人（感染者）がいっぱい出たのは,,
0123 K01 응。
うん。
→ 0124 KY01 「病院名 A」 병원이었지。
「病院名 A」 病院だったね。
0125 K01 거기 그림 지가 안 하겠네?, 병원?.
そこじゃあ自ら（営業）しないよね?, 病院?.
0126 KY01 모르겠어, 하는 건지 안 하는 건지。
わからない, しているのかしていないのか。

ここで KY01 の発話 0122=0124 は「첫 시작은 「病院名 A」 병원이었는데」（最初の始まりは「病院名 A」 病院だったけど）と、逆接の接続助詞を使用したが、その後の節ではまた「사람 많이 나온 거는 「病院名 A」 병원이었지（人がいっぱい出たのは「病院名 A」 病院だったね）」と、「病院名 A」 が繰り返される。「感染が始まった病院」と「感染者が増加した病院」のどちらか一方が「病院名 B」 でないと発話の意味がすぐに理解できないような発話である。つまり、「最初の始まりは「病院名 A」 病院だったけど、感染者がいっぱい出たのは「病院名 B」 病院だった」などの文になった方が自然であるが、K01 が当の不自然に見える発話に対して発話内容確認を行おうとする様子は見られなかった。(20)も類似の例である。

(20)【対韓下 1】発話内容確認が現れない部分

- 0134 K01 한국 가고 싶다。
韓国行きたい。
0135 KY01 와=。
来て=。

- 0136 KY01 =어차피 재택 하는 거 여기 와서 해<笑いながら>。
 =どうせ在宅するついでにここに来てして<笑いながら>。
- 0137 K01 <笑い>。
- 0138 K01 애들 다 그 얘기 한다↑、<<笑い>>{<}>。
 友達みんなその話するんだよね↑、<<笑い>>{<}>。
- 0139 KY01 <<笑い>>{>}>。
- 0140 K01 "아니 그러면 재、 재택이면 집에서 해도 되는 거 아냐?" 이러는 거야—<笑いながら>=。
 "いや ジヤ在、在宅だったら家でしてもいいんじゃないの?" こういうの—<笑いながら>=。
- 0141 K01 =그래서。
 =それで。
- 0142 KY01 그러니까。
 でしよう。
- 0143 KY01 국적까진 상관없는 거 <아니냐고>{<}>。
 国籍までは関係ないん<じゃないの>{<}>。
- 0144 K01 <그건>{>} 맞는데—、그리、 내 집세—、<笑い>。
 <それは>{>} そうだけど—、その、私の家賃—、<笑い>。
- 0145 KY01 야、 그치。
 あ、 そうだね。
- 0146 K01 여기에 <집세>{<}> 【 【。
 ここに<家賃>{<}> 【 【。
- 0147 KY01 】】<그까>{>} 집세를、 안 낼 수 있는 기획데。
 】】<だから>{>} 家賃を、払わないことができる機会なのに。
- 0148 KY01 5월、 5월 집세 안 내고 그냥、 한국 들어와 있으면 <안 돼>{<}>?<笑いながら>。
 5月、5月の家賃払わずに普通に、韓国入っていれば<だめ>{<}>?<笑いながら>。
- 0149 K01 <그니까>{>}。
 <そうだね>{>}。
- 0150 K01 근데、 들어가면—、 격리당하니까。
 でも、入ったら—、隔離されるから。

(20)では在宅勤務の話をしており、KY01は在宅勤務中ならK01が国をまたがってもいいのではないかという意味で0143を発話している。その際、「국적 (国籍)」という不自然な語を使用してしまうが、K01がそれに対して発話内容確認を行うことはなかった。また、0147・0148のように、日本の事情と合わない発話に対しても疑問を表すことなく、0149で

「 그러니까（そうだね）」と発話することで当該発話を流している。

このように、【対韓下】にも発話内容確認を行ってもおかしくない部分は数箇所見られるが、K01は全く発話内容確認を使用しなかった。

4.1.2. ストラテジー

次に、K01に見られる発話内容確認のストラテジーを、3.2.2の枠組みに従って表4にまとめる。1回の発話内容確認に複数のストラテジーを用いる場合があるため、表の計欄が内訳の合計と一致しないことがある。

表4 発話内容確認のストラテジー (K01)

	【対日上1】	【対日下1】	【対韓上1】	【対韓下1】
ストラテジーなし	2	4	5	-
PPS 笑い併用	5	-	-	-
丁寧体	-	-	1	-
NPS 不確実表現	-	-	1	-
沈黙	1	-	2	-
割り込み	-	1	-	-
計	8	5	8	-

【対日上】では笑いを併用するストラテジーが目立つ。笑いの併用は冗談として用いられるツッコミの2例を除くと、すべて談話協力者がトラブル源を特定する負担度が高い「非特定」のような形式に見られる。上述の(15)と(16)以外に、(21)のような例がある。

(21)【対日上1】笑いの併用

- 0604 K01 あの4、4Kでー、<ひたす>{<}【【。
0605 JO01 】】<4K>{>}?。
0606 K01 ひたすらー、ソウルの一、街を歩くビデオがあるんですよ。
0607 JO01 /沈黙 /やばい=。
0608 JO01 もう末期じゃないですか。
0609 JO01 /沈黙 /K01さん。
→ 0610 K01 え?、笑い。
0611 JO01 あのー、日常に飢えてる感がやばい<笑いながら>。

(21)では趣味で町中を歩くだけのYouTube動画を見ているというK01の話にJO01が「もう末期じゃないですか」と答える発話が理解のトラブルを起こしている。K01が行った発

話内容確認（0610）はトラブル源の特定を行わず説明を要求する「非特定」であり、談話協力者に対する負担が最も高い。K01は負担をかける行為に対する補償として笑いを併用するというPPSを用いていると思われる。

一方、【対日下】では1回のみではあるが、反対にFTAを強化する行動である割り込みが見られる。(22)がその例である。

(22)【対日下1】割り込み(=(14))

0705 JY01 あー、ユニバも行きたいけど、ディズニーランド行かれへんかったのバリ
ショッキングやった、本気で。

0706 K01 えー。

0707 JY01 それ<もー>{<}【【.,

→ 0708 K01 】】<T>{>}DL?。

0709 JY01 あの。

0710 JY01 そう。

0711 JY01 ちゃう、シー、シーに行ったことなくて、<シ一>{<},,

0712 K01 <うん>{>}。

0713 JY01 行こうって話になった<やんか>{<}。

(22)で見るように、K01はJY01の発話0707に割り込みながら発話内容確認をしている(0708)。【対日下】ではFTAになる可能性がある行為であってもストラテジーを使わないこと、ひいてはよりフェイス侵害度を強化する行動が許されているため、このような行動が見られると考えられる。

【対韓下】で発話内容確認が1例も見られなかつたため、同言語での比較はできないが、【対韓上】ではNPSの丁寧体使用・不確実表現使用・沈黙がそれぞれ見られる。

4.1.3. K01まとめ

K01の結果をまとめると、以下の通りである。

(a) 日本語談話

(a-1) 形式：【対日上】では「疑問詞」を「繰り返し」に言い換え、【対日下】では「理解候補」を使用する。場面を問わず発話内容確認に談話進行の貢献度が高い形式を使用し、スタイル切り換えは明確に見られない。

(a-2) ストラテジー：【対日上】ではPPS・NPSを使用、【対日下】ではFTAを強化する行動をとり、場面間でスタイルを切り換える。

(b) 韓国語談話

そもそも【対韓下】で発話内容確認が現れず、場面間切り換えは分析できない。

4.2. K02

4.2.1. 形式

表 5 に K02 に見られた発話内容確認をまとめる。

表 5 発話内容確認の形式 (K02)

	【対日上 2】	【対日下 2】	【対韓上 2】	【対韓下 2】
非特定	3	1	12	3
疑問詞	-	-	-	-
繰り返し	1	5	2	3
理解候補	4	1	2	1
計	8	7	16	7

K02 の場合、使用する形式は場面間で差がないが、好む形式は場面間で異なるように思われる。両言語の両場面で「非特定」「繰り返し」「理解候補」が用いられ、日本語談話では【対日上】で「理解候補」が、【対日下】で特に「繰り返し」が好まれる傾向がある。(23)に【対日上】の「理解候補」の例を挙げる。

(23)【対日上 2】理解候補

- 0031 K02 イケアの方が、もっとなん、かわいいじゃないですか?。
 0032 JO02 え、かわいいかな。
 0033 JO02 ちゃ、でかいねん。
 0034 JO02 <ニトリは>{<}。
 0035 K02 <でかい>{>}?。
 0036 K02 あーあー。
 0037 JO02 かわいいけど、<でかい>{<}。
 0038 K02 <うーん>{>}。
 0039 JO02 し。
 0040 K02 うーん。
 0041 JO02 んそんな、置くとこないし。
 → 0042 K02 あ、イケアが?。
 0043 JO02 うんイケアの一、<やつはな>{<}。
 0044 K02 <あああ>{>}。
 0045 JO02 大体、<大きいから>{<}。

(23)は家具店の比較をしている部分である。JO02 はイケアをニトリと間違って発話して

しまい (0034)、K02 に理解のトラブルを起こしている。K02 は JO02 の発話が終わったところで理解の候補としてイケアを提示し、発話内容確認を行っている。つまり、最も早く元の談話に戻れる形式を使っているということである。

一方、【対日下】では「繰り返し」がより好まれる。(24)に【対日下】の「繰り返し」の例を挙げる。

(24)【対日下 2】繰り返し

- 1017 JY02 だって「社名 C」なんて「社名 D」とか、<「社名 E」>{<},,
1018 K02 <うん>{>}。
1019 JY02 にも、振り替えしてもらってるんですよ。
→ 1020 K02 「社名 E」?。
1021 JY02 うん、なんか、ややこしいお客様は、<特別に「社名 E」>{<},,
1022 K02 <あー>{>}。
1023 JY02 みたいな。
1024 K02 あ、[息を吸う]。

(24)では K02 の予想できなかった「社名 E」が 1017 で登場することで理解のトラブルを起こす。その際、K02 は「理解候補」ではなく「繰り返し」を使用し、比較的に談話協力者への負担が大きい形式を選ぶ。

一方の韓国語談話でも日本語談話同様、「非特定」「繰り返し」「理解候補」の 3 つの形式が場面を問わず見られる。その中で場面間で最も差があるのは、「非特定」であった。【対韓上】を見ると、「非特定」の発話内容確認の使用がより多いことがわかる。このような結果となった最も大きな原因は【対韓上】で談話協力者のオーバーラップや割り込みによる聞き取りのトラブルが多かったことである。(25)のような例である。

(25)【対韓上 2】非特定

- 0418 K02 아니 그래서 내가 20 살 때—、 그 때—、 여권을 10 년짜리를 만들어 가지
고—、 "아 나는 이걸로 신혼여행도 가야지—" <笑いながら>、 <하고 만들었
는데—>{<} 【【。
いやそれで私が 20 歳のとき—、そのとき—、パスポートを 10 年使えるものを
作って—、"あ私はこれで新婚旅行も行かないと—" <笑いながら>、<と言いな
がら作ったのに—>{<} 【【。
0419 KO02 】】 <그 때、 그 때 ### 처음 갈 땐가>{>}?
】】 <그とき、 그とき###에 처음 갈 때 만들었나?>{>}?
→ 0420 K02 예?
はい?
0421 KO02 ### 처음 갈 때 만들었나?。

###に初めて行くときに作ったつけ?。

K02 は韓国語談話の両場面で(25)のような聞き取りトラブルの解決にもっぱら「非特定」発話内容確認を使用しており、その聞き取りトラブルが偶然に【対韓上】で多かったということである。しかし、【対韓上】で行う「非特定」発話内容確認には以下のように驚きを表すものやツッコミをするなど、発話内容確認を兼ねて他の機能をも担っている発話も観察された。(26)は驚きを表す「非特定」の発話内容確認、(27)はツッコミをする「非特定」の発話内容確認の例である。

(26)【対韓上 2】驚きを表す非特定

- 0452 K02 아니 한참, 아, 디자인 공모전도 하고 디자인도 발표되고— 막 그랬잖아
요—=。
いやしばらく、あ、デザイン公募展もしてデザインも発表されて—なんかしてたでしょう—=。
- 0453 KO02 [=난 지금 그, 금시초문이다。
=私は今は、初耳だよ。]
- 0454 KO02 그런 거 바뀐다는 거=。
そういうのが変わるというの=。
- 0455 K02 =어—?。
=うん—?。
- 0456 KO02 음— 어차피 케이스 끼우면 보이지도 않는데 뭐。
うん—どうせケースに入れたら見えもしないのに。

(26)は韓国のパスポートのデザインが変わることが話題になっており、KO02 はその情報を聞いたことがないと発話している (0453)。パスポートのデザイン変更は韓国のインターネットやニュースなどで大々的な話題となっていたため、その情報が初耳だという KO02 の発言は理解のトラブルとなり、K02 は 0455 で発話内容確認を行う。その際、急激な上昇イントネーションを使用することで驚きを表示している。このような発話内容確認は Selting (1996) や津田 (2015) でも言及があり、発話内容確認を驚きの手段として用いるものである。

次の(27)はツッコミのために用いられた発話内容確認である。

(27)【対韓上 2】ツッコミのための非特定

- 0671 K02 나 요즘 되게 동안이라고 많이 들어요、<笑い>。
私最近すごく童顔とたくさん言われます、<笑い>。
- 0672 KO02 [=내가 훨씬 동안인데。
=私がもっと童顔だけど。]

- 0673 K02 <녀>{<}>?
 <はい>{<}>?
 0674 KO02 <<笑い>>{>}、 막 이래<笑いながら>。
 <<笑い>>{>}、 なんちゃって<笑いながら>。
 0675 K02 <笑い>。

(27)は発話内容確認をツッコミのための手段として用いる例である。(27)は童顔が話題になり、より年齢が上の KO02 の「私がもっと童顔だけど」という発話 (0672) に対して K02 はツッコミをするような発話内容確認を行っている (0673)。

【対韓下】ではこのような「非特定」発話内容確認の付随的な機能は見られなかった。驚きを表す際に見られるのは「繰り返し」の発話内容確認である。(28)はその例である。

(28)【対韓下 2】驚きを表す繰り返し

- 0703 KY02 =한국一、 片道 일캐、 편도로一,,
 =韓国一、 片道こう、 片道で一,,
 0704 K02 어。
 うん。
 0705 KY02 4 만엔이드라。
 4万円だったよ。
 → 0706 K02 편도로 4 만엔이라고?。
 片道で 4 万円だって?。
 0707 KY02 그것도 제주에어 이런 거。
 しかもチェジュエアーみたいなもの。
 → 0708 K02 4 만、 엔?。
 4万、円?。
 0709 KY02 어。
 うん。

(28)では 0703=0705 で KY02 が言った「(日韓を行き来する飛行機代が) 片道で 4 万円もする」との情報がすぐには信じがたく、理解のトラブルを起こす。K02 は当該トラブル源に対し、0706・0708 で驚きを表示しながら「繰り返し」による発話内容確認を行っている。

4.2.2. ストラテジー

次に、K02 が使用したストラテジーについて、表 6 にまとめる。

表 6 発話内容確認のストラテジー (K02)

	【対日上 2】	【対日下 2】	【対韓上 2】	【対韓下 2】
ストラテジーなし	7	6	12	6
PPS 笑い併用	2	1	-	-
丁寧体	-	-	4	-
NPS 不確実表現	-	-	-	-
沈黙	-	-	-	-
割り込み	-	-	-	1
計	8	7	16	7

表 6 を見ると、日本語談話では場面間切り換えは見られず、両場面とも PPS の笑いの併用を使用した。(29)がその例である。

(29)【対日上 2】PPS：笑いの併用

- 0023 JO02 <ニトリ>で>{>}買おうかなと思ってる。
 → 0024 K02 み、縁で?
 → 0025 K02 あ、ニトリで?<笑いながら>。
 0026 JO02 ニトリ。

0023 の JO02 の発話がオーバーラップによって聞き取りのトラブルを起こし、K02 は 0024・0025 で発話内容確認を行っている。その際、2 回目の発話内容確認を笑いながら行い、談話協力者のポジティブ・フェイスに配慮していると思われる。

一方で韓国語談話では使用するストラテジーが場面により切り換えられる。つまり、【対韓上】では丁寧体を使用することで談話協力者のネガティブ・フェイスに配慮し、【対韓下】では談話協力者の発話に割り込むことでフェイス侵害度が増している。(30)に【対韓上】の丁寧体使用の例を、(31)に【対韓下】の割り込みの例を挙げる。

(30)【対韓上 2】PPS：丁寧体の使用²³

- 0151 K02 아니 그래一、 이게 나는一【【=。
 いやそう一、これが私は一【【=。
 0152 KO02 =】】 거 얼만디?
 =】】それいくらなの?。

²³ 本稿では「非特定」発話内容確認のうち、「ハイ・네 ne」は「ウン・응 eung」と対立するものと捉え、「ハイ・네 ne」は丁寧体に準ずる形式、「ウン・응 eung」は普通体に準ずる形式と考える。また、韓国語の「ハイ」に当たる「네 ne」は、「에 e」のような口語的な形式、「예 ye」のような、より改まった形式を持ち、本稿では「네 ne」「에 e」「예 ye」をすべて丁寧体に準ずるものとする。

→ 0153 K02 에?。
 はい?。
0154 K002 여기 싸一。
 ここ安いよー。
0155 K002 그거 열만다。
 それいくらなの。

先に挙げた(11)(25)(27)と同じように、K02は(30)でも発話内容確認の際に丁寧体を用いている(0153)。一方、【対韓下】では(31)のように談話協力者の発話へ割り込む発話内容確認が見られ、フェイス侵害を緩和するストラテジーは用いない。

(31)【対韓下 2】FTA : 割り込み

0173 K02 /沈黙 /나한테는 그런、 그一、 부지런한 세포는 없는 거 같애。
 /沈黙 /私にはそんな、その一、勤勉な細胞はないみたい。
0174 KY02 <笑い>、 하나님이一、 이렇게 주시다가<笑いながら>【【。
 <笑い>、神様が一、 こう与えていて<笑いながら>【【。
→ 0175 K02 11일까?。
 11こう?。
0176 KY02 어。
 うん。
0177 KY02 "다른 거 많이 줬으니까 부지런함은 좀 빼까?" 막 <이린>{<}<笑いながら>。
 "ほかのをいっぱい与えたから勤勉さは少し抜こうか?"なんて<いう>{<}<笑いながら>。

(31)では0174のKY02の発話に、K02が0175で割り込みながら発話内容確認を行っている。

4.2.3. K02まとめ

K02の結果をまとめると、以下の通りである。

(c) 日本語談話

- (c-1) 形式：【対日上】では「理解候補」、【対日下】では「繰り返し」と、両場面とも談話進行の貢献度が高い形式が用いられ、スタイル切り換えは見られない。
(c-2) ストラテジー：両場面ともPPSの笑いの併用が特徴的で、スタイル切り換えは見られない。

(d) 韓国語談話

- (d-1) 形式：【対韓上】では「非特定」という、談話進行の貢献度が低い形式がより多く用いられるが、用いられる形式の種類自体は切り換えられていない。

(d-2) ストラテジー：【対韓上】で NPS を使用、【対韓下】ではむしろ FTA を強化するような行動をとり、スタイルを切り換えている。

4.3. K03

4.3.1. 形式

表 7 は K03 の発話内容確認の形式をまとめたものである。

表 7 発話内容確認の形式 (K03)

	【対日上 3】	【対日下 3】	【対韓上 3】	【対韓下 3】
非特定	-	-	-	-
疑問詞	-	-	-	-
繰り返し	1	2	1	5
理解候補	1	5	3	3
計	2	7	4	7

表 7 から見るように、K03 は言語や場面に関わらず同じ形式の発話内容確認をしている。どちらも「繰り返し」「理解候補」のみが用いられ、そもそもいずれの場面においても談話協力者への負担が高い形式は使用しない。

日本語談話を見ると、【対日上】に比べて【対日下】で「理解候補」の発話内容確認が若干増えていた。(32)に【対日下】の「理解候補」の例を挙げる。

(32)【対日下 3】理解候補

- 0258 JY03 で、それで,,
- 0259 K03 うん。
- 0260 JY03 機械止めて、また<組み>{<>},,
- 0261 K03 <うん>{>}。
- 0262 JY03 立てなおされて、<あ>{<>},,
- 0263 K03 <うん>{>}。
- 0264 JY03 なんてゆうんその、"悪いことはしないでね↑"、てか、ま、<よって、そう>{<>} 【】。
- 0265 K03 】】<##、ほかの>{>}プログラミングされて?。
- 0266 JY03 そう、で、解体されるかと思ったらその<まんま>{<>},,
- 0267 K03 <ううん>{>}。
- 0268 JY03 修正もせずに、店に出されるよね。

(32)は JY03 がゲームのストーリーを説明している部分である。K03 はストーリーの中で完全に理解が届かなかった箇所で理解の候補を提示して発話内容確認を行う (0265)。しかし、【対日上】でも同じ形式が使用されており、場面間で発話内容確認の形式を切り換えたとは言い難い。

一方、韓国語談話では【対韓上】に比べ【対韓下】で「繰り返し」が多かった。(33)はその例である。

(33)【対韓下 3】繰り返し

- 0556 KY03 자가비도?。
ジャガビーも?。
 → 0557 K03 자가비?。
 ジャガビー?。
 0558 KY03 응。
 うん。

【対韓下】では(33)のように、「理解候補」より談話協力者の負担が大きい「繰り返し」が比較的に多数使用されるが、日本語談話と同じく、場面間切り換えが行われていると断言することは難しい。

4.3.2. ストラテジー

表 8 は K03 が行った発話内容確認のストラテジーをまとめたものである。

表 8 発話内容確認のストラテジー (K03)

	【対日上 3】	【対日下 3】	【対韓上 3】	【対韓下 3】
ストラテジーなし	1	6	1	7
PPS 笑い併用	-	-	-	-
丁寧体	2	-	1	-
NPS 不確実表現	-	-	-	-
沈黙	-	1	-	1
割り込み	-	1	2	-
計	2	7	4	7

K03 の場合、ストラテジー使用の場面間切り換えは日韓で類似する傾向にあった。つまり、言語を問わず【対上】では NPS の中でも丁寧体使用が唯一のストラテジーとして用いられ、【対下】ではストラテジーを用いない発話内容確認が多く、沈黙を挟むという NPS

が見られる。一方、日本語談話では【対日下】で、韓国語談話では【対韓上】で割り込みが見られ、それぞれFTAを強化する場面が異なる。日本語談話の例を以下に挙げる。

(34)【対日下 3】FTA：割り込み

- 0766 JY03 "「人名 H」さんは原画に不向きやなー"って#####…。
0767 K03 そうなん?。
0768 K03 <なんで>{<}?
0769 JY03 <そう>{>}、なんてゆうん、絵柄が違すぎる。
0770 K03 あー。
0771 JY03 そう。
→ 0772 K03 あ、絵柄が一、とれないんだ。
0773 K03 「人名 H」<さん特有の>{<}。
0774 JY03 <そそそ>{>}。
0775 JY03 そう。
0776 JY03 <なんてゆうん>{<}【【。
→ 0777 K03 】】<絵柄ってさ>{>},,
0778 JY03 うん。
→ 0779 K03 あのー、線の?。
→ 0780 K03 線の特徴?。
0781 JY03 や、違う。
0782 JY03 なんてゆうの、全体的な雰囲気??。

(34)で K03 は談話の流れから離れる発話内容確認を何回も反復し (0772・0777=0779・0780)、割り込みまで使用している (0777)。この場合、フェイス侵害度がより増すと思われ、K03 は【対日下】では FTA になる行動をすることにあまり抵抗を感じていないと考えられる。

一方、韓国語談話でも割り込みは見られるが、そのほとんどが(35)のように、談話協力者の発話を補助するようなものであった。

(35)【対韓上 3】FTA：割り込み

- 0478 KO03 그것도ー、나누는 게 뭐냐면、되게 되게 막、뭐, 뭐라고 해야 되지?
뭐, 안과 갔다 왔다 뭐 이런 거 있잖아, 되게, 막, <되-개->{<}【【。
それもー、話し合うのが何かというと、すごくすごくなんか、なに、なんて
言えばいいの?、なに、眼科行ってきたなんかこういうのあるでしょう,すご
く、なんか、<す-ごく->{<}【【。
→ 0479 K03 】】<## 일상적>{>}인??。
】】<##日常的>{>}나??。

0480 K003 어, 진짜 너무 일상적인=。
うん、本当に日常的すぎる=。

(35)は 0478 で産出のトラブルが起こっている。K03 は K003 トラブルを解決するために理解の候補を提示することで発話内容確認を行っている。このように、同じ割り込みでも【対韓上】では談話協力者を補助する働きをしているため、FTA にはなりにくいと考えられる。

4.3.3. K03 まとめ

K03 の結果を、以下にまとめます。

(e) 日本語談話

- (e-1) 形式：両場面とも談話進行の貢献度が高い形式を使用し、形式上の切り換えは見られない。
- (e-2) ストラテジー：【対日上】では NPS の中でも丁寧体使用というストラテジーをとる一方、【対日下】では沈黙を使用する上に FTA の強化につながる行動も同時に見られ、スタイル切り換えを行っている。

(f) 韓国語談話

- (f-1) 形式：両場面とも談話進行の貢献度が高い形式を使用し、切り換えは見られない。
- (f-2) ストラテジー：【対韓上】では NPS の中でも丁寧体使用、【対韓下】では沈黙というストラテジーをとり、切り換えが見られる。

5. 発話内容確認と対人関係

4 節の結果をまとめると、表 9 の通りになる。「形式」欄は便宜上、「非特定」「疑問詞」が特徴的な場面の談話進行の貢献度を「低」、「繰り返し」「理解候補」が特徴的な場面の談話進行の貢献度を「高」で示した。「→」は形式を変えたことを意味する。

表9 発話内容確認まとめ

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01				
形式（貢献度） ストラテジー	低→高 PPS・NPS	高 FTA強化	高 NPS	不使用 不使用
K02				
形式（貢献度） ストラテジー	高 PPS	低 NPS	特徴なし FTA強化	
K03				
形式（貢献度） ストラテジー	高 NPS（丁寧体）	高 NPS（沈黙） FTA強化	高 NPS（丁寧体）	高 NPS（沈黙）

以下では各インフォーマント別に、対人関係の観点から言語間・場面間スタイル切り換えについて考察する。

(A) K01

日本語談話では場面を問わず、発話内容確認に談話進行の貢献度が高い形式を使用しており、ポライトネス・ストラテジー使用の有無のみが切り換えられる。【対日上】ではPPS・NPSを両方用いており、FTAとなり得る発話内容確認において談話協力者に言語的な配慮をする、相手焦点的スタイルを使用する。一方、【対日下】ではポライトネス・ストラテジーの使用は見られず、むしろFTAを強化するような行動が見られ、自己焦点的スタイルを使用する傾向があると言える。FTAは否定的に捉えられがちであるが、Leech (1987:210) では「丁寧さの不足は本質的に親密性のしるしとなりうるもの」であり、「親密な関係を打ちたて維持するのに役立つ」と述べている。丁寧ではない行為がむしろ相手との連帯感を作り出すということであり、K01は【対日下】でFTAを強化する行動をし、JY01との連帯感を強調している可能性がある。一方で【対日上】では目上である談話協力者に対して言語的に、明確な配慮をすることでFTAになり得る行為を緩和している。このように、K01は日本語談話で同じ友人であっても、目上と目下に対してそれぞれ異なる発話内容確認のスタイルを使用することで談話協力者との対人関係を調節する。

一方、韓国語談話ではそもそも【対韓下】で発話内容確認が現れず、場面間切り換えは分析できなかった。ただし、基本的により丁寧な態度を取ると考えられる【対韓上】でのみFTAになり得る発話内容確認が使用されたことから、K01は韓国語談話において発話内容確認のFTA性をあまり気にかけていない可能性もある。第6章では情報要求、つまり質問の割合が【対韓上】でかなり高いことを述べたが、発話内容確認もそのほとんどが質問の形をしており、K01はFTAになり得る発話内容確認とニュートラルな情報要求とを区別せず、目上の談話協力者に興味を示す手段と

して用いている可能性があると考えられる。今後、データを補足して考察する必要がある。

(B) K02

日本語談話においては、両場面とも談話進行の貢献度が高い形式が用いられ、ポライトネス・ストラテジーはPPSの笑いの併用が特徴的であった。K02にとって、日本語談話における発話内容確認スタイルは切り換えの意識が弱く、必ず切り換えるべき対象ではないと思われる。

一方、韓国語談話では【対韓上】でそもそも談話進行の貢献度が低い形式がより多く用いられる。ただし、用いられる形式の種類自体は切り換えられておらず、形式におけるスタイル切り換えの意識は韓国語談話においても薄いと考えられる。K01の日本語談話同様、ストラテジーに注目してスタイル切り換えを見る必要がある。ストラテジーの切り換えにおいて、K02は【対韓上】でNPSを使用している一方、【対韓下】ではむしろFTAを強化するような行動をとっている。つまり、ポライトネス・ストラテジーを使用している【対韓上】は相手焦点的スタイル、FTA強化行動をとる【対韓下】は自己焦点的スタイルを用いていることになる。K02はK01の日本語談話と同様、目上に対しては言語的な表現によって丁寧さを保つ一方、目下に対してはむしろFTAを強化することで連帯感を増しているように思われる。

(C) K03

日本語談話ではK02の日本語談話と同様、形式上の切り換えは見られない。また、ポライトネス・ストラテジーも種類が変わるだけで、両場面ともNPSを用いている。ただし、【対日上】ではNPSの中でも丁寧体使用という、丁寧さにより直接つながるストラテジーを用いて言語的な配慮が相手により伝わりやすい相手焦点的スタイル、【対日下】では比較的に非明示的で相手にとって察しにくい沈黙をストラテジーで使用する上にFTAの強化につながる行動も同時に見られ、より自己焦点的スタイルになっていると思われる。

韓国語談話でも場面間の切り換えは明確に見られず、両場面とも談話進行の貢献度が高い形式を使用し、ポライトネス・ストラテジーとしてNPSを使用する。ただし、【対韓上】ではNPSの中でも丁寧体使用、【対韓下】では沈黙を使用し、前者は相手焦点的スタイル、後者は自己焦点的スタイルと切り換えている。

以上をまとめると、表10の通りになる。

表 10 発話内容確認におけるスタイル切り換え

	日本語談話		韓国語談話	
	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	相手焦点	自己焦点	使用	不使用
K02	切り換えなし		相手焦点	自己焦点
K03	相手焦点	自己焦点	相手焦点	自己焦点

表 10 から、発話内容確認にはやや個人差はあるものの共通する部分もあることがわかる。K01・K03 は日本語談話で、K02・K03 は韓国語談話で共通したスタイル規範が見られ、場面間で切り換える。

言語間切り換えについては、K01 は確認できず、K02 は日本語談話で場面間切り換えを行わない一方、韓国語談話でのみ場面間切り換えを行うという結果から言語間でスタイル切り換えの規範が異なることが確認できる。一方、K03 は両言語でスタイル切り換えの方向が同じく、言語間の切り換えは見られない。

第8章 相づちの切り換え

1. はじめに

日本語の相づちはこれまでの研究で日本語談話の重要な特徴として取り上げられてきた(水谷 1993 など)。一方、韓国語にも「相づち」に相当する表現があり、「英語を母語とする人達の間においてはあいづちの概念そのものの認識が薄いのに比べ、日韓のあいづち意識には似通ったものがある(任栄哲・井出 2004:51)」とされている。崔ハナ(2011)は先行研究の結果をもとに、「韓国人のコミュニケーションにおいても、あいづちは重要な役割を果たしている」と述べている。しかし、詳細は後述するが、日韓の相づちの使用には相づちの頻度を代表とする相違点も多々見られる。そのため、韓国人日本語使用者は、言語や場面によって相づちの打ち方を切り換えることが予想される。本稿のデータからは(1)と(2)のように使用言語や談話相手の年齢によって相づち使用に変化が確認できた。(1)は談話協力者の長い発話に対しても相づちを全く打たない例、(2)は短い発話に対して何回も相づちを打つ例である。

(1)【対韓上 1】[KO01 の会社についての愚痴]

0640 KO01 그 인터넷 이전에 무슨 어?, 그래피, 디자이너들— 오래 된 그래피 디자이너들 장인 정신 세우는 회사가 아니고 짧—리 변, 변하고 소통하고, 어?, 계—속 트랜드 따라가고, 이, 이끌고 이렇게 해야 되는데 계—속, 승인도 제대로 안 해 주고—, 이렇게 가시면 안 됩니다。

そのインターネット以前のなんかね?、グラフィック、デザイナーたち一古いグラフィックデザイナーたちの職人精神立てる会社じゃなくては一やくか、変わってコミュニケーションして、ね?、ずーっとトレンドを追って、ひ、引っ張ってこうしないといけないのにずーっと、承認も早くしてくれないしー、こんな方向に行ってはだめですよ。

(2)【対日下 1】[JY01 の最近の生活についての愚痴]

0302 JY01 ゴールデンウィー、クもさー,,
→ 0303 K01 うん<笑いながら>=。
0304 JY01 =なんかどこも行かれへんしさー,,
→ 0305 K01 そう<笑いながら>。

本章では、以上のような相づちの打ち方の切り換えを分析、考察する。まず 2 節では、これまでの先行研究で明らかになってきた相づちの日韓・場面間の差について述べ、3 節で本章の分析の対象と分析の枠組みを提示する。次に、4 節で分析結果を示し、5 節で相づちの切り換えを対人関係の観点から論じる。

2. 相づちに関する先行研究

日本語の相づちはこれまでの研究で日本語談話の重要な特徴として取り上げられてきており（水谷 1993 など）、韓国人のコミュニケーションにおいても相づちは重要な役割を果たしている（崔ハナ 2011）。また、これまでの研究では相づちのタイミングや頻度などが言語間・場面間で異なることが明らかにされてきた。

本節では、2.1 で相づちの日韓対照研究（言語間の差）を、2.2 で相手の年齢による相づちの使用について言及した研究（場面間の差）を概観する。

2.1. 相づちの日韓対照研究

相づちの使用には言語間の差が存在する。任栄哲・李先敏（1995）のラジオ・テレビ聞き取り調査では韓国人より日本人の方が相づちの頻度が高かった。

同様の結果は談話データを用いた研究にも見られる。姜昌妊（2001）は同年代・同性の親しい友人同士の自然会話を、崔ハナ（2011）は面識のある 20 代女性 3 人の間の話題が提示された会話を、朴成泰（2011・2018）は母語場面・母語による接触場面・外国語による接触場面の 3 種の談話データをそれぞれ調査しており、そのすべてで日本人が韓国人より頻繁に相づちを打っていることが明らかになった。特に、朴成泰（2011）はグループディスカッション・1 対 1 対話・電話会話と、多様な場面を設けているが、いずれも日本語母語話者の相づちの頻度が高かったと述べている。また、朴成泰（2018）では韓国語母語話者の日本語発話において、同一話者の韓国語発話に比べ、相づちの頻度が増えたと述べており、同一話者による相づちの言語間スタイル切り換えの可能性が示唆されている。

なお、崔ハナ（2011）では相づちの頻度以外にタイミングについても言及しており、韓国人より日本人が発話途中の相づちの割合が高いと述べている。金秀芝（1993）でも、韓国人は相手の発話がポーズに入るとほぼ同時に相づちを打つ一方、日本人は相手の発話に相づちが重なるように打たれるとしている。

2.2. 相手の年齢による相づち使用

相づちの使用には言語間の差以外にも談話相手の年齢による場面間の差も存在することがこれまでの研究で述べられている。任栄哲・李先敏（1995）のアンケート調査では、日韓ともに目下の人に対しては頻度が変化するという意識がないが、目上の人に対しては、日本人は相づちが多くなる一方、韓国人は逆に少なくなる意識を持っていることが明らかになった。

談話を用いた研究においても場面間の差は指摘してきた。大浜（2002）では日本語母語話者を対象に、相手の年齢・性別で相づちの頻度がどのように変わるかを調査した。その結果、年上の相手に対しては相づちが多く、同年代の相手には少なくなり、相手の年齢

によって相づちの頻度が変わるとしている²⁴。

3. 相づちの認定と分析の枠組み

3.1. 相づちの認定

本節では分析の対象である相づちの認定方法について述べる。メイナード（1993）は、「聞き手役中の状況²⁵」に着目し、相づちの範囲を「話し手が発話権を行使している間に聞き手が送る短い表現（非言語行動を含む）（メイナード 1993:58）」としている。本稿は基本的に相づちの認定に当たってメイナード（1993）を参照し、①談話協力者の発話中にインフォーマントが送る反応、②談話協力者の発話の最後に送る反応の 2 つを相づちとする。なお、メイナード（1993）は相づちの形式には言及しておらず、本稿では音声によるもの（笑い、ため息などの非言語行動も含める）のみを対象とする²⁶。以下でこの 2 つについて説明する。

①談話協力者の発話中にインフォーマントが送る反応

メイナード（1993）の定義のように、相づちは話し手が発話権を行使している間に行われる聞き手の行動である。この定義に従い、(3)のように談話協力者（JO01）の発話中（0157=0159）に発話権をとる意図なしに送る反応（0158）を相づちとする。

(3)【対日上 1】

0157 JO01 なんか、向こうも、その代理店、代理店じゃないなその、マーケティング会社??、それこそ調査だけじゃなくてマーケティングーとかってゆうところ一、の、<要是>{<},,
→ 0158 K01 <うん>{>}。
0159 JO01 ゲームディベロッパーとかお抱えになってるような。

②談話協力者の発話の最後に送る反応

メイナード（1993:58）は「話し手が発話順番を終えてすぐに聞き手が送る反応は、話し手の行動の勢力範囲内にあると考えられることから、分析の対象とする」として

²⁴ 本稿では「あ、それはですね」の「あ」のような発話直前の短い表現を相づちとみなさないが、大浜（2002）では相づちとして認めている。そういった観点から、大浜（2002）は相づちの使用頻度が年齢に大きく関係しないと述べている。しかしその後、相づちのみの発話が全体発話に占める割合を「聞き手役割度」とし、「聞き手役割度」は同年代の相手の場合 55.3%、年上の相手の場合 72.5%と、場面によって変わることを示しているため、本稿ではそれをもって相手の年齢によって相づちの頻度が変わったと解釈した。

²⁵ メイナード（1993）は会話分析の視点から発話順番の状況を「発話順番未定状況」「発話順番中の状況」「聞き手役中の状況」「間発話順番状況」の 4 つに分類した。そのうち、相づちとして認定されるのは「聞き手役中の状況」下にある発話である。

²⁶ メイナード（1993）は会話の単位として「発話順番」を設定し、発話権を行使するということは発話順番をとることであると見ている。また、発話順番については「会話の当事者によりその何らかの意味又は機能を持っていると認められたもの（メイナード 1993:56）」と述べた。したがって、音声による表現の中でも、会話において意味を持つと思われる質問、聞き返し、先取りなどは相づちと認定しない。

いる。本稿も同様なものを相づちとする。(4)は談話協力者 (JY01) が発話 (0378) を終えてすぐ打たれる相づち (0379) の例である。

(4)【対日下 1】

0378 JY01 <"あ一土日>{>}終わっちゃったー"みたいな。
→ 0379 K01 やばい<笑いながら>。

一方、マイナード (1993:58) はこのような相づちのうち、「短い表現のうち話し手が順番を譲ったとみなされる反応を示したものは、あいづちとしない」としているが、本稿ではこれも相づち②として認める。これは、話し手 (談話協力者) が発話権を譲ったという結果が必ずしも相づちを発した話者 (インフォーマント) によって引き出されたものではないと考えたためである。たとえば、(5)のような例がある。

(5)【対日上 1】

0264 JO01 だから一、同じアンケートといつても同じような回答絶対しないと思うんですよ。
→ 0265 K01 あー。
→ 0266 K01 確かに。
0267 JO01 そう。
0268 K01 確かにそうゆう変数があるのか。

(5)では JO01 の 0264 の発話に対して、K01 が 0265・0266 で「あー」「確かに」と短い反応を示している。その後の K01 の発話がないことから、0265・0266 は発話権をとるためのものではなかったことがわかる。しかし、JO01 は 0267 で「そう」と短い反応をするだけで、0264 を最後に発話権を譲ったことを表しており、それによって K01 は 0268 で実質的な発話をしている。0265・0266 のような相づちの後に「話し手 (談話協力者) が順番を譲ったとみなされる反応 (0267)」があっても、談話協力者の発話がそれ以上続かないため結果的に相づちの話者が発話権をとっている場合、その相づち (0265・0266) は本来発話権をとる意図なしに発されたと思われるため、相づちと認定する。

以上、本稿で相づちと認定するものは、次の 2 つである。

- ①談話協力者の発話中にインフォーマントが送る反応
- ②談話協力者の発話の最後に送る反応

3.2. 相づちの出現位置

相づちを分析する観点には、相づちを打つタイミングや位置、頻度や出現率、相づちの形式など多様なものがあるが、このうち、相づちの形式については本稿のデータからスタイル切り換えが確認できなかったため分析から省く。本章では相づちのスタイル切り換え

が明確に見られる相づちの位置と出現率を分析するが、そのためには、そもそも相づちがどのような位置に現れやすい／現れにくいか見ておく必要がある。相づちが出現しやすい位置については統語的な基準（格助詞、接続助詞の後など）を挙げる場合と、音声的な基準（ポーズ、音の伸ばしなど）を挙げる場合がある。ただし、前者の場合、日本語と韓国語で品詞の捉え方などが異なる場合があるため、両者に共通する基準を立てることはより厳密な分析を必要とする。また、本稿のデータにおける統語的な特徴はその大半が以下で説明する音声的な特徴と重なっていた。そのため、本稿では音声的な特徴を基準に相づちが出現しやすい／出現しにくい位置を捉える。具体的には表1の通りである。

表1 相づちの出現位置

相づちが出現しやすい位置	(A)ポーズ中	(A-1)発話文末のポーズ中	
		(A-2)発話文中のポーズ中	
(B)音の伸ばしの後			
(C)相づちが出現しにくい位置			

(A)か(B)の位置で相づちが出現した場合、相づちが出現しやすい位置で打たれたものとし、(A)と(B)のいずれにも当たらない場合、(C)相づちが出現しにくい位置で打たれたものとする。以下で分類について例を挙げて説明する。

(A) ポーズ中

ポーズ中の相づちは発話文末に置かれる(A-1)と、発話文中に置かれる(A-2)がある。

(A-1) 発話文末のポーズ中

発話文の直後のポーズに合わせて打たれる相づちである。本稿の文字化は宇佐美（2005）に沿ったものであるが、宇佐美（2005）は「発話文」を「会話」という相互作用の中における「文」としており、「話者交替」と「間」を基準に発話文の認定をしている。つまり、本来から発話文の判断基準にすでにポーズを入れているということである。したがって、本稿の文字化データの発話文末は基本的に相づちが出現しやすい位置となる。①のような発話文末がこれに当たり、②のような倒置文の発話文末も含める。「✓」で相づちが出現しやすい位置を表示する。

- ① 0006 JO01 /沈黙 /そうだ、ちょっと聞こうと思ったんだ。✓
- ② 0016 K01 <でー>{>}、以前のところだとトレールは使ってたんですね、ギットハ
ブと。✓

しかし、すべての発話文の後ろが対象になるわけではない。以下のようない場合、相づちが出現しやすい位置から除外する。

●疑問文および確認要求文の直後

③の疑問文や④の確認要求文のように、相手に働きかける発話文の後ろにはポーズがあっても、相手の返事が求められ、相づちは打たれない。した

がって、③疑問文や④確認要求文の直後は相づちが出現しやすい位置の(A)から除外する。また、③や④に応答する⑤のような発話も相手に応答する発話であるため相づちとして認めない。

③ 0093 JO01 それは、できないんすかしないんですか?。

④ 0136 K01 <結構>{>}い、海外の有名なサーバイ会社さんあるんじやないですか;やっぱり。

⑤ 0137 JO01 うん。

●間を空けずに、同じ話者によってすぐ次の発話文が続く場合

「=」は前後の発話の間に間を持たないことを表す記号である。⑥のように、間を持たずに、同じ話者によってすぐ次の発話文が続く場合、相づちを挟むことが難しいため、(A)から除外する。

⑥ 0521 JO01 なんか"死ぬほど面白いから見て"って言われた=。

0522 JO01 =まだ見てないんすけど。

●フィラーのみの文の直後

⑦の0128・0130のようにフィラーだけの文は相づちの対象、つまり、発話権を行使する間ではないため、相づちが出現しやすい位置の(A)から外す。

⑦ 0126 JO01 なんもう、なんか、ベースとしてね↑。

0127 K01 うん<笑いながら>。

0128 JO01 そう。

0129 JO01 すもー、それしか考えられない。

0130 JO01 えー。

(A-2) 発話文中のポーズ中

⑧では発話文中の「ちょーっとぐらい」の後に短いポーズが入っている。このように、発話文中にポーズが入る場合、相づちが出現しやすくなる。

⑧ 0429 JO01 ま2万、ちょーっとぐらい、<かな>{<}>?。

0430 K01 <うん>{>}。

(B) 音の伸ばしの後

⑨のように、音が伸びる直後には相づちが打たれやすい。

⑨ 0028 JO01 ま、もしかしたら今違う、ツール使ってるかもしれないんすけれど

ど、基本的にこうバー要件らしいーの<###>{<},,

0029 K01 <うーん>{>}。

(C) 相づちが出現しにくい位置

以上の(A)と(B)に当たらない場合、相づちが出現しにくい位置とし、この位置で打たれる相づちは音声的な合図がない箇所で打たれる相づちとなる。⑩では K01 が JO01 の発話(0325=0327)にポーズや音の伸ばしがなかったにも関わらず相づちを打っている。

⑩ 0325 JO01 いや、それ以外を、睡眠、ま、5,6時間寝てると思って<もら>{<},,

0326 K01 <おー>{>}。

0327 JO01 ってー,,

本稿では以上の基準によって相づちの位置を分類した。次節からはインフォーマントの談話において、相づちの使用が言語間・場面間でどのように切り換えられるかを見していく。

4. 相づちの切り換え

本節では3.2の枠組みに従って、インフォーマントの相づちの位置を(A)ポーズ中、(B)音の伸ばしの後、(C)相づちが出現しにくい位置の3つに分けて集計し、用例数が少ない(B)を除いて²⁷(A)と(C)における相づちを分析する。

表2は各インフォーマントが相づちを打った位置を一覧にしたものであり、上段は用例の実数、下段は各インフォーマントの場面ごとの百分率である。

表2 相づちの位置

		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	(A)ポーズ中	81 (86.2)	125 (84.5)	136 (90.1)	90 (84.1)
	(B)伸ばし後	3 (3.2)	1 (0.7)	1 (0.7)	1 (0.9)
	(C)出現困難	10 (10.6)	22 (14.9)	14 (9.3)	16 (15)
K02	(A)ポーズ中	57 (83.8)	50 (74.6)	37 (100)	116 (85.3)
	(B)伸ばし後	2 (2.9)	2 (3)	-	-
	(C)出現困難	9 (13.2)	15 (22.4)	-	20 (14.7)
K03	(A)ポーズ中	20 (83.3)	138 (88.5)	129 (73.7)	46 (88.5)
	(B)伸ばし後	-	-	7 (4)	-
	(C)出現困難	4 (16.7)	18 (11.5)	39 (22.3)	6 (11.5)

表2でわかる通り、インフォーマントは言語や場面に関わらず、談話協力者のポーズに合わせて打つ相づちがほとんどであるが、その割合は言語間・場面間でやや異なる。ただし、(A)の場合、相づちの位置がポーズ中と制限されている点で、比較的自由に打たれる(C)の相づちとはその性格が違い、単純に数や割合で(A)と(C)を比較してスタイル切り換えを述べることは難しい。したがって、以下では4.1で(A)ポーズ中の相づちの切り換え、4.2で(C)出現しにくい位置における相づちの切り換えに分けて見ていく。

²⁷ (B)音の伸ばしの後における相づちは用例数が少なく、一見「出現しやすい」位置には見えないが、これは音の伸ばしの後にさらにポーズが入っている箇所の相づち数が多く、それらをすべて(A)として集計しているためである。(B)にはポーズを伴わない音の伸ばしのみを数えた。

4.1. (A)ポーズ中の相づち

本節では(A)ポーズ中の相づちについて、相づちの位置（4.1.1）と出現率（4.1.2）の結果を提示する。

4.1.1. ポーズ中の相づちの位置

まず、(A)ポーズ中の相づちのみの内訳を表3に挙げる。括弧内は(A)ポーズ中の相づちを100とした(A-1)発話文末と(A-2)発話文中の相づちの百分率であり、網掛けは日本語談話・韓国語談話のそれぞれの場面間で、百分率が高い方の相づちの位置を示している。

表3 ポーズ中に打たれる相づち

		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	(A-1)発話文末	49 (60.5)	85 (68)	108 (79.4)	67 (74.4)
	(A-2)発話文中	32 (39.5)	40 (32)	28 (20.6)	23 (25.6)
K02	(A-1)発話文末	20 (35.1)	23 (46)	35 (94.6)	68 (58.6)
	(A-2)発話文中	37 (64.9)	27 (54)	2 (5.4)	48 (41.4)
K03	(A-1)発話文末	13 (65)	69 (50)	62 (48.1)	33 (71.7)
	(A-2)発話文中	7 (35)	69 (50)	67 (51.9)	13 (28.3)

表3を見ると、K01・K02が同じ傾向を示し、K03の結果のみが異なることがわかる。以下に表3からわかるることを、K01・K02とK03に分けてまとめる。

(a) K01・K02

(a-1) 日本語談話

日本語談話では両場面ともに(A-1)発話文末のポーズの相づちが多い。しかし、場面間で比べると、程度の差はあるが、傾向として、【対日上】では(A-2)発話文中のポーズに打たれる相づちが、【対日下】では(A-1)発話文末のポーズの相づちが増えている。(6)と(7)にそれぞれK02の【対日上】と【対日下】の事例を挙げる。

(6)【対日上2】発話文中ポーズにおける相づち

- 0416 JO02 たぶん、<たぶん>{<},,
 → 0417 K02 <うん>{>}。
 0418 JO02 出ちゃってん。
 0419 JO02 なんかログインのやつ消そうと思ったらー,、
 → 0420 K02 うん。

- 0421 JO02 それじゃなくてー、<スン>{<},,
 → 0422 K02 <うん>{>}。
 0423 JO02 長の方消しちゃって、消し<たら>{<},,
 → 0424 K02 <おん>{>}。
 0425 JO02 たぶん、<退室>{<},,
 → 0426 K02 <おん>{>}。
 0427 JO02 なるやんな。

(6)では JO02 の発話文 0416=0418・0419=0421=0423=0425=0427 が終わっていない時点で、ポーズに合わせて相づちを何回も打っている (0417・0420・0422・0424・0426)。【対日上】では(6)のように、(A-2)発話文中のポーズの相づちが多く見られた。一方、次の(7)では JY02 の発話が終わった時点のポーズで K02 が相づちを打っている。

(7)【対日下 2】発話文末ポーズにおける相づち

- 0907 JY02 <だって>{>}こんなことがなければ、そんな<こと>{<},,
 0908 K02 <うん>{>}。
 0909 JY02 なってない。
 → 0910 K02 うんうんうんうんうん。
 0911 JY02 #####ヘルプとか。
 → 0912 K02 そそ<そう>{<}。
 0913 JY02 <ヘルプ>{>}とかいややし。
 → 0914 K02 <ねー>{<}。
 0915 JY02 <「社名 C」>{>}なんかほぼ休みですよ,だって。
 → 0916 K02 おー、<あ>{<}。

(7)では、JY02 の発話文末 (0909・0911・0913・0915) に合わせて K02 が相づちを打つ様子が見られる。K02 は【対日下】でこのような(A-1)発話文末のポーズで相づちを多用していた。このように、K02 は日本語談話で相づちの位置を切り換えており、K01 は場面間の差が明確ではないが K02 と同様の傾向を示している。

また、日本語談話は韓国語談話に比べ、(A-2)発話文中のポーズに打たれる相づちの割合が高い。K01・K02 は、日本語談話において、発話文が終わることを待たず相づちを打つ傾向が強いと言える。

(a-2) 韓国語談話

K01 と K02 は日本語談話と反対に、韓国語談話では目上場面の【対韓上】で(A-1)発話文末のポーズにおける相づちの割合が高く、目下場面の【対韓下】で

は(A-2)発話文中のポーズの相づちが増える。(8)と(9)に K02 の韓国語談話の事例を挙げる。

(8)【対韓上 2】発話文末ポーズにおける相づち

- 0580 K02 응一、 신혼여행을 다—들 못 가드라。
うん一、新婚旅行にみーんな行けないみたい。
0581 K02 국내로 가드라↑。
国内に行くみたい。
→ 0582 K02 응一。
うん一。

【対韓上】では(8)のように K02 の発話が終わった後のポーズに相づちを打つ割合が圧倒的に高かった。一方、【対韓下】では(9)のように KY02 の発話が終わる前に発生したポーズに相づちを打っている。

(9)【対韓下 2】発話文中ポーズにおける相づち

- 0158 KY02 24 시간짜리 하나랑一、 그一,,
24 時間のものを一つと一、その一,,
→ 0159 K02 응一。
うん一。
0160 KY02 PT 따로 받는 거랑一,,
別に受ける PT と一,,
→ 0161 K02 야—。
あー。
0162 KY02 다음에 복싱 전용。
あとボクシング専用。

このように、K02 は場面間で相づちの位置を切り換え、K01 は明確な差は見せていないものの、K02 と同じ傾向になっていることがわかる。

また、日本語談話に比べ韓国語談話では、(A-2)発話文中のポーズで打たれる相づちの割合が少なく、よりまとまりがある発話文末で相づちを打とうとしていた。つまり、言語間においても相づちの位置のスタイル切り換えが確認できる。

(b) K03

(b-1) 日本語談話

K03 の場合、他のインフォーマントの日本語談話と違って【対日上】では(A-1)発話文末のポーズの相づちが多く、【対日下】では(A-2)発話文中のポーズの相

づちの割合が多かった。場面間で相づちの位置が切り換えられると言える。

(b-2) 韓国語談話

【対韓上】では(A-2)発話文中のポーズの相づちが、【対韓下】では(A-1)発話文末のポーズが多く、場面間で相づちの位置の切り換えが見られる。

4.1.2. ポーズ中の相づちの出現率

本節ではポーズ中の相づちの出現率について述べる。3.2の基準に従って談話中の相づちが出現しやすいポーズを数えたものを「出現可能数」²⁸、その中で実際にポーズ中に打たれた相づちの割合を「出現率」とし、表4に(A)ポーズ中の相づちの数、出現可能数、出現率の一覧を示す。網掛けの部分はより出現率が高い場面である。

表4 相づちの総数・出現率

		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	(A)相づち数	81	125	136	90
	出現可能数	355	600	630	358
	出現率(%) [*]	22.8	20.8	21.6	25.1
K02	(A)相づち数	57	50	37	116
	出現可能数	148	188	275	342
	出現率(%) [*]	38.5	26.6	13.5	33.9
K03	(A)相づち数	20	138	129	46
	出現可能数	167	450	646	152
	出現率(%) [*]	12	30.7	20	30.3

*相づち数／出現可能数×100

相づちの出現率において、韓国語談話では3人とも【対韓上】で出現率が低く、【対韓下】で多い一方、日本語談話においては個人差が見られる。表4についてわかるとこを、以下に4.1.1と同じ順で述べる。

(c) K01・K02

(c-1) 日本語談話

K01は【対日上】で若干多く相づちを打っているが、大きな差を見せているわけではない。ただし、その傾向性はK02と同じであった。K02もK01と同じく【対日上】でより相づちを打っており、K01に比べて差が大きかった。先行研究では、日本語母語話者は目上に対して相づちを多く、目下に対して少なく打つと述べられており、K01・K02は日本語談話で日本語母語話者に類似した相づち

²⁸ ここでは談話全体において、相づちが出現しやすい位置全体の中で実際に(A)ポーズ中の相づちが打たれた割合を見るべく、母数の「出現可能数」は(A-1)(A-2)(B)の種類を区別していない。

使用の切り換えをしている。

(c-2) 韓国語談話

日本語談話と反対に、【対韓上】より【対韓下】における相づちの出現率が高い。先行研究では、韓国語母語話者は目上に対して相づちを控え、目下に対しては相づちを多く打つと指摘しており、本稿でも同じ結果になっている。

(d) K03

(d-1) 日本語談話

K03 は日本語談話で他のインフォーマントと異なる場面間切り換えをしており、【対日上】より【対日下】で相づちの出現率が高くなる。

(d-2) 韓国語談話

韓国語談話は K01・K02 と同様、【対韓上】より【対韓下】で相づちの出現率が増える。このような相づち使用の切り換えは、日本語談話と同じものであり、K03 は言語間では相づち使用を切り換えていないことがわかる。

4.2. (C)出現しにくい位置の相づち

本節では、(C)出現しにくい位置における相づちについて述べる。表2から(C)のみを抜粋して表5に再掲する。

表5 出現しにくい位置に打たれる相づち（表2から抜粋）

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	10 (10.6)	22 (14.9)	14 (9.3)	16 (15)
K02	9 (13.2)	15 (22.4)	-	20 (14.7)
K03	4 (16.7)	18 (11.5)	39 (22.3)	6 (11.5)

表5からわかるることを以下にまとめる。

(e) (C)出現しにくい位置に打たれる相づちはいずれも相づち全体の 3 割を超えない。永田（2004）では日本語の自由談話において、ポーズがないタイミングで打たれる相づちは全体の 2 割前後であることを明らかにしており、本稿の結果からは韓国語談話においても最大 2 割弱であった。

(f) 先行研究によると、日本語では発話に重なるタイミングで、韓国語では発話のポーズで、より相づちを打つとされるが、本稿の結果では日韓でそのような傾向は見出せない。言語よりはむしろ場面が意識される。

(g) その結果、言語に関係なく、K01 と K02 は【対下】で、K03 は【対上】で、(C)出現しにくい位置で相づちをより多く打っている。

一方、このような相づちは「出現しにくい」位置でわざわざ打たれるため、相づちのスタイル切り換えについて分析するためには、相づちが打たれた理由および特徴についてよ

り詳しく見る必要がある。まず、(C)出現しにくい位置の相づちは、基本的に「内容を把握した時点で打たれる」か、「笑いによる相づちである」ことが言語・場面を問わずすべての談話で観察された。つまり、これらの特徴はスタイル切り換えの対象ではなく、(C)出現しにくい位置の相づちの基本的な特徴である。(10)は内容把握時点で相づちを打つ例、(11)は笑いによる相づちの例である。

(10)【対日上 1】内容を把握した時点で打たれる相づち

0324 K01 何時間寝てるんですか<笑いながら>。
0325 JO01 いや、それ以外を、睡眠、ま、5,6 時間寝てると思って<もら>{<},,
→ 0326 K01 <おー>{>}。
0327 JO01 ってー,,

(10)では「何時間寝ているのか」という K01 の質問 (0324) に対して JO01 が答えている。JO01 の発話は 0327 まで続くが、K01 の質問に対する答えは 0325 で「5,6 時間寝てる」までを聞くとわかるものである。そこで K01 はその直後に相づちを打っている (0326)。

次の(11)は笑いによる相づちである。

(11)【対日下 1】笑いによる相づち

0566 JY01 もう一なんか、テレワーク<いややわ>{<},,
→ 0567 K01 <<笑い>>{>}。
0568 JY01 なんか。

0567 のような笑いは、言語ではないため相手の発話を邪魔することなく、より自由な位置に置かれることができると考えられる。そのため、(C)出現しにくい位置でもよく打たれる結果となる。

この 2 種の相づちは上述の通りすべての談話で見られるが、一方、日本語談話のうちの【対日下】、韓国語談話のうちの【対韓上】では(C)出現しにくい位置における相づちにそれぞれ異なる特徴が見られ、質的なスタイル切り換えが行われている。以下で、個人差にも言及しながら日韓の順に詳細を見ていく。

(h) 日本語談話

K02・K03 は【対日下】でのみ、(C)出現しにくい位置の相づちで発生したオーバーラップに対して修復を行うことがある。(12)はその例である。

(12)【対日下 3】オーバーラップに対する修復

0351 JY03 でも、なんてゆうん、その一、何回もー、その別の人々に売り渡され<たり
>{<},,
→ 0352 K03 <うんうん>{>}。

→ 0353 K03 うん。

Schegloff, Jefferson & Sacks (1977) は発話産出・聞き取り・理解に関わるトラブルに対処することを修復としている（第7章参照）。(12)ではJY03の発話（0351）が終わらず、ポーズもないところで相づちを打っているが（0352）、K03はこのオーバーラップをトラブルと捉え、ポーズ中に再度同じ相づちを打つことで修復している（0353）。つまり、K02・K03は【対日下】では、(C)出現しにくい位置の相づちを好ましくないものとして扱い、修復を試みると考えられる。

一方、【対日上】では(13)のように(C)出現しにくい位置における相づちによるオーバーラップも修復されない。

(13)【対日上 2】修復されないオーバーラップ

0774 JO02 なんか<食事する>{<},,
→ 0775 K02 <おんおんおん>{>}。
0776 JO02 ところとかがなくて,,
0777 K02 うん。

(13)はJO02の発話0774とK02の(C)出現しにくい位置の相づち0775がオーバーラップしているが、K02は修復を行わない。このように、K02・K03は【対日上】では(C)出現しにくい位置の相づちを問題視せず、日本語談話の場面間ではこのような相づちに対する対処の方法が切り換えられる。

(i) 韓国語談話

K01・K03は【対韓上】で強い共感を表示する際に、(C)に相づちを使用する。このような相づちは【対韓下】では観察できず、場面間で(C)における相づち使用を切り換えていることがうかがえる。なお、K03は【対韓上】でのみオーバーラップに対し修復を行っている。(14)に強い共感を表示する際の相づち、(15)にオーバーラップに対する修復の例をそれぞれ挙げる。

(14)【対韓上 1】強く共感する際の相づち

0221 KO01 =근데、 맨날맨날 반신욕 하니까 물 값이 너무 많이 들어<서、 허리까지만>{<},,
=でも、 每日半身浴したら水道代がかかりすぎ<て、 腰までだけ>{<},,
→ 0222 KO1 <그니까>{>}<笑いながら>。
<だよね>{>}<笑いながら>。
0223 KO01 채울려고。
(お湯を) 入れようと。

(14)ではKO01が「半身浴を毎日すると水道代がかかりすぎる」と発話し、K01は

その発話内容に強く共感しながら「그니까 (だよね)」と大きな声で相づちを打つ(0222)。その際、ポーズの有無を気にせず即時に相づちを打っている。

次に、K03 のオーバーラップに対する修復の例である。

(15)【対韓上 3】オーバーラップに対する修復

- 0481 K003 =그니까 별로 친하지도 않고 애초에、 막 별로 모이지도、 얼마 안 됐을 때니
까↑<그렇게까지 친하지도 않을 뿐더러↑>{<},,
=だからそんなに親しくもなくそもそも、なんかあまり集まりも、あまり経つ
てないときだから↑<そこまで親しくもないうえに↑>{<},,
→ 0482 K03 <응—>{>}。
<うん—>{>}。
→ 0483 K03 <응—>{<}。
<うん—>{<}。
0484 K003 <애들이> 되게 얘기>{>} 얘기 같은 느낌??。
<みんながすごく子供>{>}子供っぽい感じ??。

(15)でも K03 は K003 の発話の途中に相づちを打ち、長いオーバーラップが発生している(0481-0482)。K03 はこのオーバーラップを修復するべく、もう一度同じ相づちを打っているが(0483)、またオーバーラップが発生し(0483-0484)、修復は成功しない。

以上を、個人差を無視して簡略にまとめると、表 6 の通りになる。(C)出現しにくい位置で打たれる相づちは言語間で量的な傾向の差は見られないが、その出現要因や特徴には言語間・場面間で異同があり、日本語談話では【対日下】、韓国語談話では【対韓上】で特徴的な使用(網掛けの部分)が見られ、対称的である。つまり、「内容を把握した時点」「笑いによる相づち」はすべての談話で共通するが、「強い共感の表示」「修復されるオーバーラップ」が相づちスタイルの場面間切り換えに関わっていると言えよう。

表 6 (C)出現しにくい位置における相づちの出現の理由・特徴

	日本語談話	韓国語談話
【対上】	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を把握した時点 ・笑いによる相づち 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を把握した時点 ・笑いによる相づち ・強い共感の表示 ・修復されるオーバーラップ⁶
【対下】	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を把握した時点 ・笑いによる相づち ・修復されるオーバーラップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を把握した時点 ・笑いによる相づち

5. 相づちと対人関係

本節では、4 節の分析結果を踏まえ、対人関係という観点から相づちのスタイル切り換えを考察する。まず、表 7 に各インフォーマントが相づちスタイルを言語間・場面間でどのように切り換えているか、4 節の結果をまとめた。(C)出現困難の欄は 4.2 の表 6 を参照に、目立つ特徴がなかった場合「特徴なし」、「強い共感の表示」を「共感」、「修復されるオーバーラップ」を「修復」として示した。「なし」は当該場面で相づちが打たれなかつたことを表す。

表 7 相づちまとめ

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01				
(A)位置	発話文中	発話文末	発話文末	発話文中
(A)出現率	高	低	低	高
(C)出現困難	特徴なし		共感	特徴なし
K02				
(A)位置	発話文中	発話文末	発話文末	発話文中
(A)出現率	高	低	低	高
(C)出現困難	特徴なし	修復	なし	特徴なし
K03				
(A)位置	発話文末	発話文中	発話文中	発話文末
(A)出現率	低	高	低	高
(C)出現困難	特徴なし	修復	修復／共感	特徴なし

後述する K03 の韓国語談話を除き、相づちの位置と出現率は連動していることがわかる。つまり、発話文中の相づちが比較的多い場面では出現率も高く、発話文末の相づちが多い場面では出現率も低い。これは、相づちを多く打とうとすると、その数が少ない発話文末

のポーズのみではなく、より数が多い発話文中のポーズにも相づちを打つようになるためである。一方、相づちの数を減らす場合、発話文末に相づちを打つだけで充分であり、その結果、発話文中の相づちは少なくなる。

一見、相づちが多くなることは談話協力者の話をきちんと聞いていることを示し、相手焦点的スタイルと考えられる。しかし、2節で述べた通り、日韓の相づち行動には差が存在する。日本語は韓国語より相づちの頻度が高いことが先行研究で明らかにされており(任栄哲・李先敏 1995、姜昌妊 2001、崔ハナ 2011、朴成泰 2011・2018)、意識の面でも、日本人は目上に相づちをより多く、韓国人は目上に相づちをより少なく打とうとする(任栄哲・李先敏 1995)。つまり、日韓では良しとする相づち行動が異なり、相づちが多いことが必ずしも相手焦点的スタイルであるとは言い難い。むしろ、先行研究の結果に照らし合わせると、韓国語談話においては相づちを多く打つ行為が相手へ配慮しない行動になり、相づちを打たずに談話協力者の話を黙って聞くことが言語的な配慮となる。したがって、ここでは相づち行動における相手焦点的スタイルと自己焦点的スタイルを以下のように整理する。

表8 相づち行動におけるスタイル

	発話文中が多い 出現率が高い	発話文末が多い 出現率が低い
日本語	相手焦点	自己焦点
韓国語	自己焦点	相手焦点

表8を基準に、以下で各インフォーマントの相づちスタイル切り換えについて述べる。

(A) K01

K01の場合、相づちにおいては全般的に明確なスタイル切り換えは見られない。ここで述べるのは、あくまでも傾向性に関するものであることをあらかじめ断っておく。

【対日上】では発話文中の相づちが増え、相づちの出現率が高い。日本語談話において、こういった相づち行動は相手の話を聞いていることを積極的に表示することであり、相手焦点的スタイルであると言える。一方、【対日下】では発話文末の相づちが増え、相づちの出現率が比較的に低くなる。発話文末の相づちが増えるということは、より数が多いはずの発話文中では相づちを控えているということであり、出現率から見ても、【対日下】では比較的に自己焦点的スタイルになっていると考えることができる。K01の結果は、大浜(2002)で述べた、日本人は目上の相手により相づちを多く打つという結果と一致している。第4章や第5章で述べた通り、K01は【対日上】で積極的に発話することも重視する一方で、聞き手に回った際には相づちにおいて相手焦点的スタイルを使用することで積極的な聞き手にもなり、談話協力

者に配慮していると思われる。一方、【対日下】では目上の相手ほど相づちによって興味を積極的に表示する必要を感じていない傾向が見られる。

一方、韓国語談話では【対韓上】で発話文末の相づちが増え、出現率が低い。日本語談話においてはこのようなスタイルは自己焦点的スタイルに当たるが、韓国語の場合、むしろ相づちを打たない方が相手への言語的配慮となり、相手焦点的スタイルを使用していると言える。【対韓下】では反対に発話文中でも相づちを打つ割合が増え、出現率も上がるという自己焦点的スタイルに切り換えられる。任栄哲・李先敏（1995）でも韓国人は日本人に比べて相づちの頻度が少ないと述べており、その原因として「目上の人への話は黙って聞くのが礼儀だという考え方」があるためであると考察している。本章の結果からもその認識が現れており、K01は韓国語談話の場面間において韓国的なスタイル切り換えをすることによって韓国語母語話者との対人関係を維持していると言えよう。また、強い共感の際には、目上であっても相づちを使用することが失礼にはなりにくく、(C)出現しにくい位置でも共感を示すための相づちは観察されるという結果になる。

(B) K02

K02は場面間の差がK01より大きく、場面間スタイル切り換えが行われていると判断できる。K01に見た傾向性がより強まった結果であると言える。

K02も【対日上】で相手焦点的スタイル、【対日下】で自己焦点的スタイルと切り換えていた。【対日上】では談話協力者に聞いていることを積極的に伝えることで目上の相手に配慮をしている一方、【対日下】では(C)出現しにくい位置における相づちが修復されており、相づちをむやみに使わないよう、気を配っているように思われる。

韓国語談話においては、【対韓上】で相手焦点的スタイルで目上の相手の話に割り込むことを避け、【対韓下】で自己焦点的スタイルで談話協力者に対して相づちを自由に打っている。

(C) K03

K03の場合、上述の2人や先行研究の結果とは異なる動きを見せている。日本語談話から見ると、【対日上】では相づちの少ない自己焦点的スタイル、【対日下】では相づちの多い相手焦点的スタイルに切り換える。可能性として、K03は韓国式の場面間相づちスタイル切り換えを日本語談話に転移させていることが挙げられる。つまり、韓国語ではより相手を配慮するスタイルが相づちをあまり打たないスタイルであるため、言語に関係なく【対上】では相づちを控え、【対下】では相づちを増やしたが、日韓で相づちにおける配慮の仕方が反対であるため、【対日上】で自己焦点的スタイルとなってしまったということである。この可能性を確かめるためにはK03の韓国語談話における場面間相づちスタイル切り換えがどのように行われているか見る必要がある。

【対韓上】では発話文中の相づちが増えており、発話のまとまりがない箇所でも相

づちを打つという積極的なスタイルの特徴が見られるが、出現率は低く、(C)出現しにくい位置においては共感の表示やオーバーラップに修復を施すなどの自己焦点的スタイルの特徴も見られる。このように、K03 の韓国語談話では相づちの位置と出現率が連動していないため、K03 が各場面で自己焦点的スタイルを使用しているか相手焦点的スタイルを使用しているかが不分明になっている。この結果を説明するためには、各場面における談話協力者の平均発話長を見る必要がある。

表 9 K03 の談話協力者の平均発話長（音節）

	【対日上 3】	【対日下 3】	【対韓上 3】	【対韓下 3】
談話協力者	8.1	21.8	24.6	10.7

表 9 から見るように、談話協力者の実質発話の平均長は場面間で差があった。【対韓上】で発話文中の相づちが多いのは、そもそも K03 の一つ一つの発話文が長く、その長い発話の途中でところどころ相づちを打っているためである。(16)にその例を挙げる。

(16)【対韓上 3】長い発話文中の相づち

- 0682 K003 =나는—,,
=私は—,,
→ 0683 K03 응。
 うん。
0684 K003 이제 천안을 만약에 무조건 가야 된다 이랬으면 쯤 더 고민하고 대답을 했을 텐데,,
 もうチョナンにもし絶対行かなければならぬと言っていたらもう少し悩んでから返事をしたはずだけど,,
→ 0685 K03 응응응。
 うんうんうん。
0686 K003 서울에 있을 수도 있단 식으로 얘기를 했으니까 나는 그렇게 큰 고민을 안 하고 오케이를 했던 거였거든—。
 ソウルにいられるかもしれないというふうに話をしたから私はそんなに深く悩まずにオッケーをしたんだよね—。

(16)では K003 が長い発話をしており (0682=0684=0686)、そのため、K03 はその発話文中にあるポーズで相づちを打つ (0683・0685)。(16)のような例が【対韓上】に多数見られるため、当場面における発話文中の相づちの割合が高くなっているわけである。しかし、(16)の直前の談話は以下の通りであった。

(17)【対韓上3】長い発話文に相づちが打たれない部分

- | | | |
|--------|------|--|
| 0670 | KO03 | 그 붙었는데—、 너무 집이랑 멀고—,,
その受かったけど—、家から遠すぎるし—,, |
| 0671 | K03 | 응—。
うん—。 |
| 0672 | KO03 | 걔네가 말을 번복을 했어。
あいつらが話を反覆したの。 |
| 0673 | KO03 | 근까 처음에는、 서울에서—、 근까、 그게、 근무지가 천안이었는데—、 천안이 코로나가 한창 심할 때였거든—=。
だから最初は、ソウルで—、だから、それが、勤務地がチョナンだったけど—、チョナンがコロナがちょうどひどいときだったんだよね—=。 |
| 0674 | KO03 | =물론 <서울은 항상>{<},,
=もちろん<ソウルはいつも>{<},, |
| 0675 | K03 | <응、 응>{>}。
<うん、 うん>{>}。 |
| 0676 | KO03 | 심하지만<웃거나라>↑。
ひどいけど<笑いながら>↑。 |
| → 0677 | KO03 | 그래서 그 사람들이 서울에서 좀 있다가 천안으로 가라는 거야—。
それでその人たちがソウルで少しいてからチョナンに行けというの—。 |
| → 0678 | KO03 | 근데、 서울에 계속 있을 수도 있다는 거야,나한테,처음에는=。
でも、ソウルにずっといることもできると言うの,私に,最初は=。 |
| → 0679 | KO03 | =그래서 내가、 "어 그런가 보다" 하고—、 아 그러면 가겠다고 하니까—、
갑자기—、 약간、 천안을 일단 무조건 가진 해야 된다 이런 식으로 말이 바뀌는 거야—<웃거나라>。
=それで私が、"あそうか"と—、あじや行きますと言つたら—、いきなり—、
ちょっと、チョナンにはとりあえず絶対行かないといけないこうゆうふうに
話が変わるの—<笑いながら>。 |
| → 0680 | KO03 | 그래서 내가、 갑자기 안 가겠다고、 했거든↑。
それで私が、いきなり行かないと、言ったのね↑。 |
| → 0681 | KO03 | 조금 내 입장에서는 너무 당황스러워 가지고=。
ちょっと私の立場からは困惑すぎて=。 |
| 0682 | KO03 | =나는—,,
=私は—,, |
| 0683 | K03 | 응。
うん。 |
| 0684 | KO03 | 이제 천안을 만약에 무조건 가야 된다 이랬으면 좀 더 고민하고 대답을 했을 텐데.. |

もうチョナンにもし絶対行かなければならぬと言っていたらもう少し悩んでから返事をしたはずだけど,,

0685 K03 응응응。

うんうんうん。

0686 KO03 서울에 있을 수도 있단 식으로 얘기를 했으니까 나는 그렇게 큰 고민을 안 하고 오케이를 했던 거였거든—。

ソウルにいられるかもしれないというふうに話をしたから私はそんなに深く悩まずにオッケーをしたんだよね—。

このように、(16)のような一つの発話文に複数の相づちを打つ例は散発的に存在するだけで、全体として見ると(17)の 0677-0681 で見られるように、K03 は基本的には相づちを控えている。相づちの位置と頻度が連動しないのはこのためであり、【対韓上】は発話文中の相づちは多いものの、基本的には相づちが少ない相手焦点的スタイルであると考えられる。反対に、【対韓下】の場合、発話文末で相づちがより多く打たれるのは談話協力者の平均発話長が 10.7 で短いためであり、実際には積極的に相づちを打っている。(18)に短い文でも相づちを頻繁に打つ例を挙げる。

(18)【対韓下 3】

0260 KY03 <아니 제가、 원래—>{>},,
<いや私、 もともと—>{>},,

→ 0261 K03 어。
うん。

0262 KY03 제주도를—,,
濟州島に—,,

→ 0263 K03 응。
うん。

0264 KY03 오늘 갈라고 했어요—。
今日行こうとしてたんですよ—。

→ 0265 K03 응。
うん。

0266 KY03 그 갑자기、 비행기 티켓이 싸다는 소문이 들려 가지구,,
そのいきなり、 飛行機のチケットが安いという話が聞こえて,,

→ 0267 K03 오—。
お—。

0268 KY03 우리 친언니하고 사촌하고 같이<笑いながら> 셋이서—、 <"제주도를 가자">{<},,
私の実の姉といとこと一緒に<笑いながら>三人で—、 <"濟州島に行こう">

- {<}.,
 → 0269 K03 <아—>{>}。
 <あ—>{>}。
 0270 KY03 음、 이렇게 계획을 짠 거예요。
 急に、こう計画を立てたんですよ。
 → 0271 K03 어어어어。
 うんうんうんうん。

K03 はこのように、言語に関係なく【対上】では相づちを減らし、【対下】では相づちを増やす。そのため、日本語談話の【対日上】では自己焦点的スタイル、【対日下】では相手焦点的スタイルとなり、韓国語談話の【対韓上】では相手焦点的スタイル、【対韓下】では自己焦点的スタイルとなっている。

以上で明らかになったことを表 10 にまとめる。

表 10 相づちにおけるスタイル切り換え

	日本語談話		韓国語談話	
	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
K01	相手焦点	自己焦点	相手焦点	自己焦点
K02	相手焦点	自己焦点	相手焦点	自己焦点
K03	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点

表 10 で見るよう、韓国人日本語使用者は母語の韓国語談話では同様の場面間スタイル切り換えをしている。このことから、3 人は母語の相づちにおいて一致したスタイルの認識を持っていることがわかる。一方、日本語談話では K01・K02 と K03 で結果が異なり、個人差が見られた。K01・K02 の場合、韓国語談話と同じような場面間スタイル切り換えをしているように見えるが、日本語談話では相づちが多い方が相手焦点的スタイル、韓国語談話では相づちが少ない方が相手焦点的スタイルであるため、実質的には言語間で場面間スタイル切り換えの仕方が反対であり、K01・K02 は相づちスタイルを言語間でも切り換えていっていると言える。一方で K03 は言語間スタイル切り換えが見られない。

第3部 結論

第2部では、韓国人日本語使用者の日韓両言語の自然談話から、談話レベルの言語間・場面間スタイル切り換えについて項目別に分析した。第3部では各項目で分析した結果をインフォーマントごとに総合し、各インフォーマント、ひいては韓国人日本語使用者がどのようなスタイル切り換えを行っているかを対人関係という側面から考察する。さらに、その考察をもとに、既存のスタイル切り換えの研究に談話レベルのスタイル切り換えを位置づけることを試みる。その結果として、談話レベルのスタイル切り換えについて以下の2点を主張する。

- ・談話レベルにおけるスタイル切り換えでは、語・発話レベルのスタイル切り換えのように明確な切り換えは起こらない。
- ・韓国人日本語使用者の日本語における談話レベルのスタイルには、学習・習得と転移という両方の要因が見られる、また、これまでの研究で指摘された負の転移よりは、転移しても問題を起こさない部分において正の転移が目立つ。

第9章 日韓の対人関係とスタイル切り換え

1. はじめに

まず、ここに第1章5節(p.15)で述べた本稿の目的を再掲する。

(A)これまでスタイル切り換え研究の対象とされなかった談話レベルのスタイル切り換えについて、言語間・場面間でどのようなものが、どのように切り換えられるか、その実態を整理する。(第2部)

(B)(A)の結果に沿って、これまで明らかになった日本語・韓国語のスタイルを個人がどのように活用しているか考察する。その上で、韓国人日本語使用者が行う日韓の対人関係との関係を説明する。(第3部)

(B-1)第2部各章で項目ごとに明らかになったスタイルを全体として見たとき、それぞれのインフォーマントが言語間・場面間でどのようにスタイルを切り換えているか、対人関係との関係で説明する。

(B-2)さらに、3人のインフォーマントを通じて観察される、韓国人日本語使用者のスタイル切り換えがどのようなものか述べる。

(C)談話レベルで行われるスタイル切り換えと他のレベルで行われるスタイル切り換えの異同について述べる。(第3部)

このうち、(A)については第2部で述べている。本章では(B)および(C)について述べる。まず、2節では(B-1)について、項目ごとに分析した第2部の結果全体をインフォーマントごとにまとめ、各インフォーマントが親しい友人との対人関係を維持するため各場面でどのような談話スタイルを採用しているか、そして談話相手の変化に伴ってその談話スタイルをどのように切り換えているかについて述べる。次に、3節で(B-2)について、インフォーマント間の異同を整理し、韓国人日本語使用者の談話レベルのスタイル切り換え全般について考察する。4節では、(C)について、本稿の対象である、談話を成立させるための項目のスタイル切り換えと他のレベルのスタイル切り換えとの異同について述べる。

2. 各インフォーマントのまとめ：各個人の対人関係

本節では、第2部で個別項目ごとに分析した談話レベルのスタイル切り換えの結果をインフォーマントごとに総合し、各インフォーマントがそれらの項目全体を通してどのようにスタイル切り換えを行っているかを明らかにする。その際、特に対人関係との関係に注目する。

なお、第2部の各章で見た通り、談話レベルのスタイル切り換えは明確なものより、相対的な傾向として現れることが多かった。第2部の各章の分析においては、対人関係面に注目する際に、この傾向性を目立たせるため、使用されたスタイルを「自己焦点的スタイル」「相手焦点的スタイル」のいずれかに振り分けたが、本章も同じ方法を採用して分析する。

2.1. K01 の結果のまとめ

まず、第2部で見てきたK01の各項目における結果を表1にまとめます。

表1 K01まとめ

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
話題選択				
話題内容		切り換えなし		
開始割合	高	低	低	高
話題種類	再開話題	新出話題	再開話題	新出話題
緩衝表現	使用		不使用	
発話量				
発話量	多	少	少	多
談話参加				
モノローグ	多	少	少	多
ダイアローグ	—		多	少
情報提供・情報要求				
情報提供	多	少	少	多
情報要求	少	多	多	少
発話内容確認				
形式（貢献度）	低→高	高	高	不使用
ストラテジー	PPS・NPS	FTA強化	NPS	不使用
相づち				
位置	発話文中	発話文末	発話文末	発話文中
出現率	高	低	低	高
出現困難	特徴なし		共感	特徴なし

K01の以上のようなスタイルを対人関係の側面から見た結果について、表2にまとめます。各項目は話し手としての言語行動、聞き手としての言語行動に分類して示す。

表2 K01スタイル切り換えまとめ

		日本語談話		韓国語談話	
		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
話し手 言語行動	話題選択	相手焦点 相手焦点 自己焦点	自己焦点 相手焦点 相手焦点	自己焦点 相手焦点 自己焦点	自己焦点 相手焦点 自己焦点
	発話量	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点
	談話参加	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点
	情報提供・要求	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点
聞き手 言語行動	発話内容確認	相手焦点	自己焦点	使用	不使用
	相づち	相手焦点	自己焦点	相手焦点	自己焦点

表2を見ると、K01の日本語談話におけるスタイル切り換えは、話し手としての言語行動（話題選択、発話量、談話参加、情報提供・情報要求）において【対日上】で主に自分自身に焦点を置くスタイル、【対日下】で主に相手に焦点を置くスタイルを使用していた。また、聞き手としての言語行動（発話内容確認、相づち）においては反対に【対日上】で相手に焦点を置くスタイル、【対日下】で自分自身に焦点を置くスタイルに切り換える。一方、韓国語談話では話し手か聞き手かという談話における役割によらず、【対韓上】では相手に焦点を置くスタイル、【対韓下】では自己に焦点を置くスタイルを使用する。

ここでは順番を変え、母語である韓国語談話から論じる。韓国語母語話者が年齢によって敏感にスタイル切り換え（特に丁寧体／普通体）を行うことは数多くの先行研究から明らかになっており（Hijirida & Sohn 1986、荻野 1989、李恩美 2008、田所 2015、李吉鎔 2019など）、K01もすべての項目において年齢を基準にスタイル切り換えを行っていた。

先行研究からわかる通り、韓国語における対人関係において、同じく親しい相手であっても、目上には何らかの方法で丁寧さを保つ必要があるが、その習慣はK01の談話レベルにおけるスタイル切り換えにおいても見られると言えよう。K01は【対韓上】で丁寧体を使用するだけでなく、談話において相手に配慮したり、発話が唐突でないように合図をしたりする方法で丁寧さを保っている。

一方で、目下の相手にはそのような配慮が比較的に薄れることが推察できる。さらに、自分が目上の立場になるため、目上に対する待遇を相手に要求・期待することも考えられる。つまり、相手に配慮するより、相手の配慮を期待し、自分は談話に自由に参加することに焦点を当てることができる。

次に、母語ではない日本語談話でも場面間のスタイル切り換えが見られ、年齢の上下もその切り換えに確かに影響する。一方、K01は話し手として振る舞っている際と聞き手として振る舞っている際とでも異なるスタイル切り換えを行う。

目上の相手に対して、K01 は話す際に遠慮なく話す自己焦点的スタイル、聞く際に相手に失礼にならないようにする相手焦点的スタイルと切り換えていた。ただし、表 2 でわかる通り、話題選択においては相手に焦点が当てられている。第 4 章で発話量について述べた際に、K01 は【対日上】で談話協力者が提示した話題を受け、自分が話し手となるということを述べた。K01 は話題のような談話のマクロな枠についてはおおむね相手に決定を委ねる一方で、話し手となった際には相手が気まずくないよう、積極的に話すことで相手に配慮しているように思われる。また、相手の発話にはしっかりと耳を傾けていることを表示し（相づち）、トラブルが発生した際にはトラブルがより早く修復されるように努めたりフェイス侵害をなるべく防いだりする（発話内容確認）方法で【対日上】での対人関係を維持していると言える。つまり、話し手・聞き手としての自分の談話上の役割を忠実に遂行することが相手への配慮とつながっている。

このような観点から【対日下】を見ると、逆に談話上の役割を遂行することにはおろそかになっているように思われる。その理由については、以下のような 2 つがある。

- (i) 目下である談話協力者に配慮し、むしろ談話に積極的に参加することを控えることで談話協力者に自由に振る舞う機会を与える。
- (ii) 韓国語談話と同じく、単純に目上より配慮しないといけないという意識が薄れる。

以上の K01 をまとめると、表 3 の通りになる。

表 3 K01 の談話レベルにおけるスタイル切り換え

	日本語談話		韓国語談話	
	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
スタイル切り換えの基準	年齢の上下+談話での役割		年齢の上下	
話し手言語行動	自己焦点	相手焦点		相手焦点
聞き手言語行動	相手焦点	自己焦点		自己焦点

このように、K01 は日韓両言語で場面間スタイル切り換えの仕方が異なり、言語間で切り換えられるものは談話スタイル自体だけではなく、スタイル切り換えの仕方・基準も含まれることがわかる。K01 は母語のスタイル切り換えの仕方をそのまま日本語に転移するのではなく、インフォーマント自身が考える、日本語における対人関係に見合ったスタイル切り換えをしていると言えよう。

2.2. K02 の結果のまとめ

次に、K02 の結果について述べる。表 4 は第 2 部の各章で述べた、K02 の各項目における結果をまとめたものである。

表4 K02まとめ

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
話題選択				
話題内容		共通基盤話題	共通基盤に関係のない話題	
開始割合	高	低	高	低
話題種類		再開話題	新出話題	
緩衝表現		使用	不使用	
発話量				
発話量		多	少	
談話参加				
モノローグ		多	少	
ダイアローグ		—	—	
情報提供・情報要求				
情報提供		—	少	多
情報要求		—	多	少
発話内容確認				
形式（貢献度）		高	低	特徴なし
ストラテジー		PPS	NPS	FTA強化
相づち				
位置	発話文中	発話文末	発話文末	発話文中
出現率	高	低	低	高
出現困難	特徴なし	修復	なし	特徴なし

表4に基づき、K02が行うスタイル切り換えを対人関係の側面から分析した結果が表5である。

表5 K02スタイル切り換えまとめ

		日本語談話		韓国語談話	
		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
話し手 言語行動	話題選択	相手焦点 自己焦点	相手焦点	自己焦点	自己焦点 相手焦点
	発話量	自己焦点		相手焦点	
	談話参加	自己焦点		相手焦点	
	情報提供・要求	自己焦点		相手焦点 相手焦点	自己焦点
聞き手 言語行動	発話内容確認	—		相手焦点	自己焦点
	相づち	相手焦点	自己焦点	相手焦点	自己焦点

表5を見ると、言語間の切り換えが見られる項目は、話し手としての言語行動である話題選択、発話量、談話参加、情報提供・情報要求であり、K02は話し手としての言語項目において日韓の差を大きく意識していると思われる。以下ではまず、日韓の言語間スタイル切り換えについて述べ、その次に場面間スタイル切り換えについて、韓国語、日本語の順に述べる。

日本語談話は話題選択では相手焦点的であるが、その他の話し手としての言語行動（発話量、談話参加、情報提供・情報要求）では自己焦点的であり、2.1で述べたK01の【対日上】と類似したスタイルとなっている。つまり、談話のマクロな部分である話題の選択は談話協力者に委ねるが、それによって一度話し手になると発話量、談話参加、情報提供・情報要求のような項目において積極的に発話することで相手の話題選択を尊重する。

一方の韓国語談話はK01の【対日下】のようなスタイルで、話題選択においては自由に振る舞い、談話の大きな枠を決めるが、発話量、談話参加、情報提供・情報要求で相手焦点的スタイルを使用していることがわかる通り、実際に話す役は談話協力者に多くを委ねる様子がうかがえる。

次に、場面間スタイル切り換えについて述べる。K02は場面間スタイル切り換えが見られない項目（発話量、談話参加など）があり、そもそも談話レベルのスタイル切り換えに敏感ではないと思われる。しかし、日本語談話に比べると、韓国語談話ではより多様な項目（情報提供・情報要求、発話内容確認）が場面間で切り換えられ、母語においては比較的に年齢の差を強く意識している。その中身を見ると、場面間切り換えが見られる項目のうち、話題選択を除いた全項目が【対韓上】では相手焦点的スタイル、【対韓下】では自己焦点的スタイルに切り換えられていた。【対韓上】では、既存のスタイル切り換え研究の結果と同じく目上の相手に言語的な注意を払っていることがわかる。また、【対韓下】

は日本語談話に比べると相手焦点的であるが、目上の相手に比べると自己焦点的であり、K01 と同様、目下には相手に対する配慮の意識が薄れる、自分の方が待遇してもらうべきであると認識していると思われる。

一方、日本語談話においては場面間スタイル切り換えが見られない項目が韓国語談話より多く（発話量、談話参加、情報提供・情報要求、発話内容確認）、K02 にとって日本語談話における年齢の差はそこまで重要なスタイル切り換えの基準ではないことがうかがえる。年齢の差がスタイル切り換えを引き起こさないとまでは言えないが、年齢によって談話レベルにおいてまでスタイルを切り換える必要性は強く感じないということである。中身を見ると、場面間でスタイル切り換えが行われる項目では K01 と同様、談話上の役割によってスタイル切り換えの方向が変わっていた。つまり、話し手としての言語行動である話題選択は【対日上】では自己に、【対日下】では相手に焦点を当てており、聞き手としての言語行動である相づちは【対日上】で相手に、【対日下】で自己に焦点を当てている。この結果から、K02 は【対日上】で話し手としては積極的な発話者の役割を遂行する一方で聞き手としては談話協力者の話に集中する良き聞き手の役割を遂行することで談話協力者に配慮することがわかる。また、【対日下】ではむしろ(i)相手を自由にさせるか、(ii)配慮の意識が薄れるため談話上の役割を忠実に遂行しようとする様子は見られない。

表 6 に以上をまとめた。

表 6 K02 の談話レベルにおけるスタイル切り換え

	日本語談話		韓国語談話	
	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
スタイル切り換えの基準	年齢の上下(弱)+談話での役割		年齢の上下(強)	
話し手言語行動	自己焦点		相手焦点	
	自己焦点	相手焦点	相手焦点	
聞き手言語行動	相手焦点	自己焦点	自己焦点	

このように、K02 も日韓両言語で場面間スタイル切り換えの仕方が異なり、言語間で談話スタイルのみではなく、スタイル切り換えの仕方・基準も切り換えている。

2.3. K03 の結果のまとめ

最後に、K03 の各章の結果を表 7 にまとめた。

表7 K03まとめ

	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
話題選択				
話題内容		共通基盤話題		共通基盤に関係のない話題
開始割合	高	低	低	高
話題種類		再開話題		新出話題
緩衝表現		不使用		使用
発話量				
発話量	多	少	少	多
談話参加				
モノローグ	多	少	少	多
ダイアローグ	-		少	多
情報提供・情報要求				
情報提供	多	少	少	多
情報要求	少	多	多	少
発話内容確認				
形式（貢献度）	高		高	
ストラテジー	NPS（丁寧体）	NPS（沈黙） FTA強化	NPS（丁寧体）	NPS（沈黙）
相づち				
位置	発話文末	発話文中	発話文中	発話文末
出現率	低	高	低	高
出現困難	特徴なし	修復	修復／共感	特徴なし

表7の結果を、対人関係の側面からまとめたものが表8である。

表8 K03スタイル切り換えまとめ

		日本語談話		韓国語談話	
		【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
話し手 言語行動	話題選択	内容：相手焦点 形式：自己焦点 自己焦点 相手焦点		内容：自己焦点 形式：相手焦点 自己焦点 相手焦点	
	発話量	自己焦点 相手焦点		相手焦点 自己焦点	
	談話参加	自己焦点 相手焦点		相手焦点 自己焦点	
	情報提供・要求	自己焦点 相手焦点		相手焦点 自己焦点	
聞き手 言語行動	発話内容確認	相手焦点 自己焦点		相手焦点 自己焦点	
	相づち	自己焦点 相手焦点		相手焦点 自己焦点	

K03 は日韓両言語において話し手・聞き手という談話での役割によらず場面間ではほぼ一貫したスタイル切り換えをしているように思われる。つまり、日本語談話では【対日上】で自己焦点的、【対日下】で相手焦点的スタイルに切り換え、韓国語談話では【対韓上】で相手焦点的、【対韓下】で自己焦点的スタイルに切り換える。ただし、日本語談話の発話内容確認では反対に韓国語談話と同じく【対日上】で相手焦点的、【対日下】で自己焦点的スタイルが使用された。また、第 8 章で、相づちのスタイル切り換えが日韓で反対であるのは韓国語からの転移が起こったためであることを述べた。つまり、聞き手としての言語行動である発話内容確認、相づちはいずれも韓国語談話と同じような切り換えをしているということである。K03 は話し手言語行動においては、日本語に見合った対人関係の方法を使用するが、聞き手言語行動においては、母語の韓国語を日本語に転移させていることが推察できる。

母語の韓国語談話から見ると、K01・K02 と同じく、相手焦点的スタイルが【対韓上】で、自己焦点的スタイルが【対韓下】で用いられ、韓国の目上・目下に対する規範に従うスタイル切り換えをする。【対韓上】では話題選択のみが自己焦点的スタイルであり、自由に話題を選定するが、発話量、談話参加、情報提供・情報要求を見ると実際に話す役割は相手に委ね、また、発話内容確認や相づちから良き聞き手として振る舞っている。一方、【対韓下】では反対に談話協力者に話題選択の自由は与えるが、他の項目においては自己に焦点が当たられているため自分が談話の中心となり、談話協力者に対する配慮は薄れる。

一方の日本語談話では上述の通り、話し手言語行動においては韓国語談話と反対の場面間スタイル切り換えを行い、【対日上】では積極的に発話、【対日下】では談話協力者に発話の自由を与える。一方、聞き手言語行動においては韓国語からの転移が起こり、話し手言語行動のような反対傾向は見られなくなる。

表9に以上をまとめた。

表9 K03の談話レベルにおけるスタイル切り換え

	日本語談話		韓国語談話	
	【対日上】	【対日下】	【対韓上】	【対韓下】
スタイル切り換えの基準	年齢の上下+談話での役割		年齢の上下	
話し手言語行動	自己焦点	相手焦点	相手焦点	自己焦点
聞き手言語行動				

このように、K03は話し手としての言語行動でのみ場面間スタイル切り換えの仕方が言語間で異なり、聞き手としての言語行動では韓国語談話のものを転移させる。場面間スタイル切り換えの仕方を異にするか否かは話し手・聞き手といった談話上の役割が基準となる。K03も他のインフォーマントと同様、言語間でスタイル切り換えの仕方・基準を切り換えていると言える。

3. インフォーマント間比較：韓国人日本語使用者の対人関係

本節では2節で個別に述べたインフォーマント間の異同を整理し、韓国人日本語使用者が行う談話レベルのスタイル切り換えについて全般的な特徴を考察する。また、そのスタイル切り換えに対人関係がどのように関係するかについても考える。まず、表10に各インフォーマントのスタイル切り換えを、言語別にまとめる。各欄の「↔」の左側は【対上】、右側は【対下】の結果である。「↔」がない欄は場面間では切り換えが見られなかつたものであり、インフォーマント間で個人差が見られたものについては網掛けで示した。

表 10 インフォーマント間の異同

		日本語談話			韓国語談話		
		K01	K02	K03	K01	K02	K03
話し手 言語行動	話題選択	相手 相手↔自己	相手 自己↔相手	相手/自己 自己↔相手	自己 相手↔自己	自己 自己↔相手	自己/相手 自己↔相手
	発話量	自己↔相手	自己	自己↔相手	相手↔自己	相手	相手↔自己
	談話参加	自己↔相手	自己	自己↔相手	相手↔自己	相手	相手↔自己
	情報提供・要求	自己↔相手	自己 -	自己↔相手	相手↔自己	相手 相手↔自己	相手↔自己
聞き手 言語行動	発話内容確認	相手↔自己	-	相手↔自己	- ²⁹	相手↔自己	相手↔自己
	相づち	相手↔自己	相手↔自己	自己↔相手	相手↔自己	相手↔自己	相手↔自己

以下では、言語別に各インフォーマントの異同をまとめる。3.1 ではまず母語の韓国語談話について、3.2 では日本語談話について述べる。

3.1. 韓国語談話における対人関係

韓国語談話では全員が当初に設定した場面である「年齢の上下」によって談話レベルにおけるスタイル切り換えを行っており、その中身も全員が一致した。つまり、【対韓上】では主に相手に焦点を当て、【対韓下】では主に自己に焦点を当てるというスタイル切り換えを行う。第 1 章の 4 節 (p.13) では、韓国人の談話スタイルは日本人に比べると、相手との距離を縮め、直接的な表現を使う傾向があると述べた。しかし、目上と目下の相手を比較すると、必ずしもそうではなく、目上に対しては相手と適切な距離をとり、相手に配慮する相手焦点的スタイルも見られる。韓国語母語話者は年齢の上下に敏感であり、同じ韓国語談話であっても目下と目上では談話レベルのスタイルまで切り換えることが規範として作用していると思われる。韓国語談話ではいくら親しくても目上に対しては言語的な待遇が必要になり、それが目上の相手との対人関係を維持する方法として使用される。

一方で目下に対しては目上と違って比較的に自由に振る舞っても対人関係が維持できるため自己焦点的スタイルが用いられる。また、この結果は韓国人の談話スタイルの特徴である距離を縮め、直接的であることとある程度一致すると言える。相手に「言語的な」配慮をしないことによって親近感を表示し、それをむしろ相手への配慮につながせることで対人関係が維持されていると思われる。

²⁹ この欄はそもそも【対韓下】における使用が見られなかつたため分析することができなかつた。そのため、ここでは個人差とは認めない。

韓国語談話ではインフォーマント全員が目下の相手に対してより韓国的なスタイルを使用し、目上の相手に対してはより気を遣うスタイルに切り換えている。まとめると、以下の通りになる。

- (A) 既存の先行研究で指摘された韓国的な談話スタイルは目下の相手に使用され、目上の相手には適切な距離をとり丁寧さを保つ談話スタイルに切り換える。

しかし、母語においても若干の個人差が見られる部分があった。表 10 を見ると、K01 はすべての項目で【対韓上】で相手、【対韓下】で自己に焦点を当てるスタイルを使用するが、K02・K03 の場合、話題選択においては反対に【対韓上】で自己、【対韓下】で相手に焦点を当てる。その理由として、K02・K03 が【対韓上】で自分が口数を控える代わり、話題のような談話のようなマクロな部分に関わることで談話における積極性を示し、韓国語の談話スタイルとして相手との距離を縮めようとすることが考えられる。また、【対韓下】では自分が多く発話する代わり、談話協力者が提示した話題になるべく沿って行くことで、談話協力者に配慮する。

また、K02 の場合、そもそも場面間ではスタイル切り換えを行わない項目（発話量、談話参加）が存在し、（日本語を含め）同言語内の場面間では談話レベルにおけるスタイル切り換えの必要性をさほど感じていないと思われる。韓国語談話におけるインフォーマント間の相違点をまとめると、以下の通りになる。

- (B) 韓国語談話では多くの項目で類似する切り換えの様相が観察されるが、その一方で個人によって相違点も見られる。

(B-1) 話題選択は K01 と K02・K03 が異なる場面間スタイル切り換えを行っており、その理由として話題選択が談話のマクロな部分を担う項目であることと、韓国語談話では K02・K03 だけがマクロな部分とその他の項目を区別することが挙げられる。

(B-2) K02 は場面間スタイル切り換えに積極的ではない。

3.2. 日本語談話における対人関係

日本語談話でもインフォーマント間で微細な個人差はあったものの、全体を見ると全員がかなり類似するスタイル切り換えをしていた。まず、インフォーマント全員は(a)日本語においても「年齢の上下」という基準でスタイル切り換えを行っていた。また、(b)「談話での役割」という基準が新たに追加される。以下に詳細を述べる。

- (a) 日本語においても「年齢の上下」という基準が認められる。

日本語においても相手の年齢によってスタイルを切り換える。韓国語談話と同様、談話レベルのスタイルも切り換えの対象となっている。この「年齢の上下」という基準は母語からの転移の結果である可能性が高いが、一般に日本語談話でもその基準は有効で、本稿の調査場面においては転移させても誤解は招かない。ミスコミュニケーションの危険が発生しない「年齢の上下」という基準が転移されていることである。しかし、目上と目下に対して具体的にどのようなスタイルを用いるかは言

語によって異なる。インフォーマントは母語と日本語における談話スタイルの違いに気づき、ミスコミュニケーションが起こり対人関係を損なうような具体的な談話スタイルにおいては母語を転移させるのではなく、スタイル切り換えを行って対処している。たとえば、韓国語では目上に対しては口数を控えることが目上に対する配慮となるが、発話量が多いことがいい印象を与える日本語談話（小川 2000）では、韓国語談話と同じく口数を控える場合、悪い印象につながる恐れがある。したがって、インフォーマントは日本語談話では特に目上の相手に対して発話量を増やすスタイルに切り換え、悪い印象になることを防ぐ。

(b) 「談話での役割」という基準が追加される。

その意味は K01・K02 と K03 の間で異なると思われるため、(b-1)K01・K02 と(b-2)K03 に分けて論じる。

(b-1) K01・K02

【対日上】では談話上の役割をうまく遂行することで相手を配慮するが、【対日下】では役割の遂行はさほど重要に捉えられない。2.1 と 2.2 で K01 と K02 のスタイル切り換えについて述べた通り、2 人は【対日上】において、話し手の役割を担う際には自己に焦点を当て積極的に話し、聞き手の役割を担う際には談話協力者に焦点を当て失礼にならないようする。このように談話に参加することで話し手・聞き手のどちらとしても積極的である印象を与えることができる。談話協力者は自分が聞き手であるときも、話し手であるときも談話がうまく進んでいると感じる可能性が高くなり、いい対人関係の維持につながることが予想される。また、これによって談話を盛り上げることもできる。ただし、このようなスタイルは第 1 章の 4 節 (p.13) で述べた相手に距離をとり、間接的である日本人の談話スタイルとは異なるように思われる。

このような、相手と距離をとる談話スタイルはむしろ【対日下】で見られた。【対日下】では相手に焦点を当てた結果、話し手の役割を控え、相手がより話せるように配慮する。また、聞き手の役割の際には自己に焦点を当て、相手へ配慮するための積極的な行動はとらない。こうすることによって、インフォーマントは談話参加に消極的になり、談話協力者と距離をとつて見守るような談話スタイルとなる。

K01・K02 は韓国語談話と同様、日本語談話においても目下の相手に対してより日本的なスタイルを用い、目上の相手に対してはより積極的で距離を縮めるようなスタイルに切り換えることで、対人関係の維持を図っている。

(b-2) K03

K03 も同じく談話上の役割によって場面間スタイル切り換えの様相が異なるが、その根本的な原因是、2.3 で述べた通り、母語からの転移であるように思われる。つまり、話し手としての言語行動においては切り換え方における転移は少ないが、聞き手としての言語行動においては韓国語と一致した傾向を見せ、転移が

起こっていると判断できる。

まず、話し手言語行動は K01・K02 と同じく【対日上】で自己焦点的、【対日下】で相手焦点的スタイルであった。K03 も話し手言語行動に関しては他のインフォーマントと同様、目下に対してより日本的なスタイルを使用し、目上に対しては積極的に距離を縮めるスタイルに切り換える。

一方、聞き手言語行動で母語からの転移が起こるのは、他のインフォーマントと比べて日本滞在期間が短いことや年齢が低いことなども影響すると思われるが、話し手言語行動ではなく聞き手言語行動で特に転移が起こる理由は、それが談話において比較的目立たない役割であるためであると思われる。Schmidt (1990) の気づき仮説 (noticing hypothesis) ではインプットからの気づきがなければ習得にはつながらないことを主張する。聞き手言語行動は話し手言語行動に比べて目立たず、習得のための気づきが難しいと思われる。また、李吉鎔 (2002) で「聞き手目当て性の高い項目ほどスタイル切換が早い段階から意識される」と述べている通り、スタイル切り換えに限定しても話し手としての言語行動の方がより意識されると考えられる。他のインフォーマントより日本滞在期間が短い K03 は日本語における聞き手言語行動には気づきが足りないため、母語の規範をそのまま転移させている可能性がある。また、目立たないということはミスコミュニケーションを起こす危険も少ないことを意味する。K03 は韓国語談話のスタイル切り換えの基準を転移させる理由と同じく、ミスコミュニケーションを起こす危険が少ないために聞き手言語行動にあまり注意を払わず、転移が起こっていると考えることもできる。

以上から、日本語談話における談話レベルのスタイル切り換えについて、以下のことがわかる。

- (C) 「年齢の上下」という大きな基準はミスコミュニケーションの危険度が少ないため、その基準を日本語談話にも同様に適用する、つまり、転移する。
- (D) 既存の先行研究で指摘された日本的な談話スタイルは目下の相手に使用され、目上の相手には距離を縮める談話スタイルに切り換える。

ただし、日本語談話においてもインフォーマント間の個人差は見られる。また、表 10 を見ると、個人差が見られる項目は母語の韓国語談話に比べより多いことがわかる。母語においては全員が共有しているスタイル切り換え規範がある一方、学習言語である日本語のスタイル切り換え規範は、各自で異なる経験を通じて個別的に習得しているためであろう。

まず、韓国語談話と同様、話題選択においては K01 と K02・K03 で場面間スタイル切り換えの様相が異なり、K01 のみが【対日上】で相手焦点的、【対日下】で自己焦点的スタイルを使用してた。3.1 では K02・K03 が韓国語談話において話題選択というマクロな部分のスタイル切り換えの方法を異にすることを述べたが、K01 は反対に、日本語談話でマクロな部分を区別していると思われる。また、K02 は韓国語談話と同様、日本語談話においても場面間スタイル切り換えの意識が薄れることが、発話量、談話参加、情報提供・情報要

求、発話内容確認の項目から確認できる。他のインフォーマントと違って場面間よりは言語間でのスタイル切り換えがより目立つ。最後に、K03 のみ相づちの場面間スタイル切り換えの様子が異なることがわかる。第 8 章と本章の 2.3 でその理由について、K03 のみ韓国語談話からの転移が起きているためであると説明した。日本語談話におけるインフォーマント間の個人差を以下にまとめた。

- (E) 日本語談話においてもインフォーマント間の相違点が見られ、韓国語談話に比べて相違点が見られる項目がより多い。
 - (E-1) 話題選択では K01 と K02・K03 の場面間スタイル切り換えの様相が異なり、その理由として、日本語談話では K01 のみ話題選択というマクロな部分とその他の項目を区別することが挙げられる。
 - (E-2) K02 は日本語談話においても場面間スタイル切り換えを積極的に行わず、場面より言語に注意を払ってスタイル切り換えを行う。
 - (E-3) K03 は相づちで他のインフォーマントと異なる場面間スタイル切り換えを行っており、その理由として、母語からの転移が考えられる。

4. 談話レベルにおけるスタイル切り換え

以上で韓国人日本語使用者の日本語談話と韓国語談話を対象に、談話レベルにおけるスタイル切り換えについて考察した。本節では、その結果を踏まえ、これまで指摘された他のレベルのスタイル切り換えと、本稿で分析した談話レベルのスタイル切り換えの差について論じる。また、その結論として以下の 2 点を主張する。

- (F) 談話レベルにおけるスタイル切り換えでは、語・発話レベルのスタイル切り換えのように明確な切り換えは起こらない。
 - (G) 韓国人日本語使用者の日本語における談話レベルのスタイルには、学習・習得と転移という両方の要因が見られる、また、これまでの研究で指摘された負の転移よりは、転移しても問題を起こさない部分において正の転移が目立つ。
- まず、第 1 章の 2.4 (p.10) で述べた、既存の先行研究の分析対象と本稿の分析対象の関係を表 11 に再掲する。網掛けの部分が本稿の分析対象である。

表 11 本稿の分析対象 (=第 1 章表 4)

レベル	共通するもの		スタイル関係にあるもの
語	同じ意味		語・文法形式
発話	同じ命題内容		文末丁寧形式
	同じ発語内行為		表現
談話	同じ目的	特定発話行為	発話行為構成発話
		談話の成立	談話構成要素

第 1 章で述べた通り、本稿では談話レベルの中でも、談話の成立のための項目のスタイル

ル切り換えについて論じている。ここではまず、語レベル・発話レベルのスタイル切り換えと比較した談話レベルのスタイル切り換えについて述べ、次に同じ談話レベルにおいても特定発話行為のためのスタイルの切り換えと談話成立自体のためのスタイルの切り換えの異同について述べる。

まず、語・発話レベルのスタイル切り換えとの差である。上林（2020）では関西若年層のスタイル切り換えを分析し、図2のように、アクセント・文法項目・語彙項目に比べて引用方法や談話展開では切り換え度が低いことを明らかにしている。

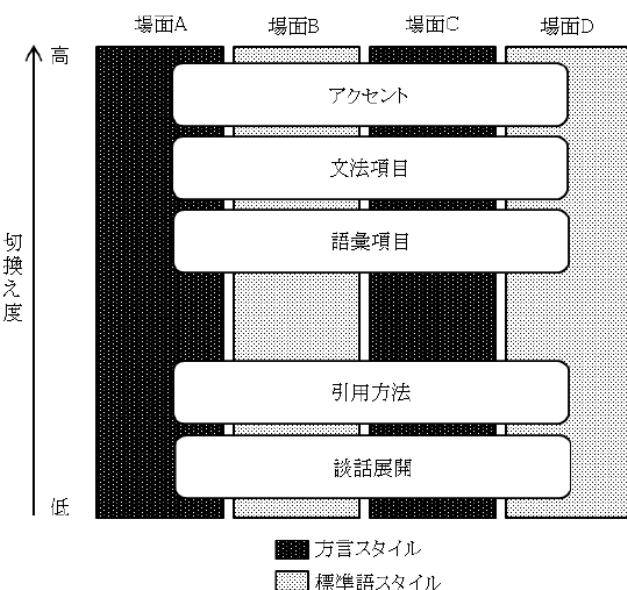


図2 関西若年層のスタイル運用のメカニズム（上林2020）

上林（2020）の指摘の通り、語・発話レベルのスタイル切り換え研究ではかなり明確な切り換えが行われ、先行研究の中では語・発話レベルにおいて極端な結果が導き出される場合もある。李吉鎔（2002）の語レベルのスタイル切り換えを表12、橋本（2002）の発話レベルのスタイル切り換えの結果を表13に例として挙げる。

表12 韓国語母語話者の対称詞のスタイル切り換え（李吉鎔2002）

	対NNS親	対NS親	対NNS疎	対NS疎	対NS教師
名前サン	2	-	-	-	-
名前の呼び捨て	-	2	-	-	-

表13 英語母語話者の丁寧形式のスタイル切り換え（橋本2002）

	対NNS親	対NS親	対NNS疎	対NS疎	対NS教師
丁寧体	-	1	317	265	172
非丁寧体	285	340	30	27	11

表 12 を見ると、韓国語母語話者は対称詞を「対 NNS 親」場面と「対 NS 親」場面で明確に切り換えている。また、表 13 からは英語母語話者が丁寧形式を親しい人（「対 NNS 親」「対 NS 親」）と親しくない人（「対 NNS 疎」「対 NS 疎」「対 NS 教師」）との間で明確に切り換え、親しい人には丁寧体を 1 例しか用いないことがわかる。

しかし、本稿の結果では表 12 や表 13 のように場面間で極端かつ明確に切り換えが見られる項目はなかった。ここからわかるように、談話レベルのスタイル切り換えは他のレベルの切り換えに比べ、明確には見てこないものである。この結果は、上林（2002）の結果の裏付けにもなり得る。ただし、本稿の結果が示す通り、談話レベルにおいてもスタイル切り換えはなされており、全く見られないわけではない。

次に、同じ談話レベルである、特定発話行為のためのスタイル切り換えと本稿の対象の間にはいかなる異同があるか、特にスタイル切り換えの要因に焦点を当てて述べる。第 1 章の 3 節（p.11）で述べた通り、談話レベルのスタイル切り換えの要因は、大きく①学習言語規範の学習・習得と②母語の転移に二分される。本稿の結果からもこの 2 つの要因が両方見られた。本章の 3 節で述べた通り、①学習言語の規範の学習・習得は具体的な言語行動、特に、【対日下】における談話スタイルに見られ、②母語の転移は「年齢の上下」という大きな枠で現れる。そのため、「年齢の上下」の枠は、日本語談話でもスタイル切り換えを起こす。つまり、【対日下】では比較的に間接的で距離をとるといった日本的スタイルを使用する一方で【対日上】ではより積極的に距離を縮めるようなスタイルに切り換えらせる原因となっている。

一方、相違点として、既存の先行研究では負の転移が強調されたが、本稿では（設定した場面の性質にもよる可能性があるが）正の転移、つまり、コミュニケーションに悪影響を及ぼさないところに転移が起こっているという点である。「年齢の上下」によってスタイルを切り換えるという規範は日本語談話に適用しても問題を起こさない。また、K03 では注目度が低い、目立ちにくい聞き手としての言語行動において転移が起こる。一方、対人関係に問題となるようなところでは母語からの負の転移は見られなかった。これは、先行研究の対象者と本稿のインフォーマントの言語レベルの差や、先行研究が主に FTA になる言語行動（依頼、断り）を扱っているため負の転移が浮き彫りになって見えることなど、様々な要因が考えられる。

第 1 章で、今までの先行研究の解釈には言語使用者の主体性が注目されていないと述べた。一方、本稿では以上のように韓国人日本語使用者が特に【対日下】で学習・習得を通して日本語らしいスタイルを運用することや、【対日上】でスタイルを切り換える理由として母語の切り換えの基準である「年齢の上下」が正の転移を起こしていることを指摘した。上級レベルの言語使用者は、談話を成立させるための項目においては負の転移が起る箇所を見抜き、転移を起こすことを自ら主体的に「選択（＝切り換え）」していることも考えられるが、その証明については今後の課題とする。

本節をまとめると、以下の通りになる。

(F) 談話レベルにおけるスタイル切り換えでは、語・発話レベルのスタイル切り換えの

よう に 明確 な 切り 換え は 起こ ら ない。

(G) 韓国人日本語使用者の日本語における談話レベルのスタイルには、学習・習得と転移という両方の要因が見られる、また、これまでの研究で指摘された負の転移よりは、転移しても問題を起こさない部分において正の転移が目立つ。

おわりに

以上まで、韓国人日本語使用者の談話レベルにおける言語間・場面間スタイル切り換えを、対人関係という側面から考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

韓国語談話

- (A)既存の先行研究で指摘された韓国的な談話スタイルは目下の相手に使用され、目上の相手には適切な距離をとり丁寧さを保つ談話スタイルに切り換える。
- (B)韓国語談話では多くの項目で類似する切り換えの様相が観察されるが、その一方で個人によって相違点も見られる。

日本語談話

- (C)「年齢の上下」という大きな基準はミスコミュニケーションの危険度が少ないため、その基準を日本語談話にも同様に適用する、つまり、転移する。
- (D)既存の先行研究で指摘された日本的な談話スタイルは目下の相手に使用され、目上の相手には距離を縮める談話スタイルに切り換える。
- (E)日本語談話においてもインフォーマント間の相違点が見られ、韓国語談話に比べて相違点が見られる項目がより多い。

また、談話レベルにおけるスタイル切り換えについては、以下のようなことを主張する。

- (F)談話レベルにおけるスタイル切り換えでは、語・発話レベルのスタイル切り換えのように明確な切り換えは起こらない。
- (G)韓国人日本語使用者の日本語における談話レベルのスタイルには、学習・習得と転移という両方の要因が見られる、また、これまでの研究で指摘された負の転移よりは、転移しても問題を起こさない部分において正の転移が目立つ。

以上で、本稿では、スタイル切り換えの一面である談話レベルのスタイル切り換えについて、一部ながら明らかにすることことができた。特に、既存の先行研究からあまり扱われることがなかった談話自体を成立させる談話構成要素もスタイル切り換えの対象になり得ることを指摘し、二言語話者が言語間と場面間で対人関係のために、どのようにスタイルを切り換えるかを明らかにした。しかし、本稿では以下のように、扱いきれなかった問題も存在する。

- ・量的な分析に集中し、質的な分析までには至らなかった。

本稿では主に実数や割合のような数字の差によって言語間・場面間のスタイル切り換えが行われているか否かを判断し、分析した。しかし、第3章の話題選択や第7章

の発話内容確認でも述べた通り、数字に差が見られなくても、その中身を見ると質的なスタイル切り換えを行っている場合がある。本稿では、なるべく広い範囲から談話レベルのスタイル切り換えを見るため、すべての項目における質的な分析には至らなかつた。

- ・場面内のスタイル切り換えは分析することができなかつた。

スタイル切り換えは言語間・場面間のみではなく、場面内でも起きる。たとえば、三牧（1993）では日本語の同一談話内の待遇レベル・シフトを分析し、その機能について述べている。このような切り換えは三牧（1993）のような発話レベルのみではなく、本稿で扱ったような談話レベルにおいても行われる可能性があるが、本稿では場面内に起こるスタイル切り換えまでは分析することができなかつた。

以上、今後の課題とする。

参考文献

- 李恩美(2008)『日本語と韓国語の初対面二者間会話における対人配慮行動の対照研究—ディスコース・ポライトネス理論の観点から—』東京外国语大学博士論文.
- 李吉鎔(2002)「韓国語母語話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』4, pp.73-93.
- 李吉鎔(2003)「韓・日両言語の反対意見表明行動の対象研究—場の改まり度による表現形式の使い分けを中心に—」『阪大日本語研究』15, pp.67-88.
- 李吉鎔(2005)『日本語学習者におけるスタイル切換え能力の発達—韓国語母語話者を対象として—』大阪大学博士論文.
- 李吉鎔(2019)「韓国語と日本語における聞き手敬語用法の30年間の変化—韓国語の言いしさスタイルの使用拡大に焦点を当てて—」『阪大社会言語学研究ノート』16, pp.112-127.
- 生田少子・井出祥子(1983)「社会言語学における談話研究」『月間言語』12(12), pp.77-84.
- 生駒知子・志村明彦(1993)「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー—「断り」という発話行為について—」『日本語教育』79, pp.41-52.
- 李善雅(2001)「議論の場における言語行動—日本語母語話者と韓国人学習者の相違—」『日本語教育』111, pp.36-45.
- 井出祥子(2006)『わきまえの語用論』大修館書店.
- 今村圭介(2013)「英語を母語とする日本語学習者の中間言語的スタイル切り換え—文末形式を中心に—」『日本語研究』33, pp.73-86.
- 林始恩(2020)「談話標識「え」の機能について」『일본언어문화(Journal of Japanese Language and Culture)』51, pp.69-88.
- 任栄哲(2006)「韓国人とのコミュニケーション」任栄哲編『韓国人による日本社会言語学研究』おうふう, pp.7-19.
- 任栄哲・李先敏(1995)「あいづち行動における価値観の韓日比較」『世界の日本語教育』5, pp.239-251.
- 任栄哲・井出理咲子(2004)『箸とチョッカラク—ことばと文化の日韓比較—』大修館書店.
- 岩田祐子(2015)「日・英語初対面会話における自己開示の機能」津田早苗・村田泰美・大谷麻美・岩田祐子・重光由加・大塚容子『日・英語談話スタイルの対照研究—英語コミュニケーション教育への応用—』ひつじ書房, pp.37-92.
- 元智恩(2010)「ポライトネス・ストラテジーに対する日本人、韓国人、韓国人日本語学習者の意識」『日本研究』44, pp.269-291.
- 宇佐美まゆみ(2002)「ディスコース・ポライトネス理論構想(3)—無標ポライトネスという概念—」『月間言語』31(9), pp.98-103.
- 宇佐美まゆみ(2005)「改訂版：基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」(<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/mojika.pdf>).
- 榎本博明(1997)『自己開示の心理学的研究』北大路書房.
- 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室編(2002)『阪大社会言語学研究ノート』4.

- 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室編(2003)『阪大社会言語学研究ノート』5.
- 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室編(2004)『阪大社会言語学研究ノート』6.
- 大塚容子(2005)「テレビインタビュー番組におけるあいづち的表現—ポライトネスの観点から—」『岐阜聖徳学園大学紀要 外国語学部編』44, pp.55-69.
- 大谷麻美(2015a)「談話展開スタイルの日・英対照分析—会話参加者はどのように話題の展開に貢献するのか—」津田早苗・村田泰美・大谷麻美・岩田祐子・重光由加・大塚容子『日・英語談話スタイルの対照研究—英語コミュニケーション教育への応用』ひつじ書房, pp.193-230.
- 大谷麻美(2015b)「日本人にとっての英語コミュニケーションの壁—本研究の目的と位置づけ—」津田早苗・村田泰美・大谷麻美・岩田祐子・重光由加・大塚容子『日・英語談話スタイルの対照研究—英語コミュニケーション教育への応用』ひつじ書房, pp.1-14.
- 大津友美(2007)「会話における冗談のコミュニケーション特徴—スタイルシフトによる冗談の場合—」『社会言語科学』10(1), pp.45-55.
- 大浜るい子・鈴木雅恵・多田美有紀(1998)「自由談話に見られるスピーチレベルシフト現象」『教育学研究紀要』44(2), pp.389-397.
- 大浜るい子(2002)「相づち使用と対人関係」『広島大学日本語教育研究』12, pp.1-9.
- 大渕憲一(1992)「日本人とアメリカ人の対人葛藤」渡辺文夫・高橋順一編『地球社会時代をどう捉えるか—人間科学の課題と可能性—』pp.18-37, ナカニシヤ出版.
- 岡崎渉(2015)「上級日本語学習者による普通体へのスタイルシフト—インフォーマルスタイルに着目して—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』64, pp.147-156.
- 岡本真由美(2018)「言語によるコミュニケーションスタイルの違いについて—日英比較から—」『比較文化研究』132, pp.13-23.
- 小川一美(2000)「初対面場面における二者間の発話量のつりあいと会話者および会話に対する印象の関係」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 心理発達科学』47, pp.173-183.
- 荻野綱男(1989)「対照社会言語学と日本語教育—日韓の敬語用法の対照研究を例にして—」『日本語教育』69, pp.47-63.
- 奥山洋子(2002)『質問と自己開示による情報収集の韓日比較—大学生同士の初対面の会話資料をもとに—』中央大學校博士論文.
- 奥山洋子(2005)「話題導入における日韓のポライトネス・ストラテジー比較—日本と韓国の大學生初対面会話資料を中心にして—」『社会言語科学』8(1), pp.69-81.
- 生越直樹(2012)「「配慮」の示し方—日本と韓国の言語行動の比較から—」「「配慮」はどのように示されるか」ひつじ書房, pp.171-187.
- 尾崎喜光(2008)「依頼行動と感謝行動の日韓比較」尾崎喜光編著『対人行動の日韓対照研究—言語行動の基底にあるもの—』ひつじ書房, pp.141-196.
- 吳覲榮(2020)「初対面における自己開示に関する意識調査—韓国人日本語学習者と日本語母語話者を対象に—」『日語日文学研究』112, pp.79-96.

- 姜昌姪(2001)「日韓男女のあいづちの対照研究」『武庫川女子大学言語文化研究所年報』13, pp.45-60.
- 金慶燕(2001)「韓国人日本語学習者にみられる社会言語学的転移—ほめことばに対する応答行為を中心に—」『日本語研究』4, pp.19-32.
- 金珍娥(2002)「日本語と韓国語における談話ストラテジーとしてのスピーチレベルシフト」『朝鮮学報』183, pp.51-91.
- 金秀芝(1993)「日・韓両言語における「あいづち」の対象研究—電話の会話を中心に—」『大阪大学日本学報』12, pp.109-119.
- 金秀芝(2006)「日・韓両言語における談話分析—接続詞による話題転換マーカーについて—」土岐哲先生還暦記念論文集編集委員会編『日本語の教育から研究へ』くろしお出版, 95-105.
- 金道瑛(2021)「他者開始におけるポライトネス・ストラテジーの場面間切り換え—韓国語母語話者の日本語談話と韓国語談話の対照分析—」『阪大日本語研究』33, pp.93-121.
- 金潤淑(2005)「「依頼」に対する「断り」の述べ方—日本語母語話者と韓国人日本語学習者を中心に—」『日本語學研究』14, pp.1-14.
- 熊谷智子・石井恵理子(2005)「会話における話題の選択—若年層を中心とする日本人と韓国人への調査から—」『社会言語科学』8(1), pp.93-105.
- 齊藤明美(2008)「空間と用具の共有に関する日韓比較」尾崎喜光編著『対人行動の日韓対照研究—言語行動の基底にあるもの—』ひつじ書房, pp.111-139.
- 酒井智美(2016)「スピーチレベルシフトに関する研究—親しい先輩・後輩の会話をもとに—」『言語文化研究』24, pp.36-50.
- 桜井恵子・齊藤麻子(2007)「OPI のロールプレイに見る韓国人日本語学習者の断り方」『日本學報』72, pp.71-84.
- 重光由加(2015)「日・英語の男性初対面母語話者に見られる応答要求発話—応答の連鎖」津田早苗・村田泰美・大谷麻美・岩田祐子・重光由加・大塚容子『日・英語談話スタイルの対照研究—英語コミュニケーション教育への応用—』ひつじ書房, pp.93-134.
- 渋谷勝己(1998)「社会言語学のキーテーマ」『月間言語』27(3), pp.114-119.
- 沈貞美(2010)「JSL 韓国語母語話者の謝罪行為をとりまく異文化適応—適応要因を中心に—」『日語日文學研究』75, pp.111-130.
- 張允娥(2017)『友人同士の自由会話におけるポライトネスストラテジー—同性間の会話からみる日韓差とジェンダー—』大阪大学博士論文.
- 鈴木香子(1995)「内容区分調査による対話の「話段」認定の試み」『国文自白』34, pp.76-84.
- 崔ハナ(2011)「日本人と韓国人のあいづち比較—あいづちの頻度、タイミング、機能について—」『国文自白』50, pp.100-113.
- 張未未(2018)「日本語母語場面と接触場面における雑談の話題展開の方法」『早稲田日本語研究』27, pp.25-36.
- 張玲玲(2012)「言語的修復行動における他者開始について—形式整理と分類基準を中心と

- して—』『研究論集』12, pp.249-266.
- 全鍾美(2010)「初対面の相手に対する自己開示の日韓対照研究—内容の分類からみる自己開示の特徴—』『社会言語科学』13(1), pp.123-135.
- 鄭榮美(2009)「話題導入ストラテジーの韓日対象研究』『日本文化學報』42, pp.25-42.
- 田所希佳子(2015)「スピーチレベルの選択に伴う場面認識に関する考察—韓国人留学経験者へのインタビューから—』『社会言語科学』18(1), pp.50-59.
- 陳姿菁(2002)「日本語におけるあいづち研究の概観及びその展望』『言語文化と日本語教育』増刊特集号, pp.222-235.
- 津田早苗(2015)「日・英語の他者修復—母語話者間会話と異文化間会話の比較—』津田早苗・村田泰美・大谷麻美・岩田祐子・重光由加・大塚容子『日・英語談話スタイルの対照研究—英語コミュニケーション教育への応用—』ひつじ書房, pp.135-168.
- 筒井佐代(2012)『雑談の構造分析』くろしお出版.
- 永田良太(2004)「会話におけるあいづちの機能—発話途中に打たれるあいづちに着目して—』『日本語教育』120, pp.53-62.
- 永野賢(1959)「文章論概説」永野賢『学校文法文章論』朝倉書店, pp.59-114.
- 西尾純二(2001)「語用論的変異」ロング, ダニエル・中井精一・宮治弘明編『応用社会言語学を学ぶ人のために』世界思想社, pp.129-137.
- 西田司(1989)『国際人間関係論』聖文社.
- 朴承圓(2000)「「不満表明表現」使用に関する研究—日本語母語話者・韓国人日本語学習者・韓国語母語話者の比較—』『言語科学論集』4, pp.51-62.
- 朴成泰(2011)「日・韓の異文化間コミュニケーションにおける談話マーカーの研究—相づちと重なりの観点から—』『日本語文學』50, pp.19-35.
- 朴成泰(2018)「談話における相づちの機能に関する研究—日韓の接觸場面を中心にして—』『日本語文學』78, pp.127-143.
- 花村博司(2014)「日本語の雑談会話における話題転換研究の方法—話題転換はどこで行われ、どう分類されるか—』『言語文化学研究 言語情報編』9, pp.71-99.
- 橋本貴子(2002)「英語母語話者のスタイル切り換え」『阪大社会言語学研究ノート』4, pp.94-113.
- 羽成拓史(2016)「謝罪発話行為とポライトネス—データ収集方法の差異に着目して—』『経営学紀要』23(1), pp.117-131.
- 稗田奈津江(2022)「勧誘の断り応答部におけるストラテジーの使用とその解釈—日本語母語話者とマレー語母語話者の比較—』『語用論研究』24, pp.59-78.
- 船木礼子(2011)「カジュアルスタイルにおける方言切換え—形式の受容と切換えの要因—』『神女大国文』22, pp.1-20.
- 許明子(2010)「日本語と韓国語の聞き手の私的領域に関する言語行動—韓国人日本語学習者と日本語母語話者の言語行動に関する調査を通して—』『筑波大学地域研究』31, pp.25-44.

- 洪珉杓(2007)『日韓の言語文化の理解』風間書房.
- 前田理佳子(1999)「在日コリアン一世の談話におけるスタイル切り替えースピーチレベルシフトの様式に着目してー」『待兼山論叢. 日本学篇』33, pp.33-48.
- 松丸真大(2010)「方言話者のスタイル切換え」『日本語学』29(14), pp.142-152.
- 水谷信子(1993)「「共話」から「対話」へ」『日本語学』12(4), pp.4-10.
- 三牧陽子(1993)「談話の展開標識としての待遇レベル・シフト」『大阪教育大学紀要』42, pp.39-51.
- マイナード, K. 泉子(1993)『会話分析』くろしお出版.
- 山根智恵(2002)『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版.
- 結城裕子(2019)「初対面会話における話題選択と自己開示の考察—話題「出身地」の発話連鎖を中心にー」『言語科学論集』23, pp.65-76.
- 横田淳子(1986)「ほめられた時の返答における母国語からの社会言語学的転移」『日本語教育』58, pp.203-223.
- ルンティーラ, ワンウェイモン(2004)「タイ人日本語学習者の「提案に対する断り」表現における語用論的転移—タイ語と日本語の発話パターンの比較からー」『日本語教育』121, pp.46-55.
- ワラシー, クンランパー(2014)「断りメールの構成から見たタイ人日本語学習者の語用論的能力」『大阪大学言語文化学』23, pp.59-72.
- Auer, P., Barden, B. & Grosskopf, B. (1998) Subjective and objective parameters determining salience in long term dialect accommodation. *Journal of Sociolinguistics*, 2(2), pp.163-187.
- Bell, A. (1984) Language style as audience design. *Language in Society*, 13(2), pp.145-204.
- Blum-Kulka, S. (1982) Learning to say what you mean in a second Language: a study of the speech act performance of learners of Hebrew as a second language. *Applied linguistics*, III(1), pp. 29-59.
- Brown, P. & Levinson, S. (1987) *Politeness: Some universals in language usage*, Cambridge: Cambridge University Press.
- García, C. (1989) Apologizing in English: Politeness strategies used by native and non-native speakers. *Multilingua*, 8(1), pp.3-20.
- Han, C. (1992) A comparative study of compliment responses: Korean females in Korean interactions and English interactions. *Working papers in educational linguistics*, 8(2), pp.17-31.
- Hayashi, M. & Kim, H. (2015) Turn formats for other-initiated repair and their relation to trouble sources. *Journal of Pragmatics*, 87, pp.198-217.
- Hayashi, M. & Hanano, K. (2013) Proffering insertable elements: a study of other-initiated repair in Japanese. *Conversational repair and human understanding*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Hijirida, K. & Sohn, H. (1986) Cross-cultural patterns of honorifics and sociolinguistic sensitivity to honorific variables: Evidence from English, Japanese, and Korean. *Research on language &*

- social interaction*, 19(3), pp.365-401.
- Ikeda, T. (2003) The organization and functions of laughter in a Japanese face-to-face interaction. 『社会言語科学』 6(1), pp.52-60.
- Jourard, M., S. (1971) *The transparent self*, New York: Van Nostrand Reinhold. (岡堂哲雄訳(1974)『透明なる自己』 誠信書房.)
- Kim, K. (1999) Other-initiated repair sequences in Korean conversation: Types and functions. 『한국어와 인지 (Discourse and cognition)』, 6(2), pp.141-168.
- Levinson, S. C. (1983) *Pragmatics*, Cambridge: Cambridge University Press. (安井稔・奥田夏子訳(1990)『英語語用論』 研究社出版.)
- Leech, G. (1983) *Principle of pragmatics*. London: Longman. (池上嘉彦・河上誓作訳(1987)『語用論』 紀伊国屋書店.)
- Maeshiba, N., Yoshinaga, N., Kasper, G. & Ross, S. (1996) Transfer and proficiency in interlanguage apologizing. Gass, S. M. and Neu, J.(Eds.) *Speech act across cultures: Challenges to communication in a second language*. Berlin, New York: Mouton de Gruyter.
- Ozaki, A.(1989) *Requests for clarification in conversation between Japanese and non-Japanese*, Canberra, A.C.T.: Department of Linguistics, Reserch School of Pacific Studies, The Australian National University. pp.293-321.
- Schegloff, E. A., Jefferson, G. & Sacks, H. (1977) The preference for self-correction in the organization of repair in conversation. *Language*, 53(2), pp.361-382. (「会話における修復の組織—自己訂正の優先性—」 西阪仰訳(2010)『会話分析基本論集—順番交替と修復の組織—』 世界思想社).
- Schmidt, R. (1990) The role of consciousness in second language learning. *Applied linguistics*, 11, pp.129-158.
- Selting, M. (1996) Prosody as an activity-type distinctive cue in conversation: The case of so-called 'astonished' questions in repair initiation. Couper-Kuhlen, E. and Selting, M.(Eds.) *Prosody in conversation: Interactional studies*. Cambridge, New York: Cambridge University Press. pp.231-270.
- Suzuki, K. (2010) *Other-initiated repair in Japanese: Accomplishing mutual understanding in conversation*. 神戸大学博士論文.
- Tannen, D. (2005) *Conversational Style:Analyzing Talk among Friends*. New York: Oxford University Press.
- Yamada, H. (1992) *American and Japanese business discourse: A comparison of interactional styles*. Norwood, New Jersey: Ablex Publishing Corporation.
- Yamada, H. (1997) *Different games, different rules: Why Americans and Japanese misunderstand each other*. New York, Oxford: Oxford University Press.
- 박재남(2013) 구어에서 해라체 서술형 종결어미 "-다"의 의미적 특성. 『한국어와 문화』, 13, pp.171-200. (Park, J. N., The features of meaning of the ending "-ta" in Korean spoken Language.

Korean Language and Culture.)

調査へのご協力のお願い（同意書）³⁰

本研究を次のとおりにて実施いたします。研究の目的、データの扱いや公表をご理解いただき、本調査にご参加いただける場合は、本書にご署名をお願いいたします。

調査の目的

この研究は、韓国語を母語とする人の日本語談話における特徴を明らかにすることを目的として、実施いたします。

談話データの扱い

収録いただいた会話データは研究目的以外に用いることはなく、守秘をお約束いたします。また、個人情報を保護するため、お名前などは研究データから取り除き、符号に置き換えて管理いたします。

調査結果の公表

調査結果は、学会報告、論文、報告書のデータとして使用させて頂きます。

研究内容に関するご質問は、以下の連絡先までご連絡ください。

金 道瑛（キム ドヨン）
大阪大学大学院文学研究科博士後期課程
E-mail: d0y0ung.nori@gmail.com

本研究に関する説明事項を理解し、会話収録への参加に同意します。

_____年 _____月 _____日

署名

³⁰ この同意書は筆者が対面の調査時に使用したものと同じ内容であり、署名欄があるが、本稿のデータはZOOMで収集しているため、実際の署名はもらっていない。その代わり、同意書の内容に同意する場合「はい」と答えることで許諾を受けた。次の韓国語版についても同様。

조사 협력 의뢰(담화 수록 동의서)

본 연구는 다음과 같은 내용으로 실시합니다. 연구 목적, 데이터 취급, 공표에 관한 사항에 동의한 후, 협력해 주실 경우에는 아래에 서명을 부탁드립니다.

조사 목적

본 연구는 한국어가 모어인 한국어 네이티브의 일본어 담화 특징을 연구하는 것이 목적입니다.

담화 데이터의 취급

수록된 담화 데이터는 연구 이외의 목적으로 사용하지 않으며, 비밀 엄수를 약속드립니다. 또한, 개인정보를 보호하기 위해 담화에 등장하는 인명 등은 연구 데이터로부터 제외하고, 기호로 대체하여 관리합니다.

조사 결과의 공표

조사 결과는 학회 보고, 논문, 보고서 등의 데이터로 사용됩니다.

연구 내용에 관한 질문은 아래 연락처로 부탁드립니다.

김도영

오사카 대학교 대학원

문학연구과 박사후기과정 2 학년

E-mail:d0y0ung.nori@gmail.com

조사 내용에 동의하실 경우 아래에 서명을 부탁드립니다.

본 연구에 관한 설명 사항을 이해하였으며, 담화 수록에 동의합니다.

_____년 _____월 _____일

서명 _____

付録 2

以下に各談話の構成を表にまとめる。「イン」はインフォーマント、「協力」は談話協力者、「モノ」はモノローグ、「ダイ」はダイアローグの略である。数字は各話者の発話量(述語数)であり、網掛けは当該モノローグの主話者である。

表 1 【対日上 1】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	2	0	モノ	K01 の業務	25	協力	5	8	ダイ	日々の食べ物
2	協力	8	3	モノ	(挿入 1)K01 の会社のツール	26	イン	3	0	モノ	(再開)日々の食べ物
3	協力	0	6	モノ	(挿入 2)JO01 の会社のツール	27	協力	7	11	ダイ	韓国映画
4	イン	39	8	モノ	(再開)K01 の業務	28	協力	7	6	ダイ	映画評価サービスと最近の生
5	協力	1	7	モノ		29	協力	6	1	モノ	活
6	イン	5	3	ダイ	(再開)K01 の業務	30	協力	1	2	ダイ	
7	イン	7	0	モノ	(再開)K01 の業務	31	イン	3	0	モノ	
8	協力	0	11	モノ	(挿入)マーケティング会社の レベル	32	協力	2	3	ダイ	
9	イン	15	2	モノ	(再開)K01 の業務	33	イン	11	0	モノ	
10	協力	2	1	ダイ		34	協力	3	2	ダイ	
11	協力	0	4	モノ		35	イン	5	0	モノ	
12	イン	14	0	モノ		36	協力	4	7	ダイ	
13	協力	2	27	モノ		37	イン	4	0	モノ	
14	イン	4	0	モノ		38	協力	1	2	ダイ	
15	協力	7	9	ダイ	コロナの影響	39	イン	5	0	モノ	(再開)最近の生活
16	イン	4	15	モノ		40	協力	4	5	ダイ	
17	イン	3	2	ダイ	(再開)コロナの影響	41	イン	7	0	モノ	(再開)最近の生活と OTT サー
18	イン	3	0	モノ		42	協力	3	5	ダイ	ビス
19	協力	0	12	モノ	JO01 の友達	43	イン	12	2	モノ	
20	イン	11	1	モノ		44	イン	27	3	モノ	(再開)OTT サービス
21	協力	3	2	ダイ		45	協力	1	9	モノ	
22	協力	1	20	モノ	ネット通販	46	イン	5	3	ダイ	
23	イン	4	1	モノ		47	協力	8	1	モノ	
24	協力	2	11	モノ		48	協力	1	4	モノ	

表2 【対日下1】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	0	9	モノ	コロナにかかった人	31	協力	1	46	モノ	(再開)コロナ禍の辛い点
2	イン	3	2	ダイ	大阪のコロナ状況と在宅勤務の環境	32	協力	8	7	ダイ	研究
3	協力	0	4	モノ		33	協力	0	5	モノ	
4	イン	2	4	ダイ		34	イン	3	4	ダイ	
5	協力	0	6	モノ		35	協力	0	2	モノ	K01の近況
6	協力	5	6	ダイ		36	協力	0	3	モノ	(挿入)ZOOMの画面
7	協力	0	9	モノ		37	協力	8	6	ダイ	(再開)K01の近況
8	イン	6	7	ダイ		38	協力	2	10	モノ	
9	イン	10	1	モノ		39	協力	5	10	ダイ	コロナと観光
10	協力	4	3	ダイ		40	協力	0	19	モノ	
11	イン	10	1	モノ		41	イン	10	1	モノ	
12	協力	1	2	ダイ	(再開)在宅勤務の環境	42	協力	2	2	ダイ	
13	協力	1	7	モノ		43	協力	9	2	モノ	(再開)コロナと観光
14	協力	11	4	モノ		44	協力	0	3	モノ	
15	協力	8	3	モノ		45	イン	6	4	モノ	
16	協力	1	11	モノ		46	イン	6	0	モノ	韓国での旅行
17	イン	13	3	モノ		47	協力	4	4	ダイ	
18	協力	8	16	ダイ		48	イン	4	0	モノ	
19	イン	1	11	モノ		49	協力	2	4	ダイ	
20	イン	5	10	ダイ		50	協力	8	6	ダイ	(再開)韓国での旅行とコロナ禍の辛い点
21	イン	4	1	モノ		51	協力	1	8	モノ	(再開)コロナ禍の辛い点
22	協力	1	5	モノ		52	協力	1	7	モノ	(挿入)コロナの死者
23	協力	0	2	モノ	ZOOMの画面	53	協力	1	21	モノ	(再開)コロナ禍の辛い点
24	協力	0	12	モノ	コロナ禍の辛い点	54	イン	11	1	モノ	
25	イン	5	1	モノ		55	協力	0	6	モノ	
26	協力	8	13	ダイ		56	イン	7	9	ダイ	
27	協力	2	5	ダイ		57	協力	0	4	モノ	(再開)コロナ禍の辛い点
28	協力	0	4	モノ		58	協力	0	16	モノ	会社で会話ができないこと
29	協力	6	6	ダイ		59	イン	3	2	ダイ	
30	協力	5	58	モノ							

表3 【対韓上1】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	2	19	モノ	OTT サービス	28	協力	3	33	モノ	コロナ禍と体重
2	イン	9	9	ダイ	孫の手	29	イン	2	2	ダイ	
3	協力	0	5	モノ	本日の出会い	30	協力	2	15	モノ	
4	イン	2	3	ダイ	(再開)本日の出会い	31	イン	18	5	モノ	
5	協力	1	19	モノ	K01 と KO01 の家の距離	32	協力	1	9	モノ	
6	イン	6	5	ダイ		33	イン	3	2	ダイ	
7	協力	4	4	ダイ	研究	34	協力	3	4	ダイ	コロナ状況の生活
8	協力	4	1	モノ		35	協力	4	1	モノ	
9	協力	4	3	ダイ		36	協力	0	5	モノ	
10	協力	0	6	モノ		37	イン	6	3	ダイ	
11	協力	4	1	モノ	ZOOM の画面	38	協力	0	4	モノ	
12	協力	8	7	ダイ		39	協力	1	14	モノ	KO01 の会社
13	協力	5	8	ダイ	お風呂	40	イン	5	2	ダイ	
14	協力	2	24	モノ		41	協力	1	12	モノ	
15	イン	4	0	モノ		42	協力	4	6	ダイ	
16	協力	6	23	モノ	(再開)お風呂	43	協力	1	52	モノ	
17	イン	3	34	モノ	GW の予定と旅行	44	イン	5	5	ダイ	
18	協力	4	3	ダイ		45	協力	0	5	モノ	
19	協力	0	10	モノ		46	協力	7	5	ダイ	外貨レートと金正恩
20	協力	2	8	モノ	(挿入)東南協力ジ協力の衛生	47	協力	1	1	ダイ	(再開)金正恩
21	協力	0	13	モノ	(再開)旅行	48	イン	4	3	ダイ	(再開)外貨レート
22	協力	7	7	ダイ	外食	49	イン	1	1	ダイ	(挿入)キーボードの音
23	イン	2	17	モノ		50	協力	0	4	モノ	(再開)金正恩
24	イン	5	4	ダイ		51	イン	3	1	ダイ	
25	協力	0	5	モノ		52	協力	1	1	ダイ	(挿入)北朝鮮の既得権
26	イン	4	8	ダイ		53	イン	4	1	モノ	(再開)金正恩
27	協力	1	3	ダイ	(再開)外食						

表4 【対韓下1】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	0	3	モノ	携帯	29	協力	0	3	モノ	(再開)旅行
2	イン	3	8	モノ	GW	30	イン	3	0	モノ	
3	イン	15	9	ダイ		31	協力	3	6	ダイ	
4	イン	9	2	モノ		32	イン	70	4	モノ	
5	協力	0	6	モノ		33	協力	4	2	ダイ	
6	イン	4	0	モノ		34	イン	28	0	モノ	
7	協力	0	6	モノ		35	協力	2	3	ダイ	在宅勤務
8	イン	4	0	モノ		36	イン	7	0	モノ	
9	イン	9	6	ダイ		37	協力	1	4	ダイ	在宅勤務にかかる費用
10	協力	0	4	モノ	KY01の居住地	38	イン	4	0	モノ	
11	イン	3	1	モノ		39	協力	2	4	ダイ	
12	イン	3	3	ダイ		40	協力	4	13	モノ	食事と自炊
13	イン	1	4	モノ	「地域 A」のコロナ状況	41	イン	5	0	モノ	
14	イン	12	13	ダイ		42	協力	3	4	ダイ	
15	イン	8	0	モノ		43	イン	16	4	モノ	
16	協力	0	4	モノ	韓国行きとチキン	44	協力	0	3	モノ	
17	イン	2	0	モノ		45	イン	4	0	モノ	
18	協力	4	3	ダイ		46	協力	0	25	モノ	
19	イン	1	0	モノ	コロナの状況	47	イン	33	5	モノ	
20	協力	4	9	ダイ		48	イン	5	2	モノ	(再開)自炊
21	イン	2	7	モノ		49	イン	1	0	モノ	退勤
22	イン	5	1	モノ	旅行	50	協力	5	4	ダイ	研究
23	協力	7	6	ダイ		51	協力	2	2	ダイ	研究者
24	協力	0	26	モノ		52	イン	3	0	モノ	
25	協力	3	4	ダイ	飛行機を逃したこと	53	協力	1	1	ダイ	熊本
26	協力	0	11	モノ		54	協力	6	8	ダイ	言語維持と学習
27	イン	8	13	ダイ		55	協力	0	9	モノ	
28	イン	2	0	モノ	(再開)飛行機を逃したこと	56	イン	12	1	モノ	
						57	協力	1	7	モノ	
						58	イン	5	3	ダイ	
						59	協力	1	6	モノ	
											英語の勉強

表5 【対日上2】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	7	5	ダイ	家具	24	イン	14	1	モノ	(挿入)青年部の会長
2	イン	3	0	モノ		25	イン	4	0	モノ	(再開)教会の運営
3	協力	5	10	ダイ		26	協力	0	6	モノ	
4	イン	8	0	モノ		27	イン	26	2	モノ	教会の会議と参加率の低さ
5	協力	3	3	ダイ		28	イン	3	3	ダイ	(挿入)「筆写」
6	イン	19	6	モノ		29	イン	23	2	モノ	
7	協力	20	5	モノ	K02の仕事	30	イン	13	3	モノ	(再開)参加率の低さ
8	イン	26	0	モノ	(再開)K02の仕事	31	イン	3	0	モノ	(再開)教会の運営
9	イン	9	1	モノ	(再開)K02の仕事	32	協力	0	4	モノ	
10	イン	3	2	ダイ	普段話す言語と教会の言語	33	イン	11	0	モノ	(再開)教会の運営
11	イン	5	0	モノ		34	協力	2	2	ダイ	安否確認
12	協力	4	4	ダイ		35	イン	4	0	モノ	(挿入)「人名 B」
13	イン	4	0	モノ		36	イン	3	0	モノ	(再開)安否確認
14	イン	3	0	モノ		37	イン	3	2	ダイ	
15	イン	4	0	モノ		38	イン	4	0	モノ	
16	イン	5	2	ダイ	教会のライブ礼拝	39	協力	0	5	モノ	
17	協力	4	2	モノ		40	イン	4	3	ダイ	引越し祝い
18	協力	2	5	ダイ		41	協力	0	4	モノ	(挿入)JO02の家のテーブル
19	イン	5	0	モノ		42	イン	22	5	モノ	(再開)引越し祝い
20	協力	0	10	モノ		43	協力	2	3	ダイ	ZOOMの制限時間
21	イン	2	4	ダイ		44	イン	4	0	モノ	
22	イン	3	2	ダイ	教会の運営	45	協力	0	4	モノ	
23	イン	5	0	モノ		46	イン	7	3	ダイ	

表6 【対日下2】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	6	0	モノ	新しい眼鏡が早く欲しいこと	19	イン	14	4	モノ	(再開)後輩にため口で話されたこと
2	イン	2	5	ダイ		20	イン	58	2	モノ	「人名 B」の行動と後輩にため口で話されたこと
3	協力	5	3	ダイ	(挿入1)眼鏡を付けるとき	21	イン	5	5	ダイ	め口で話されたこと
4	イン	18	1	モノ	(挿入2)眼鏡を買ったとき	22	イン	12	3	モノ	(再開)「人名 A」の話
5	協力	4	3	ダイ		23	イン	7	0	モノ	(再開)「人名 A」の話
6	イン	6	1	モノ		24	イン	2	2	ダイ	
7	協力	1	3	モノ		25	イン	19	5	モノ	
8	イン	18	4	モノ	(再開)眼鏡を買ったとき	26	イン	13	1	モノ	(再開)お客様の減少
9	協力	1	1	ダイ	(再開)新しい眼鏡が早く欲しいこと	27	協力	1	5	モノ	(再開)「人名 A」の話
10	イン	3	1	ダイ	(挿入)眼鏡が届いた後	28	イン	2	2	ダイ	(再開)「人名 A」の話
11	協力	4	2	ダイ	(再開)新しい眼鏡が早く欲しいこと	29	協力	1	12	モノ	コロナと職場の状況
12	協力	2	3	ダイ	ブルーライトカット眼鏡の流行り、お客様の減少、「人名 A」の話、後輩にため口で話されたこと	30	イン	5	0	モノ	
13	イン	4	0	モノ		31	協力	0	8	モノ	
14	協力	2	10	モノ		32	イン	2	4	ダイ	
15	イン	3	4	ダイ		33	協力	4	17	モノ	
16	イン	23	2	モノ		34	イン	6	1	モノ	
17	イン	8	0	モノ	(挿入)ため口の基準	35	協力	7	9	ダイ	
18	協力	6	10	ダイ		36	イン	5	1	モノ	お客様のありがたさ

表7 【対韓上2】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	4	4	ダイ	飛行機代	34	イン	8	10	ダイ	(再開)新しいパスポート
2	イン	7	1	モノ		35	協力	0	3	モノ	
3	協力	6	4	ダイ	K02の韓国語	36	イン	1	1	ダイ	
4	協力	5	8	ダイ	K02の職場のコロナの影響と 休み	37	協力	2	3	ダイ	(再開)パスポートの更新
5	協力	34	9	モノ		38	イン	4	13	モノ	(再開)パスポートの更新
6	イン	2	0	モノ	(再開)休み	39	イン	4	5	ダイ	パスポートの色の意味
7	イン	3	0	モノ	外に出られないこと	40	協力	3	3	ダイ	(再開)パスポートの色の意味
8	協力	1	9	モノ		41	イン	3	1	モノ	
9	イン	3	5	ダイ		42	協力	9	17	ダイ	友達の多さ
10	イン	7	0	モノ	コロナへの心配	43	イン	9	2	モノ	結婚式参加
11	協力	7	4	ダイ		44	協力	3	4	ダイ	
12	イン	7	10	ダイ	携帯のケース	45	協力	5	1	モノ	(再開)結婚式参加
13	イン	5	5	ダイ	新しい家電	46	協力	10	12	ダイ	
14	協力	1	4	モノ		47	イン	3	0	モノ	日韓の飛行機代
15	イン	26	23	ダイ	(再開)新しい家電	48	協力	2	3	ダイ	
16	イン	2	4	ダイ	(挿入)携帯の比較	49	イン	10	2	モノ	
17	協力	1	8	モノ		50	イン	4	4	ダイ	(挿入)片道と往復
18	イン	9	10	ダイ	(再開)新しい家電	51	協力	5	7	ダイ	(再開)日韓の飛行機代
19	イン	5	5	ダイ	(再開)新しい家電	52	イン	7	10	ダイ	お互いの年と体重
20	協力	0	4	モノ	(再開)新しい家電	53	協力	1	5	モノ	
21	イン	6	4	ダイ	(再開)新しい家電	54	イン	8	11	ダイ	
22	イン	5	2	モノ		55	協力	1	5	モノ	
23	イン	11	2	モノ	ボーナス	56	イン	3	3	ダイ	チキンと食事のメンバー
24	協力	0	3	モノ		57	協力	1	6	モノ	
25	イン	3	10	ダイ	お金の使用	58	イン	12	13	ダイ	
26	イン	8	0	モノ		59	イン	3	0	モノ	(再開)食事のメンバー
27	イン	9	8	ダイ	給付金	60	協力	1	3	ダイ	(再開)チキン
28	協力	1	5	モノ		61	イン	5	4	ダイ	ウーバーイーツ
29	協力	0	1	モノ	アニメ	62	協力	18	5	モノ	
30	イン	4	5	ダイ	パスポートの更新	63	協力	3	4	ダイ	
31	イン	4	2	ダイ	(再開)パスポートの更新と新 しいパスポート	64	イン	3	0	モノ	
32	イン	7	1	モノ		65	イン	2	3	ダイ	焼肉
33	協力	2	8	モノ		66	協力	0	3	モノ	
						67	イン	2	3	ダイ	
						68	協力	1	3	ダイ	肉丼

表8 【対韓下2】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	6	2	ダイ	外に出られないこと	27	イン	19	13	ダイ	食事と運転免許
2	協力	1	19	モノ		28	イン	5	1	モノ	
3	イン	19	3	モノ	新しい建物と運動	29	協力	1	4	モノ	
4	協力	3	3	ダイ		30	イン	4	0	モノ	
5	イン	7	2	モノ		31	協力	0	3	モノ	
6	協力	0	3	モノ		32	イン	19	1	モノ	
7	イン	4	1	モノ		33	協力	4	3	ダイ	
8	イン	4	10	モノ		34	イン	5	0	モノ	
9	協力	2	17	モノ	(再開)運動	35	協力	5	5	ダイ	
10	協力	2	3	ダイ	KY02の弟	36	イン	9	0	モノ	
11	協力	0	3	モノ		37	協力	0	3	モノ	
12	イン	2	3	ダイ		38	イン	3	3	ダイ	
13	イン	2	4	モノ	綿棒	39	イン	22	2	モノ	
14	イン	37	5	モノ	ヘアスタイル	40	協力	8	10	ダイ	
15	協力	4	3	ダイ		41	協力	2	11	モノ	
16	イン	3	0	モノ		42	イン	9	0	モノ	
17	協力	3	3	ダイ		43	協力	0	3	モノ	(再開)運転免許
18	イン	6	1	モノ		44	イン	2	2	ダイ	
19	協力	0	4	モノ		45	協力	0	6	モノ	
20	イン	4	0	モノ	(再開)ヘアスタイル	46	イン	6	2	モノ	リップスティックの形
21	協力	3	4	ダイ		47	協力	2	2	ダイ	
22	協力	2	20	モノ		48	イン	3	0	モノ	リップスティックのブランド
23	イン	4	1	モノ	(再開)ヘアスタイル	49	協力	4	4	ダイ	
24	協力	0	6	モノ	(再開)ヘアスタイル	50	イン	5	0	モノ	
25	協力	4	8	ダイ		51	協力	10	7	ダイ	
26	協力	2	14	モノ		52	協力	4	5	ダイ	旅行
						53	協力	0	10	モノ	
						54	協力	5	4	ダイ	
						55	協力	0	8	モノ	
						56	イン	5	2	モノ	パスポートの写真
						57	協力	3	2	ダイ	
						58	協力	0	6	モノ	
						59	イン	13	0	モノ	K02の写真
						60	協力	2	4	ダイ	
						61	協力	0	9	モノ	
						62	イン	8	8	ダイ	
						63	協力	5	3	ダイ	雨
						64	協力	0	24	モノ	昨日の出来事

表9 【対日上3】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	番号
1	-	4	2	ダイ	ZOOMの画面	27	イン	4	1	モノ	(再開)脱出ゲームの情報検索
2	イン	10	3	モノ	ドラマ	28	イン	7	4	ダイ	(挿入1)脱出ゲームに誘う人
3	協力	1	5	モノ		29	イン	13	4	モノ	
4	イン	8	0	モノ		30	イン	4	0	モノ	(挿入2)送別会
5	協力	4	5	ダイ		31	協力	1	1	ダイ	(挿入3)スケジュール
6	イン	22	3	モノ		32	協力	2	2	ダイ	(再開)脱出ゲームの情報検索
7	協力	13	2	モノ		33	イン	13	0	モノ	(挿入)韓国の脱出ゲーム
8	協力	0	3	モノ	お化け屋敷	34	イン	1	0	モノ	(再開)脱出ゲームの情報検索
9	イン	8	0	モノ		35	協力	3	1	モノ	(挿入)「人名 F」
10	イン	3	4	ダイ		36	協力	5	3	ダイ	(再開)脱出ゲームの情報検索
11	イン	7	4	ダイ		37	イン	5	6	ダイ	(再開)脱出ゲームの情報検索
12	協力	0	3	モノ		38	イン	7	0	モノ	
13	イン	5	0	モノ		39	協力	4	3	ダイ	
14	協力	3	5	ダイ	脱出ゲーム	40	イン	10	0	モノ	(挿入)韓国のホラー脱出ゲーム
15	イン	9	1	モノ		41	イン	10	2	モノ	(再開)脱出ゲームの情報検索
16	イン	2	2	ダイ		42	協力	9	7	ダイ	
17	イン	25	2	モノ		43	イン	4	2	モノ	
18	協力	2	2	ダイ		44	協力	8	3	モノ	
19	協力	3	5	ダイ		45	協力	3	3	ダイ	
20	イン	3	4	ダイ	(再開)脱出ゲームの情報検索	46	協力	0	3	モノ	
21	協力	1	4	モノ		47	イン	3	0	モノ	
22	協力	8	4	モノ		48	協力	4	1	モノ	(再開)送別会
23	協力	5	3	ダイ		49	協力	7	4	ダイ	
24	イン	3	0	モノ		50	イン	3	0	モノ	「人名 D」
25	イン	3	0	モノ		51	イン	2	0	モノ	(再開)スケジュール調整
26	イン	9	3	モノ	(再開)脱出ゲームの情報検索						

表 10 【対日下 3】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	0	6	モノ	ゲームの内容と実況	23	イン	7	9	ダイ	これからの予定と課題
2	イン	2	2	ダイ		24	イン	6	1	モノ	
3	協力	2	24	モノ		25	協力	3	4	ダイ	
4	協力	2	2	ダイ		26	イン	8	0	モノ	
5	協力	2	6	モノ	(再開)実況	27	協力	5	5	ダイ	(再開)課題
6	イン	11	0	モノ		28	イン	10	0	モノ	
7	協力	4	1	モノ		29	協力	1	1	ダイ	
8	協力	0	19	モノ		30	イン	2	11	モノ	
9	イン	6	2	モノ	(再開)特典映像	31	イン	2	2	ダイ	「人名 A」
10	協力	1	19	モノ		32	イン	4	5	ダイ	
11	イン	3	4	ダイ		33	イン	5	0	モノ	
12	協力	1	21	モノ		34	イン	3	4	ダイ	
13	イン	9	0	モノ	ゲームの考察と特典映像	35	イン	1	6	モノ	プロジェクト
14	協力	0	6	モノ		36	協力	2	4	ダイ	
15	協力	0	3	モノ		37	イン	6	0	モノ	
16	イン	5	0	モノ		38	協力	2	10	モノ	
17	イン	5	1	モノ	ゲームを途中であきらめそう なこと	39	イン	4	0	モノ	(挿入)「人名 H」
18	協力	0	3	モノ		40	協力	9	9	ダイ	
19	イン	7	0	モノ		41	イン	8	0	モノ	
20	イン	8	1	モノ		42	協力	0	6	モノ	
21	イン	41	5	モノ	(再開)K03 が見た実況	43	イン	8	1	モノ	(再開)プロジェクト
22	協力	0	1	モノ		44	協力	8	1	モノ	
					話題探し						スランプ

表 11 【対韓上 3】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	0	7	モノ	論文	22	イン	1	0	モノ	食べ物
2	イン	31	7	モノ		23	イン	21	3	モノ	スン長の経験
3	協力	3	6	ダイ	卒業作品	24	イン	15	1	モノ	新しいスン員
4	イン	7	1	モノ		25	協力	2	92	モノ	(再開)KO03 の新しい教会
5	協力	1	10	モノ		26	イン	9	0	モノ	対面とオンラインの会話
6	イン	4	0	モノ		27	協力	0	4	モノ	
7	協力	6	8	ダイ	教会の状況	28	協力	1	4	モノ	(再開)KO03 の新しい教会
8	イン	6	0	モノ		29	協力	0	11	モノ	(再開)KO03 の新しい教会
9	協力	0	23	モノ	KO03 の新しい教会	30	イン	4	4	ダイ	グループへの誘い
10	イン	14	3	モノ		31	イン	11	0	モノ	
11	協力	3	24	モノ		32	協力	3	9	モノ	
12	イン	5	5	ダイ		33	協力	2	4	ダイ	(再開)グループへの誘いと就活
13	イン	3	16	モノ	家の片付け	34	イン	1	9	モノ	
14	協力	0	2	モノ	席を外す	35	協力	2	4	ダイ	(挿入)マイナビ
15	協力	3	32	モノ	(再開)家の片付け	36	協力	1	50	モノ	(再開)就活
16	イン	1	0	モノ	洋服	37	協力	0	54	モノ	受かった会社
17	イン	6	2	モノ	荷物の多さ	38	協力	0	9	モノ	以前の会社
18	協力	3	13	モノ		39	協力	5	33	モノ	ヘッドハンター
19	イン	3	0	モノ	古着屋	40	協力	0	20	モノ	韓国内の日本企業
20	協力	0	4	モノ							
21	イン	4	5	ダイ							

表 12 【対韓下 3】

番号	開始	イン	協力	形態	話題	番号	開始	イン	協力	形態	話題
1	-	29	5	モノ	日本の家	31	イン	5	1	モノ	日本での運転文化
2	協力	4	3	ダイ	KY03 の犬の名前	32	イン	4	4	ダイ	お菓子
3	協力	0	5	モノ	犬の元の飼い主	33	イン	9	1	モノ	
4	イン	5	5	ダイ		34	協力	10	8	ダイ	
5	イン	7	1	モノ		35	イン	7	3	モノ	
6	イン	3	2	ダイ	動物アレルギー	36	協力	6	4	ダイ	飲み物
7	イン	14	1	モノ		37	イン	13	1	モノ	
8	イン	27	4	モノ	動物とのふれあい	38	イン	14	3	モノ	むせること
9	イン	19	0	モノ	友達の犬	39	協力	6	6	ダイ	
10	協力	6	7	ダイ		40	イン	12	2	モノ	
11	イン	3	3	ダイ	動物を飼うこと	41	イン	11	1	モノ	運動
12	イン	3	0	モノ		42	協力	4	3	ダイ	
13	協力	1	2	ダイ	KY03 の犬	43	協力	1	0	モノ	KY03 の犬
14	協力	0	13	モノ	旅行の予定と最近の天気	44	イン	6	5	ダイ	教会に行く時間
15	イン	5	4	ダイ		45	イン	4	0	モノ	
16	協力	8	1	モノ	凍ったカップ麺	46	イン	4	0	モノ	賛美チーム
17	協力	2	3	ダイ		47	協力	3	2	ダイ	
18	イン	16	0	モノ	(再開)最近の天気	48	協力	3	1	モノ	
19	協力	4	4	ダイ		49	協力	3	1	モノ	(再開)賛美チーム
20	イン	5	0	モノ		50	協力	1	2	ダイ	(挿入)第 3 者
21	協力	0	3	モノ		51	イン	10	0	モノ	(再開)賛美チーム
22	イン	10	0	モノ		52	協力	3	4	ダイ	
23	イン	2	0	モノ	夏の韓国行き	53	協力	16	2	モノ	(再開)賛美チーム
24	イン	5	5	ダイ	渓谷	54	イン	8	6	ダイ	髪の毛
25	イン	22	5	モノ		55	イン	26	7	モノ	
26	協力	9	2	モノ	(再開)渓谷	56	協力	5	2	モノ	引越し祝いのメニュー
27	協力	3	3	ダイ		57	イン	4	6	ダイ	引越し祝いのプレゼント
28	イン	11	2	モノ	「人名 A」	58	イン	3	0	モノ	
29	協力	2	3	ダイ	日本での就職と運転免許	59	イン	1	1	ダイ	休みたい気分
30	協力	2	3	ダイ	日本の運転免許にかかる費用	60	イン	1	2	ダイ	家の片付け